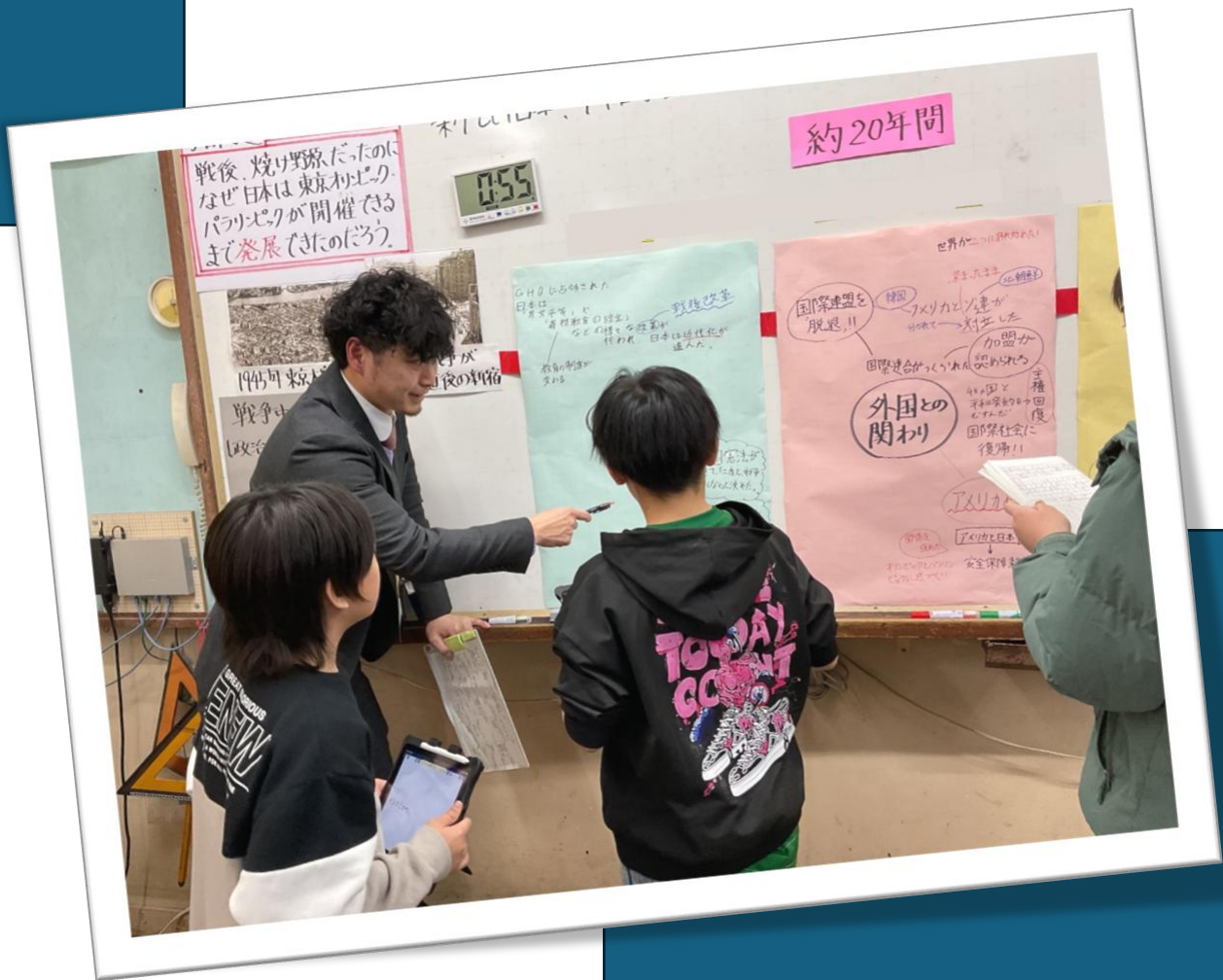




令和 7 年度

研究のまとめ



京都市小学校社会科教育研究会

Social Studies Education Society in Kyoto City Elementary School

目 次

あいさつ.....	1
特別寄稿「学校での学びの在り方を探究するⅡ」.....	2
研究提案.....	4
各学年学習問題例一覧.....	30
「今」を見て「先」を見通す子どもの姿例.....	34
令和7年度 夏季研修（1日社研）.....	38
令和7年度 研究集会.....	39
各学年部テーマ.....	51
3 年部会 実践記録 成果と課題.....	52
4 年部会 実践記録 成果と課題.....	82
5 年部会 実践記録 成果と課題.....	119
6 年部会 実践記録 成果と課題.....	161
社会科好きの一教員として.....	200

◆◆◆ あいさつ ◆◆◆

京都市立春日野小学校校長

京都市社会科教育研究会会長

當麻 章英

令和 8 年度 2 月の全国大会に向けて、大切な準備の年となる前年度が矢のように過ぎ去ってしまった感覚です。あれも準備しなければ、この取組もしなければ・・・と思いながらも十分にできず、年度末を迎え焦りを感じている今日この頃です・・・というのは私自身のことであり、京都社研の全国大会に向けての研究の積み重ねは着実に積み重なっていると感じる一年でした。

「#子どもが調べ考える社会科学習」を具現化するため、研究部の研究提案がどんどんブラッシュアップされ、それを基に各学年の授業研究が多数実践されました。京都社研の強みはここであると考えます。すなわち、机上の空論ではなく「子どもを中心にした授業実践に基づく研究の推進」これが京都社研の研究だと感じた一年でした。

子どもを中心にし、子どもの実態を踏まえて研究を進めていくために、そして来年度の全国大会に向けて実践を積み重ねていくために、ここで令和 4 年度に行われた小学校学習指導要領実地状況調査の結果、分析に触れておきます。

調査結果の傾向として、全教科において「知識を概念的に理解したり、学んだ知識を日常生活や現実の事象に結びつけて活用したりすることに課題がある」また「目的に応じた課題解決や、自分の考えや根拠を明確にして説明する点について課題がある」ということがあるようです。

社会科では、文科省小倉調査官の結果分析において今後の問題解決的な学習の改善の方向性として次の 4 つを挙げられています。

- 1 学習問題の追究、解決の見通しをもつ活動の重視
- 2 調べた情報を関連付けて、社会的事象の特色や意味を考え説明する活動の重視
- 3 学習で身に着けた知識を使って自分で考えた図や文などでまとめる活動に重視
- 4 学習したことを踏まえ、社会に見られる課題に対して選択・判断する活動の重視

京都社研ではすでに、学習問題の見通しをもつこと、調べる活動の充実を図る中で自分の考えをまとめたり、友達と対話したりしながら調べ活動を進めること、学習問題のまとめを自分の言葉、文でまとめることなどを実践を伴い研究を深めてきています。これらの研究を深める中で、今後さらに意識していかなければならないのは「社会との繋がり」だと考えます。

今学習していることはどのように社会と繋がっているのか、学習問題の解決がよりよい社会を築いていくことに繋がっていくのか、子どもも教師も今まで以上に学習の中で継続して意識していかなければなりません。この意識が子どもの主体性をさらに引揚げ、子どもが調べ考える社会科学習がより鮮やかに具現化されていくと考えています。「自分たちが生きている社会を自分たちがよりよく変えていけるのだ」と考える子どもは社会科が大好きになること間違いなしです。

この学習指導要領実施状況調査結果を踏まえて、4 年後に実施される新学習指導要領では、大きな方向性は現在の学習指導要領と変わらないものの、より学習内容と日常生活との関りが重視されていくようです。目を輝かせながら、社会をよりよくするために、学習したことをもとにして自分の考えを発信する子ども。来年度は、こんな子どもの姿を全国大会でお見せすることができるよう、実践をさらに積み重ねていきたいと考えています。

そのために、この「研究のまとめ」を熟読し、社研のメンバー一人一人が今年度の成果と課題をしっかりもって、来年度の研究をスタートさせることが大切だと考えています。

特別寄稿 学校での学びの在り方を探究するⅡ

京都市総合教育センター

指導主事 松村 一也

子どもが「やりたいことを探究し続ける」ことができる学び

ー子どものやりたいことを「発見」「追究」「深化」「拡大」「創造」できる学びを仕掛けるー

「学校での学びの在り方を探究する」というテーマで、昨年度の研究のまとめの特別寄稿で私自身がまとめた自分なりの解が上記に示すものでした。この1年間も、京都社研をはじめ、全市の授業や教育活動を見させていただく中で様々な学びを得ることができ、「学校での学びの在り方」について探究していくことができました。たくさんの教育実践を目の当たりにして、特に感じたことは、そもそも「学び」とは何なのか？ということです。主体的な学び、対話的な学び、深い学び、協働的な学び、自律的な学び…など、「学び」を修飾する言葉は様々にありますが、これらの言葉は、子ども達がどのような学びをしているのかを表しているものです。そこから「学び」だけを取り出して考えてみると、**そもそも「学び」とは一体何なのか？「学び」とはどうあるべきなのか？**という問いが新たに生まれてきたのです。この問いについて私なりに探究したことを、研究会の皆様と共有したいという思いで、特別寄稿にまとめさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

右のスライドは、学校訪問の際、主体的な学びを考えるために用意したものです。「必然性」は昨年度から常に発信し続けたことですが、今年度は、**「学ぶ意義」**を付け加えました。文部科学省が発信している主体的な学びの中に「自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら」という言葉があります。これは**自己の生き方と学びを関連づけることが大切である**ことを示唆しています。そして、自己の生き方とつながる学びができた時、人は、「学んでよかった」と思うだろうし、何のために学んでいるのかということを理解できると考え、「学ぶ意義」という言葉を付け加えました。

子どもの**主体的な学び**を考える

☆必然性（関心・意欲、見通しをもって粘り強く取り組む）

- ◇子どもは、その**問い（めあて）**で学びたいと思っているのか。
- ◇子どもは、その**方法や資料**で学びたいと思っているのか。
- ◇子どもの**学ぶペース**は、みんな同じなのか。
- ◇子どもは、そのまとめで**納得**できているのか。



☆学ぶ意義（自己のキャリア形成と関連付ける）

- ◇子どもは、**学んでよかった**と思えたか。
- ◇子どもは、**何のために学んでいるのか**を理解できたか。



また、現行の学習指導要領が始まる際に文部科学省から発信されたリーフレットには、「生きる力 学びの、その先へ」というタイトルと共に、以下のよう説明がされています。

学校で学んだことが、子供たちの「生きる力」となって、明日に、そしてその先の人生につながってほしい。

これからの社会が、どんなに変化して予測困難になっても、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、判断して行動し、それぞれに思い描く幸せを実現してほしい。

これらのことから、**学びとは、「自分の生き方につながるもの」「自分自身を耕し続けるもの」**であるということが見えてきました。

では、子どもは学ぶ目的をどのように感じているのでしょうか？文部科学省が小学校4年生～中学校3年生を対象に、令和5年2月に実施した「義務教育に関する意識に係る調査」の中の、「学校で勉強する目的」という質問項目の結果は以下の通りです。

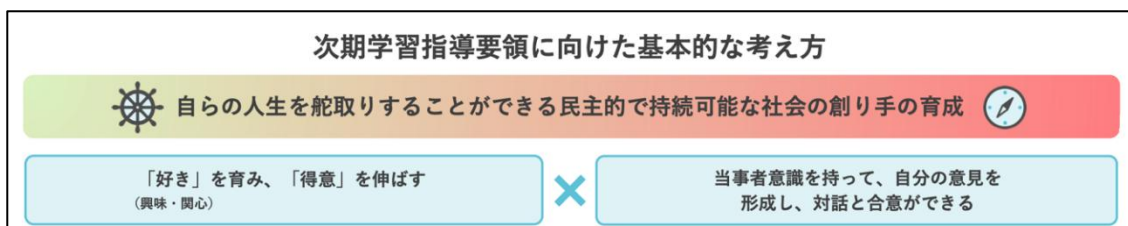


(6) あなたが思う学校で勉強する目的について当てはまるものを教えてください。当てはまるものを全て選択してください。

	児童生徒（全体）	小学校高学年	中学生
将来の進学や仕事に役立つから	63.2%	62.1%	63.8%
これまでできなかった（わからなかった）ことをできる（わかる）ようにになりたいから	57.7%	69.0%	51.4%
良い成績を取りたいから	53.2%	53.9%	52.9%
新しいことを知りたいから	53.2%	65.9%	46.2%
将来かなえたい夢や決めている目標があり、それを実現したいから	46.1%	51.2%	43.2%
自分の興味や関心があることを深めたいから	44.2%	46.5%	42.9%
勉強したことがふだんの生活や社会に出て役立つから	42.8%	55.7%	35.6%
友達と話し合うことで、いろいろな考え方に気づいたり、自分の考えを見直したりしたいから	40.6%	58.9%	30.5%
学校で勉強するのが当たり前だから	36.5%	34.7%	37.5%
勉強することはおもしろいと思うから	22.5%	29.7%	18.4%
先生や家の人がほめてくれるから	20.9%	26.9%	17.6%
家の人に勉強しなさいと言われるから	16.6%	13.6%	18.2%
考えたことがない	10.7%	10.0%	11.0%

※赤字は小学校高学年と中学生で10ポイント以上の差がある項目。

割合の多い「将来の進学や仕事に役立つ」「良い成績を取りたい」という言葉からは、「学び」を目的を達成するための手段としてとらえているように感じます。一方で、「自分の興味や関心があることを深めたいから」「勉強することはおもしろいと思うから」と答えている子供は、「学び」そのものの面白さや本質を自分の中に取り込んでいる感じがします。「次期学習指導要領に向けた基本的な考え方」の中にも、「好き（興味・関心）」を育み、「得意」を伸ばすという考え方が記されています。進学や成績のためにという目的としての学びもちろん必要ですが、小学校の発達段階では学びは面白いものだと思える子どもを増やしたいと思います。授業の中でであう教材に、子どもが本気になって向き合う。その中で、自分を耕し、自分の様々な可能性を膨らませていくような学びをデザインしていきたいと考えます。



教育課程企画特別部会における論点整理について(報告)

今年度も、とりとめなく私自身の持論を述べて参りましたが、「学校での学びの在り方」について、現時点での私自身の解をまとめると、下記のようにになりました。

自己を耕し、自己の生き方を創造する学び

-子どもの「**本気**」を生み出し、学びの「**本質**」「**意義**」を実感できる授業を仕掛ける-

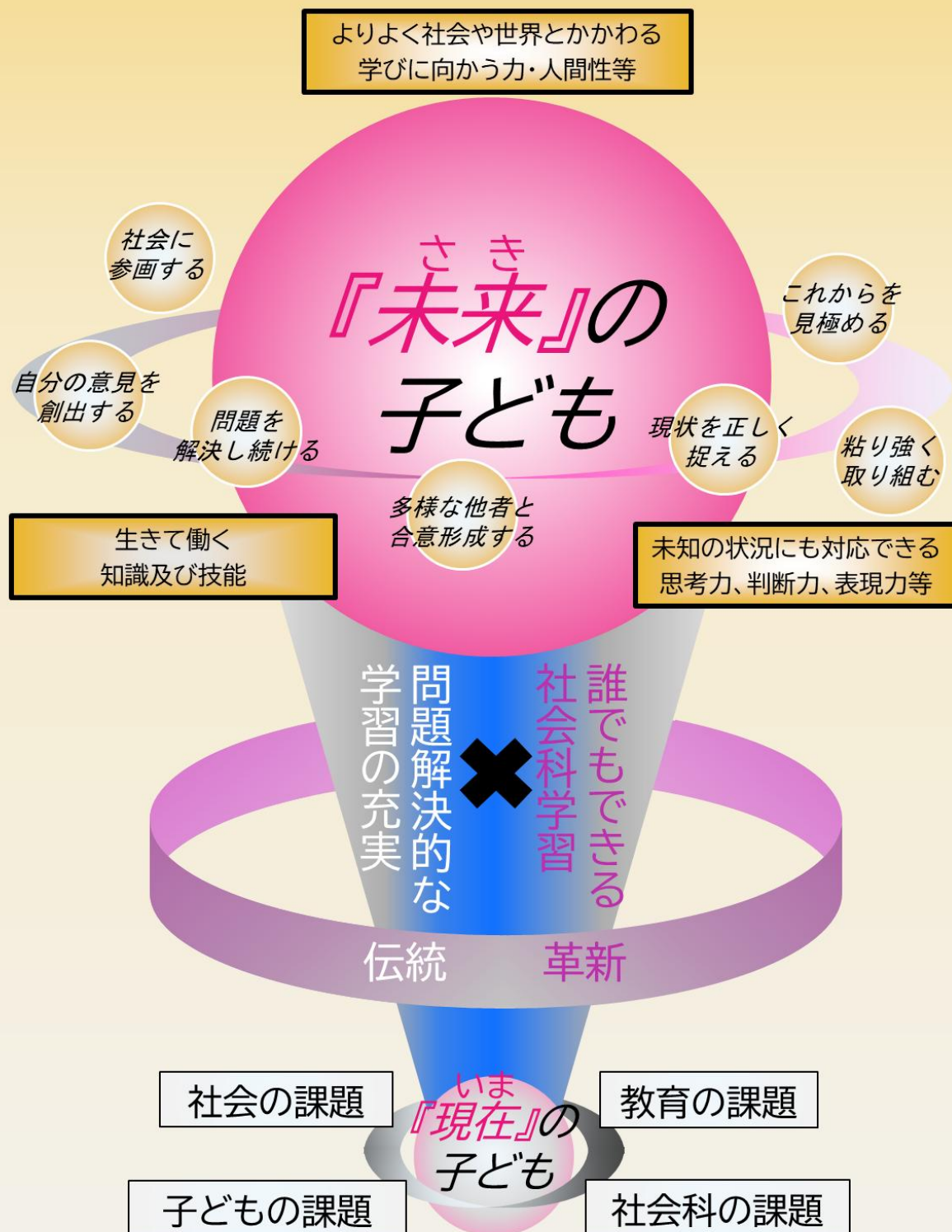
このようにまとめてみると、やはり、京都社研が大切にしてきた授業にたどり着いたような気がしています。京都社研の授業では、子どもが、本気で考えたい教材が創り出され、必然性や切実感をもって調べ、友達との対話で社会事象の本質や意義に迫る授業が数多く実践されてきました。その中で、子ども達は、自己を耕し、自己の生き方に想いを馳せています。そのような学びこそが、これからの学校での学びの在り方ではないかと考えています。まだまだ、探究は続いていきそうです。これからも京都社研の皆様と語り合いたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

研究提案

I 大会主題図

#子どもが調べ考える社会科学習

～「今」を見て「先」を見通し 自他に問い続けていく子どもの育成を目指して～



Ⅱ 研究主題

□1 研究主題設定に向けて

現代社会は、少子高齢化、国際情勢の不安定化、気候変動、生成 AI などのデジタル技術の進展により、先行きが極めて予測困難で、かつてないほど不確実性が高まっている。これまで以上に変化の激しい世の中で、子どもたちがこれからの未来をたくましく生き、自らの夢の実現に向けて歩むことができるような力を育てていかなければならない。そのためには、子どもたちは生涯にわたり主体的に学び続け、さらには自らの人生を舵取りする力を身につけることが求められている。また、異なる価値観をもつ他者とも協働し、問題を発見・解決できる「持続可能な社会の創り手」を育成する必要性も高まっている。さらに、これからは新たなテクノロジーを活用し、すべての子どもが多様な可能性を開花できる環境を整えることも、一方で求められている。

経済産業省では、2030 年、2050 年の未来を見据え、次の社会を形づくる若い世代に対して、これからの時代に必要となる能力や姿勢等を次のように示している。

- ・ 常識や前提にとらわれず、ゼロからイチを生み出す能力
- ・ 夢中を手放さず、1つのことを掘り下げていく姿勢
- ・ グローバルな社会課題を解決する意欲
- ・ 多様性を受容し、他者と協働する能力

(出典：「未来人材ビジョン」)

さらに、未来人材会議で示された 2030 年、2050 年における日本の労働需要について必要とされる能力は、2015 年と比較して、次のように変化している。

2015 年

1 位	注意深さ・ミスがないこと
2 位	責任感・まじめさ
3 位	信頼感・誠実さ



2050 年

1 位	問題発見力
2 位	的確な予測
3 位	革新性※

(※革新性：あらたなモノ、サービス、方法等を作り出す能力)

(出典：未来人材ビジョン)

2050 年に求められる能力は、2015 年に求められていたものとは大きく変わっている。これまで求められてきた能力に変わり、問題発見力、的確な予測、革新性といった、これまではあまり求められてこなかった能力が求められている。急速に AI が広まってきた世の中、予測困難な世の中だからこそ、わずかな間に求められる能力が大きく変容してきているといえる。

小学校社会科学習指導要領解説編には、社会に見られる課題を把握し、その解決に向けて構想する力を養うこと、深い学びの実現のために社会的な見方・考え方をを用いた考察、構想や説明、議論等の学習活動が組み込まれた、課題を追究したり解決したりする活動が不可欠であること、多面的・多角的な考察、社会に見られる課題の解決に向けた広い視野からの構想、論理的な説明、合意形成や社会参画を視野に入れながらの議論等を通し、汎用的に使うことができる概念等に係る知識を獲得する学習を設計することが示されている。

現在、そしてこれからの社会では、既にある課題・問題だけではなく、今後新たに生まれる問題に対しても、その解決に向けての見通しをもち、自ら主体的にかかわり、他者と協働しながらよりよい解決を追究していくこと、最適解や納得解を見出すことがこれまで以上に求められる。そのような力の育成を目指すべく、これまで行われてきた問題解決的な学習をさらに進め、充実を図ること、系統的にその力を育むことが必要となる。そのためには、子どもたちが見出した問題について主体的に調べる学習を進めること、その中で子どもたちが自分たちの必要感から話し合うこと、そこからさらに考えを深め、問いを追究していくこと、そのような学習を指導者が主導するのではなく、子どもたち自身による学びとして実現する学習を展開していくことが重要である。先行き不透明な社会をたくま

しく生きる力を育む上で、社会科の果たす役割は極めて大きいといえよう。

このような社会情勢を踏まえ、京都社研の研究を進めていくうえで、子どもたちを取り巻く状況を次のように整理する。

□2 『現在(いま)』の子どもを取り巻く様々な課題

子どもたちの周りには様々な課題が見られる。その子どもたちを取り巻く様々な課題を「社会の課題」「教育の課題」「子どもの課題」「社会科の課題」の4つの課題から整理する。その4つの課題には、主に次のようなものがあると考えられる。

社会の課題 ○環境問題 気候変動/資源の枯渇/破棄物問題 ○経済・教育格差 ○AI・ロボットの台頭による雇用の喪失、人の価値の変化 ○民主主義の揺らぎ 戦争・紛争 国際協力の難しさ ○少子高齢化による労働力不足 ○多様な価値観 等	教育の課題 ○個別最適な学びと協働的な学びという学習形態のみが強調され、資質能力の育成に十分つなげていない。 ○主体的・対話的で深い学びの実現は道半ば ○ICTが学習者のツールとしての発想の欠如 ○デジタル学習基盤をデジタル人材の育成につなげる取組が未発達 等
子どもの課題 ○自律的に学ぶ自信があまりない。 ○自分で課題を立て、探究的に取り組めない。 ○未知に対し、意欲的に取り組むことが難しい。 ○自分の考えや夢をもつ子の割合が低い。 ○社会参画意識が低い。 ○自己有用感が低い。 等	社会科の課題 ○教師主導の学習展開 ○教員の社会科学習への苦手意識 ○問題を設定する力の不足 ○学習における子どもの見通しの欠如 ○他人事としての社会問題 ○社会との関わりの実感が不十分な学習 ○概念装置を使えない社会科の単元構成 等

【社会の課題】

→人類が「人として人らしく生きる」ための根源的課題と、未来社会でよりよく生きるための課題。

【教育の課題】

→ICT導入や学習形態が目的化し、主体的・深い学びや未来スキル育成に結びついていない。

【子どもの課題】

→主体性・探究心・未来志向・自己肯定感の不足。

【社会科の課題】

→問題を見出し、見通しをもって解決を図るとともに、社会問題を「自分事」化し、概念を使って考える力を育てる設計が不足。

現代社会は、環境問題（気候変動・資源枯渇・廃棄物）、経済・教育格差、AIやロボットの台頭による雇用の喪失と人の価値の再定義、民主主義の揺らぎや戦争・紛争、国際協力の難しさ、少子高齢化による労働力不足、そして多様な価値観の共生といった、人類が「人として人らしく生きる」ために解決すべき根源的課題を抱えている。これらは、科学技術の進展や社会構造の変化によってより複雑化している。未来社会においてよりよく生きるために欠かすことのできない視点であり、解決に向けて取り組み続けなければならない課題といえる。

こうした社会課題に対応できる人材を育成するため、教育は学びの質を転換するとともに、ICTを

効果的に活用し、子どもたちに主体性や探究心、未来志向等を育てる必要がある。しかし現状では、個別最適な学習・協働的な学習などの学習形態のみが強調されたり、形式的な ICT 導入に偏ったりするなど、子どもの資質能力の向上に十分結びついていない。ICT は提示・管理中心で、学習者の思考構築や表現を支えるツールとしての発想が不足し、デジタル基盤も学習支援に留まり、デジタル人材育成はまだ道半ばである。

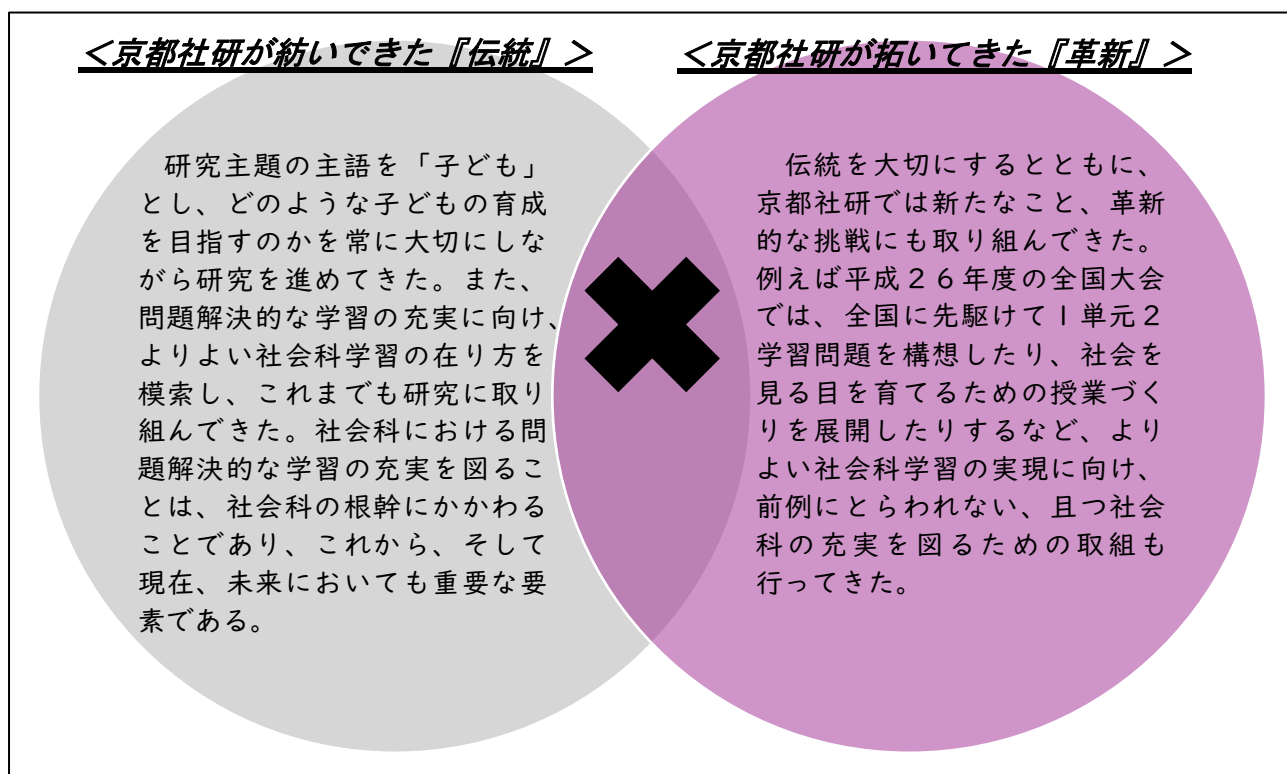
さらに、子ども自身にも課題がある。自律的に学ぶ自信が乏しく、自ら課題を立て探究的に取り組む力や未知への挑戦意欲はまだ十分育っているとは言えない。また、夢や将来展望をもつ子どもの割合が低く、社会参画意識や自己有用感も十分に育っていない。こうした状況は、未来社会で必要とされる主体性・探究心・自己肯定感の育成を阻害している。

そのような中、社会科教育においては、教師主導の学習が中心で単元全体の見通しが欠如し、社会問題を「他人事」として捉える傾向が強い。また、学んだ概念を活用して社会を構造的に理解する力を育てる単元構成も不十分である。結果として、社会課題を自分の事として捉え、学んだ概念を使ってその課題について考える力が育ちにくい状況にある。

このような課題が『今』の子どもたちの周りに取り巻いており、その解決が求められている。

□3 京都社研『伝統』と『革新』の理念

上述したように、現状では様々な課題が子どもたちを取り巻いているが、もちろんこれまでも多様な課題が子どもたちを取り巻いてきた。京都社研では、その時代・課題に応じて様々な手立てを講じ、子どもたちに求められる資質能力の育成に向け、社会科教育の充実に向けて取り組んできた。そのような京都社研が大切にしてきた理念として、『伝統』と『革新』がある。



図に示したように、京都社研では『伝統』と『革新』の2つを大切にし、研究に取り組んできた。『伝統』として紡いできた問題解決的な学習の充実、これからの社会科学学習においても変わらず重要である問題解決的な学習の充実を引き続き目指していく。そして、革新として、誰でもできる社会科学学習の実現を目指す。研究会に所属している人ならできる、社会科を研究している人はできる、といった社会科ではなく、誰もが「この視点を大切にすればできる」「社会科の学習が充実する」といった社会科学学習の実現を目指す。

□4 どのような子どもを育てるか

『現在（いま）』の子どもたちを取り巻く様々な課題、その解決に向けて京都社研が大切にしてきた『伝統』と『革新』の理念のもと、これからどのような子どもたちの育成を目指していけばよいのだろうか。育成を目指す『未来（さき）』の子どもたちに育む力の具体を次のように整理する。

社会に参画する力

- ・社会参画は、選挙や地域活動などを通じて自分の意見を表明し、公共の利益を考える力を育てる。これが民主主義を支える基本である。社会に関わることで「自分は役に立っている」という感覚が生まれ、自己肯定感や生きる意味を感じやすくなる。また、社会参画を通じて、異なる考え方や文化に触れ、対話力・協働力を育てることができよう。これは現代社会で不可欠な力である。さらに、AIの台頭や技術革新が進む中、人間が「人らしく生きる」ためには、社会の仕組みを理解し、自分で選択・行動する力が必要であると考ええる。

自分の意見を創出する力

- ・自分の意見を創出する過程で、情報を整理し、考えを構築することが必要である。事実を理解し、比較検討し、価値を判断していかなければならない。対話は、互いに意見をもち寄ることで成立する。自分の意見がなければ、対話は深まらず、協働的な問題解決もできない。社会の中で意思（意志）決定していくためには、自分の考えをもち、他者に伝える力が不可欠である。また、自分の意見をもち、それを認められる経験は、「自分の考えには価値がある」という感覚を育て、自己肯定感を高めることにつながると考える。

問題を解決し続ける力

- ・解決し続ける力がなければ、社会は停滞し、持続可能性を失ってしまうだろう。改善と創造を繰り返す力が、これからの未来を支えると考ええる。また、自分で考え、試行錯誤し、解決策を見つける力は、どんな職業や人生にも必要である。もちろん複雑な課題は一人では解決できない。他者と協働しながら、解決策を探り続ける力が、社会参画や民主主義の基盤となる。問題解決の過程で、知識やスキルが深まり、自己効力感や達成感が育ち、学び続ける力にもつながると考える。

多様な他者と合意形成する力

- ・異なる立場や価値観をもつ人々と協働し、合意を形成する力がなければ、持続可能な解決策を見出すことできないと考える。民主主義社会では、多様な意見を尊重しながら意思決定を行っていく。合意形成は、公共の利益を考え、社会に参画するために必要である。様々な人が存在する世の中、価値観や利害の違いは必ず生じる。合意形成の力は、対話を通じて折り合いをつけ、建設的な解決策を見出す力となる。学校や職場、地域社会での活動は、他者との協働が前提である。合意形成の力がなければ、協働は機能せず、成果を生み出すことも難しくなるであろう。グローバル化した現代社会では文化や価値観の違いが大きく、異なる背景をもつ人々と共に課題を解決する力がますます重要となると考える。

現状を正しく捉える力

- ・現状を誤って理解すると、解決策も的外れなものになってしまう。正しい現状認識は、課題を明確化し、適切な行動を選ぶための基盤である。社会や環境は常に変化している。現状を正しく把握できなければ、変化に適応し、未来を見通すことはできない。そして、現状を捉えるには、情報を集め、整理し、信頼性を見極めなければならない。他者と協働するためには、共通の現状認識が必要となる。現状を共有し、同じ土台で議論する力がなければ、合意形成は困難となる。現状を正しく理解することで、「自分にできること」を考え、主体的に行動することができると考える。

粘り強く取り組む力

- ・現代社会の問題や学習問題は、簡単に答えを出すことができない。途中で諦めず、試行錯誤を続ける力がなければ、深い理解や解決には到達できない。困難を乗り越えた経験は、「自分にもできる」という感覚を生み、自信や自己肯定感を高めるであろう。将来の仕事や生活でも、課題や困難は必ずある。粘り強く取り組む力は、どんな場面でも必要な力である。また、新しいアイデアや発見は、諦めずに考え続ける姿勢から生まれる。粘り強さは、創造的な学びの土台といえると思う。

これからを見極める力

- ・現状を分析し、未来を見通す力がなければ、適切な選択や行動ができない。自分の将来や社会の動きを見極めることで、学びの意味を理解し、進路や生き方を主体的に決める力が育まれる。未来を見据えた解決策は、短期的な対応ではなく、持続可能な社会づくりにつながるため、見極めることは不可欠である。社会の動きを理解し、未来の課題を予測できる子どもは、公共の利益を考え、協働して行動することができる。未来を見通すことで、自分の役割や価値を見出し、夢や目標をもって生きることができると考える。

以上のように、『現在（いま）』の子どもたちを取り巻く様々な課題、その課題の解決に向けた京都社研の『伝統』と『革新』の理念のもと、子どもたちに育みたい力の育成を目指した社会科学習の実現を目指していく。

□5 研究仮説と研究主題

『未来（さき）』の子どもたちの育成を目指し、令和の時代に求められる社会科の学習を考える上で、これまでの社会科学習の流れを振り返る。これまでの社会科学習における大まかな学習の流れは次のように整理することができる。

①社会的事象とであう

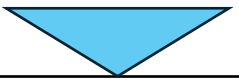
- ・子どもたちにとって身近な社会的事象を指導者が切り取って提示して興味をもたせ、社会的事象と子どもたちの距離を縮めることで、学習に対する動機づけとする展開が多い。
- ・中学年では具体物、高学年では具体物に加えて客観的な資料を提示することが増える。
- ・中学年では「であう」で数時間、高学年になるにつれて1時間で「学習問題」「学習計画をたてる」ところまで進むことが多い。

②学習問題をたてる

- ・①で提示した社会的事象について子どもが漠然・漫然と抱いている認識や生活経験上の知識を揺さぶる事実（資料等）を提示することで、問題意識を醸成し、学習問題とする。この問題意識が単元を通じて社会的事象について追究する子どもたちの学習意欲、学習の推進力となるため、学習問題をつくる場面にはとりわけ力点を置いた実践が多い。
- ・数時間かけて子どもたちが追究する学習問題の多くは「どのように」「なぜ」の2種類の問いから構成されることが多い。さらに、「どのように」で問い、単元のまとめの段階で「なぜ～なのか」と問い直すことで概念形成を図る実践が多くみられるようになった。

③学習計画をたてる

- ・学習問題の解決に向け、どんなことについて、何について調べればよいのか、また、何を用いて調べるのか等の計画を短時間でたてる。



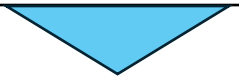
④調べる

- ・学習計画に基づき、指導者が本時の問いを醸成するための資料を提示し、学習計画をもとに本時の問いを設定し、予想を立ててから調べるといった実践がよく見られる。
- ・本時の問いについて、子どもたちに教科書、図書資料、インターネット等を用いて調べさせたり、実際に見学や体験を通じたりして、本時の問いについての事実を捉える。調べる際の資料は指導者があらかじめ用意したものを配布したり提示したりすることが多い。



⑤まとめる

- ・「調べる」で捉えた様々な事実をもとに、学習問題のこたえについてまとめる。
- ・キーワードを用いたり、新聞やキャッチコピー等様々な表現方法を用いたりしながら、調べて分かったことをもとに考えたことを表現させる。
- 「どのように」で問うた学習問題に対するこたえは、ここでは事実として列挙される。その列挙された事実について「なぜ～のような事実になっているのか」と問い直すことで、社会的事象の意味について考えることができるようになり、概念形成を行うことができるようになる。



⑥いかす

- ・単元を通じて得た概念を用いて、社会の問題について考えたり、選択・判断を行ったり、持続可能な社会のあり方について議論をしたりする等、構想する場面を設定する。（ただし、すべての単元で設定するとは限らない。）

もちろんこの他にも様々な実践が行われてきたが、大まかに捉えた場合このような学習が展開され、社会科学習の充実を図ってきた。これまでの実践の成果を踏まえるとともに、これからの社会科学習のさらなる充実を図るための視点を次のように整理する。

<子ども>

- ・子どもたちが今の自分の立ち位置・状況を認識することで、追究する視点の深まった問題や問い等が焦点化されると共に、「自分事」として捉えることができるのではないかな。
- ・学習問題の解決に向けた見通しを子どもたちが明確にもつことで、主体的な学びの充実につながるのではないかな。
- ・調べる内容・時間・方法等を子どもが自ら選びながら学習を進めることで、子ども自身が試行錯誤しながら問いを追究する力が育まれるのではないかな。

<指導者>

- ・子どもたちに必要な形成的な評価を適宜実施することができ、子どもの学びの質を高めることができるのではないかな。
- ・系統的に育てる力を整理し、教員がその意識をもつことで、身に付けさせたい力の確実な定着を図ることができるのではないかな。

このような視点から課題の改善を図ることで、問題解決的な学習のさらなる充実を進めることにつながると考える。そこで、これまでの社会科学習と、今後、中核として考える社会科学習の展開を整理して図に示すと、次のようになる。



単元や学年により、この単元構想の図から変更する点もあるが、令和の社会科学習はこのようなイメージで単元を構成していく。まず、WHY を中核とした学習問題をたて、その学習問題の解決に向けて予想をたて、一人一人が見通しを確実にもつ。その予想をもとに一人一人がそれぞれの計画に応じて調べていく。自分だけでなく他者と協働しながら調べる中で、自らの学びをふり返りながら見通しを修正し、まとめていく、このような学習を展開していく。予測困難、先行き不透明な令和のこの時代において、子どもたちが解決すべき問題を自ら見出し、その解決に向けた見通しをもち、主体的にその問題について考える中で、他者との多様な話し合い等を通じ、納得解を生み出し解決を図っていくという、今求められる資質・能力を育成することができるのではないだろうか。そこで、そのような視点から研究仮説を次のように設定する。

- ① 子どもたちが今の自分の状況等を認識したうえで問いを自覚し、その問いについて明確な調べる見通しをもちながら学習を展開することで、より主体的に学習に取り組む社会科学習となるだろう。
- ② 子どもたちが調べる時間を十分に担保することで、個人だけでなく他者と議論しながら調べ考える時間が充実するとともに、指導者の評価も充実し、子ども自身が学びをふり返りながらよりよい学びを追究する社会科学習となるだろう。
- ③ 社会科の学習を学年を超えて見通し、必要な力を整理することで、系統的にその力を育むことができるだろう。

このような研究仮説の下、研究を進めていく。子どもたちが問いを自覚し、見通しをもって調べる学習を展開する、そのような学習の実現を目指し、研究主題を「#子どもが調べ考える社会科学習」と設定する。「調べる」や「考える」は、これまでの社会科の学習でも頻繁に使われてきている言葉である。令和のこの時代に求める「調べる」とは、教師が調べる資料を提示したり、1時間1時間の調べる問いを投げかけたりするのではなく、子ども自身が学習問題の解決に向けて見通しをもって調べる計画を立て、個々の学習計画に沿って調べていくことを意味する。また、「考える」とは、学習問題について考えることはもとより、分かったことをもとにさらに社会的事象の意味について考えたり、これからの社会について考えたり、さらには自らの学びについてふり返って考えたりすることをも意

味する。そのような社会科学学習を実現するためには、子どもたちが今の自分の立ち位置・状況を認識することが大切である。子どもたちが自分の「今」を把握することで、問題や問い等を見出したり考えたりすることができる。さらに、そのような「今」の状況を踏まえるからこそ、これから「先」、どのようなことを考えるべきか、何をすべきかを判断するとともに、問い続けていくことができるようになるであろう。

また、今まさに求められる社会科学学習の実現を目指し、「#」を付け、このような社会科学学習の充実を広く発信し、実践を共にしていきたい。

以上より、研究主題を次のように設定する。

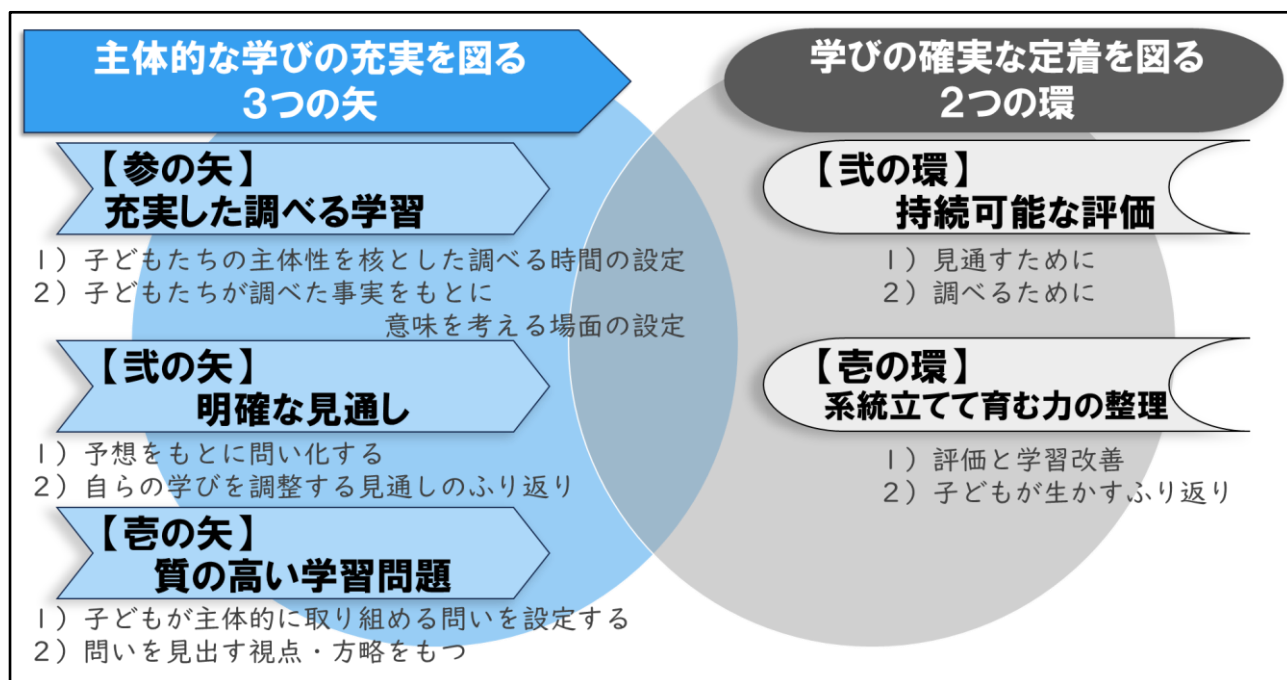
子どもが調べ考える社会科学学習

～「今」を見て「先」を見通し

自他に問い続けていく子どもの育成を目指して～

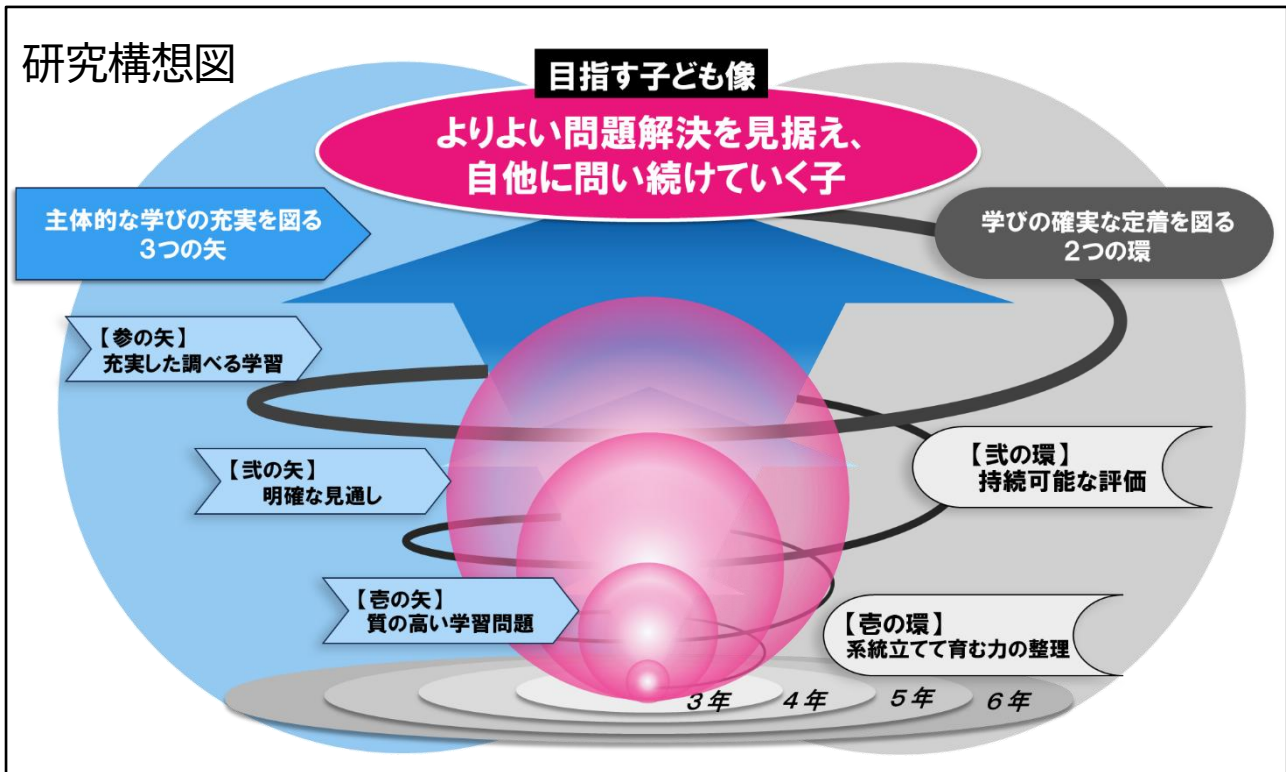
□6 研究構想

この3つの研究仮説のもと、その研究主題の実現を目指し、次の5つの視点から研究を進めていく。



まず、主体的な学びの充実を図る3つの矢と、学びの確実な定着を図る2つの環に整理する。主に子どもの学習活動の充実にあたる手立てを3つの矢として学習問題の設定、見通しの充実、調べる学習の充実を、そしてその子どもたちの学習を補完するもの、支えるものとして2つの環を系統立てて育む力の整理、持続可能な評価としてそれぞれ2つの視点から取り組んでいく。これらの2つを一体となって取り組むことで、研究主題の実現を目指していく。前述の視点を組み込んだ研究構想図を次のように示す。

研究構想図



研究主題を受け、目指す子ども像を「よりよい問題解決を見据え自他に問い続けていく子」と設定する。その目指す子どもを育むためには、一単元、一学年で育てていくのではなく、各学年で系統立てて育てていくことが求められる。そこで、まず【壺の環】『系統立てて育む力の整理』をする。この力は各学年で育てていくことが土台となる。その土台の上に、主体的な学びの充実を図る3つの矢を連ねる。まず【壺の矢】『学習問題の設定』が、その学習問題の設定が推進力となり【弐の矢】『見通しの充実』につながり、さらにはその見通しを推進力として【参の矢】『調べる学習の充実』につなげていく。調べる学習が充実する中で、子どもたちは見出した解についても問い続け、より良い問題解決を、最適解・納得解を見出すべく学び続けていく。それらの子どもが主体となる学習活動を【弐の環】『持続可能な評価』で支えていくことで、目指す子ども像に到達することができるようにする。このように主体的な学びの充実を図る3つの矢と、学びの確実な定着を図る2つの環が一体となることで、目指す子ども像であるよりよい問題解決を見据え、自他に問い続けていく子の育成を目指していく。

Ⅲ 主題への方策

◇主体的な学びの充実を図る3つの矢◇

□ < 壺の矢 > 質の高い学習問題

1) 子どもたちが主体的に取り組める問いを設定する

社会科では問題解決的な学習を展開する。単元の学習問題を設定し、その学習問題に対する見通しをもち、その見通しに沿って問題を解決するべく調べていく。この問題解決の過程を通じ、概念的な知識の獲得を目指す。このような問題解決的な学習を進めていく上で、単元の学習問題は極めて重要である。この学習問題が質の高いものとならないと、充実した問題解決的な学習を展開することができなくなってしまう。では、充実した問題解決的な学習を展開するために、どのような学習問題を設定すればよいのだろうか。

学習問題には様々な種類があり、考え方により多様な分類ができるが、以下の問いを中心に考える。

<①方法や手段、様子等を問う問い>

どのように～行われているのだろう	どのようにして～つくっているのだろう
どのように～続けてきたのだろう	どのようにして～守っているのだろう
どのような～特色があるのだろう	どのように～生活しているのだろう
どのような～取り組みをしているのだろう	どのようにして～変えていったのだろう
だれが、どのように～しているのだろう	
どこから、どのように～送られてくるのだろう	
だれが、どのように～解決しようとしたのだろう	など

このような方法や手段、様子等を問う問いを用いて様々な学習問題が設定されてきた。個別の知識を問うていく中で事実を見出し、そこから子どもたちが見出した事実だけでは分からない、さらに追究していきたい視点について「どのように～しているのだろう」等のような形式で学習問題を設定する。この問いには「誰」「いつ」「どこで」等の問いを付加し、「だれが、どのように～しているのだろう」といった形で学習問題を設定する場合もある。このような問いを設定することで、主語を明確にした上で、社会的事実の様子等を考えることができるようになる。具体的な事実を捉えた上で学習問題を設定することができるので、シンプルで設定しやすい問いとなっており、様々な学習問題がたてられてきた。

ただし、「どのように」で問う問いは方法や手段、様子等を問うものであるため、この学習問題を解決していくことで得られる解は社会的事実の事実についての具体的な知識である。社会科で最終的に獲得を目指すのは概念的な知識であるため、単元を通じて得た様々な具体的な知識をもとに、単元の終末で改めて問い直すことで概念化を図る必要がある。学習の中で子どもたちが捉えた具体的な事実をもとに、指導者が意図的にその意味を問い直す場面を設定しなければ、ただの事実を集めるだけの学習となってしまう、学習が深まらず、概念的な知識を獲得することなく終わってしまう可能性もある。何のために調べているのか、最終的に何を考えさせたいのか、指導者が単元を通じて明確なビジョンと意味を考えるための的確な問い返しが必要である。

<②因果関係、意味や特色等を問う問い>

…なのに、なぜ～しているのだろう	…なのに、なぜ～変化してきたのだろう
なぜ～することができるのだろう	
どうして～なのだろう	どうして～取り上げているのだろう
	など

①の方法や手段、様子等を問う問いと同じように、学習問題としてよく見られる問いである。方法や手段、様子等を問う問いと大きく異なるのは、この問いは様子等の事実を捉えるだけでなく、社会的現象の因果関係、意味や特色についてまで考える問いとなる点である。例えば、「なぜ私たちはいつでも安心安全な水を飲むことができるのだろうか。」という学習問題を設定する。その学習問題を追究していくと、浄水場の存在や水の供給に関わる様々な立場の人々の存在を知るだけでなく、そこに携わる人々が、安心して安全な水の安定供給に向けて様々な関係機関が連携したり、努力したりしているその意味を考えることを通じ、人々の健康的な生活の維持と向上に役立っていることを理解できるようになる。つまり、このような問いを追究することで、社会科で目指す概念的な知識を獲得することができる。

このような「なぜ」の問いの前には、「〇〇なのに」「◆◆であったのに」といった、変化の前の様子や以前の当たり前の様子等の文言が示されたり、そういった意味合いが付加していたりすることが多くみられる。(例：「以前は多かった火事の被害は、なぜこんなにも減ってきたのだろうか。」「京都市は人口が減って大変な時期なのに、なぜ北垣知事は琵琶湖疏水を建設することができたのだろうか。」)つまり、このような「なぜの問い」を設定することは、当たり前となっているその現状がある理由を追究することとなる。当たり前でなかった場合はどうであったのか、当たり前である現在のためのその理由を追究することは、子どもたちにとって解決する必然性の高い問いとなる。

また、同様の視点から子どもたちが学習した事実を踏まえ、さらに深く考える、社会への関わり方を選択・判断することにつなげる際にも、この問いから設定することもできる。子どもたちが単元を通じて獲得した概念的な知識について、さらに揺さぶりをかけることで、より深く社会的現象について考えることができるようになる。例えば、第3学年「事故や事件をふせぐ」では、事件や事故を防ぐために関係諸機関が連携し、私たちのくらしの安全が守られている、ということを学ぶが、そのような概念を獲得した後に、「ではなぜ、依然事故や事件がなくなるしないのだろうか。」と問い直すことで、自分たちにできることを考えたり、より大切にしなければならないことは何かを考えたりすることができるようになる。

<③価値や判断、解決策を追究する問い>

どうすれば～よいのだろう	これからは～どうするべきだろう	
どちらが～よいのだろう	特に大切なのは～どれだろう	など

これらの問いは、子どもたちが学習してきたことをもとに、選択・判断する場面においてよく見られる。学習して獲得した概念等の知識を生かし、現代に見られる様々な課題に対して自分の関わり方や考え方、価値判断を示す際にこのような問いを設定する。特に単元の後半部分に設定することが多く見られた問いの形式である。子どもたちが獲得した概念を用い、社会に見られる課題について、今後どうなっていくのが望ましいのか、自分はどのように関わることができるのか等、より良い社会の在り方について子どもたちが考えるための問いである。学習を通じて子どもたちが獲得した知識を用いて社会に見られる課題について選択・判断するからこそ、このような問いが単元の終末で問われることに意味があるといえる。

単元末に改めて問うてきた問いであるが、社会における問題、社会のそこに存在する問題を単元の冒頭で問うことで、その解決策を考えることができるようになるのではないだろうか。例えば、様々なゴミが日々捨てられていること、その量が極めて膨大であること等、こういった事実と子どもが向き合った時、「どうすればたくさんのゴミを処理することができるのだろうか。」といった問いを設定することができる。このように、子どもたちは自分たちの目の前にある社会の問題に対して問いを設定することで、社会に見られる課題を自分の問題として捉えて考えるであろう。現在社会に見られる様々な課題・問題は、解決する必然性が高い問題であり、子どもたちの追究意欲を高めることができる単元の学習問題となろう。

＜①方法や手段、様子を問う問い＞、＜②因果関係、意味や特色等を問う問い＞、＜③価値や判断、解決策を追究する問い＞の3つの問いを学習問題として設定していく。その中でも、②③を中核として学習問題を設定していくことを目指す。

＜②因果関係、意味や特色等を問う問い＞を単元の学習問題として設定すると、子どもたちは様々な予想を展開することができる。第4学年の「くらしと水」の単元を例に、＜①方法や手段、様子等を問う問い＞と、学習問題、そしてその問いに対する予想を比較すると次のようになる。

＜①方法や手段、様子等を問う問い＞ 【学習問題】 いつでも安心安全なたくさんの飲料水はどこからどのようにして送られてくるのだろう。 ＜予想＞ ・安心な水になるようにどこかできれいにしているのではないかな。 ・水道管を通して街中に水を配っているはずだ。	＜②因果関係、意味や特色等を問う問い＞ 【学習問題】 京都市には約143万人の人口がいるのに、なぜ、一人あたり一日230Lもの安心安全な水を使うことができるのだろう。 ＜予想＞ ・安心な水になるようにどこかできれいにしているのではないかな。 ・水道管を通して街中に水を配っているはずだ。 ・<u>水道管が壊れたりしないように、点検してるのではないかな。</u> ・<u>水をきれいにする機械が止まらないように運転を監視しているのではないかな。</u> ・<u>昔の水はもっとよごれていたから、きれいにしようとしてきたのではないかな。</u>
--	--

上記のように、＜①方法や手段、様子等を問う問い＞の「どのように」を中心とした問いでは、手段・方法について予想を立てることができ、施設について明確な予想を立てることができる。一方、＜②因果関係、意味や特色等を問う問い＞では、施設についてはもとより、さらにそこに携わる人にも予想を広げることができる。「どのように」と問うよりも、「なぜ」と問うた方がより広い予想、見通しをもつことができるとともに、実際に調べていくと、なぜそのようなことをしているのか、その意味について調べることもつながることができる。単元全体を通じ、子どもたち自身がより主体的に学習問題について考えていくことができるようにするためにも、＜②因果関係、意味や特色等を問う問い＞を中核に置いた学習問題の設定を目指す。

さらに、＜③解決策を追究する問い＞の中でも特に改善策に関わる問いに焦点を当てる。同様に第4学年「くらしと水」の単元を例に挙げる。

＜③解決策を追究する問い＞ 【学習問題】 どうすればいつでも安心安全な水が使えるのだろう。 ＜予想＞ ・水をきれいにする装置があればいい。 ・24時間水を監視する人がいればいい。 ・たくさんのお金を出してきれいな水を買えばいい。
--

一見、学習問題として成立しそうであるが、本当に子どもたちは切実性をもってこの問題について考えているか疑問と思える点もある。どのような事実・問題と子どもたちを出合わせるかによっても子どもたちの問題意識はもちろん変わってくるが、ややもすると、問いが形骸化してしまう恐れもある。予想をたてても、上記に見られるように妥当性の低い考え・解決策が子どもたちから出てくる可能性もある。そうすると、実際に調べる活動に取り組んだとしても、子どもたちの調べる学習は質の

低いものとなる可能性が高くなってしまいます。＜③解決策を追究する問い＞では、本当に社会で解決しなければならないという切実性のある問題と出合わせたり、解決にどのような見通しが求められるかを分析して教材化したりすることがより重要となる。

＜③解決策を追究する問い＞の解決策を求める問いについては、次のように実際に社会で見られる課題について考える場面でこそ取り上げていきたい。

【学習問題】

どうすれば台風の被害から京都市を守れるのだろう。

＜予想：学習問題解決するために調べること＞

- 1) 被害が起きないようにするためにどんな対策をしているのだろう
- 2) 被害が起きたときはどうやって救助しているのか
- 3) どのように避難させているのか



【→その上でなぜそれを調べなければならないか理由を問う】

- 1) あらかじめ対策をしておけば、被害が出なくて済むから。そもそも私は被害が起きてほしくないから、あらかじめ起きないように対策があってほしい。
- 2) どうやっても災害は来るだろうから、起きた時にどうやって人々を助けるのか知りたい。
- 3) 早く避難させないとすぐに命の危険にさらされるから。僕たちもどう避難したらいいのかわからないから。

このように、実際に社会で見られる課題を学習問題とすることで、子どもたちはより切実性のある自分の問題として捉え、問題解決に向けて学習に取り組むことができる考える。これまでにどのような被害があったのか、これまではどのように対処してきたのかを調べたり、現在行われている様々な被害への対応策やそれぞれの立場からの備えについて調べたりすると考えられる。そして自分たちはどうするか、といった視点まで考えを広げる学習を展開していくことが可能となる。過去・現在・未来という時間の流れの中で、どうすべきか、という最適解・納得解を探り続けながら、子どもたちは追究意欲をもって学習を進めていくことができるのではないかと。社会に見られる課題であるため、その解決に向けて考え続けることになり、単元を通じて社会に見られる課題解決を様々な角度から図っていく授業が展開できる、このような学習問題も設定していく。

＜②因果関係、意味や特色等を問う問い＞や＜③解決策を追究する問い＞で学習問題を設定することが難しい、適当ではない単元もある。＜①方法や手段、様子等を問う問い＞を用いた学習問題も、学年や時期、単元に応じて適切に用いていく。子どもたちがより主体的に学習に取り組むことができるようにするために、＜②因果関係、意味や特色等を問う問い＞や＜③解決策を追究する問い＞を中核に据えながら、質の高い学習問題を設定するようにしていく。

2) 問いを見出す視点・方略をもつ

問題解決的な学習では、子どもたちが様々な場面で問いを見出すことが必要となる。そのためには、子どもたちが諸資料から問いを見出すことができるようにすること、そして指導者が問いを見出せるような方略を携えておかなければならない。

第3学年の社会科の学習が始まった段階では、子どもたちにとって身近なものや具体物を提示することで、そこから子どもが興味をもったり、疑問や不思議に感じたりしたことを挙げたりすることを通じ、時間をかけながら学習問題をたてていく。一方、第6学年の段階では、客観的な資料から疑問点を見出したり、これまでの学習と関連付けながら問いを見出したりすることで学習問題をたてることもできるようになるとともに、学年が進むにつれ、学習問題をたてるのにかかる時間も短くなっていく。子どもの成長とともに、指導者も多様な資料を用い、子どもたちが多様な視点から問いを見出すことができるようにすることで、問題解決的な学習の充実を図ることができるようになる。短時間で質の高い問いをつくることができれば、その後の学習をさらに充実したものとする事ができよう。

また、社会科学学習指導要領解説編には次のように示されている。

「社会的な見方・考え方を働かせ」とは、そうした「視点や方法（考え方）」を用いて課題を追究したり解決したりする学び方を表すとともに、これを用いることにより、児童生徒の「社会的な見方・考え方」が鍛えられていくことを合わせて表現している。（中略）

どのような場所にあるか、どのように広がっているなどと、分布、地域、範囲（位置や空間的な広がり）などを問う視点から、また、なぜ始まったのか、どのようにかわってきたのかなどと、期限、変化、継承（時期や時間の経過）などを問う視点から、あるいは、どのようなつながりがあるか、なぜこのような協力が必要かなどと、工夫、関わり、協力（事象や人々の相互関係）などを問う視点からそれぞれ問いを設定して、社会的事象について調べ、その様子や現状などを捉えることである。また、どのような違いや共通点があるかなどと、比較・分類したり総合したり、どのような役割を果たしているかなどと、地域の人々や国民の生活と関連付けたりする方法で、考えたり選択・判断したりすることなどである。

（社会科学習指導要領解説編 P18・19）

社会的事象の見方・考え方を働かせ、問いを設定したり調べたりしていくこと、その見方・考え方は鍛えられることが示されている。

これらのことから、子どもたちが問いを見出したり、指導者が問いを見出すための方略を明確にもったりすることは、問題解決的な学習の充実に向けて重要である。そこで、問いを見出す様々な方法の例を下図に示す。このような問いを見出す視点や指導者の方略をもって、子どもたちが問いを見出し、単元の学習問題や個別の予想から問い化する際の視点とし、子どもたちが主体的に問題解決に向かうことができるようにする。

問いを見出す視点例

具体物から興味をもったことをもとに問いを見出す（何が～だろう）

現地に赴いて不思議に思ったことをもとに問いを見出す（どこで～だろう）

体験と比較して知らない点をもとに問いを見出す（どうして～だろう）

経験と照らし合わせ、社会に見られる課題を見出す（どうすれば～だろう）

具体物からあるべき姿とのずれを認識する（どうやって～だろう）

資料の時間経過をもとに問いを見出す（なぜ～になったのだろう、どのように～変化したのだろう）

経験と比較し、認識のずれを見出す（なぜ～だろう）

複数の資料を比較し、相違点から特色や意味に着目して問いを見出す

複数の資料を比較し、共通点から特色や意味に着目して問いを見出す

自分の生活経験とのずれをもとに問いを見出す

前提条件との違いから問いを見出す（～であるはずなのに、なぜ…）

複数の資料を関連付けて特色や意味に着目して見出す

学習を通じて得た知識をもとにこれまでとの違いから問いを見出す（～であるはずなのに、なぜ…）

実体験を通じて感じたことをもとに問いを見出す

全体像を俯瞰して、様子や特色についての問いを見出す

（どのような広がりがあるだろう、どのような特色があるだろう）

自分ができることについて問いを見出す（これからわたしたちは～だろう）

未来の在り方を考えることで問いを見出す

二項対立から問いを見出す（どちらの方がより～だろう）

現状の課題を把握し、解決策について考える（どうすれば～だろう）

存在意義・必然性から問いを見出す（なんのために～だろう）

□ <式の矢> 明確な見通し

学習問題を設定した後、子どもたちは学習計画をたて、単元の見通しをもつことができるようにしている。単元の学習問題で学習の方向性を定め、学習計画・見通しでその方向性の具現化を図る。子どもたち自身が問題解決的な学習を進めていくためには、見通しや学習計画を明確にすることができないと、学習問題を設定したとしても、結局は指導者が毎時間、本時の問いを設定し、一斉学習を展開することとなり、子どもたち自身による主体的な学習が展開できなくなってしまう。

単元の学習問題を設定するのと同様に、この学習計画・見通しをしっかりとつことができるようにすることも重要であるにもかかわらず、実際の授業ではこの時間は短時間で済まされてしまうことが多い。学習問題をたてるのに授業時間の多くを費やし、残り僅かの短時間で予想や計画をするような授業もしばしばみられる。子どもたちが主体的に調べる学習に取り組むことができるようにするために、この見通しをもつ場面で次のような視点から充実を図る。

1) 予想をもとに「問い化」する

見通しをもつためには、見通しがもてるような学習問題を設定することが必要である。適切な学習問題を設定することで、子どもたちは様々な予想をたてることができるようになる。そのために、【壱の矢】学習問題の設定で述べたように、「②因果関係、意味や特色等を問う問い」や「③解決策を追究する問い」を設定し、多様な様相から社会の意味を追究することができるようにする。そして、このような学習問題を設定したときに子どもたちが考える多様な予想をそのままにするのではなく、その中で本当に調べなければならない予想かどうかを吟味したり、分類したりし、なぜそれについて調べる必要があるのか、個別の問いの形式に直していく。このように「問い化」したそれぞれの個別の問いが、子どもたちが調べる具体的な問いとなる。このプロセスを経ることで、子どもたち自身は何について調べなければならないのか、その具体的な問いが明確になり、調べる際の具体的な指標とすることができるとともに、何のために調べているのか自身でふり返ることができるようになる。前述の第4学年「くらしと水」の単元を例にして挙げると次のようになる。

【学習問題】→<予想>

なぜ安心安全な飲料水をいつでも使うことができるのだろうか。

- ・安心な水になるようにどこかできれいにしているのではないかな。
- ・水道管で街中に水を配っているはずだ。
- ・水道管が壊れたりしないように、点検しているのではないかな。
- ・水をきれいにする機械が止まらないように運転を監視しているのではないかな。



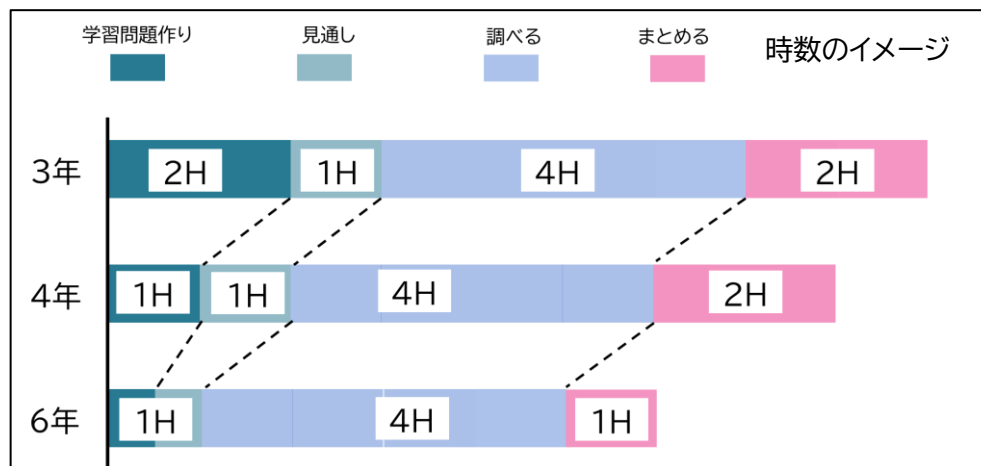
<予想から個別の問いへ>

- ・大量の水はどこできれいにしているのだろうか。
- ・どのようにしてきれいにしているのだろうか。
- ・どのように京都市中に水が届けられているのだろうか。
- ・誰が水道管などを点検しているのだろうか。
- ・水をきれいにするのにどのような人々が携わっているのだろうか。

このように、設定した単元の学習問題について、それぞれが挙げた疑問の視点から具体的にどのようなことを調べるのか予想をたてた上で問いの形式にすることで、調べる具体的な問い（個別の問い）が設定できる。この個別の問いが明確になることで、子どもたちは学習の見通しがよりはっきりし、

自分たちがどのようなことを調べたらいかがが明確になり、主体的に調べる学習を展開することにつながっていく。また、なぜそのことを調べるのかがはっきりすることで、子どもたちの調べる内容が拡散してしまうことを防ぎ、質の高い調べる学習につなげることができるようになる。さらに、これまでは1時間1時間の本時の問いを指導者がその時間その時間につくってきたが、この場面において子どもたちが単元の学習の見通しをもつことで、調べる学習を行っている際に、より自分自身の学習をふり返ることができるようになる。これは、主体的に学習に取り組む態度の評価の充実にもつながっていく。

明確な見通しをもつことは、子どもたちが主体的に調べる学習を展開するために必要不可欠なプロセスである。第3学年では予想をたてる時間が明確に独立した時間で設定することがある。これは、発達段階に応じて見通しをもつ時間を明確に設定したためである。しかし、このような時間が必要なのは第3学年だけではない。必要に応じて第4学年以上の学年でも見通しをもつ時間を十分に確保したい。「つかむ」の学習プロセスの場面で、これまでは学習問題の設定に多くの時間を費やしてきたが、見通しをもつ時間を充実させた学習展開が望まれる。無論、年間の総時数は決まっているため、むやみに時間だけを設定すればいいというものではない。年間のカリキュラムを考えながら子どもが見通しをもつ時間を設定する。

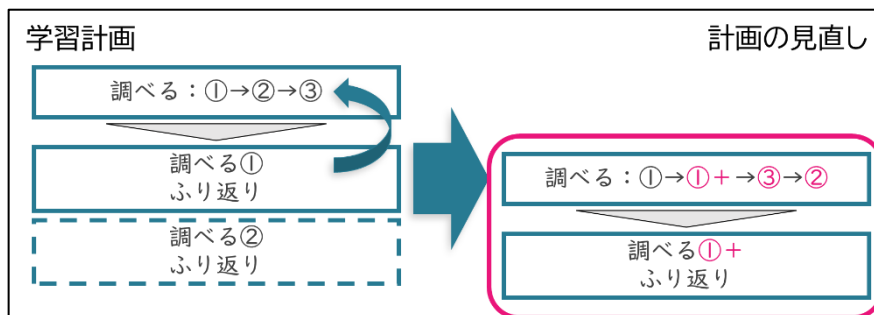


また、見通しを立てる力も子どもたち自身が伸ばしていくことも必要である。子どもたちが短時間で質の高い見通しをもつことができればそれに越したことはない。後述するが（「壺の環」参照）、そのような力を1学年ではなく、複数年を見越してつけていきたい。学年の縦の系統性を意識しながらこのような力の育成を目指していく。

2) 自らの学びを調整する見通しのふり返り

実際に見通しをもって子どもたち一人一人がそれぞれの学習計画に沿って調べる学習を進めると、子どもたちは自分の調べ学習の進捗について疑問をもち始める。このまま調べる学習を進めていってもいいのか、それとも調べる方向性を改めていった方がいいのか等、自分の調べていることが適切かどうかを確認したいという思いをもつようになる。そこで、調べる学習の最中に、子どもたちが自分たちの調べている内容について子どもたち自身の必要感から話し合い、方向性や視点等が適切・妥当かどうかを確認する場面を設定する。例えば、学習計画では①②③の順で調べようと考えていた子どもが、はじめに見通していた調べ方や計画、調べる内容が妥当かどうか、資料は適切か、さらにどんなことを調べていけば問題の解決につながりそうか等、子どもたちが交流する場面を意図的に設定する。このような場面を設定することで、学習計画で考えていた自分の学びの見通しを調整し、さらに調べる必要があることを調べたり（下図①+）、調べる順序を変えたりしようと考えることができ（下図③→②）、より良い調べる学習につなげることができるようになる。このように最初にたてた見通しを見直し、よりよい調べる学習へと展開できるように、自らの学びを調整する見通しのふり返りの場面をもつようにする。

また、あるいは新たな疑問について調べる必要性も出てくるであろう。ただ見通しをもって終わりではなく、その見通しがどうであったか自ら学習を調整することで、見通しが問題解決的な学習のプロセスをなす一部として形骸化するのではなく、真に必要な学習の一つとして昇華することができるようになることを目指す。



□ <参の矢> 充実した調べる学習

社会科における問題解決的な学習の中心は、見出した問題、学習問題について調べる学習である。この調べる学習で子どもたちは様々な具体的な事実を見つけるとともに、その意味を考えるを通じ、学習問題についての解を見出していく。このような学習は、子どもたちが問題について調べたい、考えたいと思うことが、問題追究の推進力となっていく。問題について子どもたち自身が調べたい、見通しをもって〇〇したいと考えれば、自ずと子どもたち自身がその問題について主体的に調べる学習を進めることができるだろう。問題を解決するための調べる時間は、単元の中で最も時間をかけて行われる学習活動、学習プロセスである。

その社会科の学習の中心となる調べる学習であるが、昨今の社会科では次のような授業が多く見られる。

- ・学習計画に沿って教師が1時間ごとに本時の問いを改めて設定し、その本時の問いについて予想を立てて調べる学習。
- ・1時間ごとに教師が本時用の資料を配布し、その資料を子どもたちが調べる学習。
- ・資料から調べて分かった事実をまとめて終わる調べる学習。

社会科の学習では、問題解決的な学習を通じ、概念的な知識の獲得を目指す。そのために1時間1時間本時の問いを設定し、それについて調べていく学習を重ねていくことで様々な具体的な知識を獲得することは、社会科の目標を達成する上で必要なことである。

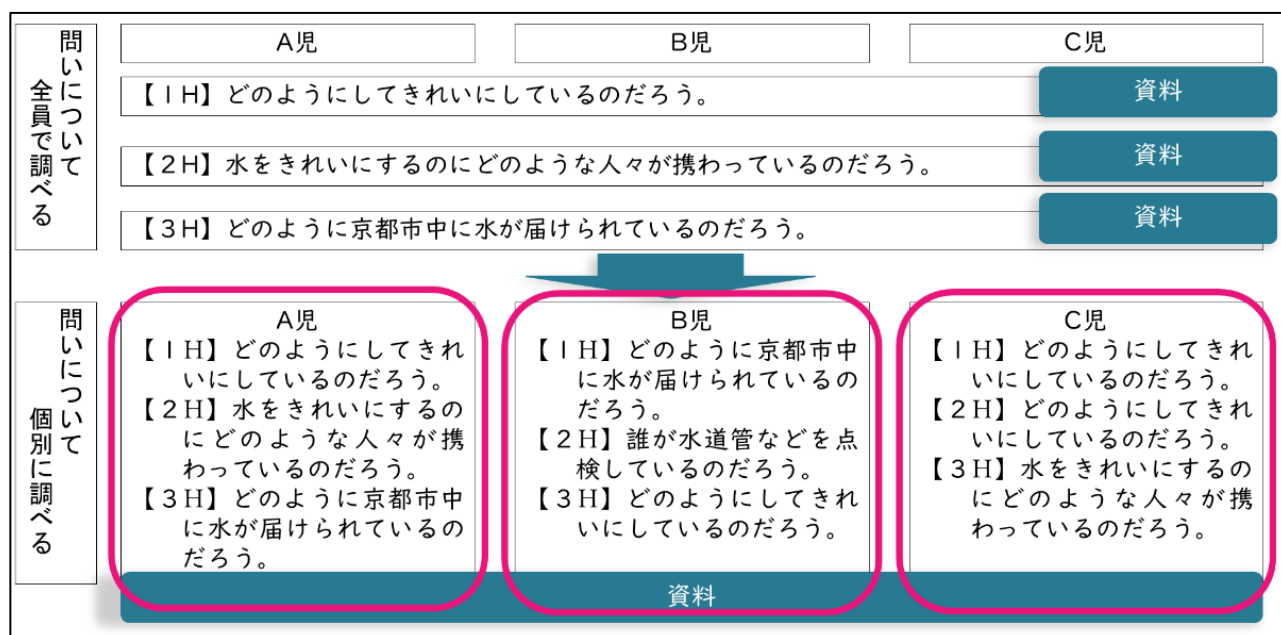
しかし、このような調べる学習は、本当に子どもたち主体の調べる学習となっているかどうか疑問が残る。「子どもたちが自ら問題に向かう」というよりは、どうしても「指導者が子どもたちを問題に向かわせる」という感じが強くなってしまう。確かに限られた時間で効率的に子どもたちが問いを追究していくためには、指導者が本時の問いを設定したり、指導者から必要な資料を提示したりし、調べる範囲等がある程度焦点化していくことに意味があると捉えることもできる。しかし、社会科が問題解決的な学習を進めるのは先にも述べたように子どもたちが主体的に学習に取り組むことができるようにするためであり、自ら問題課題を解決するためにその過程を考えることがこれからの社会で必要な力を育むことにつながることを考えると、子どもたち自身が調べる学習過程に見通しをもち、調べる内容や資料を自ら選択し、主体的に学習に取り組むことができるようにすることは必要である。同様に、調べた事実だけで終わってしまう学習では、その事実の先にある社会的な意味を子どもたちが追究することなく終わっていることを意味している。社会の意味を考えることで、調べた事実が個別の事実で終わらず、汎用性の高い知識へと汎化できるのである。そのような場面を意図的に設けたり、子どもたちが考えたりすることができるようにしていくことが調べる学習では求められる。

このような問題解決的な学習の中心となる調べる学習の充実を目指すべく、次の視点から授業を展開する。

1) 子どもたちの主体性を核とした調べる時間の設定

子どもたちが自分たちで問いを自覚し、調べる見通しをもつことができているならば、指導者が1時間1時間の本時の問いを設定したり、資料を提示したりする等、調べる学習で指導者がイニシアティブをとる必要はなくなっていく。そこで、前述の子どもたちが問いを自覚し、その問いを解くための見通しをもつことができるようにした上で、子どもたちにまとまった調べる時間を譲渡する。1時間の学習の中で20分程度の短い時間を与えるのではなく、3時間なら3時間と、調べる学習の時間を多く設定することで、子どもたちは与えられた調べる時間の中で、自分の見通しに沿って、それぞれの問いについて調べることができるようになる。これまでは、せっかく学習計画を立てても、全員が同じ問いについて同じ時間に調べていたのではないだろうか。そして指導者が配布した資料を用いて調べることも多かったのではないだろうか。下図のように、全員が同じ問いを同じ時間に調べるのではなく、それぞれが自分の予想や興味、考え等をもとに調べる問いやその問いに費やす時間を設定しながら、調べる学習を展開する。個に応じた興味や考えに沿って調べる学習を展開することで、より主体的に問いについて考えるだろう。その間指導者は机間指導を中心とした個に応じた支援を行い、子どもたちの調べる学習の質を高められるようにしていく。

また、子どもたちが必要な資料を各自が選択して調べることができるようにする。指導者が1時間ごとの問いに応じて資料を配布するだけでは、子どもたちが適切な資料を選択し、必要な情報を見出す力を十分育むことは難しい。調べる上で必要な資料、教科書、資料集、図書館の書籍、指導者自作の資料、写真資料、動画資料等様々な種類のものから用途や意図を考え、子どもたち自身が選択することで、より主体的に学習に取り組むことができるようになる。併せてGIGA端末の効果的な利活用も図る。GIGA端末からデータベースにアクセスし、必要に応じて使えるようにしていく。子どもたちは資料の種類やコンテンツの種類をも選択しながら、各自が追究するそれぞれの問いに向き合って調べる学習を展開することができるようにする。



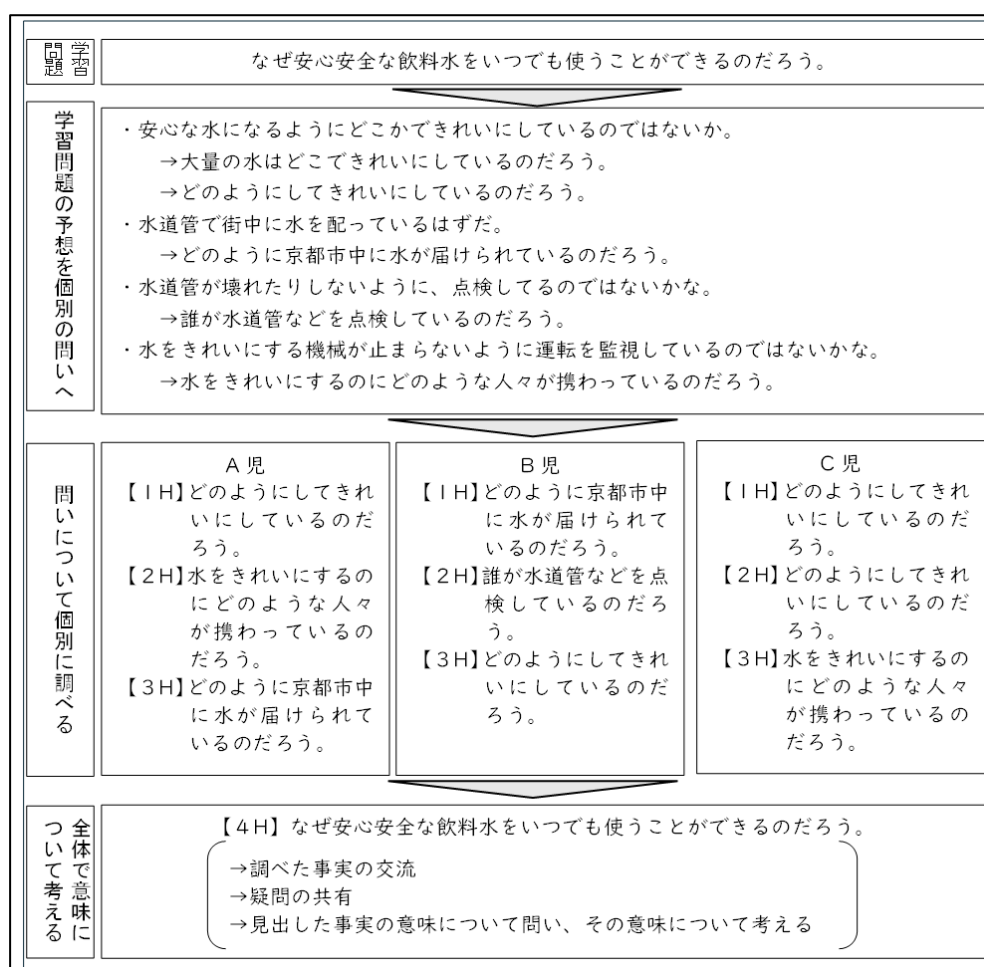
2) 子どもたちが調べた事実をもとに意味を考える場面の設定

調べて分かった事実を捉えるだけでは、調べる学習の充実を図ったことにはならない。調べて得た具体的な知識をもとに、その社会的事象の意味・理由を考えることができるようにする。調べる学習で子どもたちは「なぜ」や「どうすれば」の問いをもとにした個別の問いを追究する。最終的にはその問いをもとに学習問題の解を見出す、解を見出すために、具体的な知識をもとにその意味・理由について議論することができるような場面も調べる学習の中に組み込む。子どもたちがそれぞれ事実を調べて終わるのではなく、社会的事象の意味について考えを深める場面を設定する。その際、子ど

もたが見出した事実をもとに指導者が本質につながる問いを投げかけたり、子どもたちが追究していく中で見出した新たな疑問について、その意味を考える視点を与えたりするようにする。

また、「＜式の矢＞見通しの充実」でも述べたように、自ら学習を調整する時間をこの調べる時間にも設定することで、さらに深く調べたり新たな視点から調べたりすることもできるようにする。その問いについても子どもたちは最適解・納得解を得るために問い続けていく。このように、一度見出した解について他者とのやり取りを通じ、社会的事象の意味をさらに深く追究していく。

学習問題を設定し、見通しをもち、個別の問いについて調べる学習を展開し、社会的事象の意味等について考える場面を整理すると右の図のようになる。このような学習を展開することができるよう指導者は単元を構想し、子どもが調べ考える学習を展開できるようにしていく。



●学びの確実な定着を図る2つの環●

□ <壺の環> 系統立てて育む力の整理

小学校社会科では、公民としての資質・能力の基礎を育成することが求められる。学習指導要領に示されている各学年の目標の系統を整理すると、知識に関する目標に関しては理解する内容が系統的・段階的に示されている。また、技能に関しては内容に応じて繰り返し身に付けるように示されている。思考力、判断力、表現力等については、2学年ごとに系統的・段階的に示されている。学びに向かう力、人間性等に関する目標についても、子どもの発達段階に応じ、系統的・段階的に示されている。これらの目標に示されているように、社会科の究極的なねらいを達成するためには、各学年に応じて系統的に示された目標の達成を図ることが求められる。

系統的に目標が設定されているように、子どもたちが社会科で調べ進めることができるよう、系統的に子どもたちの資質・能力の育成を図る必要がある。社会科の学習が始まる小学校第3学年から第6学年に向けて、さらに中学校第3学年に向けて、系統的に調べ考えることができる子どもの育成を目指したい。しかし、系統的に調べ考えることができる子どもの育成を目指すと言っても、社会科で調べ考えるために具体的にどのようなことができるようになっていけばよいのかが明確にならなければ、系統的に子どもの育成を目指すことは難しい。そこで、社会科の各学年のねらいを達成すべく、

社会科で調べ考える学習を展開する上でどのようなことができるようになればよいのかを整理する。もちろん、すべての学年において調べ考えることができるように子どもの資質・能力の育成を目指していくが、主として力点を入れる学年はどこであるのかを捉え、意識的に指導できるようにする。視覚化し、端的に捉えることができるようにするため、①見通しをもつ場面、②調べる場面において、次のような調べ考えるための系統表を参考にし、系統的に子どもたちが調べ考えることができるようにする。

なお、◎が主として力を注いで取り組む学年で、○がつけていくことが望まれる学年を示している。もちろんついていない学年で取り組むこともあるが、あくまで主として力を注いで取り組むという視点から次のように設定する。表を見ると明らかであるが、初めて社会科を学習する第3学年では特に様々な力を身に付けていくことが求められる。このような力を系統的につけることにより、各学年でより充実した社会科の学習を展開できることとなるため、組織的に取り組んでいく。

		3年	4年	5年	6年
問いや疑問をもとに予想を立てて見通す	学習問題をもとに調べる視点を列挙する	◎			
	他者の意見をもとに調べる視点を整理する	◎			
	疑問に思った視点について予想する	◎			
	疑問に思った視点についての予想をもとに問い化する	◎	◎		
	自分の興味をもった問いについて、根拠を明らかにして予想する	◎			
	それぞれの問いについて、根拠を明らかにして予想する		◎		
	生活経験を基に予想する	◎			
	使用した資料を基に予想する	◎	◎		
	これまでの学習で得た知識等をもとに予想する		◎	◎	◎
	それぞれが見出した予想をもとにさらに予想を練り上げる			◎	◎
	必要な所要時間を見通す		◎		
	調べる順番を見通す	◎			
	優先順位をつけながら調べる順番を見通す			◎	◎
自己調整し、見通す	他者の意見を聞きながら自己調整し、調べる内容を精査する			◎	◎
	自己の調べる学習を内省して見通す	○	○	◎	◎
	調べたことをもとに、さらに調べるべきことを見出す	◎	◎		
	他者とのやり取りを通じ、調べ深める視点を見出す		◎	◎	
	他者とのやり取りを通じ、学習問題に照らし新たな調べの視点を見出す		◎	◎	

2) 調べる場面

		3年	4年	5年	6年
情報を収集する	調査の観点に基づいて、現地の様子や実物を観察し情報を集める	◎			
	景観のスケッチや写真撮影等を通して観察し、情報を集める	◎			
	動画を撮影して観察し、情報を集める	◎			
	地図を現地に持って行き、現地との対応関係を観察し情報を集める	◎			
	家族や地域住民等にアンケート調査を行い、情報を集める	◎	◎		
	行政機関や事業者等にアンケート調査を行い、情報を集める	◎	◎	◎	◎
	家族や地域住民等に聞き取り調査を行い、情報を集める	◎	◎		
	行政機関や事業者等に聞き取り調査を行い、情報を集める	◎	◎	◎	◎
	地図から位置関係や形状、分布等の情報を集める	◎	◎		
	地図から距離や面積、記載内容等の情報を集める	◎	◎		
	地球儀から位置関係や形状、分布、面積、距離等の情報を集める			◎	
	表（年表等）から傾向や変化等の情報を集める				◎
	グラフから傾向や変化等の情報を集める			◎	
	新聞、図書や文書、コンピュータを活用し、様々な情報を集める			◎	◎
	音声、画像（動画、静止画）、現物資料等から様々な情報を集める	○	○	○	○
	模擬体験等の体験活動を通して人々の仕事等に関する情報を集める	○	○	○	○
情報を読み取る	位置や分布、広がり、形状等の全体的な傾向を読み取る			◎	
	量やその変化、区分や移動等の全体的な傾向を読み取る			◎	
	形状、色、数、種類、大きさ、名称等に関する情報を読み取る	◎			
	地図の方位、記号、高さ、区分等を読み取る	◎			
	地図の主題や示された情報の種類を踏まえて読み取る			◎	
	年表の年号や時期、前後関係等を読み取る				◎
	異なる情報を見比べて読み取る。	◎	◎		
	異なる情報を結び付けて読み取る。			◎	◎
	同じ事象の異なる表現を見比べて読み取る			◎	◎
	統計等の単位や比率を踏まえて読み取る			◎	
	歴史資料の作成目的、作成時期、作成者を踏まえて読み取る				◎
情報をまとめる	聞き取って自分のメモにまとめる	◎			
	地図上にドットでまとめる	◎	◎		
	数値情報をグラフに転換する（雨温図等）			◎	
	項目やカテゴリー等に整理してまとめる			◎	◎
	順序や因果関係等で整理して年表にまとめる				◎

位置や方位、範囲等で整理して白地図上にまとめる	◎	◎	◎	
相互関係を整理して図（イメージマップやフローチャート等）にまとめる	○	○	○	○
情報機器を用い、デジタル化した情報を統合したり、編集したりしてまとめる	◎	◎	◎	◎
表等の数値で示された情報を地図等に変換する		◎	◎	

□ <式の環> 持続可能な評価

昭和22年版「学習指導要領一般編」の「第五章 学習結果の考査」では、学習評価の目的・方法の内容が明示された。その第一項の「なぜ学習結果の考査が必要か」では、次のように示されている。

（前略）教材が果たして適当であったかどうか、また、教師の環境のとのえ方や、活動の呼び起し方、すなわち、指導法が適切であったかどうかを反省することができるし、また、一人一人の児童や青年の学習結果を知って、これからの指導の出発点をはっきりさせたり、その指導計画を考えたりするいとぐちを見つけ出すこともでき、これあって、はじめて指導の結果を、よりいっそう、あげることができるのである。ここに、学習の結果を考査する一つの大きい意味があるのである。いまいったのは学習結果を考査する意味を、教師の側から考えたわけであるが、これを学習する児童や青年の側にとってみると、このような学習の進行の現状を知ることは、自分の学習が、その目ざすところにどれだけ近づいているかを、はっきり、とり出してみる機会となり、これによって、かれらもまた、これからの学習を如何にすべきかを考えるいとぐちをつかむことができ、学習の効果をあげて行く上に、たいせつなものを得ることができるのである。ここにも、学習結果の考査のたいせつな意味がある。

上記を確認すると、学習指導に対する評価の必要性が指導者・児童の両者の側から述べられている。学習評価は戦後間もなくから今日に至るまで変わらずその必要性が示されてきている。一方、平成31年3月29日に文部科学省初等中等教育局長通知『小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について（通知）』では、評価の課題について次のように示されている。

- ・学期末や学年末などの事後での評価に終始してしまうことが多く、評価の結果が児童生徒の具体的な学習改善につながっていない
- ・現行の「関心・意欲・態度」の観点について、挙手の回数や毎時間ノートをとっているかなど、性格や行動面の傾向が一時的に表出された場面を捉える評価であるような誤解が払拭しきれていない
- ・教師によって評価の方針が異なり、学習改善につなげにくい
- ・教師が評価のための「記録」に労力を割かれて、指導に注力できない
- ・相当な労力をかけて記述した指導要録が、次の学年や学校段階において十分に活用されていない
（『小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について（通知）』）

上記の課題を整理すると、①評価と学習改善、②評価に掛かる労力、③主体的に学習に取り組む態度の評価の三つに集約される。評価の必要性は認識しながらも、なかなかその評価の充実を図り切れていない実態がうかがえる。

社会科の学習においてこの課題を改善し、そして上に示した評価が目指すべき姿を体現することで、さらなる社会科学習の充実を図ることができると考えられる。そこで、この3つの視点について次のように評価の改善を図る中で、社会科学習の充実に取り組む。

1) 評価と学習改善

実際に授業を行っているとき、評価には次の二つの場面とそれに応じた性質がある。

〈1〉評価したことを指導に生かす場面

〈2〉評価したことを記録に残す場面

単元を通じて、〈1〉〈2〉の視点から指導と評価を繰り返す中で、子どもたちに単元の目標の達成を目指していく。

〈1〉評価したことを指導に生かす場面には、2つの側面がある。一つは授業中に子どもの学習の様子を見ながら即時的にほめたり助言したりするという面である。二つ目は子どもたちの様子から、指導者自身が授業改善・指導改善に生かすという面である。次の時間に補充的な指導を行ったり、次の単元での指導に生かしたりする等の例が挙げられる。

〈2〉評価したことを記録に残す場面では、評価場面・観点を絞り込み、目標に照らし合わせてA・B・C等の評価を指導者がつけていく。この評価したことを記録に残す場面で、子どもたちが学習指導要領の目標と内容を「おおむね満足できる状況」にまで育成することを目指していく。つまり、この場面でCの評価の子どもがいないように、評価したことを指導に生かす場면을充実させ、個に応じた指導を展開していくことが求められる。

しかし、子どもたちすべての学習状況を見取り、即時的な評価を施し、個に応じた指導・助言を行うことはなかなか難しい。それは調べる時間に子どもたちと指導者が接する物理的な時間が足りないことにその大きな要因がある。そこで、まとまった調べる学習の時間を設定することができれば、指導者は必然的にその時間は常に個々の評価をし続けることが可能となる。このことはB評価の子どもの育成につながるといえる。指導者が即時的な評価を常に行うことができることで、子どもたち一人一人を丁寧に見取ることが可能となり、必要な指導・助言の充実を図ることができる。つまり、C評価で終わってしまいそうな子どもには丁寧に指導を行うことで、B評価に到達させることを狙うことができるようになる。調べる学習の充実を図ることが指導に生かす評価の充実を図ることに繋がり、学習指導要領に示された目標と内容の達成を図ることに繋がるのである。指導者が子どもたちの学習を十分に見取る時間を確保することで、即時的な評価を無理なく持続的に行うことができるようになる。指導に生かす評価を充実させることで、すべての子をB評価へと到達させることを目指すことができるようになる。結果これは、評価のために評価をするのではなく、子どもの実態に沿った日々の指導を充実させることで学習改善を図り、無理なく評価を行うことに繋がり、評価に掛かる労力を削減することも可能となる。つまり、評価における課題①「評価と学習改善」と課題②「評価に掛かる労力」における課題の解決が実現できよう。

併せてGIGA端末も適切に用いていく。子どもたちの学びの変容を的確に捉えるために、GIGA端末を用いたポートフォリオも充実させる。GIGA端末は調べるために有効なツールだと捉えられているが、それだけではない。GIGA端末にポートフォリオとして学びの足跡を残していくことで、子どもたちは自己の変容を捉えることができるようになる。もちろん、ノートから自己の変容を捉えることはできよう。しかしGIGA端末に残していくことで、学年の最初と最後等長い期間の自己の変容を捉えることに繋がったり、さらには学年をまたいで自己の変容に繋がったりできる可能性がある。そして指導者が子どもの学習記録のデータベースにアクセスすることで、学びの蓄積や変容等を簡便に見取ることができるようになる。こうすることで、長期スパンでの子どもの変容も見取ることができ、持続的に適切な評価を実施することが可能となる。このように、GIGA端末をどのように活用したり、授業の中でどのような働きかけをしたりすれば、効果的な自己変容の自覚につながるのか模索するとともに、評価に掛かる労力も削減し、持続可能な評価の実現を目指していく。

2) 子どもが生かすふり返し

子どもたちの主体的に学習に取り組む態度の評価を行う上では、子どもたちが自らの理解の状況をふり返ることができるようにすること、自分の考えを記述したり説明したりすること、他者との話し合い等を通じて自分の考えや自分の学びがどうであるか、客観的に捉えることができるようにすることが必要となる。そこで指導者は、子どもたちに学習の終わりにふり返しを書かせることが多くなる。しかし、そのふり返りが形式的な活動に終始してしまう授業も多くみられる。これは、子どもたちが

何をふり返ったらいいか、指導者が何をふり返せたらいいのかが分かっていないことに原因がある。社会科では、

〈観点1〉社会的事象について、予想や学習計画を立て、学習をふり返ったり見直したりして、学習問題を追究・解決しようとしているか

〈観点2〉よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとしているか

という観点から主体的に学習に取り組む態度の育成を目指している。つまり、子どもたち自身が問題に対して自ら選択・判断しながら追究する学習を展開するためには、問い→見通し→調べるといった学習過程の中で、子どもたち自身が何を調べるのか、どのように調べるのか、なぜ調べるのかといった見通しを明確にしながら学習の充実を図ることが、結果、主体的に学習に取り組む態度を評価することができるようになるのである。子どもたち自身が自らの学びをふり返るためには、これまでに述べてきたようにその場面に至るまでに子どもたちの社会科の学習が、問い→見通し→調べるの過程に沿って充実したものになっていることが必要である。主体的に学習に取り組む態度の評価を切り取って考えるのではなく、社会科の学習が子どもたちが調べ考える社会科の学習になっているかどうか、ということをお願いしなければならない。このような学習を展開することができれば、自ずと子ども

たちは自分の予想や見通し、学び方、次に調べなければならないことをふり返ることができるようになり、自己の学習を調整することを持続的に行うことが可能となる。つまり、評価における課題③「主体的に学習に取り組む態度の評価」の改善につながると考える。

あて	わかったこと	番号	ふり返り	番号	ふり返り
か	三十人で山鉾を建てて、釘などは使わず、縄を使って、組み立てる。ボランティアは、600人建て方、引き方など、いろんな役目があり、必要な人数も達し、大工方と車方などを知りました	③	ていけど、他の人の意見を聞くことと最近減ってきた若い人を集めるための最初は、山鉾を建てるときには、釘などを使うと思っていたけど、縄を使ってみて建てることがわかったし、説明書や設計図がないことがわかったから、他のことも調べたら、踊りや、山鉾はこの前コロナで休んでいたけれども今日勉強してみたら大工方やボランティアの人たちはこんなに多く参加していたなんて知ってすごいなと思いましたそれに今日勉強してみたら職人誰か何をしているのかということも調べた結果、20代～70代までぐらいたくさんがいて、若い年齢層に親しまれていて半世紀も前からやっている人もいたことがわかりました。資料方：大工、紙園祭に出る年齢が高いと思っていたら5歳から紙園祭に出ている人もいたということを知ってびっくりしました。	⑨	ずっと前の世代の人たちが今に残してくれたということだと思います。僕は、この学習を踏まえて、歴史を残していくためには、1人の血からじゃ無理だけど、何人もの人の力がレバできることわかったし、電気力を使わなくても、人に力でも知恵を使ったりしたら、琵琶湖疏水のトンネルなども掘れることが、わかりました。
るのか	新しく資材方や、囃子方などという役割の人もいたこと。	③	琵琶湖疏水と紙園祭はどちらも多くのボランティアのひとちや国や市の補助金を得て活動ができていることがよくわかったし改めて考えると大きなものを残すにはたくさんの必要なんだとよくわかったそれに琵琶湖疏水も多くの人が見に来たから残すから保障金の人たちも残してよかったこれが琵琶湖疏水の学習でも、北垣知事は無茶なことをやり切ったみんなの今の当たり前を形作っていて、山鉾巡行でも、見様真似と口伝でこまめやられていて、先人たちの努力すごいなあと思いました。	⑨	
りか	ボランティアは600人で京都府や京都府からは8000万円が出ている	③	琵琶湖疏水と紙園祭の学習をして同じ所得尾二つ見つけましたそれは国や京都府や京都市から補助金が出ているところすもう一つあってそれは紙園祭は、車方、建て方、大工方、伝い方があり琵琶湖疏水はみんなからも守られているところと同じところがあると思いました。	⑨	
らう	説明書はなく、すべて口伝や、先輩の見よう見まねでやっていったと言うことがわかりました。	③	調べてみたら、紙園祭を未来に残したい人が集まっているわけじゃなくて、町内の人や、最近、町内の人数が少なくなっているから、町外の人のお声かけをしていたり、紙園祭ボランティアは18歳から乗れると持っていたけど5歳からでも乗れることを知った	⑨	私は、紙園祭と琵琶湖疏水の学習をして、どちらも少人数だったなんにもできないけど、琵琶湖疏水、紙園祭LOVEの人や、プロや、それらがどんなのか気になる人が集まって話し合ったら、なんとかなる事と、どちらも修理には高額なお金が必要と言う事がわかりました。
りか	全て口伝で見様見真似でやっていることを知った	③	琵琶湖疏水と紙園祭の学習をして琵琶湖疏水は作るのにたくさんの人が関わったけど紙園祭は残すのにたくさんの人が関わったことに気づきました。	⑨	

なお、子どもたちがふり返る際に表現させたいこと、また、指導者がどのような問いかけをするのかを考えたときに、次のようなふり返りの視点例10を参考に、ふり返りを行っていきたい。

過程	ふり返りの視点例10		指導者の働きかけ
見通し ↓ 調べる ↓ まとめる ↓ 生かす	①	今後の見通し・予想についてふり返る	学習問題やそれぞれの問いについてどのような予想を立てているのか、なぜそう予想しているのか。 どのような順序で調べるか、なぜそう考えたか。
	②	学習の進め方をふり返る	何を大切に学習を進めたか。その結果どうだったか。今後 にどうつなげていくか。
	③	考えの変容をふり返る	調べた結果、予想と比べてどうだったか。→自分の考えが どのように変わっていったか。それは何がきっかけか。
	④	既習内容の活用についてふり返る	本時までの学習内容を活用できたか。→それはどんな方法 か。(ノート・GIGA 端末等)
	⑤	自己の成長をふり返る	これまでの自分と今の自分を比べて変わったことやできる ようになったことは何か。
	⑥	他者との学びからふり返る	友だちの考えのよさや、学習の進め方のよさ等、自分の学 びにつなげたいことはどんなことか。
	⑦	次の学習につなげるために ふり返る	学習問題に照らしてさらに調べるべきことは何か、どのよ うな学習活動が必要か。
	⑧	単元の学びをふり返る	学習問題は解決できたか。予想は解決できたか。自分の問 題解決はどうだったか。
	⑨	単元を超えてふり返る	複数の単元を踏まえてどんなことが大切だと考えるか。(日 本の産業として、歴史を学ぶ意味等)
	⑩	学習した学びを生かすため にふり返る	学んだことを自分が実生活にどう生かすか、これからどう 行動していくか。

※⑩は主体的に学習に取り組む態度の二つ目の観点についての視点

◆◆◆各学年 学習問題例一覧◆◆◆

【3年生社会科 各小单元における单元を貫く学習問題例 一覧】

●：「なぜ」疑問型

「学校のまわりの様子」 学校のまわりのまちは、どのような様子なのだろう。
「京都市の様子」 京都市のまちは、どのような様子なのだろう。
「商店のはたらき」 ●まちの中には他のお店もあるのに、なぜ、多くの人が〇〇スーパーに行くのだろう。 ●まちの中には他のお店もあるのに、 なぜ、〇〇スーパーには、多くのお客さんが集まるのだろう。
「工場で作られるもの・農家で作られるもの」 ●なぜ、〇〇では、おいしい〇〇をたくさんつくることができるのだろう。 ●なぜ、〇〇では、日本だけでなく世界でも使われるほどの人気の〇〇をつくることができるのだろう。
「京都市の様子とくらしのうつり変わり」 ●なかには昔とあまり変わっていないところもあるのに、 なぜ、京都市の中心部は、昔と比べて市街地が広がったのだろう。
「火事をふせぐ」 ●なぜ、京都市では、全焼する家が少ないのだろう。 ●なぜ、京都市では、火事の被害が減っているのだろう。
「事故や事件をふせぐ」 ●なぜ、わたしたちのくらしの安全は、守られているのだろう。 ・事故や事件からわたしたちの安全を守るために、 どのようなことが大切になってくるのだろうか。

【4 年生社会科 各小单元における单元を貫く学習問題例 一覧】

●：「なぜ」疑問型

「日本地図を広げよう」 ・どこに、どんな都道府県があるのだろう。
「京都府の様子」 ・京都府は、どんなところだろう。
「くらしと水」 ●京都市には約 1 4 3 万人の人口がいるのに、 なぜ、一人あたり一日 2 3 0 L もの安心安全な水を使うことができるのだろう。
「くらしとごみ」※選択单元 ●毎日、学校や家庭からたくさんのごみが出るのに、 なぜ、京都市のごみをしょ理するための費用を示す資料（折れ線グラフ）は、 こんな変化をしているのだろう。
「使った水のゆくえ」※選択单元 ・たくさんのよごれた水を、だれが、どのようにきれいにしているのだろう。
「自然災害からくらしを守る」 ●あれほど大きな被害が出たのに、 なぜ、大型で強い台風 18 号が来た時の死者数は「0」だったのだろう。
「昔から続く京都府のまつり～祇園祭～」 ●約 700 年もの間、長い時間が経ったのに、なぜ、祇園祭は受けつがれてきたのだろう。
「用水のけんせつ～琵琶湖疏水～」 ・琵琶湖疏水は、どのようにつくられ、京都のまちはどう変わったのだろう。
「古くから受けつがれてきた産業のさかんな宇治市」 ●宇治市のお茶の生産量は、そんなに多くないのに、 なぜ、宇治市は「お茶」をこんなに押し出しているのだろう。
外国の都市とさまざまな国際交流をしている舞鶴市 ●京都市はフランスのパリ等と姉妹都市交流をしているのに、 なぜ、舞鶴市は、ロシアのナホトカ市等と交流しているのだろう。
「ゆたかな自然を生かす宮津市」 ●一時期、砂浜が減ったり、松枯れが広がったり等したのに、 なぜ、宮津市は、天橋立を美しく保つことができるのだろう。

※「宇治市・宮津市」の各小单元では、「舞鶴市」のように京都市との比較を单元ごとにするのもよい。

【5 年生社会科 各小単位における単元を貫く学習問題例 一覧】

●：「なぜ」疑問型

「世界の中の国土」 ・世界の中で、日本の国土はどこにあり、どのように広がっているのだろう。
「国土の地形と特色」 ・国土の地形には、どのような特色があるのだろう。
「低い土地の暮らし／高い土地の暮らし」※選択単元 ●大きな川に囲まれ、海面よりも低い土地なのに、 なぜ、海津市に住む人々はくらしているのだろう。 ・高い土地に住む人々の暮らしや産業には、どのような特色や工夫があるのだろう。
「国土の気候と特色」 ・日本の気候には、どのような特色があるのだろう。
「あたたかい土地の暮らし／寒い土地の暮らし」※選択単元 ●多くの被害をもたらす台風がよくくるのに、なぜ、人々は、沖縄の町に住んでいるのだろう。 ●多くの雪が降り、気温が低いのに、なぜ、人々は、北海道の町に住んでいるのだろう。
「暮らしを支える食糧生産」 ・わたしたちの暮らしを支えている食べ物の産地は、どのように広がっているのだろう。
「米づくりのさかんな地域」 ●京都と山形は離れているのに、 なぜ、わたしたちは庄内平野の特 A ランクのお米を食べることができるのだろう。
「水産業のさかんな地域」 ●魚はすぐに傷んでしまうのに、 なぜ日本では、いつでもどこでも新鮮な魚が食べられるのだろう。
「これからの食料生産とわたしたち」 ●なぜ、私たちの住む日本の食料生産には課題がたくさんあるのだろう。 ・これからの食料生産をどのように進めるとよいのだろう。
「暮らしを支える工業生産」 ・わたしたちの生活を支えている工業製品は、どこでつくられているのだろう。
「自動車をつくる工業」 ●世界にはたくさんの自動車メーカーがあるのに、 なぜ日本の自動車は世界中で売れているのだろう。 ●一人一人ほしい自動車は違い一台に部品が 3 万個も必要なのに、 自動車工場はなぜ早く正確に自動車をつくることができるのだろう。
「工業生産を支える運輸と貿易」 ・運輸や貿易は、日本の工業生産をどのように支えているのだろう。
「これからの工業生産とわたしたち」 ●世界には、工業が発達した国が多くあるのに、なぜ、日本の工業は世界に誇れるのだろう。
「情報産業とわたしたちの暮らし」 ●情報を手に入れる時間が多くかかるのに、 なぜ、その場で起きた事件や事故がすぐに私たちのもとへ伝わるのだろう。
「情報を生かす産業と情報を生かすわたしたち」 ●ほしいものを手に入れるには時間がかかるのに、 なぜ、コンビニエンスストアでは、いつでもほしいものが手に入り、 さまざまなサービスを受けることができるのだろう。
「自然災害を防ぐ」 ●日本は様々な自然災害が多く起こるのに、なぜ、災害に強い国と認められているのだろう。 ・たくさんの災害が起こる日本は、災害の被害を減らすことができるのだろうか。
「私たちの生活と森林」 ●日本では外国産の木材が多く使われているのに、 なぜ森林に約 4400 億円のお金が使われているのだろう。
「環境を守るわたしたち」 ●昔は、とても汚かった鴨川なのに、 なぜ、今もなおきれいさを保ち続けることができているのだろう。

【6年生社会科 各小单元における单元を貫く学習問題例 一覧】

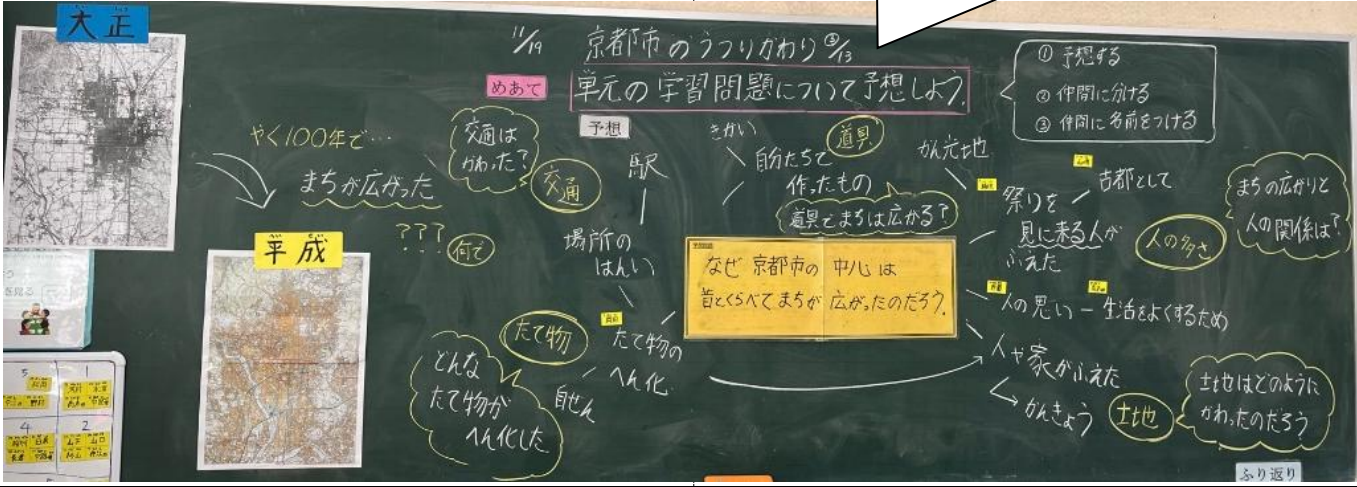
●：「なぜ」疑問型

数字：2 段階の問い

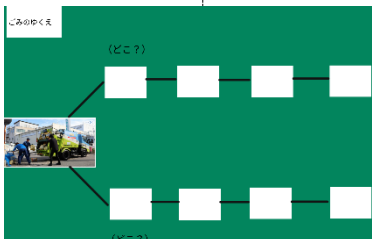
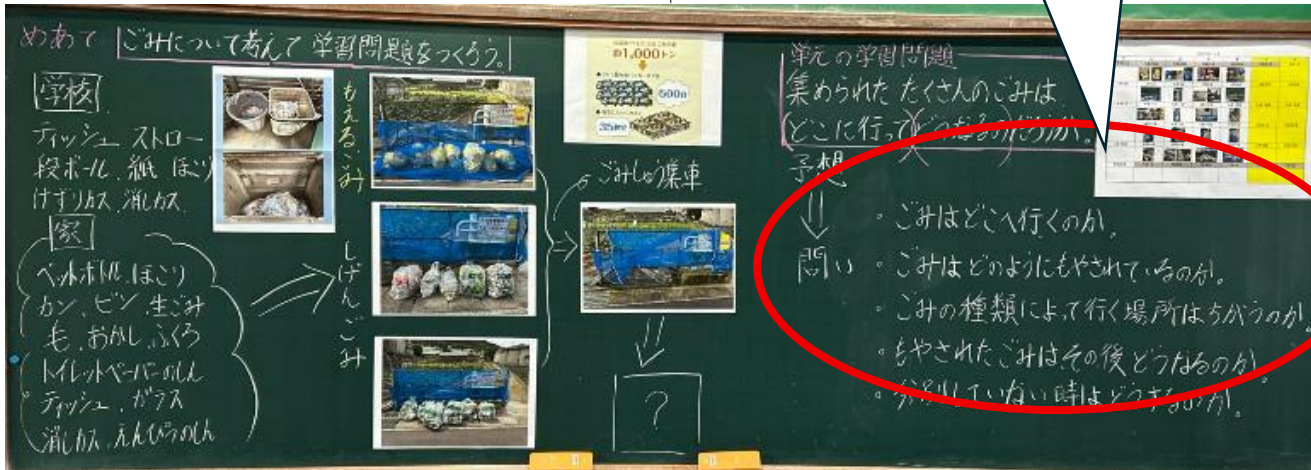
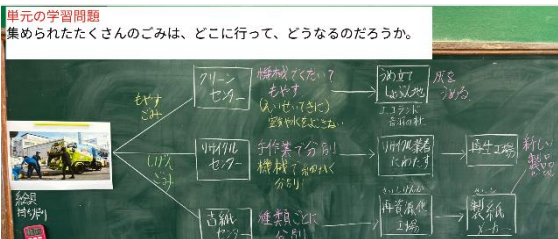
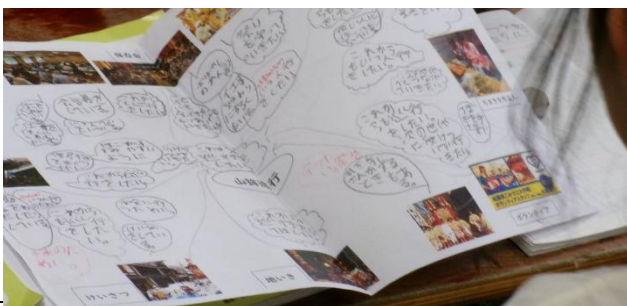
「わたしたちのくらしと日本国憲法」 ・日本国憲法の三原則はどのようなものなのだろう。
「国の政治の仕組みと選挙」 ・国会・内閣・裁判所の3つの働きはどのように関わっているのだろう。 ・国会（内閣・裁判所）ではどのようなことをしているのだろう。
「震災復興の願いを実現する政治」 ●あんなにも大きな被害を受けたのに、 なぜこんなにも早く宮城県は復旧することができたのだろう。
「縄文のむらから古墳のくにへ」 ●争いなく支え合っていた世の中から、なぜ支配者が現れる世の中に変わったのだろう。
「天皇中心の国づくり」 ●聖徳太子が亡くなったのに、なぜ天皇中心の国づくりを受け継いだのだろう。 ●天皇の力が弱かったのに、なぜ天皇中心の国づくりを進めることができたのだろう。 ●聖徳太子が亡くなったのに、なぜ天皇中心の世の中になったのだろう。
「貴族のくらし」 ・貴族はどんな暮らしをしていたのだろう。 ●なぜ奈良時代と平安時代ではくらしの様子が違うのだろう。
「武士の世の中へ」 ●貴族の力が強かったのに、なぜ武士の世の中が確立されたのだろう。
「今に伝わる室町文化」 ・室町文化はどんな文化だったのだろう。
「戦国の世から天下統一へ」 ●荒れた世の中だったのに、信長と秀吉はなぜ天下統一を進めることができたのだろう。 ●戦乱の世の中でなぜ信長と秀吉は天下統一を進めることができたのだろう。
「江戸幕府と政治の安定」 ・江戸幕府は一体どんなもので、どのようにして政治を安定させたのだろう。
「町人の文化と新しい学問」 ・江戸時代後半にできた文化や学問と、平安・室町時代の文化や学問を比べてみると どのようなことが見えてくるだろう。
「明治の国づくりを進めた人々」 ① 日本は、どのようにして世界的地位を高めていったのだろう。 ② 世界的地位が向上した日本の社会はどのような変化があったのだろう。
「世界に歩みだした日本」 ・誰がどのような努力で外国との差を縮めたのだろう。 その結果人々の暮らし、政治にはどのような変化があったのだろう。 ●世界から認められていなかったのに、なぜ日本は世界の五大国の1つにまでなれたのだろう。 ① 日本は、どのようにして世界的地位を高めていったのだろう。 ② 世界的地位が向上した日本の社会はどのような変化があったのだろう。
「新しい日本、平和な日本へ」 ① 戦後の日本は、どのようなことをして、復興していったのだろう。 ② これからの日本は、さらに国際社会へ貢献していくために、 どんな国づくりを進めていけばよいのだろう。
「日本とつながりの深い国々」 ・これから外国の人々とうまく付き合っていくためには、 どのような違いを知る必要があるのだろう。

◆◆◆「今」を見て「先」を見通す子どもの姿例◆◆◆

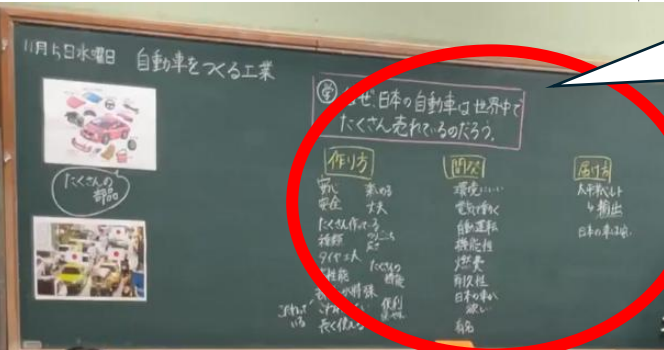
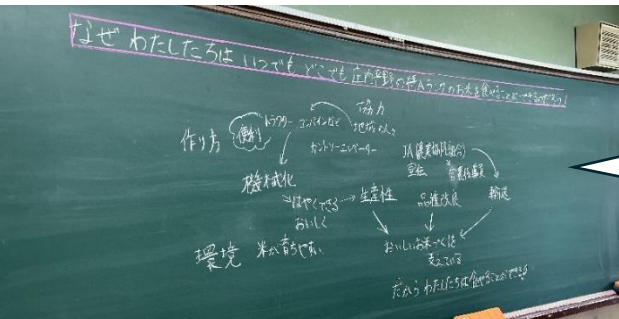
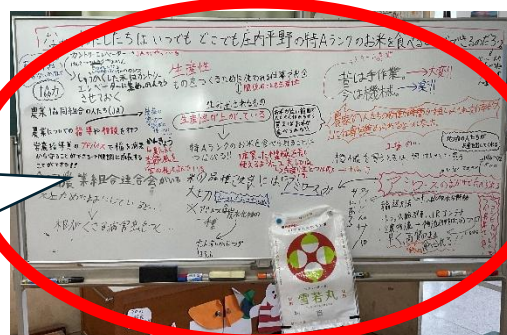
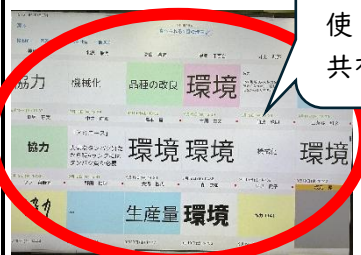
「今」を見て「先」を見通す子どもの姿 整理表 (実践編)：3年

	単元内：学びの中での姿＜未来思考＞ (今の自分) → (今が更新された自分)		単元内から社会へ： 社会へ向かう姿＜未来志向＞ (これからの自分)
	今	先	今→先
巻の矢	「工場につくられるもの」 柊野小 麻生教諭 ・知っていると思っていたことについて、実はしっかり知らなかったということがわかる。 生八つ橋と京ばあむの実物を観察。その柔らかさや繊細さ、丁寧な技術に触れる。そして、売り上げやお土産ランキングの資料から学習問題の設定へ。 	「工場につくられるもの」 柊野小 麻生教諭 ・当たり前でない状況がなぜ現実になのか、ということをもとに学習問題を設定する。 	実物を観察したことで、売り上げやランキングの資料に対する驚きも大きくなり、問題意識をもつことができた。
	「京都市の様子とくらしのうつりかわり」 洛央小 清水教諭 ・学習問題の答えを予想する。 ・予想をもとに何が分かっているか、何が分かればよいかをもとに問い化をする。 単元の学習問題「なぜ、京都市の中心は、昔と比べてまちが広がったのだろう。」に対する予想と問い化の場面。 	予想を分類しながら板書することで、次時からの調べる学習における見通しをもつことができた。	
式の矢	「火事をふせぐ」 山階南小 鯉本教諭 ・調べたい問いに対して、自ら資料を選び、調べを進める。 ・自分の学びが思うように進まない場合、必要に応じて他者と対話をしたり、指導者に資料を請求したりする。 すばやい消火活動や火災の防止、校内の防火設備など、調べたい問いに対して友達と対話をしながら調べる。 	「火事をふせぐ」 鳳徳小 田村教諭 ・よりよい問題解決に向けて、自分の調べ方を見直したり、足りない情報を獲得しようとしたりする。 調べる学習過程において、みんなが調べたことが随時更新される黒板の掲示を見に来て、参考にする。 	「火事をふせぐ」 山階南小 鯉本教諭 鳳徳小 田村教諭 ・社会に見られる課題に目を向け、「未来」にわたって持続可能な社会のあり方について、「自分」にできることや「みんな」にとってよりよい社会のあり方について考える。 火事をふせぐために、自分にできることを考える。 ・コンセントの周りを掃除する。 ・燃えやすいものを外に置かない。 - など、自分にできることを選択・判断する。
		「商店のはたらき」 大塚小 嶺教諭 ・調べて分かった事実をもとに意味を考えたり、多角的に考えたりする。 学習問題についてまとめ、それをもとに、スーパーマーケットのキャッチコピーを考える。 	調べてきたことをもとに、短い言葉で表し、その根拠もまとめるようにする。また、友達とキャッチコピーを交流することで、多様な考えに触れるようにする。

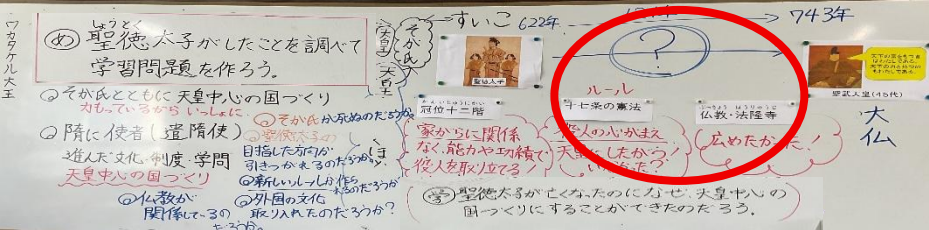
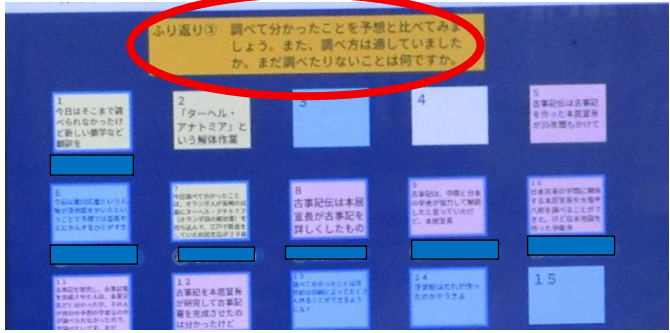
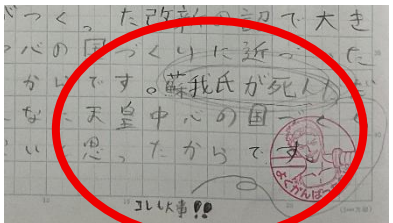
「今」を見て「先」を見通す子どもの姿 整理表 （実践編）：4年

単元内：学びの中での姿＜未来思考＞		単元内から社会へ： 社会へ向かう姿＜未来志向＞ (これからの自分)																					
(今の自分) → (今が更新された自分)																							
今	先	今→先																					
『くらしとごみ』大塚小 勝部教諭 ・生活経験等を通じて知っていると思っていた社会的事象について、知らなかったということが分かる。 学校及び家から出るごみの種類の比較・分類。それぞれ大きく分けると、「燃やすごみ」「資源ごみ」の2種類になる。その行方について生活経験及び本時で提示された資料をもとに考える。 	 知らなかったということが分かることで、追究・解決したいという意欲が高まる。																						
『くらしとごみ』大塚小 勝部教諭 ・学習問題の答えを予想する。 ・予想をもとに何が分かっているか、何が分かればよいかをもとに問い化をする。 単元を貫く学習問題の答えを個別に予想する。予想をもとにロイロノートを用いてグループで話し合い、何が分かっているか、何が分かればよいかをもとに問い化をする。 	『くらしとごみ』大塚小 勝部教諭 ・問い化した問いをもとに調べる内容を計画する。 問い化した問いをもとに、何をどのように調べれば、単元を貫く学習問題の答えにつながるかを個別に、もしくはグループで考える。 調べることで、学習の見通しがもて、学習計画を立てることにつながる。 	『くらしとごみ』大塚小 勝部教諭 『昔から続く京都府の祭り～祇園祭～』洛央小 山田教諭 ・調べている対象や今の社会の様子を見て、課題や良さ等の現状を捉える。 調べて分かったことを図を用いて整理することで、今の社会の様子が分かりやすくなる。その上で、課題や良さについて考える。 																					
『用水のけんせつ～琵琶湖疏水～』久世西小 兼山教諭 『古くから受けつがれてきた産業のさかんな宇治市』川岡東小 岩瀬教諭 『昔から続く京都府の祭り～祇園祭～』洛央小 山田教諭 ・調べたい問いに対して、自ら資料を選び、調べを進める。 ・自分の学びが思うように進まない場合、必要に応じて他者と対話したり、指導者に資料を請求したりする。 琵琶湖疏水を建設する目的や方法について、あるいは宇治市でのお茶づくりのさかんな理由や特徴について調べる学習を進める際に「ヒントコーナー」を活用したり、調べる内容が同じ（似ている）児童同士は複数で調べたり、さらには黒板を「共有ボード」として扱い、児童間で意見交換をしたりする。	『用水のけんせつ～琵琶湖疏水～』久世西小 兼山教諭 『古くから受けつがれてきた産業のさかんな宇治市』川岡東小 岩瀬教諭 『昔から続く京都府の祭り～祇園祭～』洛央小 山田教諭 ・よりよい問題解決に向けて、自分の調べ方を見直したり、足りない情報を獲得したりしようとする。 児童間はもとより、指導者とも対話をするすることで、学びの現在地を把握し、自己の学びの調整を図ることができる。	・社会に見られる課題に目を向け、「未来」にわたって持続可能な社会のあり方について、「自分」にできることや「みんな」にとってよりよい社会のあり方について考える。 調べて分かったことをもとに、持続可能な社会を目指して、くらしの中で、ごみを減らすために「自分」にできることを考える。 調べて分かったことをもとに、地域の伝統や文化の継承や保存に関わって「自分」にできることを考える。																					
問題解決に向かう自分の現状を客観視し、調べて得た情報や考えていること、学び方等を見つめる。 <table><thead><tr><th colspan="4">昔から続く京都府の祭り 調べ学習 ふりがえり表</th></tr><tr><th colspan="4">名前 ()</th></tr><tr><th>回数と日付</th><th>学んだ内容について (何が分かった?) (何を考えた?) (どんな力がついた?)</th><th>次回に向けて (何が知りたい?) (どう学びたい?) (次の時間はどこで?)</th><th></th></tr></thead><tbody><tr><td>1 月 日</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2 月 日</td><td></td><td></td><td></td></tr></tbody></table>	昔から続く京都府の祭り 調べ学習 ふりがえり表				名前 ()				回数と日付	学んだ内容について (何が分かった?) (何を考えた?) (どんな力がついた?)	次回に向けて (何が知りたい?) (どう学びたい?) (次の時間はどこで?)		1 月 日				2 月 日				調べて分かった事実をもとに意味を考えたり、多角的に考えたりする。 		
昔から続く京都府の祭り 調べ学習 ふりがえり表																							
名前 ()																							
回数と日付	学んだ内容について (何が分かった?) (何を考えた?) (どんな力がついた?)	次回に向けて (何が知りたい?) (どう学びたい?) (次の時間はどこで?)																					
1 月 日																							
2 月 日																							

「今」を見て「先」を見通す子どもの姿 整理表 （実践編）：5 年

	単元内：学びの中での姿＜未来思考＞ (今の自分) → (今が更新された自分)		単元内から社会へ： 社会へ向かう姿＜未来志向＞ (これからの自分)
	今	先	今→先
売 の 矢	『自動車をつくる工業』大塚小 山崎教諭 ・知っていると思っていた社会的事象について、知らなかったということがわかる。	『自動車をつくる工業』大塚小 山崎教諭 ・当たり前でない状況がなぜ現実可能なのか、ということをもとに学習問題を設定する。	
	世界には、たくさんの自動車メーカーや自動車があることを知り、その中でも、日本の自動車メーカーの販売台数が上位を占めていることを資料から読み取り、前資料と比較することで、問いを持つことができた。  資料を比較することで、知っていると思っていた社会事象について、知らなかったことが明確となる。		
式 の 矢	『自動車をつくる工業』大塚小 山崎教諭 ・学習問題の答えを予想する。問い化する。	『自動車をつくる工業』大塚小 山崎教諭 ・問い化した問いをもとに調べる内容を計画する。	
	予想をもとに、問い化を図り、調べる計画を立てた。以下、問い化した内容。①どのように作っているのだろう。②どのように開発しているのだろう。③どのように海外に届いているのだろう。  教師との対話、子どもたち同士での対話によって、予想から問い化を図った。		
参 の 矢	『自動車をつくる工業』美豆小 大本教諭 ・様々なツールから調べる資料を選んで調べる。	『自動車をつくる工業』美豆小 大本教諭 ・よりよい問題解決に向けて、自分の調べ方を見直したり、足りない情報を獲得しようとしたりする。	
	問いについて子どもたちが資料を選択して調べるようにすすめた。それぞれが調べている内容をロイロノートや黒板も使って交流し、考えを広げられるように中間交流を取り入れた。また、調べていく中で見出した問い、現地生産や新しい自動車開発の意味・意義等について調べ深めたことを基に全体で考えるようにした。		
	『米づくりのさかんな地域』鷹峯小 坂元教諭 ・調べたい問いに対して、自ら資料を選び、調べをすすめている。	『米づくりのさかんな地域』鷹峯小 坂元教諭 ・調べて分かった事実をもとに意味を考えたり、多角的に考えたりする。	『米づくりのさかんな地域』鷹峯小 坂元教諭 ・調べた事実をもとに「今」ある課題の意味を考え、その解決に向け、よりよい「先」のための方法を積極的に話し合う。
	「なぜわたしたちは庄内平野の特 A ランクのお米を食べることができるのだろう。」という問題意識をもちながら学習を進めることができた。また、子どもたちが自ら資料を選び、それらの資料を使える工夫として、調べたことを共通のワークシートに書きこんだり、共有のボードにまとめたりした。その結果、子どもたち同士で学習問題の解決に必要な事実を話し合ったり、足りていない情報を伝え合ったりすることで自己調整をしながら調べを進めていく姿が見られた。  子どもたちが調べてきたことを教師がコーディネートしながら、問題の解決をまとめる。	問題解決に向かう自分の現状を確かめること。調べて得た情報や考えていることを可視化する。  ロイロノートを使って、意見の共有を図る。	→・農家の抱える問題について知り、考える。 ・AI を使ったトラクターの自動運転。 ・SNS などによる米づくりの魅力発信。 【取組の提案】を行う。 →・これからの農業において必要なことを話し合う。 

「今」を見て「先」を見通す子どもの姿 整理表 (実践編)：6 年

	単元内：学びの中での姿<未来思考> (今の自分) → (今が更新された自分)		単元内から社会へ： 社会へ向かう姿<未来志向> (これからの自分)
	今	先	今→先
巻の矢	『天皇中心の国づくり』久世西小 山下教諭 ・歴史の変化を捉え、その間の出来事がわからないということに気づく。 聖徳太子が活躍していた時代を「17 条の憲法」「豪族の勢力図」等から調べ、その後の聖武天皇が活躍した時代と比べ、変化していることについて気づく。	『天皇中心の国づくり』久世西小 山下教諭 ・歴史の変化の理由についてわからないことを問題として捉える。 聖徳太子が活躍していた時代を「17 条の憲法」「豪族の勢力図」等から調べ、その後の聖武天皇が活躍した時代と比べ、変化していることについて気づく。	
	 歴史の変化を捉えることで、その間の出来事に疑問をもち、追求する意欲が高まる。		
式の矢	『江戸の文化と新しい学問』京北小中(現春日野小) 佐野教諭 ・学習問題の答えを予想する。 これまで、学習してきた他の時代の文化と比較しながら、どのような文化や学問の様子について、江戸時代の背景も加味しながら予想していく。	『江戸の文化と新しい学問』京北小中(現春日野小) 佐野教諭 ・予想をもとに調べながら、調べ方について調整をはかりながら取り組む。 調べ活動で、自身の調べが今どれくらい進んでいるのかを振り返る時間を作ることで、次の調べについて見通しがたち充実した調べにつながる。	『世界に歩み出した日本』下鴨小 内藤教諭 ・単元を通して学んだことを元に、今の政治とのつながりを考える。 この時代についての評価をしていく中で、今の時代とのつながりを捉え、歴史を学ぶ意義について考えている。
	 ロイロノートを活用し、それぞれの調べが今どういう状況かを共有している。 		
参の矢	『世界に歩み出した日本』下鴨小 内藤教諭 ・予想した視点から、計画に従って資料を選択して調べたり、さらに必要な資料を請求したりしている。 世界の 5 大国の一つになった理由を当時起った争い、産業の発達、当時の人々の活躍の 3 つの視点に整理しながら調べを進めた。その後当時の日本の取組を評価することで、当時の社会的な背景を踏まえながら、それぞれの取組の価値を多角的に再構築することにつながった。	『世界に歩み出した日本』下鴨小 内藤教諭 ・当時の政府の取組について多角的に捉えようとしている。	『世界に歩み出した日本』下鴨小 内藤教諭 ・単元を通して学んだことを元に、今の政治とのつながりを考える。 この時代についての評価をしていく中で、今の時代とのつながりを捉え、歴史を学ぶ意義について考えている。
	『戦国の世から天下統一へ』洛央小 藤田教諭 ・調べたい問いに対して、自ら資料を選び、調べを進める。 調べる計画に即して、教科書を中心に資料を自ら選び、学習問題の答えを探る。児童の調べに対して、教員が問いかけたり、他の児童と交流したりしながら、より理解を深める。	『戦国の世から天下統一へ』洛央小 藤田教諭 ・調べてきたことをもとに、さらなる疑問について話し合い、多角的に考える。 戦乱の世の中を治めた二人の武将について調べたことをもとに、より天下統一を進めたのはどちらかという視点で議論することで、それぞれの 2 人の行動について多角的に考えることにつながった。	『天皇中心の国づくり』久世西小 山下教諭 ・他者の意見の良さを受け入れながら、よりよい答えについて考える。 ・答えについて考えたのち、新たな課題について考えをもつ。 自分なりに考えた理由を交流したり、振り返ったりすることで、初めの考えから視野が広がる良さに気づいていく。また、学習したことを振り返ることで、その時代の問題点に気づき、新たな課題を自分の中で見つけていく。
	 二人の武将が天下統一を目指す過程で行ったことについて調べていく。調べたことについて問いかけながらベン図で整理する。  調べたことを元にしながら、三つの視点をもとに二人の武将が行ったことについて様々な角度から意義を考え、Y チャートに整理しながら可視化する。		
	 自分なりに考えた理由を交流したり、振り返ったりすることで、初めの考えから視野が広がる良さに気づいていく。また、学習したことを振り返ることで、その時代の問題点に気づき、新たな課題を自分の中で見つけていく。		

◆◆◆令和7年度 夏季研修(1日社研)◆◆◆

□日 時 令和7年8月1日(金) 9時30分～17時 (受付9時～)

※担当学年部より受付

※受付にて、未納分の研究会費を徴収

※次第の準備については、事務局が担当

□場 所 京都市立洛央小学校

※会場準備は、会場校の教職員及び役員が担当

□内 容 〈午前の部〉9時30分～12時15分

(1) 挨拶 令和7年度会長 春日野小学校 当麻 章英 校長

京都市総合教育センター指導室 指導主事

松村 一也 先生

(2) 交流 「令和8年度『全小社研京都大会』に向けて心を一つに！」

(3) 研究部より 「#子どもが調べ考える社会科学習」質疑応答

令和7年度研究部長 御所東小学校 加藤 俊介 教諭

(4) 最新情報 「全国主事会を受けて」

京都市総合教育センター 指導主事 松村 一也 先生

※全国主事会での話をわかりやすくまとめてご提示いただき、次期学習指導要領の改訂に向けた最新の情報を共有することができました。多様な子どもたちを包摂した学びをどのように設計するか。京都社研が目指すべき方向性について考える機会をいただきました。ありがとうございました。



(5) 講話 「大会を経験して得られたもの」

極覧会 幹事 海老瀬 隆博 先生

※今までの京都社研の諸先輩方が大切にされてきた「子どものため」の授業。来年度の全国大会に向け、何のためにやるのか本質を改めて見つめる機会となりました。「個」と「集団」の学びを意識した授業づくりについて今後も邁進していきたいと思ひます。ありがとうございました。



〈午後の部〉13時30分～17時00分(各学年部会終了後、随時解散)

(6) 実践交流 近小社研「滋賀大会」実践発表内容検討 6年部会

春日野小学校 佐野 陽一 教諭

(7) 実践交流 全小社研「群馬大会」紙面発表原稿検討 5年部会

待鳳小学校 成宮 未希子 教諭

(8) 組織作り 「全小社研『京都大会』実行委員会」の立ち上げ

(9) 各学年部会 研究主題を受けて



◆◆◆ 令和7年度 研究集会 ◆◆◆

社会科学学習指導案

指導者 京都市立春日野小学校

佐野 陽一

- 1 日 時 令和8年1月23日（金） 第5校時（14：00～14：45）
- 2 学 級 第6学年1組（25名）
- 3 場 所 6年1組教室
- 4 単元名 「日本の歴史」小単元『新しい日本、平和な日本へ』

5 小単元の目標

我が国の歴史上の主な事象について、世の中の様子などに着目して、地図や年表などの資料で調べ、我が国の政治や国民生活が大きく変わったことや、我が国が国際社会において果たしてきた役割を考え、表現することを通して、日本国憲法の制定やオリンピック・パラリンピックの開催などを手掛かりに、戦後我が国は民主的な国家として出発し、国民生活が向上し、国際社会の中で重要な役割を果たしてきたことを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決し、学習してきたことを基に過去の出来事と今日の自分たちの生活や社会との関連や、歴史から学んだことをどのように生かしていくかなど国家及び社会の発展を考えようとする態度を養う。

6 単元の評価規準

【知識・技能】

- ①世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などについて、遺跡や文化財、地図や年表などの資料で調べ、日本国憲法の制定、オリンピック・パラリンピックの開催などを理解している。
- ②調べたことを年表や文などにまとめ、戦後我が国は民主的な国家として出発し、国民生活が向上し、国際社会の中で重要な役割を果たしてきたことを理解している。

.....

【思考・判断・表現】

- ①短期間に大きく変化していることに疑問をもち、その要因を推理することを通して問いを見出している。
- ②日本国憲法の制定、オリンピック・パラリンピックの開催などを関連付けたり総合したりして、我が国の政治や国民生活が大きく変わったことや、我が国が国際社会において果たしてきた役割を考えたり、学習してきたことを基に、歴史を学ぶ意味について考えたりして、表現している。

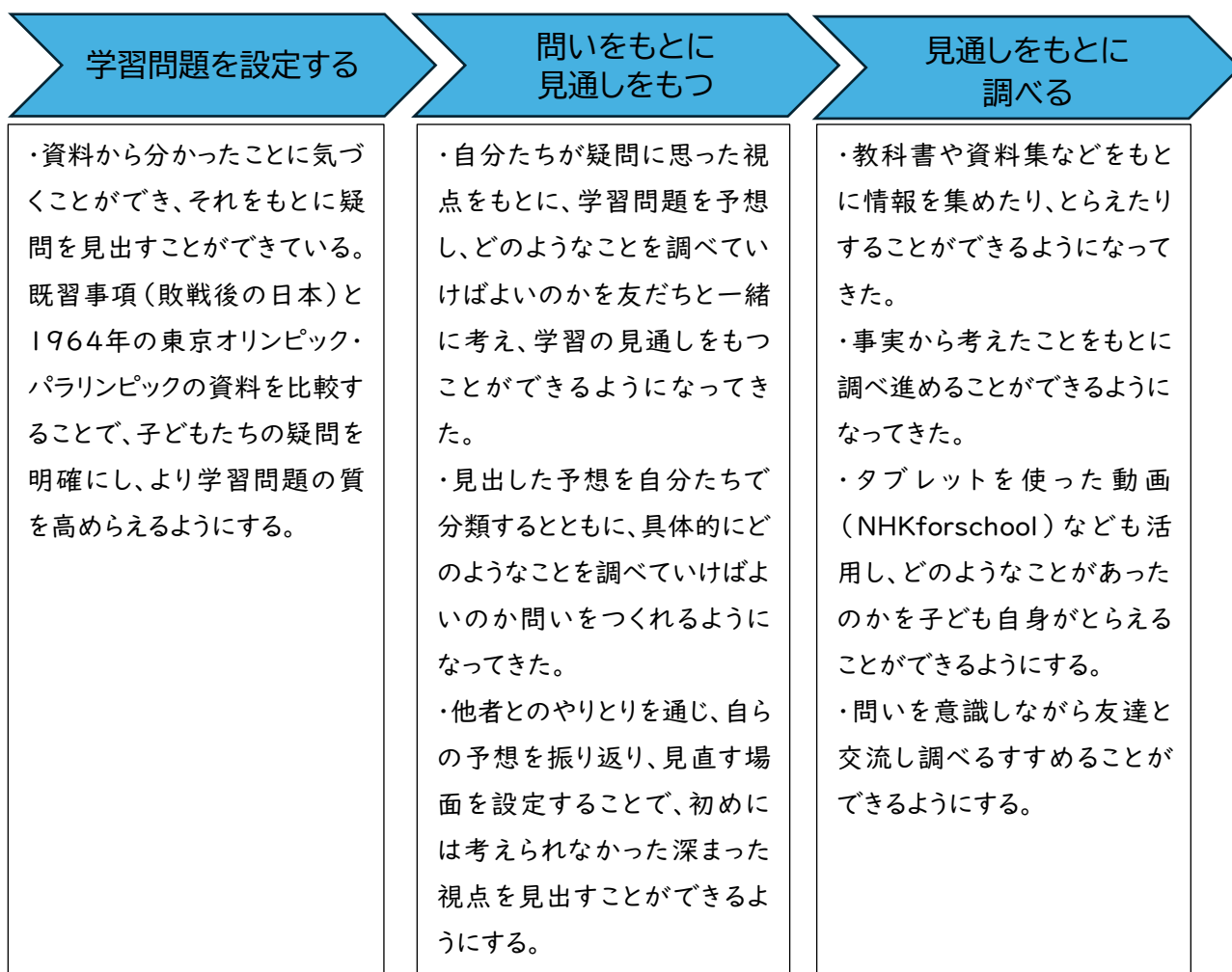
.....

【主体的に学習に取り組む態度】

- ①日本国憲法の制定、オリンピック・パラリンピックの開催などについて、予想や学習計画を立てたり、見直したりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。
- ②学習してきたことを基に過去の出来事と今日の自分たちの生活や社会との関連や、歴史から学んだことをどのように生かしていくかなど国家及び社会の発展を考えようとしている。

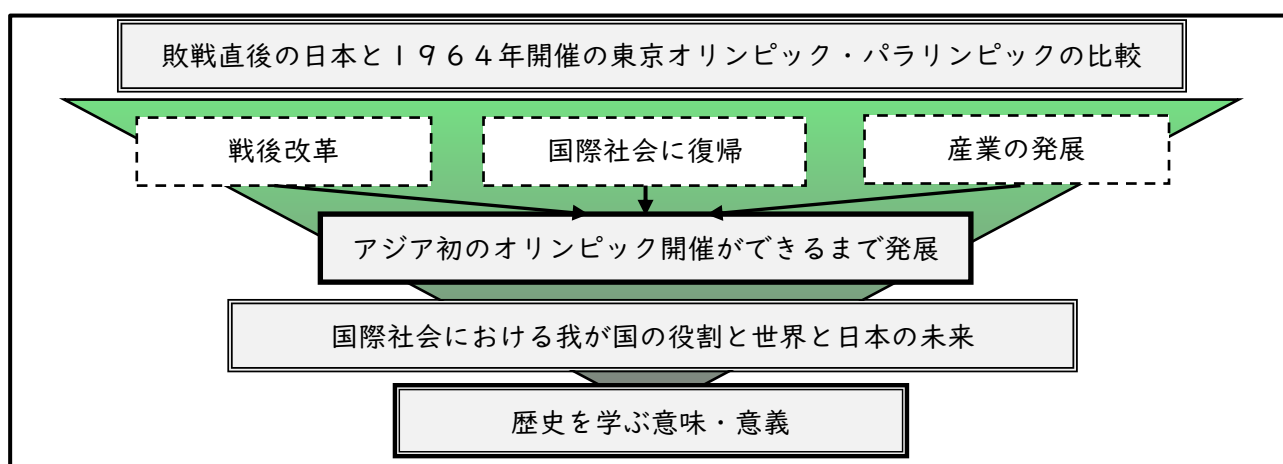
7 児童及び教材について

(1) 児童の実態とめざす姿



(2) 教材について

本教材を整理すると、次のように捉えることができる。

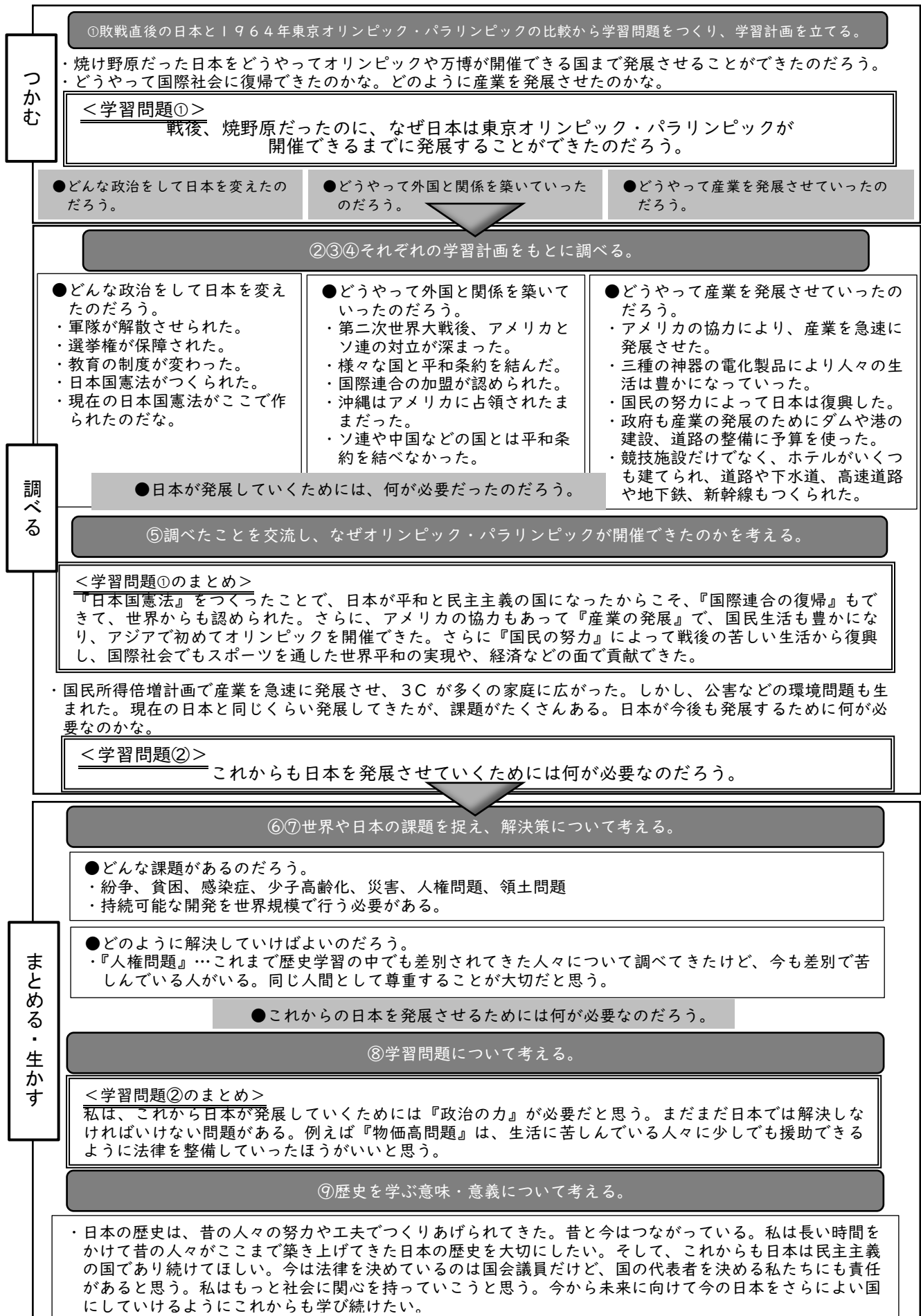


第二次世界大戦後、日本はアメリカを中心とする連合国軍総司令部（GHQ）の占領下に置かれることになり、GHQ は、日本の非軍事化と民主化を主な目的とし、さまざまな改革を進めた。これにより、国民主権、平和主義、基本的人権の尊重を三原則とする日本国憲法が1947年5月3日に施行され、日本の民主化を象徴するものとなった。終戦直後の日本は、都市の大部分が廃墟となり、

深刻な食料不足とインフレーションに見舞われ、人々は厳しい生活を強いられた。しかし、こうした困難の中で、戦後復興のための経済政策が実施され、特に朝鮮戦争による特需が日本の経済回復を大きく後押しした。朝鮮戦争の特需をきっかけに、日本は目覚ましい経済成長を遂げ、西側諸国の一員として国際社会に復帰した。また、米国との間では、日米安保体制を中核とする日米同盟を構築し、それを通じてアジア太平洋地域の平和と安定に寄与してきた。また、自らが国際社会に積極的に貢献していくために、国際連合に加盟した。このような戦後改革や産業の発展、外国との関わりによって東京オリンピックの開催や新幹線の開通など、国のインフラ整備も進み、経済大国としての地位を確立していくことになる。

この小単元で、歴史単元の終末を迎えることになる。児童は「我が国の政治の働き」の学習を通して、我が国の民主政治は日本国憲法の基本的な考え方に基づいていることを理解してきた。歴史学習の導入では、今の日本がどのようにして発展してきたか、問題意識をもって歴史学習を進めてきた。そのような学習の中で、小單元ごとに歴史を見つめ、徐々に現在の日本に近づいていることを感じてきた。本小單元を通して、現在の日本に発展してきた過程を捉えさせ、我々の今日の生活は当たり前のものでなく、戦争の厳しい生活から復興を成し遂げた頃の人々の努力があったことや外国からの支援などを考え、多くの人が平和を願いながら苦労や努力を続けたことが今の私たちの生活につながっていることを実感させたい。また、戦後に外国からの大きな支援によって日本が発展したことからも、次時の単元である「世界の中の日本」でも、日本が国際協力をしていることの意味にもつながるようにしていきたい。

8 単元構想図（全9時間）



9 単元計画（9時間）

学習 過程	<u>○主な学習活動</u> ・児童の反応	<u>【評価規準】</u> (評価方法)
つ か お	① <u>○敗戦直後と1964年の東京オリンピック・パラリンピックの頃のまちの様子分かる資料の比較から学習問題をつくり、予想し、問い化して学習計画を立てる。</u> ・戦争が終わっても、家を焼かれて住むところがなかったり、くらしに必要なものがなかったりして、大変な生活だった。 ・戦後、栄養失調でなくなったり、戦争で孤児になった子どもたちがいたりした。 ・戦争が終わっても大変さは変わっていないな。 ・東京オリンピック・パラリンピックの頃にはかなり復興している。 ・焼け野原だったのに、1964年は発展している。どのように変えていったのかな。 <学習問題①> 戦後、焼野原だったのに、なぜ日本は東京オリンピック・パラリンピックが開催できるまでに発展することができたのだろう。 ・今の憲法とは違うから、まず憲法を変えたと思うな。 ・戦争後の日本の社会や人々の様子から、日本国憲法の3原則を制定したのかな。 ・民主主義を中心にした政治や政策を考えていったのかな。 ・国際社会からも認められないとオリンピックはできないはずだ。 ・今まで日本は条約を結んできたことがあるから、また外国と条約を結んだと思う。日本を復興させるため、外国に協力を求めたのかな。 ・産業も発達させないと開催はできないと思う。 ・産業発展してきた日本だからこそ、さらに発展させたと思う。国民も努力したと思う。 ●どんな政治をして日本を変えたのだろう。 ●どうやって外国との関係を築いていったのだろう。 ●どうやって産業を発展させていったのだろう。	【思①】 短期間に大きな変化が起きていることやその変化をもたらした要因を考えることを通して、問いを見出している。(ノート) 【態①】 学習問題に対して、予想し計画を立てている。 (発言、ノート)
調 べ る ①	② ③ ④ <u>○それぞれの計画をもとに調べる。</u> 【政治・政策】 どんな改革をして日本を変えたのだろう。 ・民主主義の国家として再出発のため、戦後改革が行われた。 ・義務教育となった。 ・選挙制度が変わり20歳以上の男女に平等に選挙権が保障された。 ・日本国憲法制定が制定され、平和と民主主義が日本の進む方向として定められた。 様々な戦後改革は民主主義国家としての再出発ができ、日本国憲法の三大原則には国民主権・基本的人権の尊重・平和主義を制定し平和で民主的な国づくりが目指された。 →国民は新しい政治・政策に期待や安心を感じたと思う。今の日本国憲法がこの時にできたんだな。	【知①】 戦争後の日本の政治・政策や民主的な国家として再出発したことについて調べている。 (ノート)

まとめ ①	【外国との関係】 どうやって外国との関係を築いていったのだろう。 ・第二次世界大戦後、国際社会の平和を守るために、国際連合が作られた。国際連合へ加盟した。 ・1951年に48か国と平和条約を締結し、翌年に主権を回復した。 ・日米安全保障条約も締結した。 ・アメリカとソ連の対立により、世界が2つの陣営に分かれて対立し始めた。 ・朝鮮戦争も起こった。 ・アメリカの協力によって産業が急速に発展した。 ・沖縄はアメリカに占領されたままだった。 ・ソ連や中国などの国とは平和条約を結べなかった。 日本は、サンフランシスコ平和条約を結んで主権を回復し、国際連合への加盟も認められたことにより、国際社会の仲間入りを果たした。 →国民は国として独立し、国際社会の仲間入りができたことで成長を感じていると思う。	【知①】 国際社会復帰の過程について調べている。 (ノート)
	【産業の発展】 どうやって産業を発展させていったのだろう。 ・アメリカの協力や国民の努力によって産業が復興し、生活が向上した。 ・三種の神器が広まり、人々の生活は豊かになっていった。 ・「金の卵」といわれた若い人たちや国民の努力によって日本の復興は支えられた。 ・政府は産業の発展のために、ダムや港の建設、道路の整備に予算を使った。 ・道路、下水道整備・高速道路、地下鉄の建設、東京と大阪の間に東海道新幹線が開通した。 国は産業の発展を目指し、外国から多くの人を迎えるために施設や交通機関の整備を行ったことで国民の生活は向上した。 →生活がどんどん豊かになってきている。当時の国民の努力があったからこそ国力が上がったのだと思う。	【知①】 産業の発展となったきっかけについて調べている。 (ノート)
	<u>〇ペア活動など交流をして日本がどのようにして発展してきたかについてまとめる。</u> ・戦後改革や日本国憲法施行によって民主主義国家として再出発することができた。 ・外国と平和条約を結んで、主権を回復し、国際連合に加盟した。 ・アメリカの協力により産業が急激に発展した。 ・国民生活も豊かになり、施設や道路などの環境が整った。 ●日本が発展していくためには、何が必要だったのだろう。	

調 べ る ②	⑤ <u>○調べたことを交流し、なぜオリンピック・パラリンピックが開催できるまで発展できたのかを考える。</u> <学習問題①のまとめ> 『日本国憲法』をつくったことで、日本が平和と民主主義の国になったからこそ、『国際連合の復帰』もできて、世界からも認められた。さらに、アメリカの協力もあって『産業の発展』で、国民生活も豊かになり、アジアで初めてオリンピックを開催できた。さらに『国民の努力』によって戦後の苦しい生活から復興し、国際社会でもスポーツを通じた世界平和の実現や、経済などの面で貢献できた。 ・オリンピック後、国民所得倍増計画を発表し、産業を急速に発展させる政策を進めた。 ・1968年には国民総生産額が世界で第2位になった。 ・三種の神器に変わり、3Cが多くの家庭に広まった。 ・高度経済成長のかげで、公害などの環境問題が起こった。 ・現在の日本と同じくらい発展してきたが、課題がたくさんある。日本が今後も発展するために何が必要なのかな。 ●世界や復興した後の日本は、どのように変わっていったのだろう。また、世界や日本の現状や課題は何だろう。 <学習問題②> これからも日本を発展させていくためには何が必要なのだろう。 ⑥ ⑦ <u>○復興後の変化から、日本の現状と課題について調べ、これからの日本はどのような国を目指していけばよいのか考える。</u> ・バブル経済崩壊によって長く続く不景気になった。 ・急速な少子高齢化。・貧困や感染症 ・あいつぐ自然災害。防災やエネルギー、環境問題。 ・防災・少子化・高齢化・お年寄りや障がいのある人たちの人権 ・子どもや女性の人権・アイヌ民族、在日韓国・朝鮮人、外国人への偏見や差別の問題・領土をめぐる問題・沖縄のアメリカ軍基地 ・北朝鮮の拉致問題、核開発・地球温暖化 ・世界や日本が変化する中で、解決しなければならない課題が多く出てきた。地域や社会の課題にわたしたち一人ひとりができることから積極的に関わっていくことが大切だ。	【思②】 調べたことについて気づいたことや考えたことを話し合っている。 (発言・ノート) 【知①】 産業の発展のかげで環境問題が起きたことについて理解している。 (ノート) 【知②】 自分で調べたい具体的な課題を選び、調べたことや考えたことの共通点から日本の役割について理解している。(ノート)

まとめ ②	⑧ <u>○学習問題について話し合う。</u> ・アメリカ側とソ連側に分かれた世界的な対立は終わった。 ・世界各地で地域紛争が発生しているから、国際連合を中心に解決への努力が求められている。 ・今の日本は政治でいいものにしようとしても課題は多いと思う。 ・スポーツや文化的な交流を通してお互いの国の理解が必要だと思う。 ・『遣唐使』や『朝鮮通信使』でも学んだように、文化を交流することで理解を深めていた。だから、お互いの文化を交流してお互いのことを理解する必要があると思う。例えば『和食』を紹介することもその一つかもしれない。 ・日本国憲法で基本的人権の尊重を大切にしているからこそ、すべての人に同じように接していくことを世界にも訴えていくことができるような国を目指していくべきだと思う。 ・これからも世界と親交を深めて仲よくする必要がある。 ・国と国同士が助け合ったり補い合ったりして世界が平和になってほしい。 <学習問題②のまとめ> 私は、これから日本が発展していくためには『政治の力』が必要だと思う。まだまだ日本では解決しなければいけない問題がある。例えば『物価高問題』は、生活に苦しんでいる人々に少しでも援助できるように法律を整備していったほうがいいと思う。その話し合いをするのは国会議員だから、国の代表者を決める私たちにも責任があると思う。私はもっと社会に関心を持っていこうと思う。	【思②】 日本と近隣の国々との関係について、現在やこれからの社会でどうしていくことがよいのかについて考え、表現している。 (発言・ノート)
いかす	⑨ <u>○これまで学習してきた歴史を振り返り、歴史を学ぶ意味について考える。</u> ・昔の建物や文化遺産も、その時代の人々の知恵と努力によりつくられ、大切に守られてきたものであることが分かった。日本の歴史は、昔の人々がたくさんの努力をしたり、考えたりしてつくり上げてきたもので、今の日本は、その積み重ねの結果としてあるのだと思う。 ・私は長い時間をかけて昔の人々がここまで築き上げてきた日本の歴史を大切にしたい。昔の人々が知恵を出し合い、努力してつくり上げてきた今の日本をさらによりよい国にしていきたい。 ・長い時間をかけて昔の人々が築き上げてきた日本の歴史を受け継ぎ、自分たちの力で社会をよりよくしていきたい。その手掛かりが歴史の中にあるから、探していきたい。	【思②】 学習したことをもとに、歴史を学ぶ意味を考え、表現している。 (発言・ノート)

10 本時の学習（本時4／9）

（1）本時の目標

日本国憲法の制定、オリンピック・パラリンピックの開催などを通して、戦後の日本の政治や国民生活が大きく変わったことを調べることができるようにする。

（2）本時の展開

学習活動 ○主な発問等 ・児童の反応			□支援 ◇留意点 ■資料【評価】
1 単元の学習問題と今日の調べる問いを確認する。 ・どんな政治をして日本を変えたのだろう。 ・どうやって外国と関係を築いていったのだろう。 ・どうやって産業を発展させていったのだろう。			□小単元の学習の足跡を側面掲示に残すことで、これまでの学習をふり返りやすくする。 ■1964年と2020年のオリンピックの資料など
学習問題 戦後、焼野原だったのに、なぜ日本は東京オリンピック・パラリンピックが開催できるまでに発展することができたのだろう。			
2 計画をもとに調べ、まとめる。			◇友達と交流するときは、前時まで調べたこと・考えたことなどのまとめたノートを見返しなが、交流することができるようにする。 □語り部の方に当時の日本の様子についてインタビューすることで、戦後日本が発展してきたことがより身近に感じられるようにする。 ◇3つの調べる視点をホワイトボードの模造紙にまとめることで、わかったことや考えたことを比較・関連してまとめることでできやすくする。 □調べたことをまとめるときは、今日同じ視点で調べていた児童同士で交流するようにする。 【知①】 日本が戦後改革や国際的な復帰、産業の発展を通して大きく国力が向上してきたことを調べている。（ノート）
●どんな政治をして日本を変えたのだろう。 ・軍隊が解散させられた。 ・選挙権が保障された。 ・教育の制度が変わった。 ・日本国憲法が作られた。 ・現在の日本国憲法がここで作られたのだな。	●どうやって外国と関係を築いていったのだろう。 ・第二次世界大戦後、アメリカとソ連の対立が深まった。 ・様々な国と平和条約を結んだ。 ・国際連合の加盟が認められた。 ・沖縄はアメリカに占領されたままだった。	●どうやって産業を発展させていったのだろう。 ・アメリカの協力により、産業を急速に発展させた。 ・三種の神器の電化製品により人々の生活は豊かになっていった。 ・国民の努力によって日本は復興した。 ・政府も産業の発展のためにダムや港の建設、道路の整備に予算を使った。 ・ホテルがいくつも建てられ、道路や下水道、高速道路や地下鉄、新幹線もつくられた。	
【政治・政策】 ・日本国憲法ができたことで、平和になった。民主的な国になった。 【外国との関わり】 ・アメリカに協力してもらって日本は発展した。 ・国際連合の加盟が認められたことで、また世界の仲間入りができた。 【産業の発展】 ・国民の頑張りで産業が発展した。国民の生活は豊かになった。			
3 単元の学習問題について考える。 ○キーワードにしてまとめよう。 ・戦争中は戦争に関する政策が多かったけど、戦後は改革をして憲法が変わった。キーワードは「日			□自分の考えを表出することに困っている児童には、「当時の日本には発展していくために何が必要だったのか」に着目してキーワードのようにまとめ、

本国憲法」にしよう。

- ・戦争をしていたけど、戦争をしない国づくりを進めた。キーワードは「平和な日本」かな。
- ・前は国際連盟を脱退して、衰退し国際的に孤立していったけど、主権を回復して国際連合に加盟できた。キーワードは「世界の仲間入り」にしよう。
- ・これまでは国民生活は不便で苦しかったが、産業を急速に発展させ、国民生活を豊かにした。キーワードは「国民のがんばり」にしよう。

4 本時の学習を通して、ふりかえる。

○調べた結果、予想と比べて自分の考えは広がりましたか。

- ・戦争中の日本と戦争後の日本では、こんなに激変している。わずか20年でここまで変わったのは、日本の政策や外国との関わり方を変えてきたからだ。
- ・語り部さんの話で当時の日本のことが身近に感じることができた。
- ・国民のすごい努力でオリンピックが開かれたんだと思う。
- ・次の時間に友達の意見を聞いて考えを広げていきたい。

考えをもつことができるようにする。

◇オリンピック・パラリンピックの役割を想起しながら、考えられるようにする

◇「戦争中」と「戦争後」を比べながら、考えられるような言葉かけをする。

◇復興や発展にむけて、日本が進めてきたよい変化に目を向けるようにする。

(3) 板書計画

新しい日本、平和な日本へ

戦後、焼野原だったのに、なぜ日本は東京オリンピック・パラリンピックが開催できるまでに発展することができたのだろう。

戦争後の日本

約20年

1964年の日本

【戦争中】

- ・戦争に関する政策
- ・国際連盟を脱退
- ・国民生活は不便

【政治・政策】

児童がまとめた模造紙

- ・日本国憲法
- ・選挙制度
- ・義務教育
- ・民主的な国家

【外国との関係】

児童がまとめた模造紙

- ・国際連合加盟
- ・平和条約
- ・アメリカの協力

【産業の発展】

児童がまとめた模造紙

- ・下水道整備
- ・高速道路
- ・新幹線の開通
- ・所得倍増計画

【戦後】

- ・平和で民主的な国家
- ・主権を回復して国際連合に加盟
- ・産業を急速に発展させ、国民生活は豊か

(4) 本時の評価

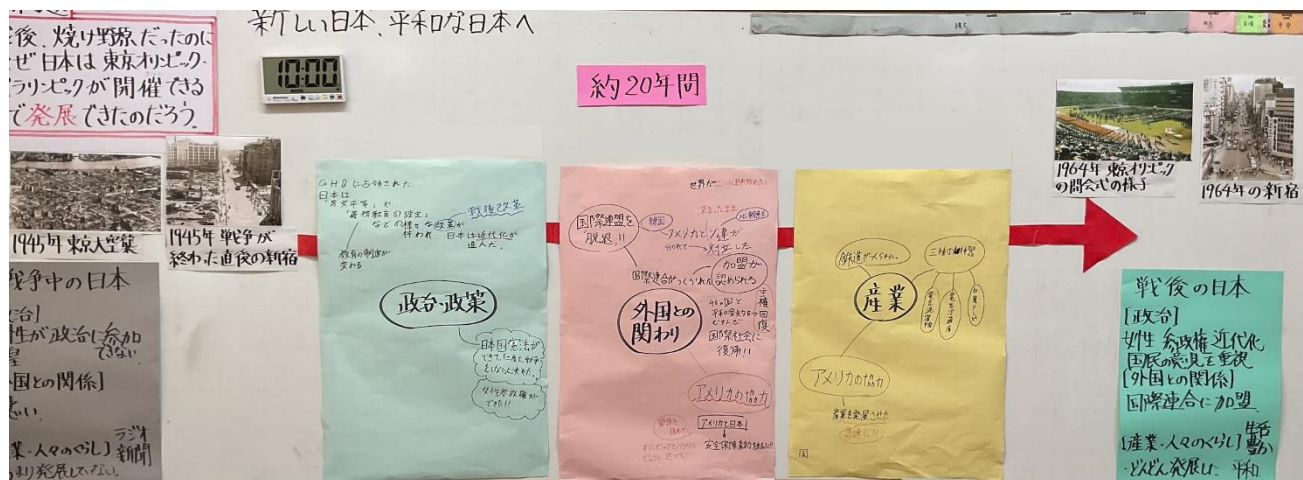
観点	評価規準
【知・技—①】	日本が戦後改革や国際的な復帰、産業の発展を通して大きく国力が向上してきたことを調べている。
おおむね満足できる子どもの具体的な姿	
・ 平和と民主主義の国をつくる政治政策を進め、日本国憲法第9条には戦争をしない法律が制定された。 ・ 外国との関係を取り戻そうとし、戦後の苦しい生活から復興できたとわかった。 ・ 産業を急速に発展させ、国民生活を豊かにした。	

(5) 本時のふり返りの視点

ふり返りの視点	指導者の働きかけ
③ 考えの変容をふり返る	調べた結果、予想と比べて自分の考えは広がりましたか。

本時では、③について考え、交流したことを踏まえて形成された概念とそこから導き出した自分の考えをふり返ることができるようにする。協働的な学びやインタビューしたことが自分の考えの変容に至ったかもふり返るようにしたい。

研究集会 事後研究協議会



授業者 春日野小学校 佐野陽一 教諭より

- ・子どもたちの思考の流れを考え、単元、本時を構築した。
- ・(子どもたちが困ったときは) 何回か学習問題に立ち返るようにすることで、何を考えているのか明確になるようにした。
- ・「～だったけど、どうなった？」という声掛けをすることで、子どもたちがこれまでにどのようなことを考えてきたか、比較しながら変容を捉えることができるようにした。
- ・子どもが調べたことを自分たちの言葉で概念的なキーワードにしてまとめられたらよりよいと感じている。教科書で出てきた言葉を用いるのもよしとしていたが、もっと子ども自身の言葉で概念化できたら。
- ・子どもたちが調べたことを記録するために、ホワイトボードを使ったり、床で書いたりという試してきた。模造紙を使うと自然と対話が生まれるようになった。
- ・各学年で系統立てて進めていく大切さを実感した。積み重ねていくことで見えてくる子どもの姿があるので、学びを終わらせることなく積み重ねていきたい。



指導助言 総合教育センター指導室 松村一也 指導主事より

- ・本時は個別で調べてきたことをまとめていく時間。「なぜ」の学習問題を設定し、戦中と戦後について話し合っていた。子どもたちの思考は大きな学習問題に向かっていくかどうかを意識して。
- ・教師に迷い・不安感があると、途中で補助発問が多くなる。子どもたちが調べてきた事実がある。子どもを信じてキーワード化させ、その意味を語らせたい。
- ・学習問題の解決に向かうために、一人一人にとって最適な学びとは何か。個、集団、一斉も含め、その在り方を考えていく。補助発問、補助資料を渡すのもその中で考えることも。
- ・「主体的な学び」には意欲・関心といった要素(子どもにとっての必然性)と、自己のキャリア形成という視点がある。子どもたちが学んでよかったと思えるかどうか、学習前の自分と学習後の私、「今」と「先」を見ていくことはとても大切。学ぶことの意義を見出せるように。





学年部 研究テーマ



3年部会

「地域の人々の営みから学びを深め、

自分と地域とのつながりを考える子ども」

4年部会

「自分たちのくらしを支える人々の

おもいや願いについて学びを深めることで、

地域社会に対する誇りと愛情をもち、

地域社会と自分とのつながりを考える子ども」

5年部会

「社会のあり様や、

そこに生きる人々の姿から学びを深め、

よりよい社会へ向けて、

社会と自分とのつながりを考えようとする子ども」

6年部会

「社会の発展に寄与した先人や

今を生きる人の営みから学びを深め、

社会と自分とのつながりを多角的に考える子ども」



3年部会 実践記録



社会科学学習指導案

指導者 京都市立柊野小学校

麻生 和希

- 1 日時 令和7年9月26日(金) 第6校時(14:45~15:30)
- 2 学級 第3学年3組(28名)
- 3 場所 3年3組教室
- 4 単元名 わたしたちの暮らしとはたらく人々「工場で作られるもの」
- 5 単元の目標

地域に見られる工場の仕事について、仕事の種類や産地の分布、仕事の工程などに着目して、見学・調査したり地図などの資料で調べたりして、白地図などにまとめることで生産に携わっている人々の仕事の様子を捉え、地域の人々の生活との関連を考え、表現することを通して、工場の仕事は、地域の人々の生活と密接な関わりをもって行われていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究し、解決しようとする態度を養う。

6 単元の評価規準

【知識・技能】

- ① 工場の仕事の種類や工場の分布、仕事の工程などについて見学・調査したり地図などの資料で調べたりして、必要な情報を集め、読み取り、生産の仕事に携わっている人々の仕事の様子を理解している。
- ② 調べたことを白地図や文などにまとめ、生産の仕事は、地域の人々の生活と密接な関わりをもって行われていることを理解している。

.....

【思考・判断・表現】

- ① 工場の仕事の種類や工場の分布、仕事の工程などに着目して、問いを見だし、生産に携わっている人々の仕事の様子について考え表現している。
- ② 工場の仕事の様子と地域の人々の生活との関連を考え、表現している。

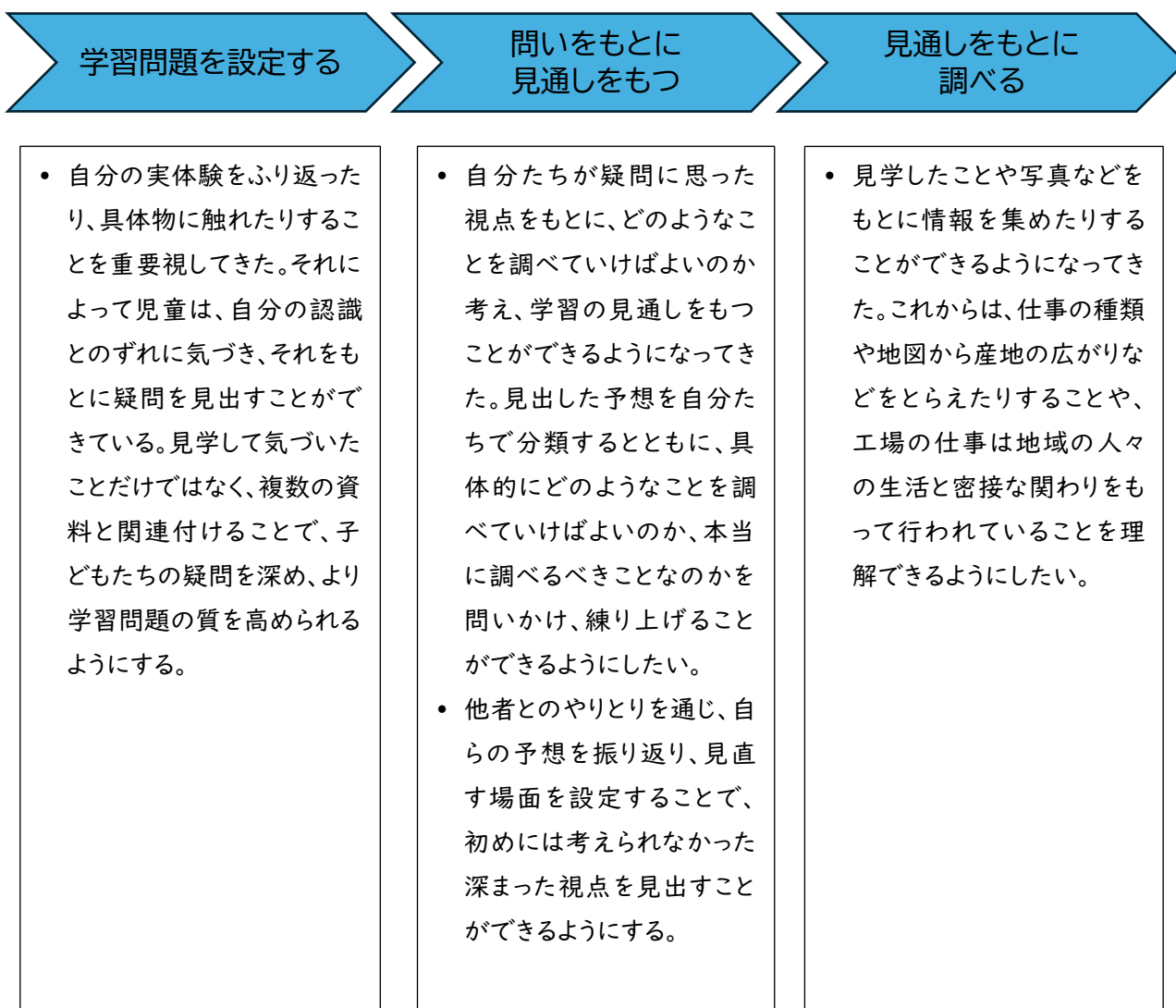
.....

【主体的に学習に取り組む態度】

- ① 地域に見られる生産の仕事について、予想や学習計画を立てたり、見直したりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。

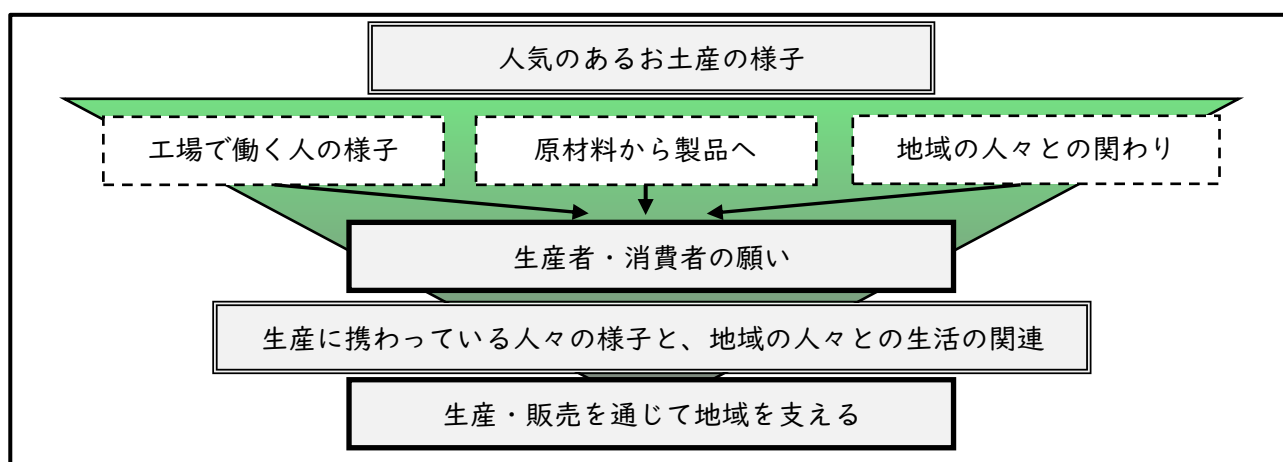
7 児童及び教材について

(1) 児童の実態とめざす姿



(2) 教材について

本教材を整理すると、次のように捉えることができる。



本単元では、地域の伝統的な製品「生八つ橋」と「京ばあむ」を生産する美十の製造の仕事題材に、児童が主体的に学びを深められるよう、以下のような教材の工夫を行う。

一つ目は「地域性と伝統文化の融合」である。京都の伝統的な和菓子である「生八つ橋」・「京ばあむ」を取り上げることで、児童の生活と学習内容を密接に結びつける。地域の地図を活用して工場の位置を確認したり、生八つ橋の歴史や観光との関係を調べたりすることで、児童が地域の産業と文化のつながりに関心をもてるようにする。また、地域の人々との交流を通じて、伝統を守る思いや工夫に触れる機会を設ける。

二つ目は、「工場見学の効果的な活用」である。工場見学では、児童が実際の製造工程を目で見て、音を聞き、においを感じるなど、五感を使って学ぶことができるようにする。事前に質問リストを作成し、目的意識をもって見学に臨めるようにするとともに、観察カードを用いて「音」「工場の動き」「人の動き」などの視点から記録を行う。見学後には、写真やメモをもとに振り返り活動を行い、学びを整理・定着させられるようにする。

三つ目は「表現活動の重視である。」見学や調べ学習で得た情報を、児童自身の言葉でまとめ、他者に伝える活動を行う。四コマ漫画などの形でまとめることで、児童の思考力・構成力・表現力を育成する。また、グループごとにテーマを分けて発表を行うことで、学びを発信する経験を通じて、児童の達成感や責任感を高められるようにする。

8 単元構想図

つか
む

① 生活の中にある身近な工業製品に気づき、関心をもつ。

- ・器や扇子、漬物、和菓子 ・たくさんのお土産の中で、一番人気のお土産は何だろうか。
- ・京都にはたくさんの工場や工房があり、そこで様々なものをつくっている。
- ・たくさんの生八つ橋や京ばあむが売っている。どれもつくられているものだが、どうやってつくっているのだろうか。

② 現物や生産量・売上から疑問を出し合い、学習問題をつくり、予想を立てる。

- ・生八つ橋はとてもやわらかく、皮も破れそうなのに、どのようにして一日一万個以上もつくっているのだろうか。
- ・京ばあむは2色の層に分かれている。どのようにして作っているのだろうか。

<学習問題>

美十はどのようにして、人気の生八つ橋と京ばあむをたくさんつくることができるのだろうか。

③ 学習問題についての予想をもとに、コマ漫画で表す。

- ・皮が破れないように、たくさんの人が手作業で三角形に折りたたんでいる。
- ・給食の時のように帽子やエプロン、マスクをつけている。・大きな釜でつくっている。

調
べる

④⑤ 生八つ橋・京ばあむの製造工場を見学し、生産の工夫について調べる。

- ・原材料の仕入れ先 ・主な生産工程 ・働く人の様子
- ・働く人は同じエプロンや帽子、マスクをしている。
- ・たくさんの機械が並んでいて、材料が順番に運ばれてくる。

⑥⑦⑧ 調べたことをまとめ、原材料の仕入れ先や主な生産工程、生産の工夫について理解する。

- ・生産者が分かる原材料で商品をつくっている。 ・原材料は国内だけでなく外国からも仕入れている。
- ・機械で素早く同じものをつくっている。 ・人と機械で商品をチェックしている。
- ・しっかり消毒している。 ・たくさんつくするには機械も必要。でも、お客さんが安心して食べられるように人がしっかりとチェックしている。

ま
と
め
る
・
い
か
す

⑨ 調べてまとめたことを基にして、学習問題について話し合う。

<学習問題のまとめ>

安心して商品を買ってもらえるように衛生面にとっても気を付けてつくっている。たくさんつくるためには機械も必要だが、気温や湿度に合わせて工場の人々が水の分量を変えたり、材料にこだわったりしながらおいしい生八つ橋と京ばあむができるようにしている。だから、人気がある。

⑩ 地域の人々との関わりについて考える。

- ・京都を代表するお土産だから、観光客だけでなく京都に住んでいる人にも季節を感じてもらったり、よろこんでもらったりしたい。京都に住む私たちにも誰かのお土産として必要な商品である。

9 単元計画

学 習 過 程	○主な学習活動 ・ 児童の反応	【評価規準】 (評価方法)
つかむ	1. <u>○お土産屋さんの写真や、お土産の売り上げの資料を見て、和菓子に対して関心をもつ。</u> - 京都のお土産といえば、器や扇子、漬け物、和菓子がある。人気のお土産は何だろう？ - 京都にはたくさんの工場や工房があり、そこで様々なものをつくっている。 - お土産屋さんではたくさんの生八つ橋や京ばあむが売られている。どうやってつくっているのだろう。 2. <u>○現物や生産量・売上から疑問を出し合い、学習問題をつくり、予想を立てる。(本時)</u> - 生八つ橋はとてもやわらかく、皮も破れそうなのに、どうやって一時間に一万個以上もつくっているのだろうか。 - 京ばあむは2色の層に分かれている。どのようにして作っているのだろうか。 <学習問題> 美十はどのようにして、人気の生八つ橋と京ばあむをたくさんつくっているのだろうか。	【思①】 お土産屋さんの写真や、お土産屋の売り上げの資料から、自分の考えを表現している。(発言・ノート) 【思①】 生産量の資料から、和菓子に関する問いを見出し、自分の考えを表現している。(発言・ノート)
調べる	3. <u>○学習問題についての予想をもとに、コマ漫画で表す。</u> - 大きな釜でつくっている。 - 皮が破れないように、たくさんの人が手作業で三角形に折りたたんでいる。 給食の時のように、帽子やエプロン、マスクをつけている。 4 5. <u>○生八つ橋・京ばあむの工場を見学し、生産の工夫について調べる。</u> - 生八つ橋の原材料は、「米・水・砂糖・小豆・にっき」の5つと工場内の看板にも書かれている。 - 原材料は、京都府以外のものも使われていて、国外からも仕入れている。 - 働いている人は、みんな同じエプロンやマスクをしている。 - たくさんの機械が並んでいて、材料が順番に運ばれている。 - 機械でつくっているだけでなく、人の手が入っているところもある。 - 京ばあむは、職人さんが一つ一つ生地を流して形を作っている。 6 7 8. <u>○調べたことをまとめ、原材料の仕入れ先や主な生産工程、生産の工夫について理解する。</u> - 生産者が分かる原材料で商品をつくっている。	【態①】 どのようにして人気のお土産をつくっているのかについて、予想している。(発言・ノート) 【知①】 工場見学を通じて、分かったことをまとめる。(発言・ノート) 【知①】 原材料の仕入れ先や主な生産工程、生産の工

	• 原材料は国内だけでなく、外国からも仕入れている。 • 機械で素早く同じものをつくっている。 • 機械だけでなく、人と機械で商品をチェックしている。 • しっかりと消毒をして、衛生面に気を使っている。	夫について調べている。(発言・ノート)
まとめる・いかす	9. <u>○調べてまとめたことを基にして、学習問題について話し合う。</u> <u><学習問題のまとめ></u> 安心して商品を買ってもらえるように衛生面にとっても気を付けてつくっている。たくさんつくるためには機械も必要だが、気温や湿度に合わせて工場の人々が水の分量を変えたり、材料にこだわったりしながらおいしい生八つ橋と京ばあむができるようにしている。だから、人気がある。 10. <u>○地域の人々との関わりについて考える。</u> • 京都を代表するお土産だから、観光客だけでなく京都に住んでいる人にも季節を感じてもらったり、よろこんでもらったりする必要がある。 京都に住む私たちにも、誰かのお土産として必要な商品である。	【知②】 調べたことを文章にまとめ、どのようにして人気のお土産をつくることができるのかについて考えている。(ノート) 【思②】 工場の仕事の様子と地域の人々の生活との関わりについて考えている。(発言・ノート)

10 本時の学習（本時2/10）

（1）本時の目標

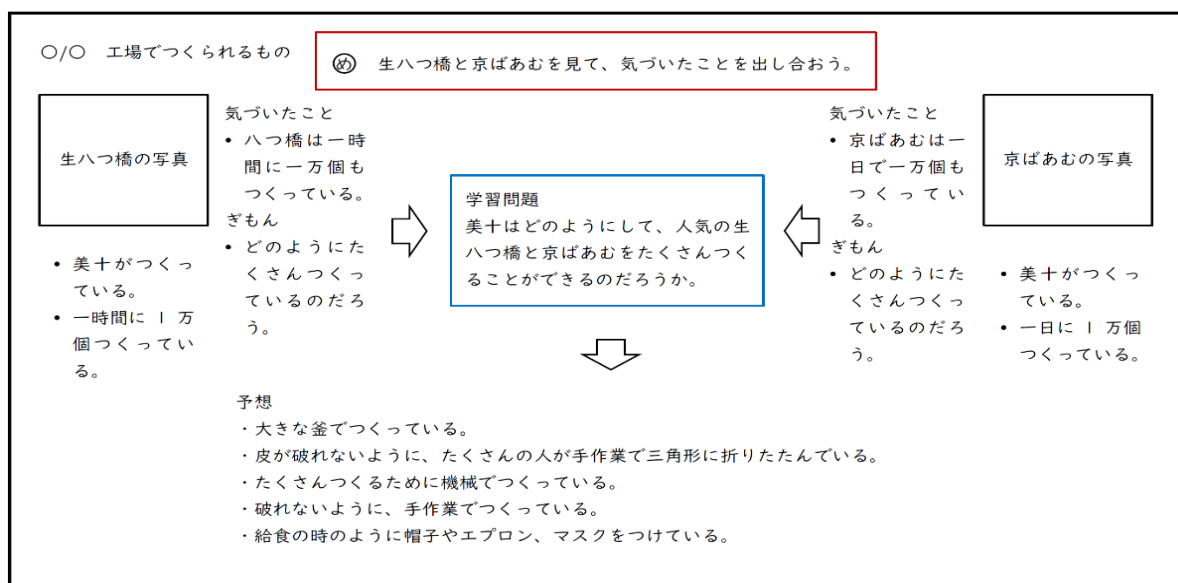
生産量や原材料、仕事の工程などに着目して、問いを見いだし、生産に携わっている人々の仕事の様子について考えることができるようにする。

（2）本時の展開

学習活動 ○主な発問など ・児童の反応	□支援 ◇留意点 ■資料 【評価】
1.前時の学習をふり返り、本時のめあてを確認する。 ○前は、京都で人気のお土産について確認しました。今日は実際に本物に触れて、気づいたことを出し合ひましょう。 <めあて> 生八つ橋と京ばあむを見て、気づいたことを出し合おう。 2.生八つ橋・京ばあむを観察し、感想を話し合う。 ○生八つ橋・京ばあむに触って、気づいたこと・疑問はありますか。 ・生八つ橋の皮はやわらかい。 ・京ばあむは二層になっている。 ・どのようにしてつくっているのだろう。 3.生八つ橋・京ばあむに関する資料を提示する。 ○資料を見て、さらに気づいたことはありますか。 ・生八つ橋は一時間に一万個もつくっている。 ・京ばあむは一日で一万個もつくっている。 ○お土産ランキングでは、生八つ橋が一位である。 ○どのようにたくさんつくっているのだろう。 4.全体交流で出たキーワードをもとに、学習問題をつくる。 ○工場で作られている生八つ橋と京ばあむについて知りたいことを出し合って、学習問題をつくりましょう。	□生八つ橋・京ばあむの実物を見せる。 □お土産の売り場の写真を提示し、生八つ橋が人気のお土産であることに気づかせる。 □八つ橋・京ばあむの現物を用意することで、見たことがない児童にもイメージが持てるようにする。 □グループで観察することで、様々な視点の疑問を事前に交流することができるようにする。 □疑問が立てにくい児童には、「五感」を意識させるような補助発問し、イメージがもてるようにする。 ◇生八つ橋・京ばあむともに「美十」という企業で作られていることを抑える。 ■生八つ橋（現物）、京ばあむ（現物） ■お土産の売場の写真 □生八つ橋の売上や、お土産のランキングを提示し、たくさん作られていることに気づかせる。 □近くの人と疑問を交流することで、様々な視点から疑問を立てることができるようにする。 ■生八つ橋の売上を示す資料 ■京都のお土産のランキング

• どのようにつくっているのか。 • 働く人はどんな様子なのか。 • どんな服装で働いているのか。 ○キーワードをもとに、学習問題をつくりましょう。	□全体交流の前に、ペア交流・班交流を取り入れることで、発言がしやすい雰囲気づくりを行う。 □2つの食品に共通するキーワードをもとに学習問題をつくることで、工場の生産という大きな視点で問題を立てられるようにする。
<学習問題> 美十はどのようにして、人気の生八つ橋と京ばあむをたくさんつくっているのだろうか。 5.学習問題に対する予想を行う。 ○学習問題に対する予想をしましょう。 • 大きな釜でつくっている。 • 皮が破れないように、たくさんの人が手作業で三角形に折りたたんでいる。 • たくさんつくるために機械でつくっている。 • 破れないように、手作業でつくっている。 • 給食の時のように帽子やエプロン、マスクをつけている。 6.ふり返しをする。 ○今日は、生八つ橋・京ばあむについて疑問に思ったことや知りたいことをもとに、学習問題をつくりました。 ○これからどんなことを学習してみたくなったかふり返ししましょう。 ○次回はこの学習問題に対する予想をもとに、コマ漫画で表しましょう。	

(3) 板書計画



(4) 本時の評価

観点	評価規準
【思・判・表－①】	生産量や原材料、仕事の工程などに着目して、問いを見だし、生産に携わっている人々の仕事の様子について考えることができるようにする。
おおむね満足できる子どもの具体的な姿	
- 生八つ橋はどのようにして作っているのかが疑問に思った。予想は人の手で一つずつ手作りしていると思う。なぜなら、生八つ橋はやわらかく、機械で作業すると破れてしまいそうだからである。 - 京ばあむはどのようにして作っているのかが疑問に思った。一日に一万個も作るためには、人の手ではなく、機械を使って作っていると思う。	

(5) 本時のふり返りの視点

ふり返りの視点	指導者の働きかけ
①今後の見通し・予想についてふり返る	学習問題やそれぞれの問いについて、どのような予想を立てているのか、なぜそう予想したのか。

本時では、児童それぞれの疑問や知りたいことをもとにふり返りを行う。京都駅のお土産屋さんの売場の写真や、生八つ橋の売上額のデータ、お土産のランキングなどの資料から、児童は、どのようにして、人気のお土産をつくることができるかについて考える。そして、その考えを児童同士や学級全体で交流し、さらに自身の考えを深めていく。そこで、今の自分の考えとその理由、今後調べてみたいことなどを記述できるようにする。

社会科学学習指導案

指導者 京都市立大塚小学校

嶺 温奈

1 日 時 令和7年11月4日(火) 第6校時(14:15~15:00)

2 学 級 第3学年1組(24名)

3 場 所 3年1組教室

4 単元名 わたしたちの暮らしとはたらく人々「商店のはたらき」

5 単元の目標

地域に見られる販売の仕事について、消費者の願い、販売の仕方、他地域や外国との関わりなどに着目して、見学・調査したり地図などの資料で調べたりして、白地図などにまとめることで販売に携わっている人々の仕事の様子を捉え、それらの仕事に見られる工夫を考え、表現することを通して、販売の仕事は、消費者の多様な願いを踏まえ売り上げを高めるよう、工夫して行われていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究し、解決しようとする態度を養う。

6 単元の評価規準

【知識・技能】

- ① 消費者の願い、販売の仕方、他地域や外国との関わりなどについて、見学・調査したり地図などの資料で調べたりして、必要な情報を集め、読み取り、販売に携わっている人々の仕事の様子を理解している。
- ② 調べたことを白地図や文などにまとめ、販売の仕事は、消費者の多様な願いを踏まえ、売り上げを高めるよう、工夫して行われていることを理解している。

.....

【思考・判断・表現】

- ① 消費者の願い、販売の仕方、他地域や外国との関わりなどに着目して、問いを見いだし、販売に携わっている人々の仕事の様子について考え、表現している。
- ② 地域に見られる販売の仕事に見られる工夫を考え、表現している。

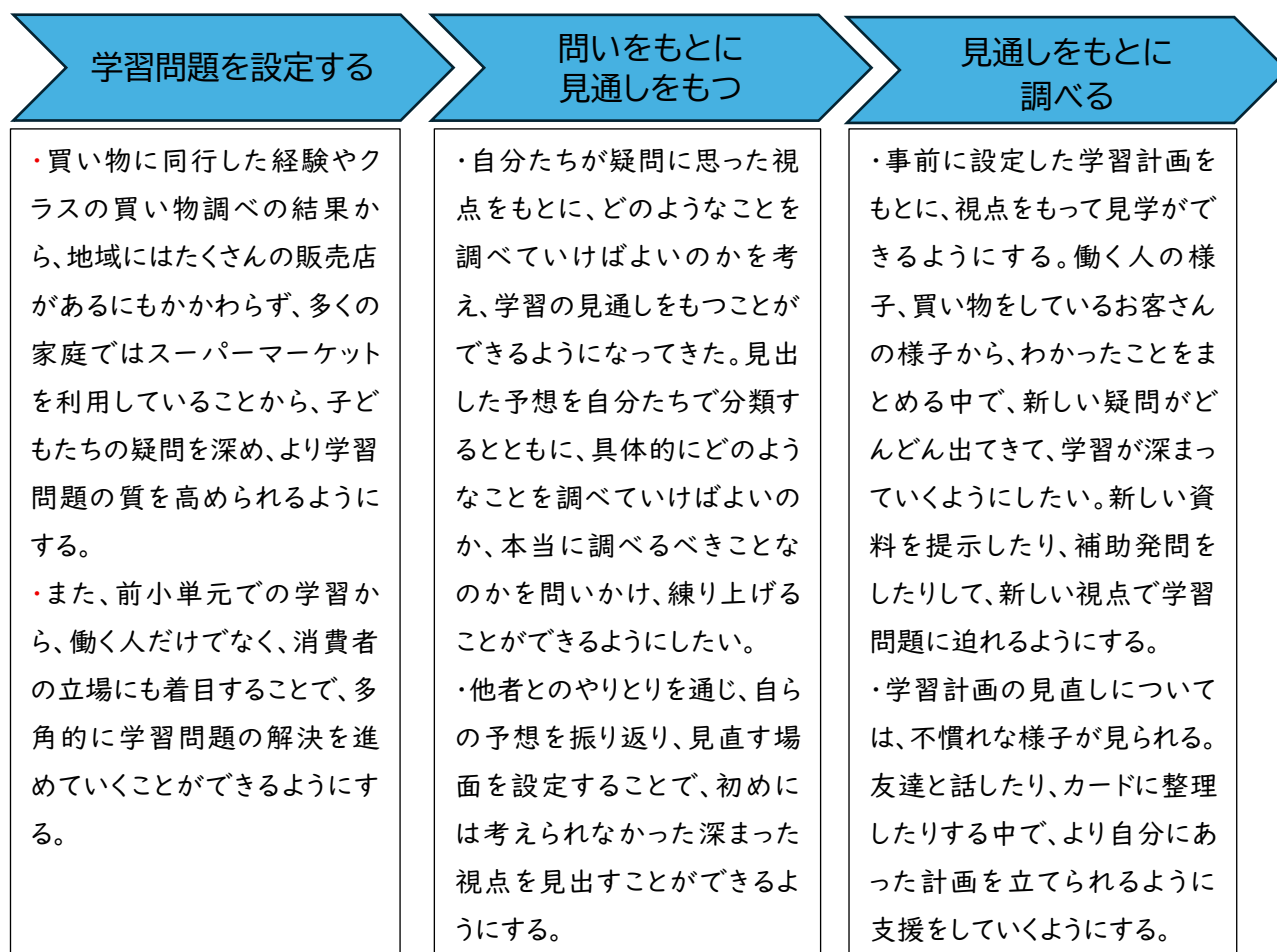
.....

【主体的に学習に取り組む態度】

- ① 地域に見られる販売の仕事について、予想や学習計画を立てたり、見直したりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。

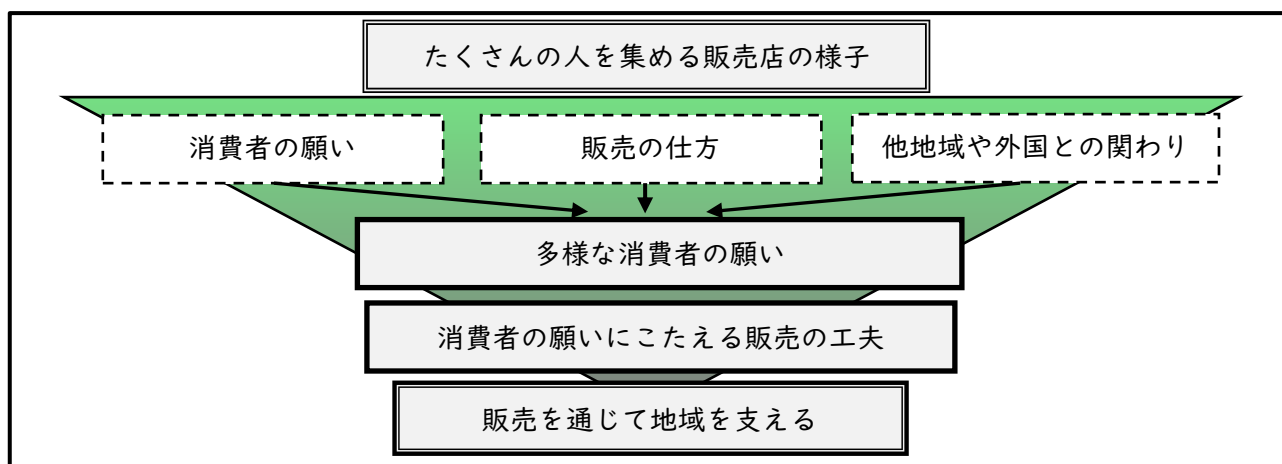
7 児童及び教材について

(1) 児童の実態とめざす姿



(2) 教材について

本教材を整理すると、次のように捉えることができる。



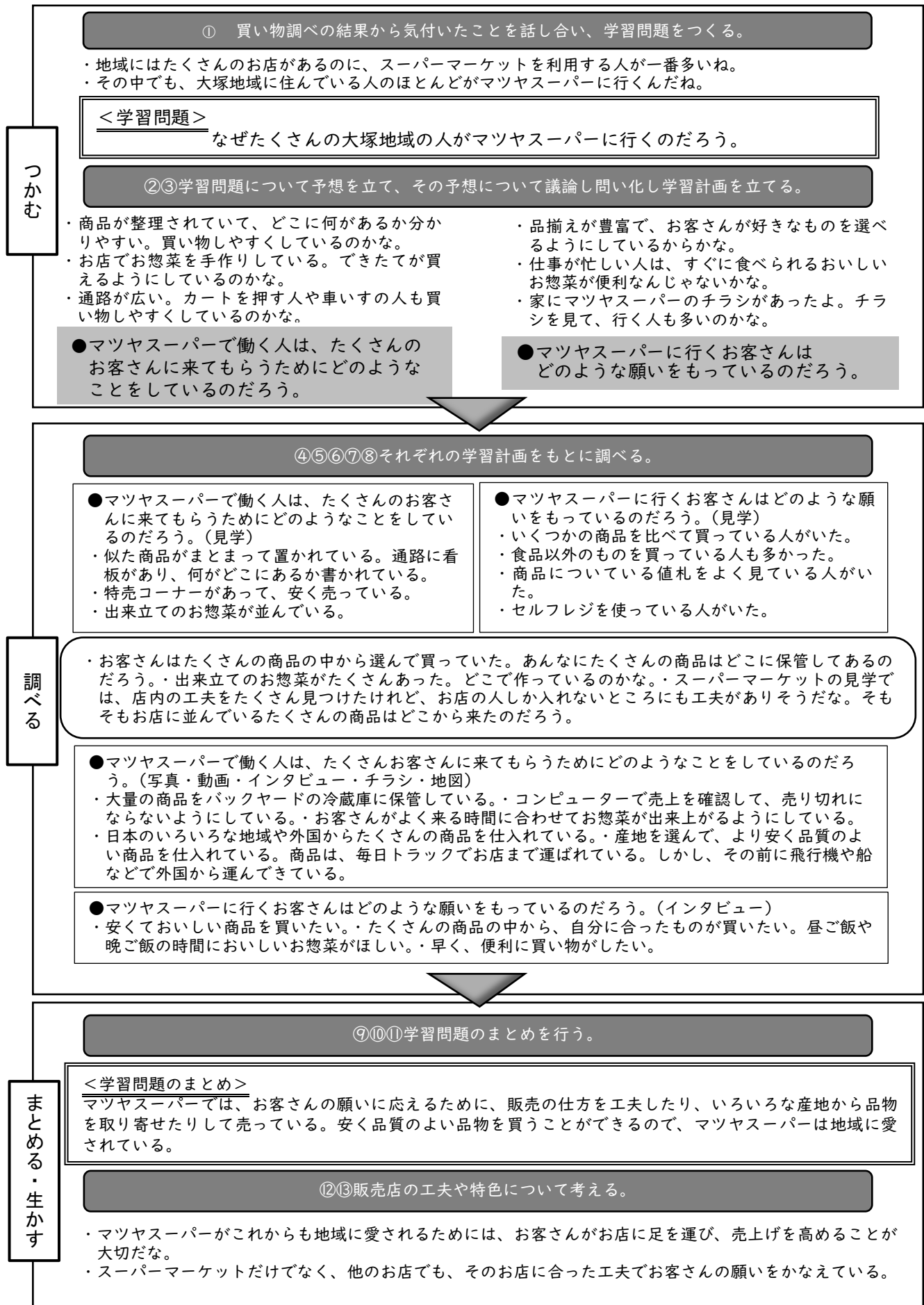
地域にはたくさんの販売店があるにもかかわらず、多くの家庭では日常的にスーパーマーケットを利用していることに気づき、たくさんの人が利用する理由を考えていく。前小単元「工場で作られるもの」の学習では、長く愛される生八つ橋の生産の工夫について学習しているため、生産の仕事も販売の仕事も、消費者の願いがもととなっていることに気付くことができるようにしたい。そこで、販売店と消費者の視点にわけて学習を進めていくことで、「消費者の願いをかなえる工夫」が行われていることをより理解できるようにする。

学習問題をもとに予想を問い化し、学習計画を設定して学習を進めていく。視点をもって、実際にスーパーマーケットに見学に行き、工夫を探す。同じ商品であっても何種類も用意されていたり、出来立てのお惣菜があったりするなど、店内図だけでは気付けない工夫にたくさんふれていく。たくさん種類の商品が大量に陳列され、足りなくなればどんどん出てくることから、お客さんからは見ることでできないバックヤードにも興味をもてるようにする。

見学後、調べたことを「お店屋さんカード」「お客さんカード」にまとめていくことで、お客さんの願いとお店の工夫が対応していることに気付けるようにする。また、新しい問いとして、バックヤードでの工夫についても、インタビューや動画、チラシなどで調べていく。白地図に産地をまとめる活動を通して、京都府だけでなく他地域や外国の商品もたくさん仕入れていることに気付けるようにする。スーパーマーケットがなければ、これだけの商品を一つの場所で手に入れることはできなくなるため、スーパーマーケットがあることで私たちは便利に買い物ができ、生活ができていることを実感できるようにする。

また、スーパーマーケットでの販売の工夫を理解した上で、他の販売店の工夫についても考える。店によって、お客さんの願いも異なり、それに対応するお店の工夫も異なることに気づき、スーパーマーケットに限らず、地域にある販売店では、それぞれの特色に合った工夫が行われていることに気付く。地域で働く人は、お客さんのために工夫をして働いていることについて、理解を深められるようにする。

8 単元構想図（全13時間）



9 単元計画（13時間）

学習 過程	○主な学習活動 ・ 児童の反応	【評価規準】 (評価方法)
つかむ	<u>1 ○買い物調べの結果を確認し、多くの人が買い物にスーパーマーケットを利用していること、その中でも特にマツヤスーパーに行く人が多いことから、その理由に疑問をもち、学習問題をつくる。</u> ・わたしたちが住んでいる地域には、スーパーマーケットやコンビニエンスストア、専門店などたくさんの種類のお店があるのだな。 ・地域にはたくさんのお店があるのに、スーパーマーケットを利用する人が多いな。スーパーマーケットを利用する理由があるのかな。 ・生八つ橋の学習では、お客さんが安心安全に食べられ、喜んでくれる工夫をしていたことを学んだ。スーパーマーケットで働く人も何かお客さんのために工夫をしているのかな。 ・大塚に住む人はマツヤスーパーに行く人がほとんどだな。なぜ大塚の人はマツヤスーパーが好きなのだろう。	<u>【知①】</u> 買い物調べの結果から、スーパーマーケットの仕事の内容について、わかったことをまとめている。 (発言・ノート)
	<u><学習問題></u> なぜたくさんの大塚地域の人がマツヤスーパーに行くのだろう。 <u>2 3 ○学習問題について予想を立て、その予想について議論し問い直し学習計画を立てる。</u> ・スーパーマーケットの店内は、同じ種類の商品をまとめて置いているね。どこに何が売っているかわかりやすいね。 ・広いお惣菜売り場があるね。お惣菜が買えると、料理の手間が省けて便利だね。 ・お惣菜は店内で作っているのだね。出来立てのものが売っているのかな。 ・通路が広いので、車いすの人も通りやすいね。みんなが買い物しやすいね。 ・試食販売をして、お客さんが確かめてから買えるようにしているね。これなら、安心して買えるね。 ・お客さんは買い物をするとき、どんなことを考えているのかな。たくさん商品があるけれど、どうやって選んでいるのだろう。	<u>【思①】</u> 店内図を見てわかったことをまとめている。 (発言・ノート) <u>【態①】</u> スーパーマーケットの工夫やお客さんの願いについて予想をしている。 (発言・ノート)
調べ	<u>4 5 ○それぞれの学習計画をもとに、スーパーマーケットを見学して調べる。</u> ●マツヤスーパーで働く人は、お客さんに来てもらうためにどのようなことをしているのだろう。 ・似た商品がまとまって置かれている。通路に看板があり、何がどこにあるか書かれている。 ・特売と書かれているコーナーがある。 ・出来立てのお惣菜が並んでいる。 ・牛乳だけでも、たくさんの大きさや種類がある。 ●マツヤスーパーに行くお客さんはどのような願いをもっているのだろう。 ・いくつかの商品を比べて買っている人がいた。 ・食品以外のものを買っている人がいた。 ・商品についている値札をよく見て選んでいる人がいた。 ・セルフレジを使っている人がいた。 ・お惣菜を選んでいる人がいた。	<u>【知①】</u> スーパーマーケットの店内を見学し、設定した見学の視点に沿って調べている。 (ノート)

	6780調べたことを『お店屋さんカード』『お客さんカード』にまとめ、販売の工夫を理解する。 ●お店屋さんカード ・たくさんの種類を用意して、好きな商品が選べるようにしている。 ・特売品のポップを作って、安売りがわかりやすいようにしている。 ・コンピューターで売れ具合を確認して、品切れにならないようにしている。 ・お客さんが多くなる時間に合わせて、出来立てのお惣菜をつくっている。 ・バックヤードに大きな冷蔵庫を用意して、商品を安全に保管している。 ・新鮮な食品を仕入れている。 ・商品によって産地を変えている。より安くおいしい商品が仕入れられるようにしている。 ・外国から仕入れている商品もある。産地が分かるように、値札に書いている。 ●お客さんカード ・たくさんの商品の中から、自分に合ったものを選びたい。 ・どこに何があるかわかりやすく、便利に買い物をしたい。 ・重い商品を運ぶのは大変なので、楽に買い物をしたい。 ・なるべくレジに並びたくない。早く買い物をしたい。 ・仕事が忙しくて料理をするのが大変なので、夕食の時間に合わせて出来立てのお惣菜が買いたい。 ・新鮮で、おいしい食品が買いたい。 ・食品だけでなく、日用品も買いたい。 ・季節に合った商品が買いたい。 ・買い物をするのが大変なので、車いすを貸し出してほしい。 ・その日何が安いかわかるようにしてほしい。	【知①】 スーパーマーケットの販売の工夫について調べている。 (ノート)
まとめ・生かす	9100調べたことや考えたことをまとめ、販売の工夫を理解する。 ・スーパーマーケットでは、お客さんが<u>便利</u>に買い物できるように、商品の並べ方を工夫し、どこに何が置いてあるのかわかりやすくしていた。 ・スーパーマーケットでは、お客さんが<u>おいしく</u>、<u>安く</u>商品が買えるように、産地を選んで商品を仕入れていた。 ・スーパーマーケットでは、お客さんが<u>安心安全</u>で<u>品質の良い</u>商品が買えるように、大きな冷蔵庫で商品を保管している。 ・スーパーマーケットでは、すべてのお客さんが<u>買い物しやすい</u>ように、通路を広くして車いすも通やすくしている。 ・スーパーマーケットでは、お客さんの<u>願いをかなえる</u>ために、いろいろな工夫をしている。	【知②】 スーパーマーケットでは、お客さんの願いをかなえるために工夫していることを理解している。 (パンフレット) 【態①】 販売の工夫について、調べたことや気付いたことをまとめている。 (パンフレット)
調べる	110単元の学習問題のまとめをする。 <学習問題のまとめ> マツヤスーパーでは、お客さんの願いに応えるために、販売の仕方を工夫したり、いろいろな産地から品物を取り寄せたりして売っている。安く品質のよい品物を買うことができるので、マツヤスーパーは地域に愛されている。	【思②】 お客さんの願いをかなえるために、スーパーマーケットで働く人がどのような工夫をしているか考えている。 (ノート)

まとめる・生かす	<u>120 マツヤスーパーがこれからも地域に愛され続けるためには、どうすればよいのか考える。</u> ・ マツヤスーパーでは、お客さんのためにいろいろな工夫をしていた。そのおかげでたくさんのお客さんが毎日足を運んでいる。 ・ お客さんが来ることで、マツヤスーパーの売上げが上がっている。お客さんが来ないとお店がつぶれてしまうかもしれない。 ・ マツヤスーパーがつぶれてしまったら、大塚地域の人は困ってしまう。これからもマツヤスーパーが地域に愛され続けるためには、どうすればよいのだろう。 ・ マツヤスーパーは地域の生活を支えているから、私たちも買い物を通して、マツヤスーパーが続いていくようにしたい。	<u>【思②】</u> 販売店では、売上げを高めるために工夫していることに気づき、地域における販売店の役割を考えている。 (発言・ノート)
	<u>130 地域にある他のお店の特色について考える。</u> ・ コンビニエンスストアは 24 時間 365 日営業していて、お客さんがいつでも買い物することができる。 ・ スーパーマーケットと違って、ちょっとした買い物をする人が多いから、スーパーマーケットで売っている商品と大きさや量が違うね。お店のお客さんの願いに合わせて、それぞれ工夫しているのだね。 ・ スーパーマーケットだけでなく、地域にあるお店にはいろいろな工夫があるのだな。工夫を探しながら、買い物してみたいな。	<u>【思②】</u> スーパーマーケット以外の販売店の工夫から、店によって特色を生かした工夫をしていることについて考えている。 (発言・ノート)

10 本時の学習（本時11／13）

（1）本時の目標

お客さんの願いと販売店の工夫について交流することを通して、単元の学習問題について考えることができるようにする。

（2）本時の展開

学習活動 ○主な発問等 ・児童の反応	□支援 ◇留意点 ■資料 【評価】
1 前時までの学習をふり返し、単元の学習問題のまとめをすることを知らせる。 ○マツヤスーパーには、なぜたくさんのお客さんがくるのか、調べたことから考えをまとめよう。	□前時までの学習をふり返し、調べたことをまとめたお店屋さんカードやお客さんカードをもとに考えられるようにする。 ■前時までの壁面掲示 ■マツヤスーパーの店内図
（本時の問い） なぜたくさんのお客さんがマツヤスーパーに行くのだろう。	
2 スーパーマーケットで働く人の工夫を交流する。 ○マツヤスーパーで働く人はたくさんのお客さんに来てもらうために、どのようなことをしているのだろう。 ・通路に看板をつけて、お客さんが迷わないようにしていた。 ・毎日割引をして、安く商品が買えるようにしていた。 ・お米をレジの近くに置いて、買い物しやすくしていた。 ・出来立てのお惣菜をたくさん並べて、お客さんが帰ってすぐに食べられるようにしていた。	□店内のようす・店外のようす・バックヤード・品物の運び方の4つの観点で調べたことの中から、マツヤスーパーの工夫を発表する。自分が作成したカードの中から、特に良いと思った工夫を発表するようにする。 ◇児童の意見を「お店屋さん」「お客さん」で色分けした短冊に書くことによって、2つを区別しやすいようにする。 ■児童が作成した「お店屋さんカード」
3 スーパーマーケットに来るお客さんの願いを交流する。 ○マツヤスーパーに行くお客さんはどのような願いをもっているのだろう。 ・商品を安く買いたい。 ・新鮮でおいしい商品を買いたい。 ・忙しいから簡単に調理できるようにしてほしい。 ・買い物しやすいようにしてほしい。	□保護者アンケートやインタビューをもとに作成した「お客さん」カードをもとに、マツヤスーパーに行くお客さんがもつ願いについてまとめていく。 □スーパーマーケット見学で見たお客さんの様子も思い出すことができるようにする。 ■児童が作成した「お客さんカード」
4 マツヤスーパーでは、お客さんの願いをかなえられているのか確かめる。 ○お客さんがもっている願いをマツヤスーパーはかなえられているのかな。 ・「安く買いたい」という願いは、「〇〇の日」	□黒板に提示した「お客さんカード」に書かれた願いが、「お店屋さんカード」のどの工夫に対応するものかを考えながら線を引いていく。 □一つの工夫で、複数のお客さんの願いを

や「月曜日10%オフ」でかなえられている。

- ・「新鮮でおいしい商品を買いたい」という願いは「大きな冷蔵庫で管理している」「地産地消のコーナー」でかなえられている。
- ・「忙しいから簡単に調理できるようにしてほしい」は、「魚の店内調理」や「できたてのお惣菜」でかなえられている。

5 学習問題に立ち返り、マツヤスーパーにたくさんの地域の人を訪れる理由を考え、まとめる。

○なぜたくさんの大塚地域の人マツヤスーパーに行くのだろう。

- ・マツヤスーパーではお客様の願いをかなえる工夫をしている。
- ・お客様の願いをかなえているから、お客様が喜ぶ。だから、たくさんの大塚地域の人マツヤスーパーに行くのだと思う。

6 店長さんの話を聞き、働く人の思いを知る。

○マツヤスーパーの店長さんの話を聞いて、学習問題のまとめをしましょう。

- ・お客様に喜んでほしくて、たくさん工夫をしているのだね。
- ・お客様のためにたくさん工夫をしているから、マツヤスーパーは大塚地域の人に愛されているのだね。

7 単元の学習問題のまとめをする。

マツヤスーパーでは、お客様の願いに応えるために、たくさん工夫をしたり、いろいろな産地から品物を取り寄せたりして売っている。安く品質の良い品物を便利に買うことができるので、マツヤスーパーは地域に愛されている。

8 前時までに作成したパンフレットにキャッチコピーをつける。

- ・「しなぞろえがいいマツヤスーパー」
- ・「安くておいしいマツヤスーパー」
- ・「地いきにあいされるマツヤスーパー」

9 キャッチコピーを設定した理由を書く。

- ・地域の人々が喜ぶ工夫をして、たくさんのお客様がマツヤスーパーに来ているから。
- ・安くておいしい品物を売るために、いろいろな地域から商品を仕入れていたから。

かなえているものがあると気付くことができるようにする。

◇お客様の願いから線を結ぶことで、販売の工夫によってお客様の願いがかなえられていることを、視覚的に実感できるようにする。

□学習問題を改めて確認し、「お客様」と「お店屋さん」の関係図からマツヤスーパーにたくさん地域の人が行く理由を考える。

■「お店屋さん」「お客様」の関係図
(線を書き足したもの)

□「地域の人々のために」「これからも愛されるために」という言葉を手立てに、地域に愛される工夫をしていることに気付くことができるようにする。

◇店長さんの話から検証ができるようにする。

■マツヤスーパー店長さんの話

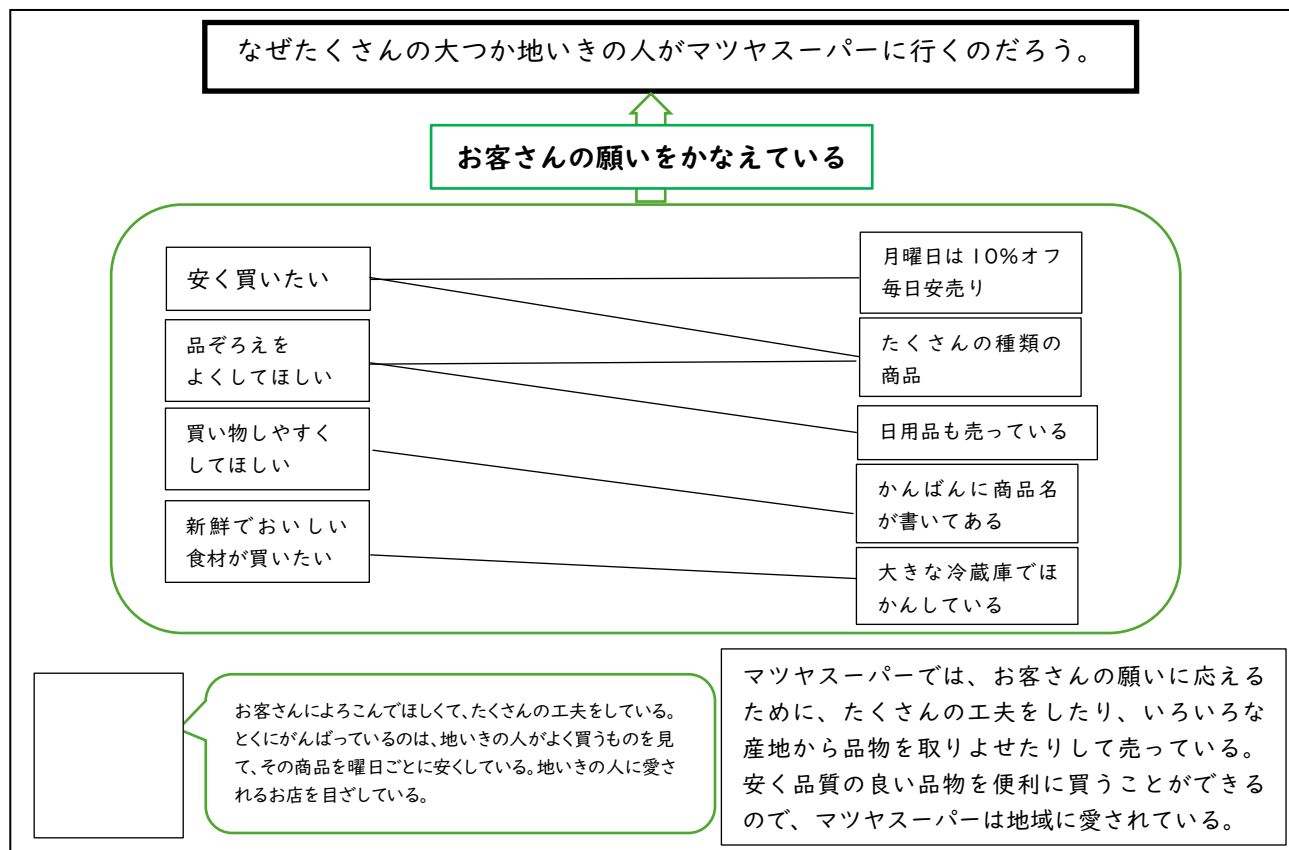
□学習してわかったマツヤスーパーの良い一言でまとめて、キャッチコピーとしてつけることで、マツヤスーパーで働く人の工夫を改めてふり返ることができるようにする。

【思・判・表—②】

お客様の願いをかなえるために、スーパーマーケットで働く人がどのような工夫をしているか考えている。

(パンフレット・発言)

(3) 板書計画



(4) 本時の評価

観点	評価規準
【思・判・表―②】	お客様の願いと販売店の工夫について交流することを通して、単元の学習問題について考えることができるようにする。
おおむね満足できる子どもの具体的な姿	
・「安く買いたい」という願いは、「〇〇の日」や「月曜日10%オフ」の工夫でかなえられている。 ・「新鮮でおいしい商品を買いたい」という願いは「大きな冷蔵庫で管理している」「地産地消のコーナー」の工夫でかなえられている。 ・「忙しいから簡単に調理できるようにしてほしい」は、「魚の店内調理」や「できたてのお惣菜」の工夫でかなえられている。	

(5) 本時のふり返りの視点

ふり返りの視点	指導者の働きかけ
⑧単元の学びをふり返る。	そのキャッチコピーにした理由はなんですか。

本時では児童の単元の学びを通じた考えの変容についてふり返る。マツヤスーパーの学習を通じて、販売店では値段設定の工夫・商品陳列の工夫・仕入れの工夫など様々な工夫を行っていることを理解している。本時では、そこにお客さんの願いを並列に並べることによって、販売店の工夫がお客様の願いをかなえるために行われていることに気付く。前時までに作成したパンフレットに、マツヤスーパーのキャッチコピーをつけ、その理由を書くことで、販売の工夫が理解できているか、単元の初めから児童の考えがどのように変容したかをみていく。

社会科学習指導案

指導者 京都市立久世西小学校

兼山 柚紀

- 1 日 時 令和8年2月27日(金) 第6校時(14:40～15:25)
- 2 学 級 第3学年2組(30名)
- 3 場 所 3年2組教室
- 4 単元名 「安全なくらしを守る」～火事をふせぐ・事故や事件をふせぐ～

5 単元の目標

火災や事故・事件から地域の人々の安全を守る働きについて、施設・設備などの配置、緊急時への備えや対応などに着目して、見学・調査したり地図などの資料で調べたりして、まとめることと関係機関や地域の人々の諸活動を捉え、相互の関連や従事する人々の働きを考え、表現することを通して、消防署や警察署などの関係機関は、地域の安全を守るために、相互に連携して緊急時に対処する体制をとっていることや、関係機関が地域の人々と協力して火災や事故・事件の防止に努めていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決し、学習したことを基に地域や自分自身の安全を守るために自分たちにできることなどを考えようとする態度を養う。

6 単元の評価規準

【知識・技能】

- ①施設・設備などの配置、消防署や警察署による緊急時への備えや対応などについて見学・調査したり地図などの資料で調べたりして、必要な情報を集め、読み取り、関係機関や地域の人々の諸活動を理解している。
- ②調べたことを地図や文などにまとめ、関係機関は地域の安全を守るために相互に連携して緊急時に対処する体制をとっていることや、関係機関が地域の人々と協力して火災や事故・事件の発生防止に努めていることを理解している。

.....

【思考・判断・表現】

- ①施設・設備などの配置、緊急時への備えや対応などに着目して、問いを見だし、関係機関や地域の人々の諸活動について考え、表現している。
- ②連携・協力している関係機関の働きを比較・分類、または結び付けて、相互の関連や従事する人々の働きを考えたり、学習したことを基に地域や自分自身の安全を守るために自分たちにできることなどを考えたり選択・判断したりして、表現している。

.....

【主体的に学習に取り組む態度】

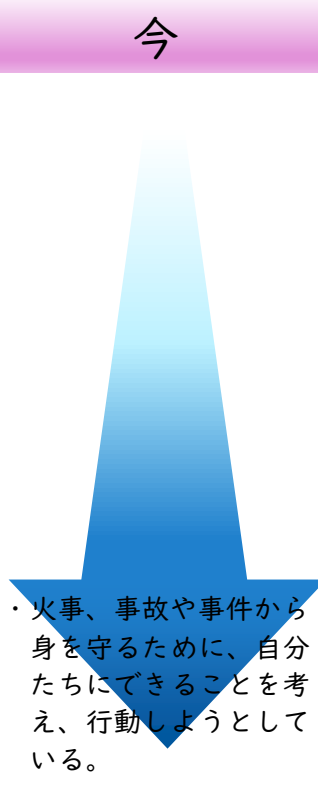
- ①火災や事故・事件から地域の安全を守る働きについて、予想や学習計画を立てたり、見直したりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。

7 児童及び教材について

(1-1) 児童の実態 (○：成果 ▲：課題)

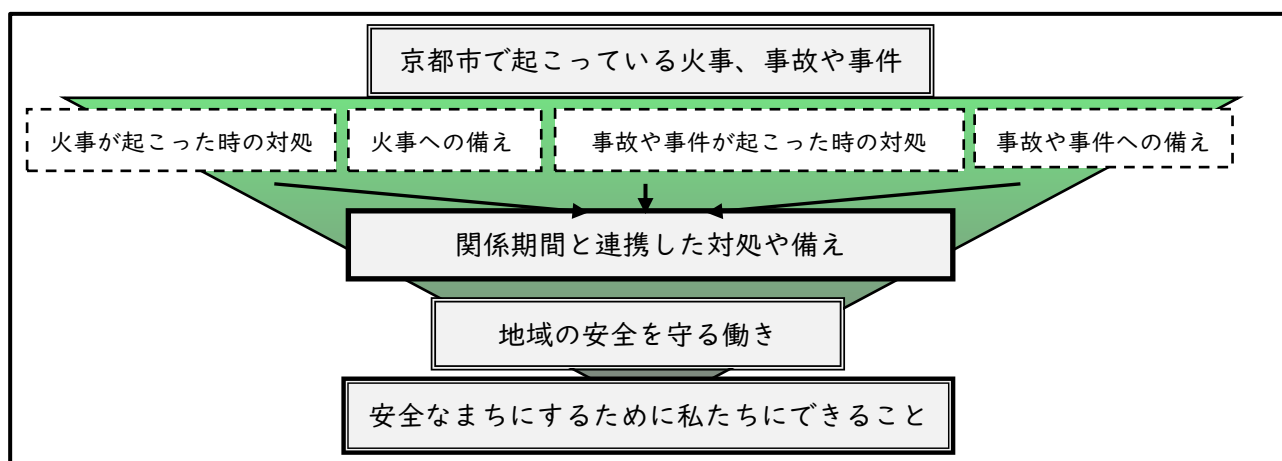
	学習内容や資質・能力に関わる児童の実態	児童の実態に対する具体的な手立てや支援
知識及び技能	○社会的事象について具体物を見聞きするだけではなく、写真等様々な資料を使いながら事実をとらえることができるようになった。 ▲資料から事実をとらえることがまだ十分でない子どももいる。	見学メモや写真を中心資料として活用し、読み方を確認したり子どもたち同士で話し合ったりする機会を十分設けるようにする。
思考力・判断力・表現力	○生活経験や既習事項と比較したり様々な事象を関連付けたりし、学習問題を設定することができるようになってきた。 ○調べた事実を基に人々の工夫、おもい等、社会的事象の意味について考えることができるようになってきた。 ▲予想をもとにどのようなことを調べるべきか、よりよく「問い化」できる子どもが少ない。	予想を立てるときの大事な様相は何かを確認しながら予想を立てるように声掛けする。また、予想をグループ化して整理しながら板書することで、自分たちは何がわかっていないのか、何を調べたらよいのかをとらえることができるようにする。
学びに向かう力・人間性	○社会的事象と自分たちの生活がつながっていることを理解できるようになってきた。 ▲資料の情報量が多いと、読み取ることをあきらめてしまう児童がいる。	

(1-2) 今を見て先を見通す子どもの姿

	『今』を見ている 子どもの姿	『先』を見通している 子どもの姿	これから社会へ向かう 子どもの姿
学習問題の設定場面	・京都市では火事、事故や事件がいろいろなところで起っていることが分かる。 ・一方で自分たちの身の回りではあまり火事、事故や事件は起っていないことに気づく。	・京都市のいろいろなところで火事、事故や事件が発生しているのにも関わらず、自分たちの身の回りではあまり起っているのを見たことがないという経験から学習問題を設定している。	 今
見通しの場面	・火事、事故や事件の写真等の掲示資料から学習問題の予想を立てている。 ・予想を分類し、火事、事故や事件が起こったときは誰がどのようなことをしているのか、どのように火事、事故や事件を防いでいるのか等の視点で「問い化」している。	・火事、事故や事件の対処や予防の仕方等について、「何から調べたらよいか」「どうやって調べたらよいか」「どのくらいの時間をかけて調べたらよいか」等、よりよく問題解決できる方法について見通しをもったり、考えたりしながら学習計画を立てている。	
調べる場面	・「火事が起こった時の対処、火事の備え」「事故や事件が起こった時の対処、事故や事件の備え」等について計画に従って資料を選択して調べたり、さらに必要な資料を請求したりしている。 ・同じ問いを調べた他者と交流し、情報を広げたり整理したりしている。	・火事、事故や事件が減ってきている理由について考え、さらに調べようとしている。 ・火事、事故や事件の対処と備えについて調べる中で、共通点などを見つけ、さらなる問いを見出している。	
			先

(2) 教材について

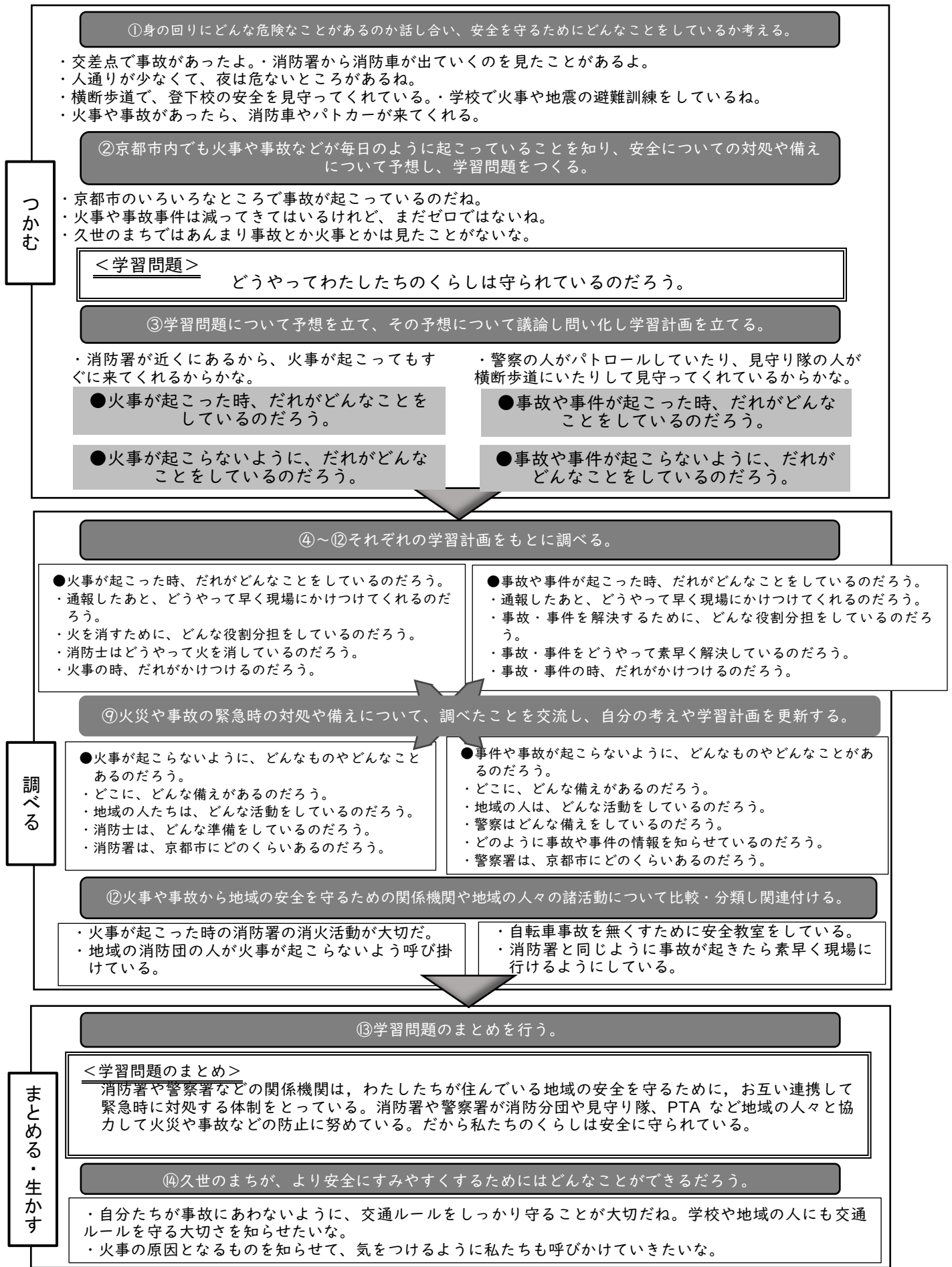
本教材を整理すると、次のようにとらえることができる。



京都市の令和7年の火災発生件数は220件、交通事故発生件数は2312件である。京都市事故発生マップを見てみると、いろいろなところで事故が起こっていることが分かる。みんなで「火事、事故や事件について知っていること」を出し合うと、「火事が起きたら消防車が水を出して消す。」や「交通事故のときは警察が来る。」など、自分たちが知っていることや生活経験から様々な意見が出てくるだろう。そこで「こんなに京都市のいろいろなところで火事、事故や事件が起こっているけれど、久世の町ではどうかな。」と問うと、「そういえばあんまり見たことがないな。」「久世は安全な町なのかな。」などの意見が出てくると考えられる。そうした中で「どうやってわたしたちのくらしは守られているのだろう。」という学習問題を立て、調べていく。

安全を守る働きには、「消防署や警察署などの素早い対処」「関係機関との連携」「消防団や見守り隊などの地域の人々の関わり」「施設や設備」がある。そうした働きに目を向けるために、火事や事故や事件の写真や絵を見ながら学習問題について予想をし、それらを問い化して学習計画を作り調べを進めていく。調べを進めていく中で、火事の対処や事故や事件の対処、火事に対する備えや事故や事件に対する備えにはそれぞれ共通点や相違点があることに気づくだろう。そうした共通点や相違点などを図に表しながらまとめることで、安全を守る働きには様々な人々や機関が連携することが大切ということに気づいてほしい。そして、自分たちの安全は誰かに守られるだけでなく、自分も町の安全を守る一員であることを実感することができるようにしていく。

8 単元構想図（全14時間）



9 単元計画（14時間）

学習 過程	○主な学習活動 ・児童の反応 ●調べる問い	□支援◇留意点【評価】
つかむ	①○身の回りにどんな危険なことがあるのか話し合い、安全を守るためにどんなことをしているか考える。 ・火事が起こるとき、まちは安全ではないね。 ・火事が起こったら、消防車が来て火を消してくれるよ。 ・ニュースで事故が起きたところを見たことがあるよ。パトカーや救急車がたくさん止まっていたな。	□火事や事故・事件の写真を出すことで、自分たちが知っていることを視覚的に想起できるようにする。 【態①】 身の回りにどんな危険なことがあるかを、積極的に考えている。（発言・ノート）
	【壹の矢】 □京都市内のいろいろなところで火事や事故・事件が起こっているにも関わらず、自分たちの身の回りではあまり火事や事・事件が起こっているのを見たことがないという経験から学習問題を設定することができるようにする。 ②○京都市内でも火事や事故などが毎日のように起こっていることを知り、安全についての対処や備えについて予想し、学習問題をつくる。 ・京都市内のいろいろなところで事故が起こっているのだね。 ・火事や事故・事件は減ってきているけれど、ゼロではないね。 ・ニュースでは見たことがあるけれど、久世のまちでは事故や火事は見たことがあんまりないな。	□京都府警交通事故発生マップや、京都市消防局の火災統計の資料から京都市内の火事や事故・事件の状況を知ることができるようにする。 【思①】 見つけた事実や資料から問いを見出している。（ノート）
	<学習問題> どうやってわたしたちのくらは守られているのだろう。	
つかむ	【貳の矢】 □どうやって私たちのくらは守られているのだろうという学習問題について、「誰がどのようにして火事や事故や事件を防いでいるのだろう」「火事や事故や事件が起こった時、誰がどのようなことをしているのだろう。」と問い化した問いを基に学習の見通しをもてるようにする。	□学習問題について予想し、その予想を分類することで、問い化できるようにする。 ◇調べる時間の配分や方法について見通しをもつように声掛けをする。
	③○学習問題について予想を立て、その予想について議論し問い化し学習計画を立てる。 ・火事が起こったら、すぐに消防車が来て消防士の人が火を消してくれる。 ・小さな火なら消火器で消えると思う。 ・事故が起きたら110番したら警察がきてくれる。 ・事故や事件が起らないように、警察の人がパトロールしてくれたり、見守り隊の人が見守ってくれたりしている。	【態①】 火事や事故や事件の対処や備えについて予想している。（発言・ノート）

【参の矢】

調べる

- 誰がどのようにして火事や事故や事件が起こらないようにしてくれているの。
- 火事や事故や事件が起こった時、誰がどのようなことをしているの。

☐火事の対処や備え、事故や事件の対処や備え等、子どもたちが資料を選択して調べるようにする。

☐それぞれが調べている内容を色別の紙に書いていき、内容を整理しながらまとめることができるようにする。

④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫

○それぞれの学習計画をもとに調べる。

●火事が起きたとき、だれがどんなことをしているのだろう。
・消防士がすばやく出動。
・関係機関との連携。
・消防団の人や警察の人が周りの安全を守る

●火事が起こらないように、どんなものやどんなことがあるのだろう
・消防士や消防団の人が、火事の予防の呼掛け。
・火災報知機や防火設備の設置。

●事故や事件が起きたとき、だれがどんなことをしているのだろう。
・110番をしたら、警察がすぐに駆けつける。
・けが人がいたら、救急車が来る。

●事故や事件が起こらないように、どんなものがあるのだろう。
・道路標示や標識がいたるところにある。
・警察のパトロールや見守り隊の人の見守り。

○調べたことを交流し、自分の考えや学習計画を更新する

- 事故や事件を防ぐために、地域にはいろいろな標示や標識があることが分かった。カエルマークはどこにあるのか確かめたい。
- 火事が起きていないとき消防士の人には訓練をしているのが分かったけど、どんな訓練をしているのかももっと詳しく調べてみたい。

- 火事、事故や事件が起きた時や起こらないようにするために、他にはどんなことをしているのだろう。
・カエルマークは、道の分かれ道に書かれているから、ここでは止まるということを意識できる。
・学校の教室には必ず火災報知器がついていて、火事にすぐ気づけるようにしている。

☐調べることに難しさを感じている子どもには、何を調べるのかを確認したり、資料の見方を伝えたりしながらどのようなことがわかるかを確認して調べられるようにする。

【知①】

火事、事故や事件の対処や備えについて調べている。
(色別カード)

【貳の環】

☐調べの途中に、調べた内容や考えたことを交流することで、さらに追究したい問いや学習計画の調整を適宜促す。

【態①】

見通しを振り返り、学習内容を調整している。(ノート)

【知①】

火事、事故や事件の対処や備えについて調べている。
(色別カード)

まとめる・いかす	⑬学習問題のまとめを行う。 <学習問題のまとめ> 消防署や警察署などの関係機関は、わたしたちが住んでいる地域の安全を守るために、お互い連携して緊急時に対処する体制をとっている。また、消防署や警察署が消防団や見守り隊、PTA など地域の人々と協力して火災や事故などの防止に努めている。だから私たちのくらしは安全に守られている。	【知②】 関係機関は地域の安全を守るために相互に連携して緊急時に対処する体制をとっていることや、関係機関が地域の人々と協力して火災や事故・事件の発生防止に努めていることを理解している。 (ノート) □これまでの学習でまとめた色別カードを振り返ることで、書くことができるようにする。
	⑭○久世のまちがもっと安全になるために、自分たちにできることは何かを考える。 ・まずは自分たちが事故にあわないように、交通ルールをしっかり守りたい。そして学校や地域の人にも交通ルールを守る大切さを知らせて、事故のない久世のまちを目指したい。 ・火事の原因になるものを知らせたら、火事が起きにくくなると思う。消防団や消防署人たちのようにわたしたちも呼掛けをしていきたい。	【思②】 火事、事故や事件が起こらないように自分たちにできることを考え、表現している。 (発言・ノート) 【式の環】 ☐久世のまちを安全なまちにしていくために、いろいろな視点から自分たちにできることを考えている児童を見取り、意図的に指名することで他の子どもに考える視点を広げる。

【式の環】

- ☐教科書や副読本などの資料から必要な情報を読み取ったり、見学やインタビューを通して情報を集めたりすることができる。
- ☐問いについて、どの順番で調べるかを見通すことができる。
- ☐調べたことを交流する中で、もっと知りたいことを見出すことができる。

10 本時の学習（本時9／14）

（1）本時の目標

これまでに調べてきたことを友達に伝える活動を通して、学習計画を見直したり、自分の学びを更新したりすることができるようにする。

（2）本時の展開

学習活動 ○主な発問等 ・児童の反応	□支援 ◇留意点 ■資料 【評価】
1 これまでの調べで分かったことをもとに中間交流をすることを確認し、交流の目的を話し合い、本時のめあてをつくる。 ○今日の中間交流では、どんなことができるというですか。 ・友達がどんなことを調べているのか聞きたいです。 ・友達がどんな資料を見て調べているのか聞きたいです。 ・さらに気になることや調べてみたいことを見つけたいです。 （本時のめあて） これまで調べてきたことを交流し、自分の考えや学習計画をアップデートしよう。 2 これまでに調べてきたことを交流する。 ・火事が起きた時は、119番通報をすると消防士が7分くらいで到着して火を消してくれる。全国よりは早いけど、7分もあつたら燃え広がってしまうから、初期消火が大切だと思ったよ。 ・消防団は地域の人々がやっているということが分かった。これまではずっと消防士の人だと思っていたけれど、消防団は仕事としてではなく、地域の安全のためにやってくれているということを知って驚いたな。 ・110番通報したら、通信指令センターにつながって、そこからいろいろな機関に連絡がいくことが分かったよ。火事の時も119番通報したら消防指令センターにつながって、まとめていろいろなところに連絡をしていたね。 ・学校の中には、火事を防ぐために消火器や消火バケツなどがいろんなところに置いてあったよ。プールの水がずっと溜まっているのは、消火のために使われるからだだったなんて初めて知ったよ。	◇児童が中間交流で何ができるとよいか見通しをもつことができるようにするために、事前に中間交流を行うことを知らせておくようにする。 ◇ここで考えているアップデートとは、個の学びの見方・考え方を更新する場である。 □教室を「火事の対処」「火事の備え」「事故や事件の対処」「事故や事件の備え」の4つに区切り、自分が交流したいところに行けるようにする。 □友達との交流の際には、調べて分かったことだけでなく、そこから考えたことについても交流できるようにする。

3 交流をふり返り、自分の考えや学習計画をアップデートする。 ・教科書の図よりも、警察署のホームページの方が分かりやすかった。私ももう一度ホームページで調べ直したい。 ・交通標識や標示のことは調べていたけれど、カエルマークは地域の人が書いていたということが知らなかった。なぜカエルマークを書いているのか地域の人に聞いてみたい。 ・火事が起こった時に通報したら 7 分で消防士の人に来てくれるのは早いと思っていたけれど、早くないと思っている人もいた。確かに、7 分何もしなければ火が広がってしまうと思ったから、消防士の人が到着するまでにどうしたらいいかもっと調べてみたい。	◇友達との交流を通して、新たに知りたくなったことやもっと深く知りたくなったこと、自分の考えの変容をふり返るよう指示する。 ◇自分の考えや学習計画がどう更新されたかをノートに記録したり、発表したりすることで、クラス全体で共有することができるようにする。 【態度—①】 火災や事故・事件から地域の安全を守る働きについて調べたことを交流し、学習計画を見直し、学習問題についてより深く追求しようとしている。(発言・ノート)
--	---

(3) 板書計画

これまで調べてきたことを交流し、自分の考えや学習計画をアップデートしよう。

【火事が起こった時】

- ・
- ・
- ・

【火事が起こらないように】

- ・
- ・
- ・

【事故や事件が起こった時】

- ・
- ・
- ・

【事故や事件が起こらないように】

- ・
- ・
- ・

ふり返り

(4) 本時の評価

観点	評価規準
【態度—①】	火災や事故・事件から地域の安全を守る働きについて調べたことを交流し、学習計画を見直し、学習問題についてより深く追求しようとしている。
おおむね満足できる子どもの具体的な姿 ・火事が起こっていない時に、消防士の人には訓練をしていることは調べていたけれど、どんな訓練をして いるかもっと調べてみたい。 ・事故や事件が起こらないように、地域の人がかエルマークをかいていることが分かった。校区の どんなところにあるのか確かめてみたい。	

(5) 本時のふり返りの視点

ふり返りの視点	指導者の働きかけ
⑦次の学習につなげるためにふり返る。	自分が調べたことを友達と交流して、さらに調べたくなったことは何でしょう。それはどうすれば調べられそうですか。

本時では次の学習につなげるためにふり返る。これまで児童は消防署の見学をしたり、消防団や見守り隊の人へのインタビューをしたり、教科書やパンフレットで調べたりなど同じ資料や方法を使って調べ学習をしてきている。しかし、同じ資料や方法でも、児童によって調べる内容の深さや見方は違うと考えられる。本時では、子どもたちが互いに調べたことを共有したり、新たに調べたいことやもっと深く調べたいことなどをふり返ったりすることで、学習問題への更なる追究意欲をもつことができるようにする。

◆◆◆ 3年部会 成果と課題 ◆◆◆

壺の矢：質の高い学習問題

【わたしたちのくらしとはたらく人々「工場でつくられるもの」】では、京都市で人気のお土産の生八つ橋と京ばあむを実際に観察して気づいたことを出し合いながら学習問題をつくる活動を設定した。

- ・生八つ橋の皮はもちもちしていて、片手でめくれないほど柔らかい。
 - ・京ばあむは生地がふわふわしていていい匂いだった。
 - ・緑は抹茶かな。白いところは何だろう。
- など、実物を見たり触ったりして気づいたことや疑問に思ったことを出し合っていた。

そして、この生八つ橋は1時間に1万個、京ばあむは1日に1万個、地域の工場で作られていることを知り、「美十ではどのようにして生八つ橋と京ばあむをたくさんつくっているのだろう。」という学習問題を設定することができた。



貳の矢：明確な見通し

単元の学習問題に対する予想を立て、それらを問い化する活動を行った。3年生の子ども達は予想から問い化する経験が少ないため、学習問題について予想した後、それらを分類し、名前をつけていくことを板書で整理しながら行うことで、調べる学習に見通しをもつことができたと思う。

参の矢：充実した調べる学習

【わたしたちのくらしとはたらく人々「商店のはたらき」】では、「なぜたくさんのお客さんが大塚地域の人がマツヤスーパーに行くのだろう」という単元の学習問題について調べる活動を行った。実際にマツヤスーパーに見学に行ったり、店長の方やお客さんにインタビューしたりしながら



調べる学習を進めた。

児童同士が協働的な調べ学習を行うことで、子ども達は「マツヤスーパーがお客さんに来てもらうための工夫」と「お客さんの願い」を繋げながら考えることができたのではないかと考える。



壺の環：系統立てて育む力の整理

昨年度の課題から、「疑問に思った視点についての予想をもとに問い化する」という活動に焦点を当てた。予想を分類する方法を工夫したり、問い化の支援を充実させたりして取り組んできた。経験を積むことで問い化の力はついてきたように感じるので、このまま継続して取り組んでいきたい。

貳の環：持続可能な評価

まとまった時間をとって調べる活動を行うことで、指導者が即時的な評価を行うことができた。支援の必要な子ども達に十分なサポートを行い、それにより調べる内容の質を高めることができた。

ふり返りの場面では、指導者がふり返りの視点を提示することで今日の学びを整理したり次の学習の見通しをもったりすることができた。今後は子ども自身がふり返しを見返しながら、学びの調整に生かせるように働きかけたい。

課題：全国大会へ向けて

- ・単元によって「なぜ」で問うより「どのようにして」や「どうやって」の問いの方が自然な場合もある。子ども達の素朴な疑問を大切に、調べたいと思うような問いの設定について考えていく必要がある。
- ・引き続き「疑問に思った視点についての予想をもとに問い化する」に焦点を当て、継続して取り組んでいきたい。そして「子どもが調べ考える社会科学習」のよりよい姿に迫ることができるよう、自他に問い続けていく姿の育成を目指して研究を進めていきたい。

4年部会 実践記録

社会科学学習指導案

指導者 京都市立大塚小学校

勝部 順也

- 1 日 時 令和7年6月27日(金) 第5校時(14:00~14:45)
- 2 学 級 第4学年1組(26名)
- 3 場 所 4年1組教室
- 4 単元名 「くらしとごみ」

5 単元の目標

ごみを処理する事業について、処理の仕組みや再利用、府内外の人々の協力などに着目して、見学・調査したり地図などの資料で調べたりしてまとめ、ごみの処理のための事業の様子を捉え、その事業の果たす役割を考え、表現することを通して、ごみを処理する事業は、衛生的な処理や資源の有効利用ができるよう進められていることや、生活環境の維持と向上に役立っていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決し、学習したことを基にごみの減量など自分たちが協力できることを考えようとする態度を養う。

6 単元の評価規準

【知識・技能】

- ① 処理の仕組みや再利用、府内外の人々の協力などについて見学・調査したり地図などの資料で調べたりして、必要な情報を集め、読み取り、ごみの処理のための事業の様子を理解している。
- ② 調べたことを白地図や図表、文などにまとめ、ごみを処理する事業は、衛生的な処理や資源の有効利用ができるよう進められていることや、生活環境の維持と向上に役立っていることを理解している。

.....

【思考・判断・表現】

- ① 処理の仕組みや再利用、府内外の人々の協力などに着目して、問いを見いだし、ごみの処理のための事業の様子について考え、表現している。
- ② ごみを処理する仕組みや人々の協力関係と地域の良い生活環境を関連付け、ごみの処理のための事業の果たす役割を考えたり、学習したことを基に、ごみを減らすために自分たちが協力できることを考えたり選択・判断したりして、表現している。

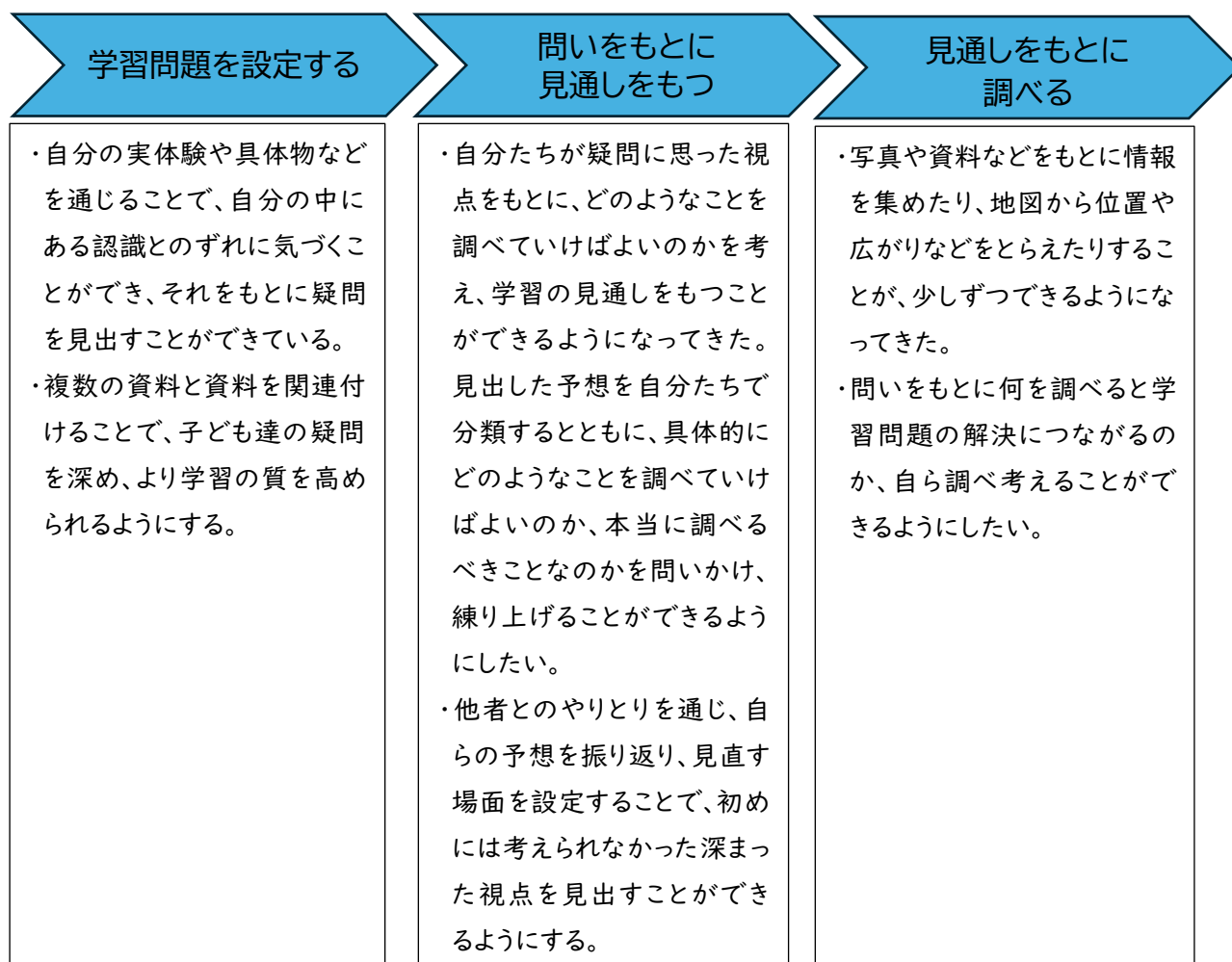
.....

【主体的に学習に取り組む態度】

- ① ごみを処理する事業について、予想や学習計画を立てたり、見直したりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。
- ② 学習したことを基に、ごみを減らすために自分たちが協力できることを考えようとしている。

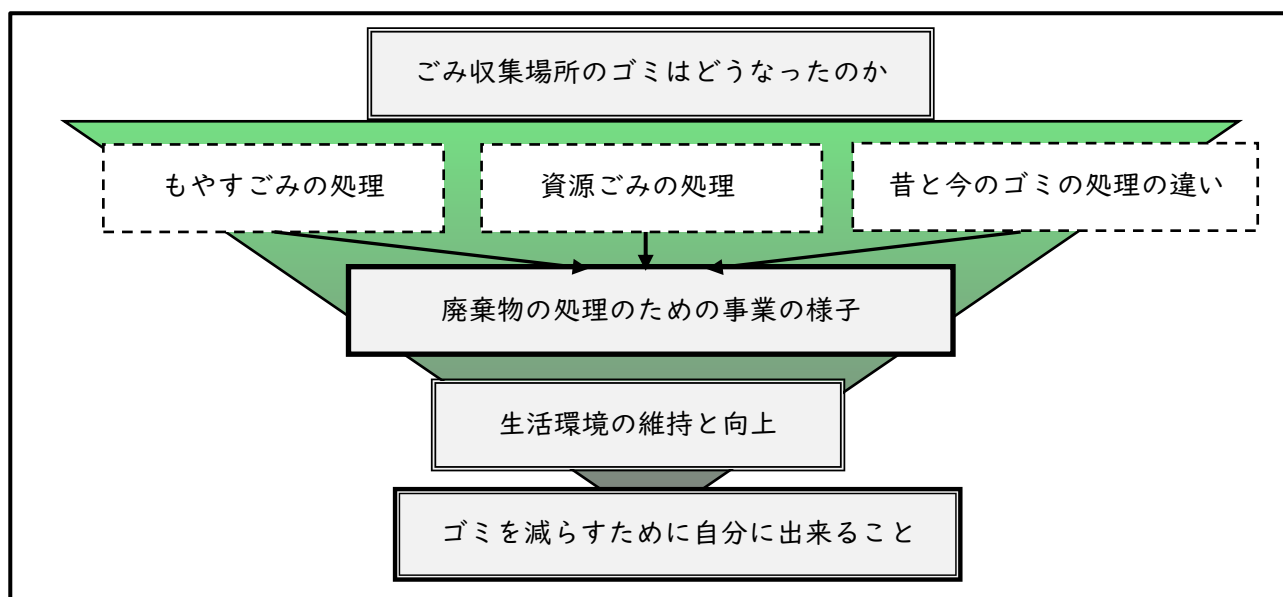
7 児童及び教材について

(1) 児童の実態とめざす姿



(2) 教材について

本教材を整理すると、次のように捉えることができる。



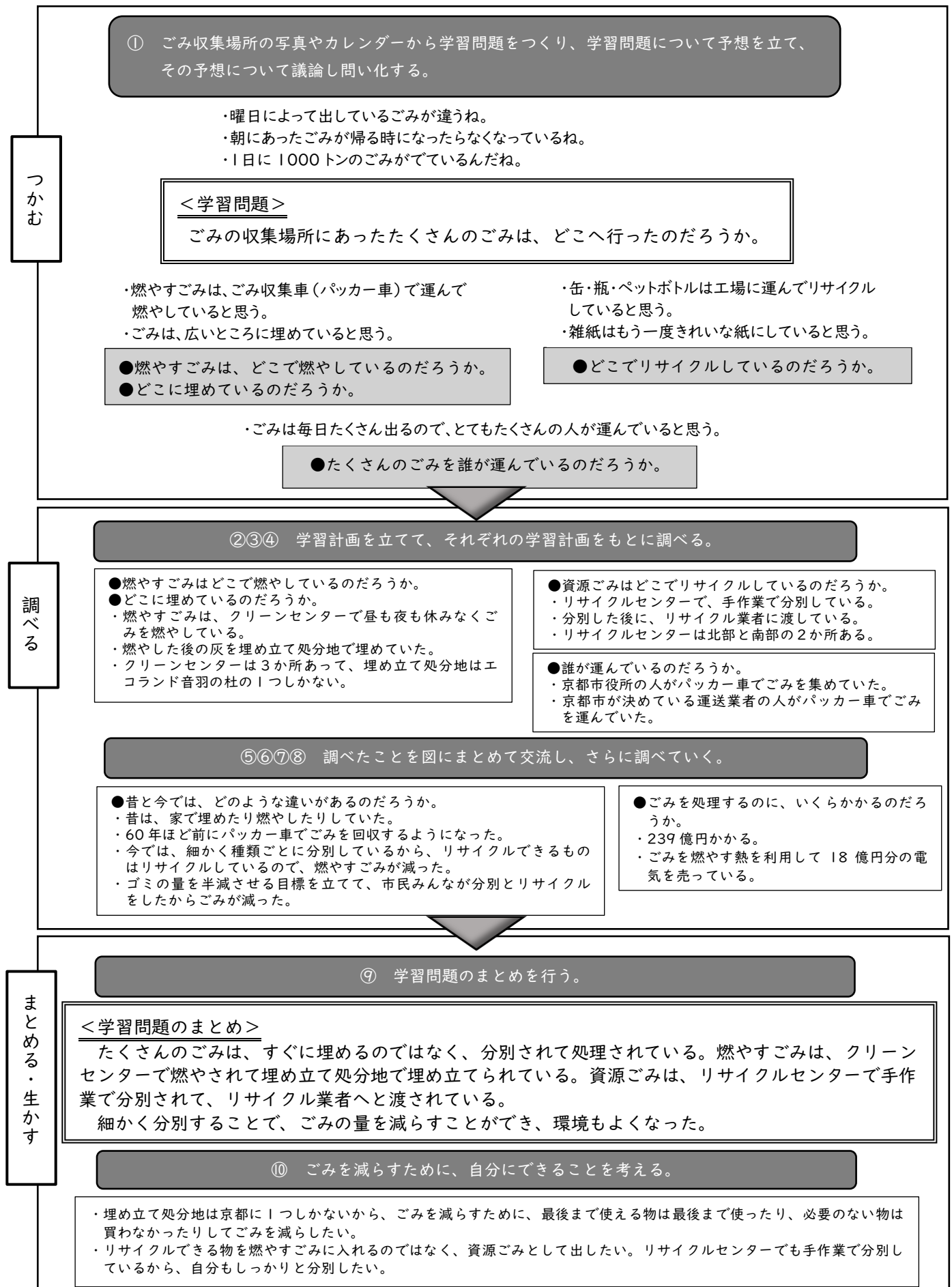
京都市で昨年出たごみの量は 36.5 万トンであり、その内容はもやすごみと、さまざまな種類の資源ごみとなっている。もやすごみも資源ごみも、ごみの出し方や収集場所・収集時間が決められており、そのきまりを守ることで、安全に確実にゴミ収集が行われている。

もやすごみは、ゴミ収集場所で回収された後、それぞれを管轄するクリーンセンターへ運ばれ焼却処分されている。クリーンセンターでは、空気や水を汚さず、ごみを衛生的に処理することが出来る。しかし、そのごみの量は多く、昼も夜も休みなくごみを燃やしており多額の費用も掛かっている。燃やすごみの中に混入されている資源ごみを取り出すことで、ごみの量を減らすことに繋がり費用を抑えることが出来る。そして燃やした後の灰は京都市の埋め立て処分地であるエコランド音羽の杜と、大阪湾大阪湾フェニックスセンターへ運び込まれ処分されている。

資源ごみは、ごみ収集場所で回収された後、リサイクルセンターなどの中間処理施設で分別や処理された後、全国各地のリサイクル業者へと渡され適切な処理で、さまざまなものにリサイクル・再利用（リユース）されている。

100 年前は少量で種類も少なかったゴミは、庭に埋めていた。その後、地域の人々の日常生活において、大量で多様な廃棄物が排出されていることになり、その時代時代の状況に合わせて少しずつ収集の方法や分別の仕方を変えてきた。こうして、現在に至るまでに衛生的に処理する仕組みがつくられ計画的に改善されてきた。その結果、地域の公衆衛生が向上し、人々の生活環境が維持・向上してきた改善されてきた。

8 単元構想図（全10時間）



9 単元計画（10時間）

学習 過程	○主な学習活動 ・ 児童の反応	【評価規準】 (評価方法)
つかむ	<u>○家と学校でよく出るごみについて考える。</u> ・おかしのごみ ・生ごみ ・ティッシュのごみ ・ほこり ・紙のごみ ・ストロー ・えんぴつ削りのごみ ・ティッシュのごみ ① <u>○ごみ収集場所の写真やカレンダーから学習問題をつくり、学習問題について予想を立て、その予想について議論し問い化する。</u> <u><学習問題></u> ごみの収集場所にあったたくさんのごみは、どこへ行ったのだろうか。 ・燃やすごみは、ごみ収集車（パッカー車）で運んで燃やしていると思う。 ・ごみは、広いところに埋めていると思う。 ・缶・瓶・ペットボトルは工場に運んでリサイクルしていると思う。 ・雑紙はもう一度きれいな紙にしていると思う。 ・ごみは毎日たくさん出るので、とてもたくさんの人が運んでいると思う。 ●燃やすごみは、どこで燃やしているのだろうか。 ●どこに埋めているのだろうか。 ●どこでリサイクルしているのだろうか。 ●たくさんのごみを誰が運んでいるのだろうか。	<u>【思①】</u> 処理の仕組みや再利用、府内外の人々の協力などに着目して、問いを見いだし、ごみの処理のための事業の様子について考え、表現している。 <u>【態①】</u> ごみを処理する事業について、予想や学習計画を立てたり、見直したりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。 (発言・ノート)
調べる	<u>②③④ 学習計画を立てて、それぞれの学習計画をもとに調べる。</u> ●燃やすごみはどこで燃やしているのだろうか。 ●どこに埋めているのだろうか。 ・燃やすごみは、クリーンセンターで昼も夜も休みなくごみを燃やしている。 ・燃やした後の灰を埋め立て処分地で埋めていた。 ・クリーンセンターは3か所あって、埋め立て処分地はエコランド音羽の杜の1つしかない。 ●資源ごみはどこでリサイクルしているのだろうか。 ・リサイクルセンターで、手作業で分別している。 ・分別した後に、リサイクル業者に渡している。 ・リサイクルセンターは北部と南部の2か所ある。 ●誰が運んでいるのだろうか。 ・京都市役所の人がパッカー車でごみを集めていた。 ・京都市が決めしている運送業者の人がパッカー車でごみを運んでいた。	<u>【知①】</u> 処理の仕組みや再利用、府内外の人々の協力などについて見学・調査したり地図などの資料で調べたりして、必要な情報を集め、読み取り、ごみの処理のための事業の様子を理解している。 (ノート)

	⑤⑥⑦⑧ ○調べたことを図にまとめて交流し、さらに調べていく。 ○人口は変わっていないのに、ごみの量は増えたり減ったりしている 2つのグラフを読み取る。 ●昔と今では、どのような違いがあるのだろうか。 ・昔は、家で埋めたり燃やしたりしていた。 ・60年ほど前にパッカー車でごみを回収するようになった。 ・今では、細かく種類ごとに分別しているから、リサイクルできるものはリサイクルしているので、燃やすごみが減った。 ・ゴミの量を半減させる目標を立てて、市民みんなが分別とリサイクルをしたからごみが減った。 ●ごみを処理するのに、いくらかかるのだろうか。 ・239億円かかる。 ・ごみを燃やす熱を利用して18億円分の電気を売っている。	【思②】 ごみを処理する仕組みや人々の協力関係と地域の良い生活環境を関連付け、ごみの処理のための事業の果たす役割を考えたり、学習したことを基に、ごみを減らすために自分たちが協力できることを考えたり選択・判断したりして、表現している。 (ノート)
まとめる・生かす	⑨ ○学習問題のまとめを行う。 <u><学習問題のまとめ></u> たくさんのごみは、すぐに埋めるのではなく、分別されて処理されている。燃やすごみは、クリーンセンターで燃やされて埋め立て処分地で埋め立てられている。資源ごみは、リサイクルセンターで手作業で分別されて、リサイクル業者へと渡されている。 細かく分別することで、ごみの量を減らすことができ、環境もよくなった。 ⑩ ○ごみを減らすために、自分にできることを考える。 ・埋め立て処分地は京都に1つしかないから、ごみを減らすために、最後まで使える物は最後まで使ったり、必要のない物は買わなかったりしてごみを減らしたい。 ・リサイクルできる物を燃やすごみに入れるのではなく、資源ごみとして出したい。リサイクルセンターでも手作業で分別しているから、自分もしっかりと分別したい。	【知②】 調べたことを白地図や図表、文などにまとめ、ごみを処理する事業は、衛生的な処理や資源の有効利用ができるように進められていることや、生活環境の維持と向上に役立っていることを理解している。 (発言・ノート) 【態②】 ごみを処理する仕組みや人々の協力関係と地域の良い生活環境を関連付け、ごみの処理のための事業の果たす役割を考えたり、学習したことを基に、ごみを減らすために自分たちが協力できることを考えたり選択・判断したりして、表現している。 (発言・ノート)

10 本時の学習（本時1／10）

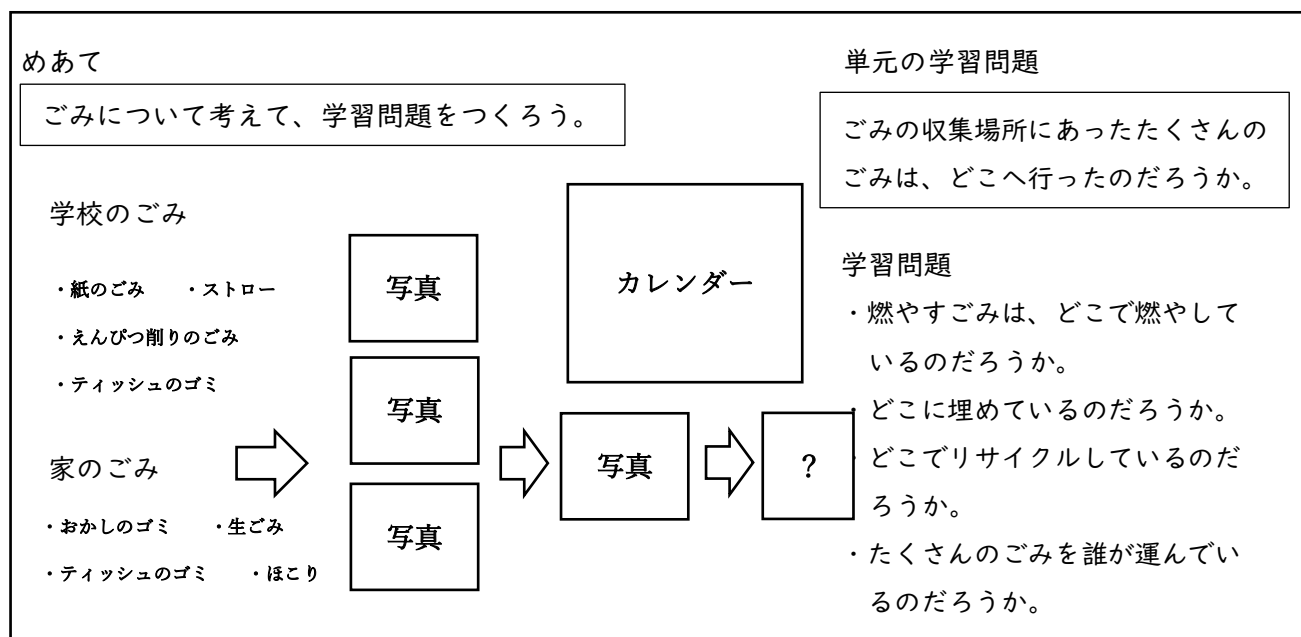
（1）本時の目標

ごみの収集場所の写真やカレンダーから単元の学習問題を考え、学習問題について予想を立て、その予想について議論し問い化する。

（2）本時の展開

学習活動 ○主な発問等 ・児童の反応	□支援 ◇留意点 ■資料 【評価】
1 身近なごみについて話し合う めあて ごみについて考えて学習問題をつくろう。 2 大塚の校区にある、ごみ収集場所の写真やごみ収集カレンダーを提示して単元の学習問題をつくる。 <単元の学習問題> ごみの収集場所にあったたくさんのごみは、どこへ行ったのだろうか。	■ごみ収集場所の写真 ■ごみ収集カレンダー
3 グループで予想を出し合う。 ・燃やすごみは、ごみ収集車（パッカー車）で運んで燃やしていると思う。 ・ごみは、広いところに埋めていると思う。 ・缶・瓶・ペットボトルは工場に運んでリサイクルしていると思う。 ・雑紙はもう一度きれいな紙にしていると思う。 ・ごみは毎日たくさん出るので、とてもたくさんの人が運んでいると思う。 4 出てきた予想をもとに、グループで問いを考える。 ●燃やすごみは、どこで燃やしているのだろうか。 ●どこに埋めているのだろうか。 ●どこでリサイクルしているのだろうか。 ●たくさんのごみを誰が運んでいるのだろうか。 5 グループで出た問いを全体で共有する。	◇ロイロノートの共有ノートを使用し、違う色のテキストを使いながら、同じような予想をまとめていく。 ◇予想と問いが区別できるように、子ども達の予想はそれぞれの色のテキストに書き、問いは白のテキストに書く。 ◇グループごとに出した問いで次時からの調べを始めるのではなく、全体で共有することで、同じゴールへと向かえるようにする。 【主体的に学習に取り組む態度①】 ごみを処理する事業について、予想や学習計画を立てたり、見直したりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。（発言・ノート）

(3) 板書計画



(4) 本時の評価

観点	評価規準
【主体的に学習に取り組む態度①】	ごみを処理する事業について、予想や学習計画を立てたり、見直したりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。
おおむね満足できる子どもの具体的な姿 ・燃やすごみは、ごみ収集車（パッカー車）で運んで燃やしていると思う。 → 燃やすごみは、どこで燃やしているのだろう。 ・ごみは、広いところに埋めていると思う。 → どこに埋めているのだろうか。 ・缶・瓶・ペットボトルは工場に運んでリサイクルしていると思う。 → どこでリサイクルしているのだろうか。 ☆グループでの話し合いの中で、率先して予想から問いをつくっている児童	

(5) 本時のふり返りの視点

ふり返りの視点	指導者の働きかけ
① 今後の見通し・予想についてふり返る	単元の学習問題をまとめるために、どの順番で調べますか。

本時では、単元の学習問題を考えて予想し問い化しているので、単元の答えをまとめるためにどの順番で調べていけば良いのかを考えて欲しい。また、グループ・全体交流でたくさんの問いが出てきた中から、調べるべきものを取捨選択する力を養ってほしいと考えている。

社会科学学習指導案

指導者 京都市立洛央小学校

山田 健太郎

1 日 時 令和7年10月22日（水） 第校時（14：30～15：15）

2 学 級 第4学年1組（33名）

3 場 所 4年1組教室

4 単元名 「昔から続く京都府の祭り～祇園祭～」

5 単元の目標

府内の伝統や文化について、歴史的背景や現在に至る経過、保存や継承のための取組などに着目して、見学・調査したり地図などの資料で調べたりして、年表などにまとめることで、府内の年中行事の様子を捉え、人々の願いや努力を考え、表現することを通して、府内の年中行事は、地域の人々が受け継いできたことや、それらには地域の発展など人々の様々な願いが込められていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決し、学習したことを基に地域の伝統や文化の保存や継承に関わって自分たちにできることを考えようとする態度を養う。

6 単元の評価規準

【知識・技能】

- ①歴史的背景や現在に至る経過、保存や継承のための取組などについて見学・調査したり地図などの資料で調べたりして、必要な情報を集め、読み取り、府内の年中行事の様子を理解している。
- ②調べたことを年表や文などにまとめ、府内の年中行事には地域の発展など人々の様々な願いが込められていることを理解している。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

【思考・判断・表現】

- ①歴史的背景や現在に至る経過、保存や継承のための取組などに着目して、問いを見だし、府内の年中行事の様子について考え、表現している。
- ②年中行事を保存したり受け継いだりしている人々の工夫や努力と地域の人々の願いを関連付けて、人々の願いや努力について考えたり、学習したことを基に地域の伝統や文化の保存や継承に関わって、自分たちにできることなどを考えたり選択・判断したりして、表現している。

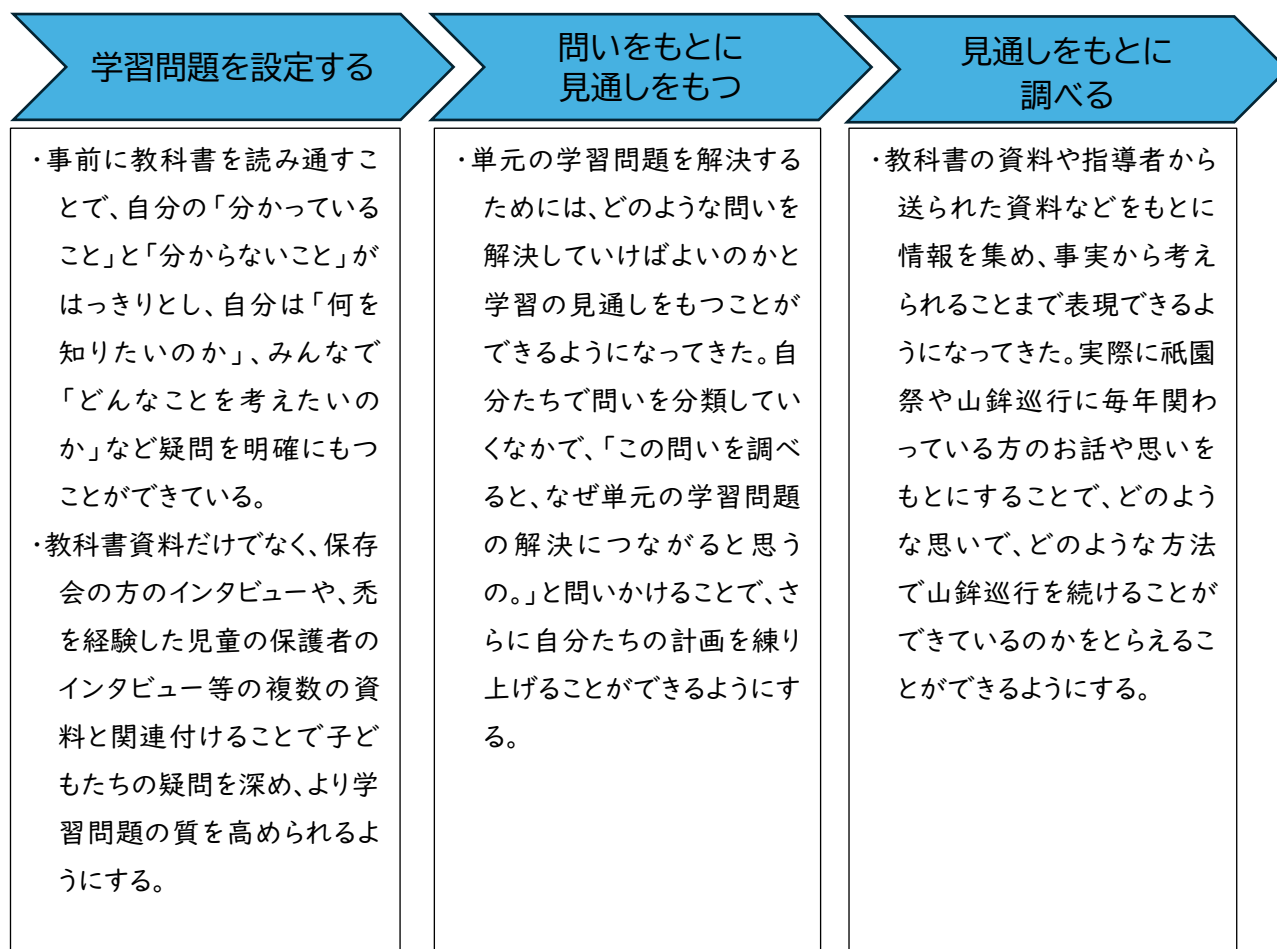
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

【主体的に学習に取り組む態度】

- ①府内の年中行事について、予想や学習計画を立てたり、見直したりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。
- ②学習したことを基に地域の伝統や文化の保存や継承に関わって、自分たちにできることなどを考えようとしている。

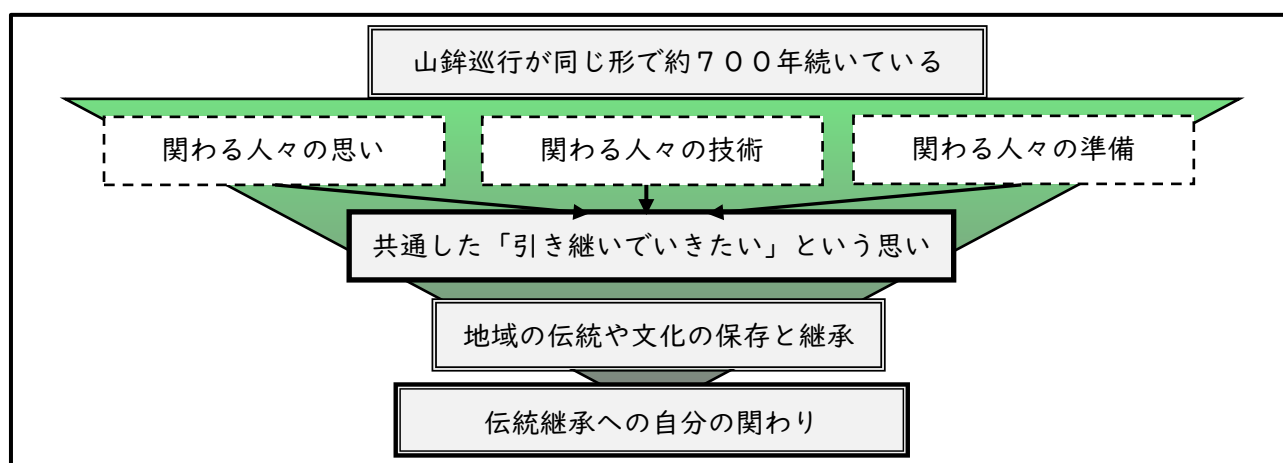
7 児童及び教材について

(1) 児童の実態とめざす姿



(2) 教材について

本教材を整理すると、次のように捉えることができる。

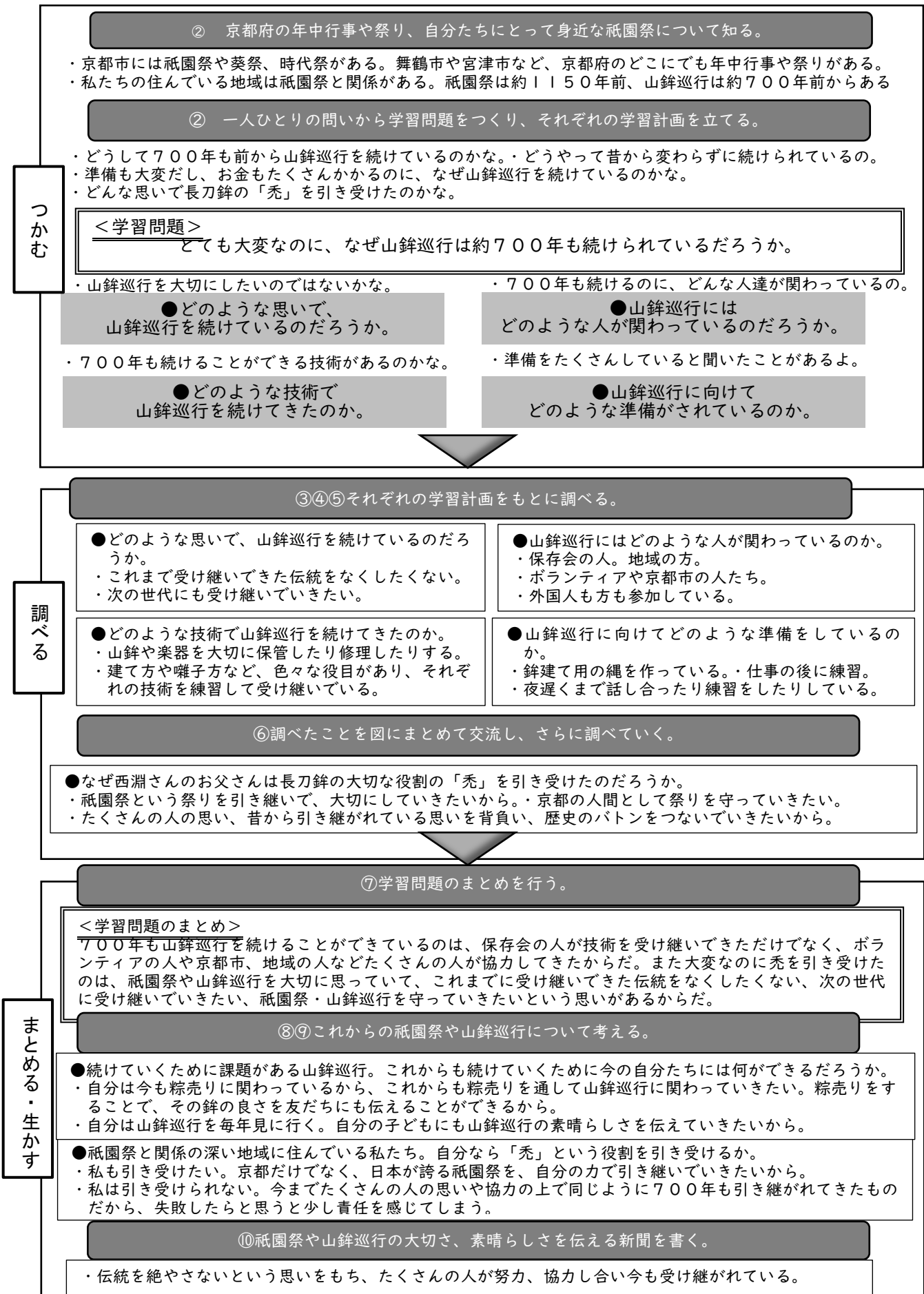


京都府にはどこにでもお祭りや年中行事がある。その中で一番観光客が訪れる祇園祭。祇園祭は約1150年前に病気や自然災害のない平和な世の中を願って始まった。祇園祭は1ヶ月にわたって行われ、その中で洛央小のある地域ととても関わりが深いのが山鉾巡行である。山鉾巡行は約700年も同じ形で引き継がれている。現在まで山鉾巡行を引き継ぐことができたのは、建て方・手伝い方・大工方・車方・囃子方・曳き手など様々な役目の伝統技術を保存会の方が守り、受け継いできたこと、保存会の方の「これからも続けていきたい、素晴らしさを伝えていきたい」という思

い、地域やボランティアの方の協力、警察や京都市の協力など、たくさんの人の協力と、「祇園祭・山鉾巡行を引き継いでいきたい」というたくさんの人の共通した思いがあるからだ。

祇園祭・山鉾巡行に深く関わりがある地域に住む本校の児童たち。そんな環境に生まれたからこそ、これから祇園祭・山鉾巡行にどのように関わり、伝統継承のために自分には何ができるのか、自分ならどうしていくのかを考える。本単元で扱う祇園祭・山鉾巡行が昔から大切にされてきた伝統であり、これからも大切に継承していくべき存在であることを理解し、京都市に住む一人として、その祇園祭・山鉾巡行と自分との関わりを考えることができるようにしていく。

8 単元構想図（全10時間）



9 単元計画（10時間）

学習 過程	<u>○主な学習活動</u> ・ 児童の反応	【評価規準】 (評価方法)
つかむ	① <u>○写真や資料から、京都府の祭りや年中行事について知る。</u> ・京都市には祇園祭、葵祭、時代祭や五山の送り火があるね。 ・京都府のどこにでも祭りや年中行事があるね。 <u>○自分たちに身近な祇園祭や山鉾巡行について知る。</u> ・祇園祭は約1150年、山鉾巡行は約700年前からあるのだね。 ・祇園祭は病気や自然災害のない平和の世の中を願って始まった。 ・山鉾巡行を行うのに、そんなに多くのお金と人がいるのだね。 ・準備も大変だと聞いたことがあるよ。 ・長刀鉾の「禿」は、これだけ重要な役割なのだね。	【知①】 京都府中に祭や年中行事があることや、祇園祭について理解している。 (発言・ノート)
	② <u>○それぞれの問いをもとに学習問題をつくり、学習計画を立てる。</u> ・どうして準備が大変なのに、同じ形で山鉾巡行を続けることができるのかな。 ・700年もどうやって山鉾巡行を続けてきたのかな。 ・なぜ中止したたこともあるのに、再び続けられているのかな。	【思①】 祇園祭や山鉾巡行についての資料から問いを見出している。(発言・ノート)
	<学習問題> とても大変なのに、なぜ山鉾巡行は約700年も続けられているだろうか。	
	・祇園祭や山鉾巡行を大切にしていきたいと思っているからかな。 ・700年も続けられるということはすごい技術があるのかな。 ・どんな人達が関わっているのかな。 ・準備をたくさんしているからじゃないかな。 ●どのような思いで、山鉾巡行を続けているのか。 ●山鉾巡行にはどのような人が関わっているのだろう。 ●どのような技術で山鉾巡行を続けてきたのだろう。 ●山鉾巡行に向けてどのような準備をしているのだろう。	【態①】 山鉾巡行に関わる問いをもち、自分なりの学習計画を立てている。(発言・ノート)
調べる	③ <u>④⑤○それぞれの学習計画をもとに調べる。</u> ●どのような思いで山鉾巡行を続けているのか。 ・伝統を無くしたくない ・次の世代につなげていきたい ・祭りを楽しんでほしい ・これからも受け継ぎたい ●山鉾巡行にはどのような人が関わっているのだろう。 ・保存会の人・地域の方々 ・ボランティア ・京都市の人や警察 ・外国人 ●どのような技術で山鉾巡行を続けてきたのだろう。 ・山鉾の維持・修繕 ・お囃子の育成 ・山鉾建て ・懸装品の保存 ●山鉾巡行に向けてどのような準備をしているのだろう。 ・粽作り ・お囃子の練習 ・山鉾建て・縄を作る ・パンフレット作り ・仕事終わりに練習・会議	【知①】 山鉾巡行がどのように受け継がれているのか調べている。 (ノート)
	⑥ <u>○調べたことを図にまとめて交流し、さらに調べていく。</u> ○「山鉾巡行」を中心にした図にまとめ、山鉾巡行に関わる人やその人達の思いを理解する。	【知②】 山鉾巡行に関わる人々の取組や思い

	・保存会の人だけでなく、警察やボランティアの人など、多くの人が関わっている。 ・当日はもちろんのこと、当日を迎えるまでに多くの準備をし、たくさんの人が協力している。 ・伝統を受け継いでいこう、無くしたくないと思いがあふれるのだ。 ◆各自の計画を見直す ・伝統を受け継いでいきたい気持ちは分かった。でもなぜそこまでして伝統を受け継いでいきたいのかな。 ●なぜ西淵さんのお父さんは長刀鉾の大切な役割の「禿」を引き受けたのだろうか。 ・祇園祭という祭りを引き継いで、大切にしていきたいから。 ・京都の人間として祭りを守っていききたい。 ・たくさんの人の思い、昔から引き継がれている思いを背負い、歴史のバトンをつないでいきたいから。	について理解している（発言・ノート）
まとめる・生かす	⑦ 学習問題のまとめを行う。 <学習問題のまとめ> 700年も山鉾巡行を続けることができているのは、保存会の人々が技術を受け継いできただけでなく、ボランティアの人や京都市、地域の人などたくさんの人が協力してきたからだ。また大変なのに禿を引き受けたのは、祇園祭や山鉾巡行を大切に思っていて、これまでに受け継いできた伝統をなくしたくない、次の世代に受け継いでいきたい、守っていききたいという思いがあるからだ。	【知②】 保存会や地域の人々の伝統を受け継いでいきたいという思いを理解している。（発言・ノート）
	⑧⑨ これからの祇園祭や山鉾巡行について考える。 ●続けていくために課題がある山鉾巡行。これからも続けていくために今の自分たちには何ができるだろうか。 ・自分は今も粽売りに関わっているから、これからも粽売りを通して山鉾巡行に関わっていききたい。粽売りをする中で、その鉾の良さを友だちにも伝えることができるから。 ・自分は山鉾巡行を毎年見に行く。自分の子どもにも山鉾巡行の素晴らしさを伝えていきたいから。 ●祇園祭と関係の深い地域に住んでいる私たち。自分なら「禿」という役割を引き受けるか。 ・私は引き受けたい。自分も昔から引き継いできた祭りに深く関わってみたい。 ・私は引き受けられない。今までたくさんの人の思いや協力の上で同じように700年も引き継がれてきたものだから、失敗したらと思うと少し責任を感じてしまう。	【思②】 祇園祭に関係の深い地域に住む私たちにこそできることを考え、表現している。（発言・ノート） 【態②】 祇園祭に関係の深い地域に住む私たちにこそできることを考え、表現している。（発言・ノート）
	⑩ ○祇園祭や山鉾巡行の大切さ、素晴らしさを伝える新聞を書く。 ・祇園祭は病気や自然災害のない平和な世の中を願って始まった。そんな祇園祭や山鉾巡行は、保存会の人々が昔からの技術を受け継いできただけでなく、たくさんの人が協力し合い、「伝統を受け継いでいきたい。次の世代に残していききたい」という思いをもっているからこそ今もなお残っている。これまでたくさんの人たちの努力によって受け継いできたものを私たちもこれから受け継いでいきたい。	【知②】 祇園祭や山鉾巡行の大切さ、素晴らしさを新聞にまとめることができる。（新聞）

10 本時の学習（本時 8 / 10）

（1）本時の目標

山鉾巡行が抱える課題を基に、山鉾巡行をこれからも受け継いでいくためには、次代を担う私たち、山鉾巡行が根付く地域に住む私たちにしかできないことがあることに気付くことによって、山鉾巡行の伝統や文化の保存・継承に関わって自分たちにできることなどを考えることができるようにする。

（2）本時の展開

学習活動 ○主な発問等 ・児童の反応	□支援 ◇留意点 ■資料 【評価】
1 前時の学習内容を振り返る。 ○単元の学習問題についてみんなで考えを交流しました。山鉾巡行が約700年も続けることができているのはなぜでしたか。 ・山鉾巡行という昔からの伝統をこれからも受け継いでいきたいという思いがあるからだ。 ・続けていくために、保存会の方がお囃子の技術や山鉾の保存の仕方を大事に受け継いでいたから。 ・保存会の方だけでなく、ボランティアの人、地域の人が参加したりしていたから。 ○これで山鉾巡行はこれからも続けていくことができるのかな。この資料を見てください。 ・保存会の人が少なくなっているのだ。 ・伝統を受け継げないかもしれない。 ・山鉾巡行がなくなると寂しい。 ○保存会の方がこのまま少なくなっていくと、どんな困りがありますか。 ・山鉾を建てることができない。 ・お囃子を教える人がいなくなる。 ○これからも山鉾巡行を続けていくために今の自分たちに何ができるだろうか。	□これまでの学習の足跡を把握するために、側面提示をする。 □単元の学習問題を振り返ることで、たくさんの人の思いや協力があるからこそ山鉾巡行がこれまで引き継がれていることをもう一度確認できるようにする。 ■祇園祭・山鉾巡行基本データ ■長刀鉾保存会の方のインタビュー ■単元の学習問題のまとめ ■保存会の人が減っていることが分かるデータ
（学習問題） これからも山鉾巡行を続けていくために、今の自分たちにできることは何だろうか。	
2 学習問題について一人で考える。 ○山鉾巡行と関係の深い地域に住む私たちにできることは何でしょうか。自分の考えを書きましょう。 ・私は今も粽売りに関わっているから、これからも粽売りを通して山鉾巡行に関わっていきたい。粽売りをする中で、その鉾の良さを友だちにも伝えることができるから。 ・私は山鉾巡行を毎年見に行く。自分の子どもにも山鉾巡行の素晴らしさを伝えていきたいから。 ・私はいつか曳き手として参加してみたい。曳き初めに参加してとても楽しかったから、その楽しさ	◇1人で考える時間を十分に確保しこれまで学習したことを基に自分の考えをノートに書くことができるようにする。 □1人1人の姿や考えを見取り、適切に声かけ、問い返しを行うことで、自分の考えを表現できるようにする。 □山鉾巡行に関わっている人が分かる図を掲示しておくことで、自分にできることは何なのか考えるヒントにできるようにする。

を多くの人に伝えていきたいから。

- ・私はお母さんに山鉾巡行のことをくわしく伝えてみたい。伝えることで山鉾巡行を知ってもらい、家族みんなで山鉾巡行に参加して祭りを楽しみたい。

3 学習問題についてみんなで話し合う。

○それではみんなで話し合しましょう。

- ・私はポスターを作って近所の人に渡したいと思います。なぜなら「山鉾巡行というみんなが守ってきた祭りを守っていききたい、受け継がれてきた時代のバトンを受け継いでいききたい」という保存会の方の思いをたくさんの人に知ってほしいから。
- ・私のお兄ちゃんがくじ改めをしたから、私もくじ改めをしてみたい。実際に山鉾巡行に深く参加することで、より山鉾巡行のすごさを体験し、体験したことをみんなに伝えたいから。
- ・私も兄弟が囃子方に参加しているから、自分の来年は参加してみたい。これまで受け継がれてきた伝統を自分も受け継いでいききたい。
- ・私も粽売りをこれからも続けていききたい。とても大変だけど、山鉾巡行に関わることができていると実感することができるから。自分にできる形でこれからも参加していききたい。

4 グループで話し合う。

○どの意見が山鉾巡行をこれからも山鉾巡行を残していくために必要だと思いますか。グループで図を使って考えてみましょう。

- ・粽売りは、山鉾巡行を続けていくためにはとても効果があると思うし、お囃子に参加するということよりも簡単にできると思う。
- ・家族に伝えていくというのは簡単だけど、すぐに効果がでるかは分からないな。

5 学習した学びを生かすためにふり返る。

○これまでの学習を通じ、これからも祇園祭・山鉾巡行を続けていくためには、自分はどのように関わり、行動していきますか。

- ・曳き初めに今年参加させてもらって、たくさんの人が関わっていることは分かっていたけど、山鉾巡行に関わる人たちの「山鉾巡行を引き継いでいききたい、次の世代に残していききたい。」という思いに気付いたから、来年曳き初めに参加するときは、ただ参加するだけでなく、自分も伝統を受け継いでいく！人として自覚をもちながら参加したい。

□前の人とつなげて発言するようにすることで、自分たちの考えを広げ、深めていくことができるようにする。

□資料など根拠を基に話すことができるように、ロイロノートの資料や、黒板に写真を貼ることができるようにしておく。

◇子どもたちの相互指名に任せるだけでなく、指導者も問い返しを行うなど、より深く話してほしいところには介入する。

【思・判・表―②】

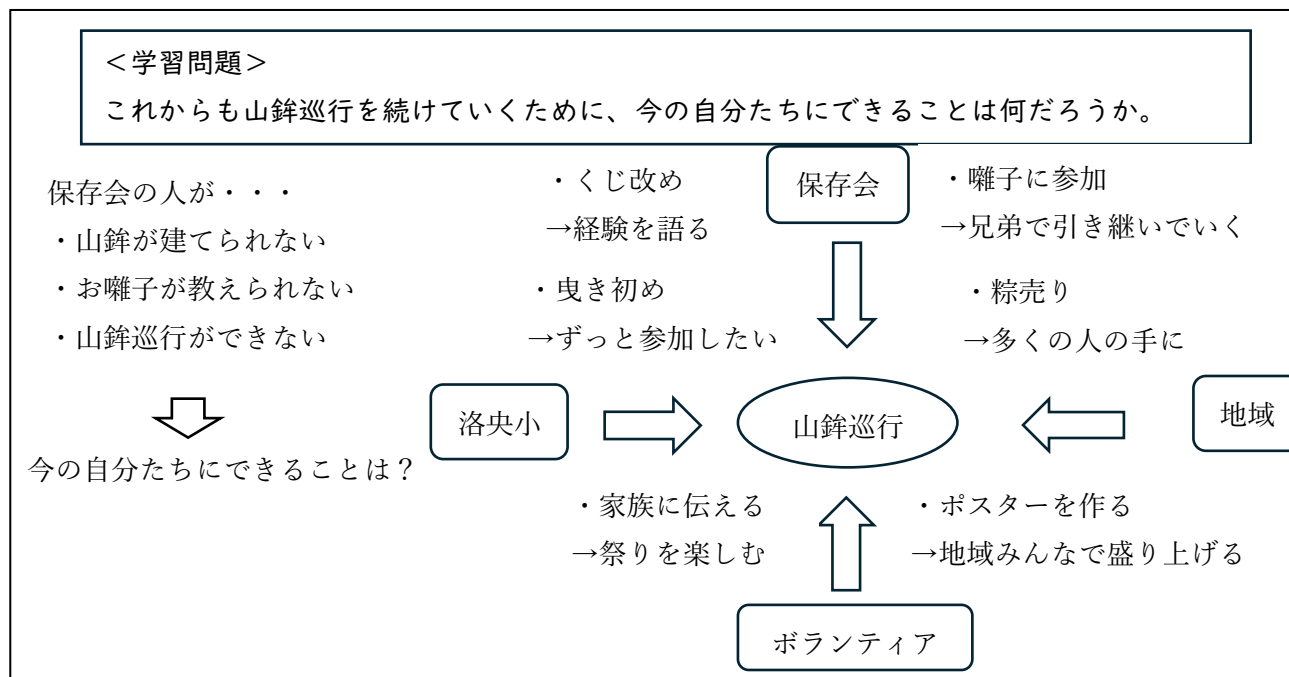
祇園祭に関係の深い地域に住む私たちにこそできることを考え、表現している。

(発言・ノート)

□図にこれまで出た意見をまとめることで、すぐに効果があるものや、今の自分たちでも出来そうなものに分類しやすくできるようにする。

◇祇園祭・山鉾巡行を続けていくことについてこれまでの学習を振り返る視点を与えることで、保存・継承に対する考えをもう一度引き出すことができるようにする。

(3) 板書計画



(4) 本時の評価

観点	評価規準
【思・判・表―②】	祇園祭が根付く地域に住む私たちにしかできないことがあることに気付くことによって、山鉾巡行の伝統や文化の保存・継承に関わって自分たちにできることなどを考え、表現している。
おおむね満足できる子どもの具体的な姿 保存会の方が減ってきているから、私はこれからも粽売りを続けていきたい。たくさん粽を売ること、山鉾の修理のためのお金を集めることもできるし、たくさんの人のもとに粽を届けることで、少しでも山鉾巡行に興味をもってもらうことにつながり、もしかしたら保存会に入りたいと思う人が出てくれるかもしれないから。	

(5) 本時のふり返りの視点

ふり返りの視点	指導者の働きかけ
⑩学習した学びを生かすためにふり返る	これまでの学習を通じ、これからも祇園祭・山鉾巡行を続けていくためには、自分はどのように関わり、行動していきますか。

本時では児童の単元の学びを通じて実生活にどう生かし、これからどう行動していくかについてふり返る。山鉾巡行の学習を通じ、山鉾巡行がたくさんの人々の協力と、「伝統を受け継いでいきたい」というたくさんの人々の思いがあるからこそ約700年も続いていることを理解している。理解したことを基に「山鉾巡行をこれからも続けていくためには」について議論することで、「伝統継承」のために自分たちにできることは何なのかと選択・判断できるようにする。そして、これまでに学習してきたことと本時で学習したことを踏まえ、「伝統継承」に対する自分の考えの変容についてふり返らせ、「伝統継承」に対する子どもの考えの変化を見取りたい。

社会科学学習指導案

指導者 京都市立池田東小学校
片山 拓

- 1 日 時 令和8年1月28日(水) 第6校時(14:35～15:20)
- 2 学 級 第4学年1組(33名)
- 3 場 所 4年1組教室
- 4 単元名 「古くから受けつがれてきた産業のさかんな宇治市」

5 単元の目標

府内の地場産業が盛んな地域の様子について、地場産業が盛んな地域の位置や自然環境、人々の活動や産業の歴史的背景、人々の協力関係などに着目して、地図帳や各種の資料で調べ、白地図などにまとめ、地域の様子を捉え、それらの特色を考え、表現することを通して、府内の地場産業が盛んな地域では、人々が協力し、特色あるまちづくりや観光などの産業の発展に努めていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究し、解決しようとする態度を養う。

6 単元の評価規準

【知識・技能】

- ①地場産業が盛んな地域の位置や自然環境、人々の活動や産業の歴史的背景、人々の協力関係などについて地図帳や各種の資料で調べて、必要な情報を集め、読み取り、地場産業が盛んな地域の様子を理解している。
- ②調べたことを白地図や文などにまとめ、府内の地場産業が盛んな地域では、人々が協力し、特色あるまちづくりや観光などの産業の発展に努めていることを理解している。
-

【思考・判断・表現】

- ①地場産業が盛んな地域の位置、人々の活動や産業の歴史的背景、人々の協力関係などに着目して、問いを見だし、府内の地場産業が盛んな地域の様子について考え、表現している。
- ②地場産業が盛んな地域の人々の活動や産業とそれらの地域の発展を関連付けたり、自分たちの住む地域と比較したりして府内の地域の特色を考え、表現している。
-

【主体的に学習に取り組む態度】

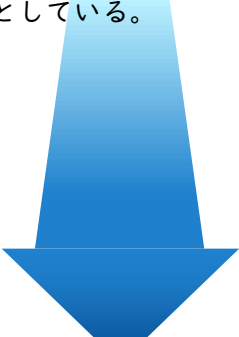
- ①府内の地場産業が盛んな地域の様子について、予想や学習計画を立てたり、見直したりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。

7 児童及び教材について

(1-1) 児童の実態 (○：成果 ▲：課題)

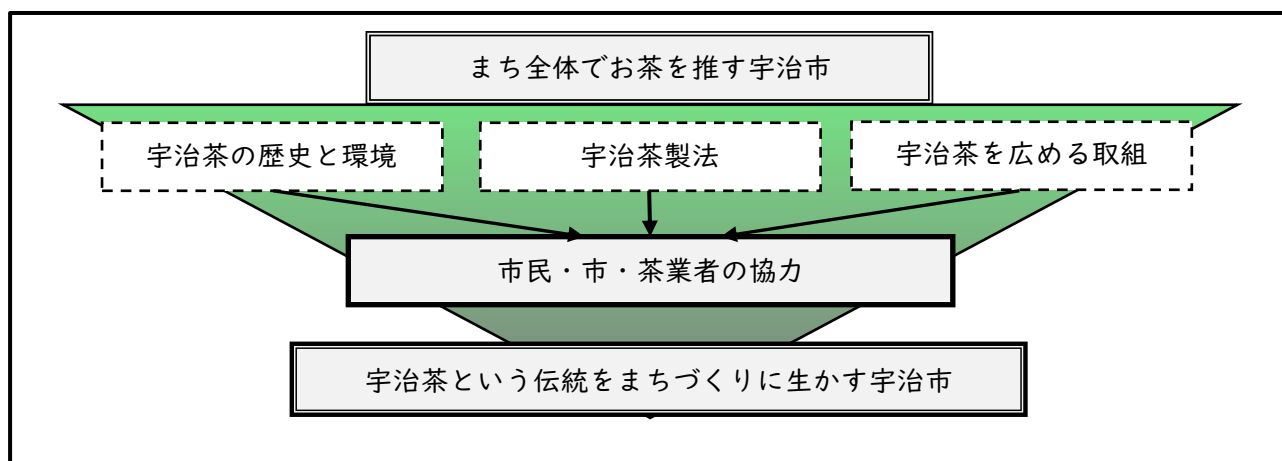
	学習内容や資質・能力に関わる児童の実態	児童の実態に対する具体的な手立てや支援
知識及び技能	○副読本や教科書、インターネット等の資料をもとに、必要な情報を収集することができるようになってきた。 ▲文章を読むことに時間がかかり、問いに対して事実を調べ切れない子どもがいる。	ロイロノートを活用し、問いに応じた資料を選択することができるようにする。また、必要に応じて、ペアや3人組で調べ学習を進め、決められた時間で情報を集めることができるようにする。
思考力・判断力・表現力等	○自分の知っていることや資料から、学習問題に対して少しずつ予想することができるようになった。 ○調べた事実を基に、人々の工夫や思いなどを考えることができるようになってきた。 ▲調べた事実から、人々の協力関係や生活との関連を考えることができる子どもが少ない。	構造的に板書することにより、人々の協力関係や生活との関連を考えることができるようにする。
学びに向かう力・人間性等	○学習問題の予想をグループに分けることで、問い化できるようになってきた。 ▲学習問題に対して一人で最後まで追求できなかったり、調べ切れていないのに追究を止めたりしてしまう子どもがいる。	学習問題を問い化し、調べる過程で一斉学習の時間と個別学習の時間を意図的に設定することで、最後まで学習問題について追求し解決できるようにする。

(1-2) 今を見て先を見通す子どもの姿

	『今』を見ている 子どもの姿	『先』を見通している 子どもの姿	これから社会へ向かう 子どもの姿
学習問題の設定場面	・宇治市では、京都市とは違い、まちにお茶がたくさんある。 ・宇治市では、茶の生産量がそこまで多くないことが分かっている。	・宇治市について調べた事実から、自分の中にある認識とのずれに気づくことができ、それをもとに疑問を見出すことができている。	今 ・宇治茶に親しんでもらうために様々な取り組みが行われている。宇治茶には長い歴史があり、未来に受け継ごうとしている。  先
見通しの場面	・自分の経験や、写真等の資料から予想を立てている。 ・予想を分類し、宇治茶にはどのような歴史があるのか、どのように作られたのか等の視点で問い化している。	・宇治茶の歴史や製法等について、何から調べたらよいか、どのくらいの時間をかけて調べたらよいか等、よりよく問題解決できるかを考えながら学習計画を立てている。	
調べる場面	・歴史、製法等について、計画に従って資料を選択して調べたり、さらに必要な資料を請求したりしている。 ・同じ問いを調べた他者と交流し、情報を広げたり整理したりしている。	・宇治茶の歴史についてさらに調べようとしている。 ・宇治茶製法に着目することで、どうして手もみ製法の技術を残しているのか、さらなる問いを見出している。	

(2) 教材について

本教材を整理すると、次のようにとらえることができる。



京都市の南にある宇治市。駅前には宇治茶関連のお店が多く、「宇治茶」の幟もたくさんある。ホームページには「宇治茶と源氏物語のまち」とまちのキャッチコピーにもある程、まち全体で宇治茶を大切にしている。

それには、川が近くに流れていることや霧が発生しやすいお茶作りに適した環境で、約800年前に中国から伝わったお茶が宇治に広がった歴史がある。また、茶の新芽を蒸し、もんで水分を飛ばす宇治茶製法と呼ばれる製法が生み出され、今では全国のお茶がその宇治茶製法で作られている。近畿圏内で作られる茶葉を京都府内に持ち込んで宇治地域由来の製法でお茶をつくるとそれは「宇治茶」と呼ばれる。しかし、宇治市内で作られる宇治茶は覆下園で栽培された茶葉を、手作業で一芽一芽摘んでいくため、露天で栽培される煎茶にはない鮮やかな緑でふくよかな香り、まろやかな旨味や甘みのある玉露や抹茶となる。このような歴史や環境、作り方が宇治市で大切にされている宇治茶の背景にあるものである。そんな大切な宇治茶を広めるために、市では「宇治市営茶室」の運営や、「宇治茶巡りガイドツアー」などを実施している。また、「宇治茶まつり」で市内外の人々に宇治茶を楽しむイベントを企画したり、「宇治茶の普及とおもてなしの心の醸成に関する条例」を制定し、市民への宇治茶の普及も進めたりしている。小学校では総合的な学習の時間で宇治茶について学ぶ「宇治学」を進めたり、蛇口から宇治茶が出たりするなど市内の子どもたちへの普及をしている。茶業者の方も伝統の技を伝承することや、「宇治茶ふれあい教室」や「宇治茶を使ったスイーツの開発」などに取り組み、宇治茶の普及に努めている。前述した取り組みはそれぞれの団体が進めているのではなく、宇治茶まつりであると、宇治市・茶農家・茶問屋・地元の大学生などが協力して進められている。宇治茶を中心に様々な人が協力し合って宇治市のまちづくりを進めているのである。

8 単元構想図（全8時間）

① 京都府で観光客2位の宇治市について興味をもち、学習問題をつくる。

- ・京都市とは違って、まちにお茶がたくさんある。小学校の様子も違うね。
- ・でも生産量は京都府内ではあまり多くない。「宇治茶」というものに何か秘密があるのかな。

<学習問題>

宇治市では、お茶の生産量が少ないのになぜ「お茶」に関するものがたくさんあるのだろう。

②学習問題について予想を立て、その予想について議論し問い直し学習計画を立てる。

- ・宇治市では昔からお茶が作られているからそのことが関係しているのかもしれない。
- ・気候や地形が関係しているのではないかな。
- ・生産量は少ないけど、おいしさにはちがいががあると思う。
- ・作り方が他とは違うのかもしれない。

●お茶づくりにどんな歴史があるのだろう。

●どのように作られているだろう。

③④⑤それぞれの学習計画をもとに調べる。

- どんな歴史があるのだろう
- ・お茶づくりに適した気候が広がっている
- ・約280年前から作られている
- ・永谷宗円が宇治茶製法を生み出しそれが全国へ

- どのように作られているのだろう
- ・覆下園で、手で新芽を摘んでいる
- ・昔は手もみ製法で、今は機械をつかっている
- ・伝統の技法を残そうとしている

- ・宇治市は、お茶づくりに適した環境だった。
- ・昔ながらの歴史があった。
- ・味にこだわっているため、手摘みや手もみ製法など手間はかかることもしている。
- ・現在は、お茶工場で生産されているが、お茶づくりの原点である手もみ製法は伝承されている。
- ・宇治茶は多くの人に飲まれていると思うけど、それ以外に使われていることはあるのかな。

⑥⑦お茶の消費量の変化に対する様々な取り組みから、その意味を考える。

●たくさんの人に宇治茶を飲んでもらうために、どんなことをしているのだろう。

- ・自動販売機でペットボトル入りの宇治茶を販売している。
- ・宇治茶を使ったスイーツや軽食などを考えて、宇治茶との出会いを楽しんでもらえるようにしている。
- ・急須を使ったお茶の入れ方指導や宇治茶ふれあい教室を通じて、宇治茶のおいしさをPRしている。
- ・宇治茶まつりは、宇治市の職員の人々、茶農家、茶問屋、地元の大学生など多くの人が関わっている。
- ・宇治茶の振興と茶道の普及を目指して、宇治市が宇治市営茶室を運営している。
- ・地元のガイドが茶園や茶商屋敷、製茶工場など、まちの発展を支えてきた宇治茶のルーツをめぐる旅に案内している。

伝統的な味わい方を守りながらも、気軽に宇治茶を味わってもらったり、宇治茶との出会いを楽しんでももらったりして、宇治茶のよさに気付いてくれるようにしていた。そうやって、お茶の文化を守っていたのだね。

⑧学習問題のまとめを行う。

<学習問題のまとめ>

宇治市では、その環境を生かし昔からお茶づくりが行われていた。また、覆下園や宇治茶製法という昔から伝わる技法により、高級でおいしいお茶づくりが今も続いている。そんな宇治茶を、市や地域の自慢として、お茶づくりに関わる人・市・市民が協力して守っている。このようにして、宇治茶を中心にしたまちづくりが進められている。

9 単元計画（8時間）

学習 過程	○主な学習活動 ・児童の反応 ●調べる問い	□支援◇留意点【評価】
つかむ	① ○京都府で観光客2位の宇治市について興味をもち、単元の学習問題をつくる。 ・京都市と似たような地形のところが観光客が多いかもしれないね。福知山市にも盆地があるよ。 ・宇治市が2位なのだね。宇治市にも京都市のような魅力があるのかな。どんなまちだろう。 ・宇治市は、京都市と同じように世界遺産がある。 ・京都市にもお茶があるけど、宇治市にはもっとお茶が溢れている。 ・宇治茶が有名なようだ。お茶畑もあって、京都市にはない風景だ。 ・でもお茶の生産量は京都府の中でも少ないね。 □宇治市のお茶の生産量を捉え、お茶の生産量が少ないにも関わらず、なぜお茶に関するものがたくさんあるのかというずれをもとに学習問題を設定することができるようにする。 ＜学習問題＞ 宇治市では、お茶の生産量が少ないのになぜ「お茶」に関するものがたくさんあるのだろう。	□ロイロノートに宇治市に関する資料を用意し、宇治市について調べることができるようにする。 【思①】 宇治市のまちの様子と宇治市の茶の生産量のグラフから問いを見いだしている。（発言・ノート）
	□宇治市のお茶の生産量が少ないにも関わらず、なぜお茶に関するものがたくさんあるのだろうかという学習問題に対して、「どのような歴史があるのだろうか」「どのように作られているのだろうか」と問い化した問いを基に学習の見通しをもてるようにする。 ② 学習問題について予想を立て、その予想を分類することと問い化し、学習計画を立てる。 ・宇治市では昔からお茶が作られ続けてきたからだ。 ・土地の形も関係していると思う。 ・おいしいからだと思う。 ・作り方に秘密があるではないかな。 ●宇治茶にはどのような歴史があるのだろうか。 ●宇治茶はどのようにして作られているのだろうか。	□黒板で予想を分類することにより、問い化することができるようにする。 ◇調べる時間の配分や方法について見通しをもつように声掛けをする。 【態①】 学習問題に対して予想をしたり、学習計画を立てたりしようとしている。（発言・ノート）
【参の矢】	□宇治茶の歴史や作られ方について、子どもたちが資料を選択して調べるようにする。 □それぞれが調べている内容をホワイトボードを使って交流し、事実を整理することができるようにする。 ③ ④⑤ ○それぞれの学習計画をもとに調べる。	【貳の環】 □調べる前半の中で、建設方法・理由について個別に問掛け、進捗状況を確認し、資料や対話の必要性等を助言する。

調 べ る	●宇治茶にはどんな歴史があるのだろう。 ・お茶づくりに適した気候が広がっている ・約280年前から作られている ・永谷宗円が宇治茶製法を生み出しそれが全国へ広がった。 ●宇治茶はどのように作られているのだろう。 ・覆下園で、手で新芽を摘んでいる。 ・昔は手もみ製法で、今は機械をつかっている。 ・伝統の技法を残そうとしている。 ○各自の計画を見直す ●茶葉の栽培方法、宇治茶の作られ方は分かったけど、どうして宇治市なのだろう。歴史を調べる必要があるね。 ●宇治茶には、長い歴史があり、地形や気候などの条件もよいということがわかった。でも、宇治茶がどのようにして作られているか分からない。作り方を調べよう。	□調べることに難しさを感じている子どもには、何を調べるのかを確認したり、資料の見方を伝えたりしながらどのようなことがわかるかを確認して調べられるようにする。 【貳の環】 調べの後に、さらに追究したい問いを交流し、学習計画の調整を適宜促す。 ◇調べる中でさらに必要な資料はないか尋ねる。 【知①】 宇治茶の歴史や栽培・製法について調べている。(ノート) 【態①】 見通しを振り返り、学習内容を調整している。(ノート)
	⑥⑦○調べたことを整理した上で、新しい資料について話し合い、そこから生まれた疑問について調べる。 ●たくさんの人に宇治茶を飲んでもらうために、どんなことをしているのだろう。 ・自動販売機で、ペットボトル入りの宇治茶を販売している。 ・宇治茶を使ったスイーツが多く作られている。 ・急須を使ったお茶の入れ方を指導している。 ・宇治茶ふれあい教室というものが開催されている。 ・宇治茶祭りというものもある。	【思②】 宇治市の取組の意義について、まちづくりと関連付けて考えている。(発言・ノート)
ま と め る ・ い か す	⑧学習問題のまとめを行う。(本時) <学習問題のまとめ> 宇治市では、環境を生かし昔からお茶づくりが行われていた。また、覆下園や宇治茶製法という昔から伝わる技法により、高級でおいしいお茶づくりが今も行われている。そんな宇治茶を、市や地域の自慢として、お茶づくりに関わる人・市・市民が協力して守っている。このようにして、宇治茶を中心にしたまちづくりが進められている。	【知②】 宇治市では、人々が協力し、宇治茶という伝統を中心としたまちづくりを行っていることについて考え、まとめている。

【壺の環】

- 写真資料や絵図を用いて、情報を適切に取り出すことができる。
- 何にどのくらいの調べる時間が必要か、自分の計画に沿って所要時間を見通すことができる。
- 調べていく中で事実を捉え、そこからさらに疑問を見出し、調べる計画を立てることができる。

10 本時の学習（本時8／8）

（1）本時の目標

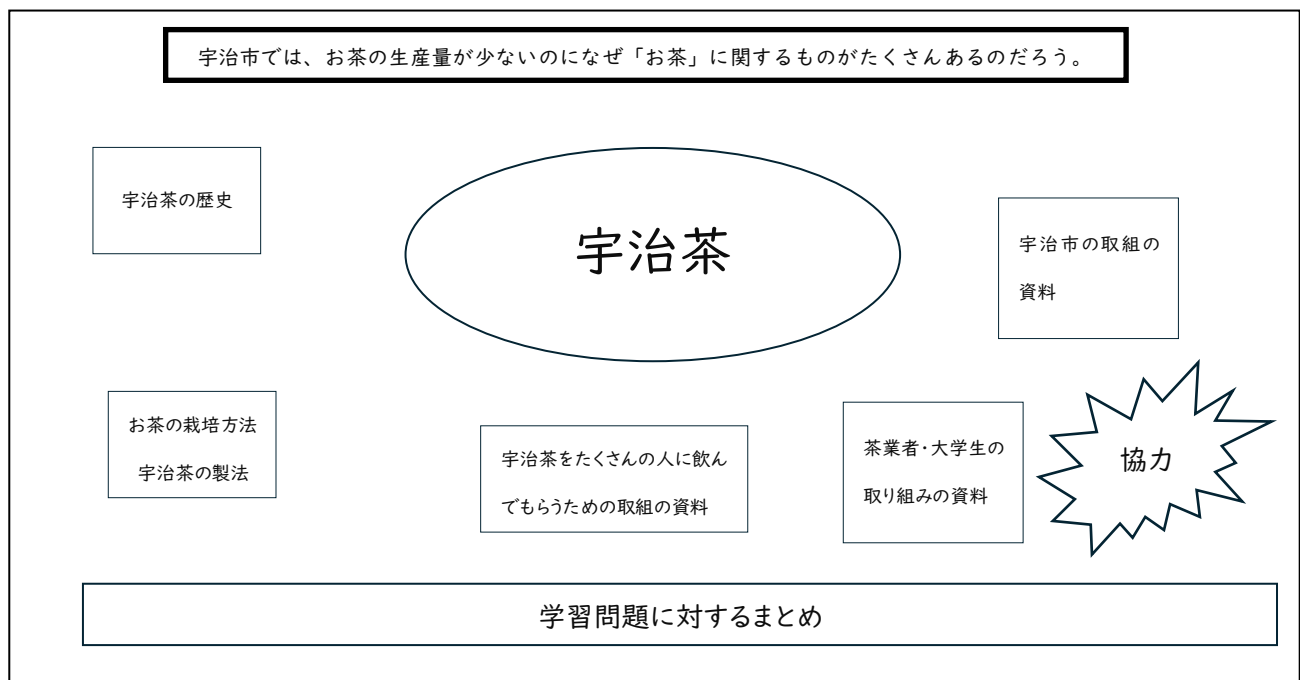
単元の学習問題について調べ考えたことを通して、宇治市では、お茶づくりに関わる人々や市・市民が協力して宇治茶を守り、宇治茶を中心としたまちづくりが行われていることについて理解することができるようにする。

（2）本時の展開

学習活動○主な発問等 ・児童の反応	□支援 ◇留意点 ■資料 【評価】
1 前時のふりかえりを行う。 ○前の学習のふりかえりをしましょう。 ・宇治茶の消費量が減っている。 ・宇治茶のよさを知ってもらうイベントが開かれている。 2 学習問題について考える。 ○今日は何をしますか。 ・学習問題のまとめをします。	■壁面資料 ※単元の学習問題につなげられるようにする。 ■資料 お茶の歴史・お茶の栽培や製法・飲んでもらうための取組（人・市）
宇治市では、お茶の生産量が少ないのになぜ「お茶」に関するものがたくさんあるのだろう。	
3 学習問題について自分の考えをまとめ交流する。 ○これまで学習してきたことを交流しましょう。 ・手もみ技術保存会の吉田さんは、手もみの技術は、お茶づくりの原点であると考えています。 ・老舗の茶問屋の堀井さんの話では、気軽に宇治茶に親しんでもらうために、ペットボトル飲料を進めたり、スイーツや軽食などで出合いを楽しんでもらったりしてほしいと考えています。 ・宇治市は、宇治茶のしんこうと茶道の普及を目指して宇治市営茶室を運営しています。 ・宇治市の職員の人たち、茶農家の人たち、茶問屋の人たち、地元の大学生と一緒に宇治茶祭りを盛り上げています。 4 宇治茶のよさを広めるために大切なことは何か考える。 ○宇治茶のよさを多くの人に広めるために大切なことは何か考えましょう。 ・宇治茶に対する情熱だと思う。 ・宇治茶に関わる人たちが協力することだ。 5 学習問題のまとめをする。 ○これまでの学習してきたことを生かして、学習問題に対するまとめをしましょう。	□構造的に板書することにより、宇治茶には、多くの人や市が関わっているということを捉えることができるようにする。 □黒板の資料や、壁面掲示からこれまで学習してきたことを想起し、宇治茶のよさを多くの人たちに広めるために必要なことを考えることができるようにする。 【知・技—②】 宇治市では、人々が協力し、宇治茶という伝統を中心としたまちづくりを行っている

6 本時の学習をふりかえる。 ○単元を通して、学習問題は解決できましたか。自分の問題解決はどうでしたか。 ・友達と交流することで、宇治市は、宇治茶を通じて協力しながらまちづくりをしていることが分かった。人や宇治市が協力しているから、宇治市にはお茶に関するものがたくさんあるのだね。	ことについて考え、まとめている。(発言・ノート)
---	---------------------------------

(3) 板書計画



(4) 本時の評価

観点	評価規準
【知・技②】	調べたことを白地図や文などにまとめ、府内の地場産業が盛んな地域では、人々が協力し、特色あるまちづくりや観光などの産業の発展に努めていることを理解している。
おおむね満足できる子どもの具体的な姿	
宇治市では、環境を生かし昔からお茶づくりが行われていた。また、覆下園や宇治茶製法という昔から伝わる技法により、高級でおいしいお茶づくりが今も行われている。そんな宇治茶を、市や地域の自慢として、お茶づくりに関わる人・市・市民が協力して守っている。このようにして、宇治茶を中心にしたまちづくりが進められている。	

(5) 本時のふり返りの視点

ふり返りの視点	指導者の働きかけ
⑧単元の学びをふり返る	単元を通して、学習問題は解決できましたか。自分の問題解決はどうでしたか。

本時では児童の単元の学びを通じた考えの変容についてふり返る。宇治茶の学習を通じ、宇治茶は、昔ながらの歴史や技術があり、それが受け継がれていることを理解している。本時ではこれまでに学習してきたことを踏まえ、様々な人や市が、宇治茶を通じて協力することで、まちづくりをしているということを理解しているかどうか見取りたい。

社会科学学習指導案

指導者 京都市立桃山東小学校

外園 善基

1 日 時 令和8年2月13日(金) 第6校時(14:40～15:25)

2 学 級 第4学年3組(31名)

3 場 所 4年3組教室

4 単元名「府内の特色ある地いきの様子」②外国の都市とさまざまな国際交流をしている舞鶴市

5 単元の目標

府内の国際交流に取り組んでいる地域の様子について、国際交流に取り組んでいる地域の位置や自然環境、人々の活動や産業の歴史的背景、人々の協力関係などに着目して、地図帳や各種の資料で調べ、白地図などにまとめ、地域の様子を捉え、それらの特色を考え、表現することを通して、府内の国際交流に取り組んでいる地域では、人々が協力し、特色あるまちづくりや観光などの産業の発展に努めていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究し、解決しようとする態度を養う。

6 単元の評価規準

【知識・技能】

①国際交流に取り組んでいる地域の位置や自然環境、人々の活動や活動の歴史的背景、人々の協力関係などについて地図帳や各種の資料で調べて、必要な情報を集め、読み取り、国際交流に取り組んでいる地域の様子を理解している。

②調べたことを白地図や文などにまとめ、府内の国際交流に取り組んでいる地域では、人々が協力し、特色あるまちづくりや観光などの産業の発展に努めていることを理解している。

.....

【思考・判断・表現】

①国際交流に取り組んでいる地域の位置、人々の活動や活動の歴史的背景、人々の協力関係などに着目して、問いを見だし、府内の国際交流に取り組んでいる地域の様子について考え、表現している。

②国際交流に取り組んでいる地域の人々の活動と国際交流の発展を関連付けたり、自分たちの住む地域と比較したりして府内の国際交流に取り組んでいる地域の特色を考え、表現している。

.....

【主体的に学習に取り組む態度】

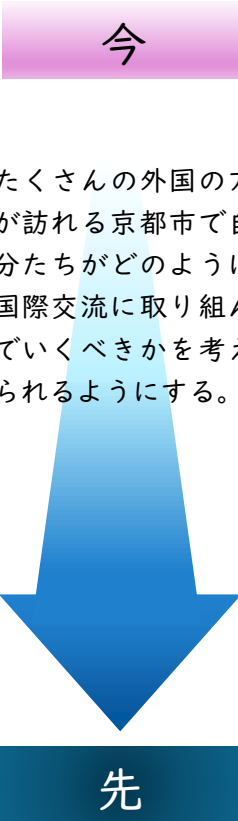
①府内の国際交流に取り組んでいる地域の様子について、予想や学習計画を立てたり、見直したりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。

7 児童及び教材について

(1-1) 児童の実態 (○：成果 ▲：課題)

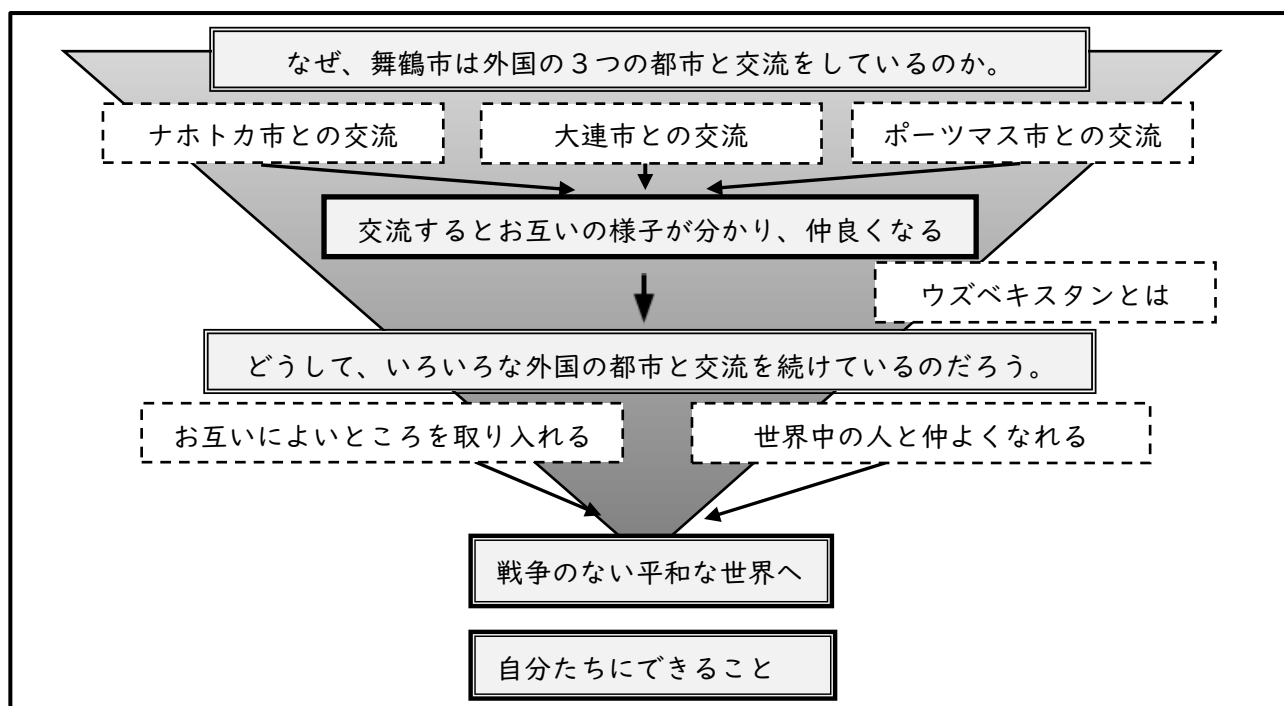
	学習内容や資質・能力に関わる児童の実態	児童の実態に対する具体的な手立てや支援
知識及び技能	○社会的事象について具体物を見聞きするだけでなく、写真等様々な資料を使いながら事実をとらえることができるようになった。 ▲地形図から様子をとらえることがまだ十分できない子どももいる。	地形図を中心資料として活用し、読み方を確認したり子どもたち同士で話し合ったりする機会を十分設けるようにする。
思考力・判断力・表現力等	○自分の知っていたことと比較したり様々な事象を関連付けたりし、学習問題を設定することができるようになった。 ○調べた事実を基に人々の工夫、おもい等、社会的事象の意味について考えることができるようになってきた。 ▲予想をもとにどのようなことを調べるべきか、よりよく問い化できる子どもが少ない。	予想を立てるときの大事な様相は何かを確認しながら予想を立てるように声掛けする。また、予想をグループ化して整理しながら板書することで、自分たちは何がわかっていないのか、何を調べたらよいのかをとらえることができるようにする。
学びに向かう力・人間性等	○社会的事象と自分たちの生活がつながっていることを理解できるようになってきた。 ▲社会に見られる課題を自分事として捉えにくく、関わりを考えづらい子どももいる。	舞鶴市が国際交流の取り組みを行うことが、将来、国際的な問題の解決や、世界平和につながることを捉えたうえで、たくさんの外国の方が訪れる京都市の将来を担う自分たちがどのように国際交流に取り組んでいくべきなのかを考えられるようにする。

(1-2) 今を見て先を見通す子どもの姿

	『今』を見ている 子どもの姿	『先』を見通している 子どもの姿	これから社会へ向かう 子どもの姿
学習問題の設定場面	・舞鶴市は、海に囲まれていて、たくさんの船が訪れる。 ・舞鶴市は、3つの外国の都市と国際交流を行っている	・舞鶴市について、現地の小学校と交流したり、調べたりすることで、自分の中にある認識とのずれに気づくことができ、それをもとに疑問を見出すことができている。	 今 ・たくさんの外国の方が訪れる京都市で自分たちがどのように国際交流に取り組んでいくべきかを考えられるようにする。 先
見通しの場面	・自分の経験や、写真等の資料から予想を立てている。 ・予想を分類し、国際交流を行うきっかけ、時期、どのような交流を行っているのか等の視点で問い化している。	・舞鶴市が国際交流を行う理由について、何から調べたらよいか、どのくらいの時間をかけて調べたらよいか等、よりよく問題解決できるかを考えながら学習計画を立てている。	
調べる場面	・交流の時期やきっかけ、どんなことを行っているかについて、計画に従って資料を選択して調べたり、さらに必要な資料を請求したりしている。 ・同じ問いを調べた他者と交流し、情報を広げたり整理したりしている。	・舞鶴市の国際交流についてさらに調べようとしている。 ・調べてきた3つの都市以外にさらに多くの都市と交流している点に着目することで、なぜ、国政交流を行っているのか、さらなる問いを見出している。	

(2) 教材について

本教材を整理すると、次のようにとらえることができる。

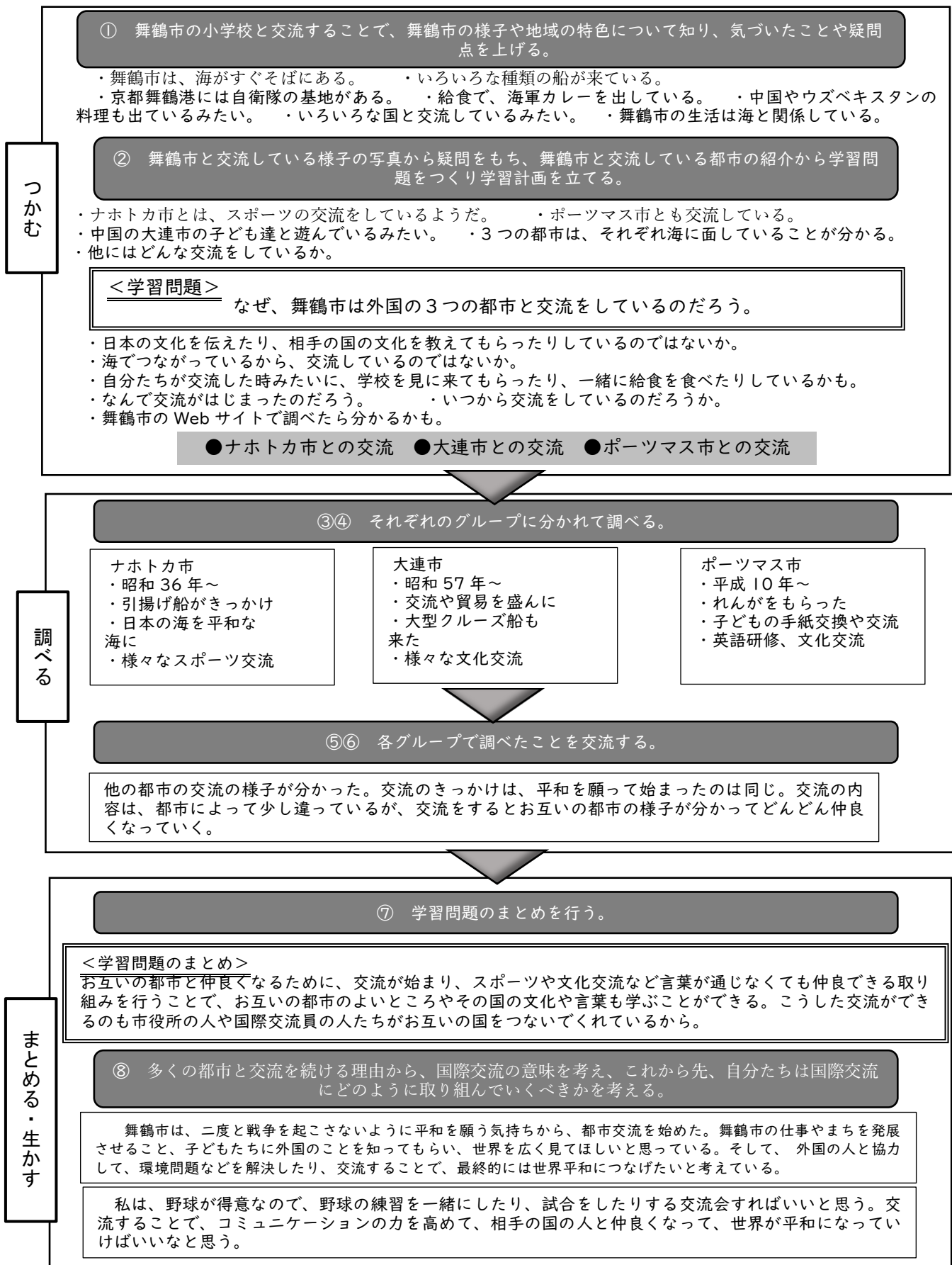


舞鶴市は、明治時代に旧海軍の四大軍港の一つとして整備され、日本海側で唯一の海軍拠点として発展した港町である。舞鶴鎮守府や海軍工廠の設置により造船業が発達し、赤レンガ倉庫群など当時の施設は現在も歴史を伝えている。終戦後は、海外からの引揚者を迎え入れる「引き揚げのまち」として重要な役割を果たし、シベリア抑留と引き揚げに関する資料はユネスコ世界記憶遺産に登録されている。現在も海上自衛隊の拠点であるとともに、商港として国際貿易や交通の要所となっている。こうした歴史を背景に、舞鶴市は「平和の発信」「港湾都市としての経済発展」「多文化共生社会の実現」を目的に国際交流を推進している。引き揚げの歴史を生かした自治体外交や、日本海側の地理的特性を活用した物流・観光振興、外国人住民と共に暮らす社会づくりを通して、国際的に開かれた都市を目指している。

日本海側の拠点港として、ロシアのナホトカ市、中国の大連市、英国のポーツマス市などと姉妹・友好都市交流を続けている。スポーツ交流や青少年交流、記念行事を通じて、長年にわたり国際的なつながりを深めている。

本単元で扱う舞鶴市が行っている国際交流の取り組みが、国際的な問題の解決や世界平和につながるということを理解し、それをもとに、たくさんの外国の方が訪れる京都市の将来を担う自分たちがどのように国際交流に取り組んでいくべきなのかを自分事として考えることができるようにしていく。

8 単元構想図（全 14 時間）



9 単元計画（8時間）

学習 過程	○主な学習活動 ・児童の反応 ●調べる問い	□支援◇留意点 【評価】
つかむ	① ○舞鶴市の小学校と交流することで、舞鶴市の様子や地域の特色について知り、気づいたことや疑問点を話し合う。 ・舞鶴市は、海がすぐそばにあり、いろいろな種類の船が来ている。 ・京都舞鶴港には自衛隊の基地があり、海軍カレーが有名で、給食にも出ている。 ●中国やウズベキスタンの料理も給食に出ているみたい。他にもどんな国と交流しているのかな。 ●海には、どんな船が来るのかな。 ●京都市もカレーが出るけど、なぜ海軍なのかな。	【態①】 舞鶴市の様子や地域の特色について知り、関心を高めることができている。（発言・ノート）
	【言の矢】 □舞鶴市と3つの都市との交流の様子から、なぜこれだけ多くの都市と交流しているのか、という認識のずれをもとに学習問題を設定することができるようにする。 ② ○舞鶴市と交流している様子の写真から疑問をもち、舞鶴市と交流している都市の紹介から学習問題をつくり学習計画を立てる。 ・ナホトカ市とは、スポーツの交流をしているようだ。中国の大連市の子ども達と遊んでいるみたい。 ・ポーツマス市とも交流している。 ・3つの都市は、それぞれ海に面していることが分かる。 ●他にはどんな交流をしているのかな。	
調べる	<学習問題> なぜ、舞鶴市は外国の3つの都市と交流をしているのだろう。	
	【式の矢】 □なぜ、舞鶴市は外国の3つの都市と交流をしているのだろうという学習問題に対して、「いつから交流しているのだろう」「どのような交流をしているのだろう」と問い化した問いを基に学習の見通しをもてるようにする。 ・日本の文化を伝えたり、相手の国の文化を教えてもらったりしているのではないかな。 ・自分たちが交流した時みたいに、学校を見に来てもらったり、一緒に給食を食べたりしているかも。 ●なんで交流がはじまったのだろう。 ●いつから交流をしているのだろうか。 ・海でつながっているから、船で行き来できるのではないかな。 ○予想をもとに、学習問題を解決するために調べる計画を立てる。 ・いつから始まったのか調べたい。 ・交流のきっかけや目的を調べてはどうか。 ・その都市がどの国のどこにあるか地図で調べよう。 ・どんな交流をしているか調べよう。	□黒板で予想を分類することにより、問い化することができるようにする。 【思①】 舞鶴市の人が外国の人たちと交流している様子が分かる資料から、問いを見出している。（発言・ノート）

【参の矢】

国舞鶴市と外国の都市とのについて、子どもたちが資料を選択して調べるようにする。

国それぞれが調べている内容を模造紙にまとめて交流し、事実を整理することができるようにする。

③ ④ ○それぞれのグループに分かれて調べる。

ナホトカ市

・昭和 36 年～
・引揚げ船がきっかけ
・日本の海を平和な海に
・様々なスポーツ交流

大連市

・昭和 57 年～
・交流や貿易を盛んに
・大型クルーズ船も来た
・様々な文化交流

ポーツマス市

・平成 10 年～
・れんがをもらった
・子どもの手紙交換や交流
・英語研修、文化交流

⑤⑥○各グループで調べたことを交流する。

・交流のきっかけは、どこも平和を願って始まったのは同じだった。
・交流の内容は、都市によって違う。
・日本の言葉や文化を伝えたり、相手の国の言葉を学んだりしている。
・交流をするとお互いの都市の様子が分かってどんどん仲良くなっていく。

○交流する中で、各自の計画を見直し、さらに追及したい問いについて調べることができるようにする。

- 「引き揚げ」とは、実際はどんなことだったのだろう。
- スポーツや文化交流は、具体的にはどのようなものがあるのだろう。
- クルーズ船とは、どんな船なのだろう。
- 赤レンガ博物館は、何のために建てられたのだろう。
- 引揚記念館は、どんな施設なのだろう。

まとめる

⑦ ○調べたことを基に学習問題について話し合い、まとめる。

＜学習問題のまとめ＞

引き揚げなどでつながりのある都市とお互いが仲良くなるために、交流が始まった。スポーツや文化交流など言葉が通じなくても仲良できる取り組みを行うことで、お互いのよいところやその国の文化や言葉も学ぶことができる。こうした交流ができるのも市役所の人や国際交流員の人たちがお互いの国をつないでくれているからだ。

【式の環】

調べる前半の中で、建設方法・理由について個別に問掛け、進捗状況を確認し、資料や対話の必要性等を助言する。

【知①】

各都市との交流について調べている。(ノート)

【式の環】

調べの後に、さらに追究したい問いを交流し、学習計画の調整を適宜促す。
◇調べる中でさらに必要な資料はないか尋ねる。

【知②】

グループに分かれて調べたことを発表している。

【態①】

見通しを振り返り、学習内容を調整している。(ノート)

【知②】

舞鶴市が外国の都市と国際交流を行うことで、お互いの都市の文化やよさを学ぶことができるという交流の意義を理解している。(ノート)

生 か す	⑧ ○多くの都市と交流を続ける理由から、国際交流の意味を考える。 舞鶴市は、二度と戦争を起こさないように平和を願う気持ちから、都市交流を始めた。舞鶴市の仕事やまちを発展させること、子どもたちに外国のことを知ってもらい、世界を広く見てほしいと思っている。そして、外国の人と協力して、環境問題などを解決したり、交流することで、最終的には世界平和につなげたいと考えている。 ○単元全体を振り返り、これまでの学習から、多くの学国の方が訪れる京都市で暮らす自分たちは、どのように外国の人たちと交流していけばよいのかを考える。 ・私は、外国語に興味があるので、言葉を教え合ってコミュニケーションの力を伸ばせるような交流をすればいいと思います。 ・私は、野球が得意なので、野球の練習を一緒にしたり、試合をしたりする交流会があればいいと思う。 ・交流することで、相手の国の人と仲良くなって、お互いの違いやよさを分かり合い、世界が平和になっていけばいいと思う。 ・交流をきっかけに、外国の人の文化や考えていることがわかるようになって、協力して環境問題なんかを解決できるようになりたい。	【思②】 舞鶴市の国際交流の様子や、舞鶴市役所の方の思いから、自分たちが将来、外国の人たちとよりよい交流をするために、京都市はどのように外国と交流すればよいかを考える。 (ノート)
----------------------	---	---

【壺の環】

- 写真資料や絵図を用いて、情報を適切に取り出すことができる。
- 何にどのくらいの調べる時間が必要か、自分の計画に沿って所要時間を見通すことができる。
- 調べていく中で事実を捉え、そこからさらに疑問を見出し、調べる計画を立てることができる。

10 本時の学習（本時8／8）

（1）本時の目標

調べたことをもとに、新しい資料について話し合うことができるようにする。

（2）本時の展開

学習活動 ○主な発問等 ・ 児童の反応	□支援 ◇留意点 ■資料 【評価】
1 前時までの学習を振り返る。 ○舞鶴市では、3 つの都市とどのような交流をしていましたか。 ・ナホトカ市とは引揚げ船がきっかけで交流をしていた。 ・大連市とは貿易がさかんで、小学校との交流も行っていたよ。 ・ポーツマス市とは小中学生が手紙の交流や、ボーイスカウトの交流を行っていた。 ・どの国との交流も平和を願って始まっている。 2 調べた 3 つの都市以外にも大韓民国の浦項市、ウズベキスタンとの交流も行っていることを知り、そこから出た疑問から、本時の学習問題を立てる。 ○これまで以外の都市とも交流していることを知って、どう思いましたか。 ・この 2 つの都市は、前の 3 つの都市より交流が新しい。 ・東京オリンピックに出た選手が舞鶴にいたなんてすごい。 ・3 つでも多いのに、さらに 2 つの都市と交流しているなんてびっくりした。 ・なんでこんなにたくさんの都市と交流しているのかな。	□調べたことをまとめた資料を掲示し、振り返りしやすくする。 ■大韓民国の浦項市とウズベキスタンとの交流の映像資料を示す ◇映像だけでなく、掲示する資料も用意し、話し合いの際に見返すことができるようにする。 ◇学習問題につながる疑問が深まらない場合は、国際交流の必要性について問い直すようにする。
なぜ舞鶴市は、いろいろな外国の都市との交流を続けているのだろう。	
3 これまでの学習をまとめた資料を見て、話し合う。 ○どうして舞鶴市では、いろいろな外国の都市との交流を続けているのか考えましょう。 ・いろいろな外国の人と仲よくできるから。 ・言葉や文化を学ぶことができるんじゃないか。 ・他の国のよいところを学べるからだと思う。 ・クルーズ船みたいに、たくさんの人に来てもらえるからかな。 4 舞鶴市役所の国際交流課の人の話の資料から、どうして舞鶴市では、いろいろな外国の都市と	■これまで調べたことをまとめた資料に今回出した 2 都市を加えた資料を掲示する。 ■舞鶴市が外国の都市と交流を続けるこ

市との交流を続けているのか確かめる。 ○どうして舞鶴市では、いろいろな外国の都市と交流を続けているのか調べましょう。 ・外国の人と交流して舞鶴市の仕事やまちを発展させる。 ・子どもたちの学びや教育。 ・姉妹都市や友好都市 ・舞鶴市や日本のよさにも気づいて、世界を広く見てほしい。 ・人と人との交流がより活発になり、世界平和につながる。	とに込めた願いについて迫りやすくするために、舞鶴市役所の国際交流課の方にインタビューした内容をまとめたものを検証資料とする。
舞鶴市は、二度と戦争を起こさないように平和を願う気持ちから、都市交流を始めた。舞鶴市の仕事やまちを発展させること、子どもたちに外国のことを知ってもらい、世界を広く見てほしいと思っている。そして、外国の人と協力して、環境問題などを解決したり、交流することで、最終的には世界平和につなげたいと考えている。	
5 本単元の学習を振り返り、たくさんの外国の方が訪れる京都市で生きる自分たちが、今後どのように外国の人たちと交流していくのかを考える。 ○舞鶴市の様子を踏まえて、京都市は、どのように外国と交流すればいいと思いますか？ ・私は、外国語に興味があるので、言葉を教え合ってコミュニケーションの力を伸ばせるような交流をすればいいと思います。 ・私は、野球が得意なので、野球の練習を一緒にしたり、試合をしたりする交流会すればいいと思う。 ・交流することで、相手の国の人と仲良くなって、お互いの違いやよさを分かり合い、世界が平和になっていけばいいと思う。 ・交流をきっかけに、外国の人の文化や考えることがわかるようになって、協力して環境問題なんかを解決できるようになりたい。	□京都市の姉妹都市や国際交流の取り組みなども示し、自分たちが具体的に国際交流に取り組むイメージを持てるようにする。 □自分たちが交流する手立てとなるように、以前、ラオスの人たちと交流したことが想起できるよう、交流した時の写真などの資料を側面に掲示し、振り返る。 【思②】 舞鶴市の国際交流の様子や、舞鶴市役所の方の思いから、自分たちが将来、外国の人たちとよりよい交流をするために、京都市はどのように外国と交流すればよいかを考える。 (ノート・発言)

(3) 板書計画

【学習問題】 なぜ舞鶴市では、いろいろな外国の都市との交流を続けているのだろう。			ウズベキスタン タシケント市	大韓民国の浦項市
舞鶴市			予想	舞鶴市役所の坪内さんのお話
ナホトカ市	大連市	ポーツマス市	舞鶴市では、	
			わたしは、	

(4) 本時の評価

観点	評価規準
【思②】	舞鶴市の国際交流の様子や、舞鶴市役所の方の思いから、自分たちが将来、外国の人たちとよりよい交流をするために、京都市はどのように外国と交流すればよいかを考える。
おおむね満足できる子どもの具体的な姿	
私は、野球が得意なので、野球の練習を一緒にしたり、試合をしたりする交流会すればいいと思う。交流することで、コミュニケーションの力を高めて、相手の国の人と仲良くなって、世界が平和になっていけばいいと思う。	

(5) 本時のふり返りの視点

ふり返りの視点	指導者の働きかけ
⑧単元の学びを振り返る	今回の単元を振り返って、舞鶴市の様子を踏まえ、京都市は、どのように外国と交流すればいいと思いますか？

本時では、本単元を振り返り、なぜ舞鶴市が国際交流を行っているのかという学習問題を解決した理由をもとにすることで、これから自分自身がこの京都市でどのように外国の人たちと交流していくのかを考えられるようにする。

(6) 検証資料

舞鶴市役所 国際交流課の坪内さんのお話

舞鶴市は、おたがいの都市がより深くつながり合い、二度と戦争を起こさないように平和を願う気持ちから、都市交流を始めました。昔は市役所が中心となって国際交流をしていましたが、今は SNS など、だれでも外国の人とつながれるようになり、市役所の国際交流はまちをよくするための一つの方法になっています。

そんな今でも、舞鶴市が国際交流を行う目的は、外国の人と交流して舞鶴市の仕事やまちを発展させるため、子どもたちの学びや教育につなげるためです。

外国の人と交流し、協力することで、環境問題などおたがいの都市がかかえる共通の課題を解決したり、文化を交流することができ、舞鶴市の仕事やまちが発展していきます。

外国に姉妹都市や友好都市があることで、これからの未来を生きる子どもたちに外国のことを知ってもらい、舞鶴市や日本のよさにも気づいて、世界を広く見てほしいと思っています。

国際理解が深まることで、人と人との交流がより活発になり、最終的には世界平和につながると信じています。

◆◆◆ 4年部会 成果と課題 ◆◆◆

壺の矢：質の高い学習問題

【昔から続く京都府の祭り～祇園祭～】では、子どもたちに身近な祇園祭や山鉾巡行について知ること、祇園祭は約1150年、山鉾巡行は約700年前からあるということや、多くのお金と人がいること、準備も大変だということをする中で、「とても大変なのに、なぜ山鉾巡行は約700年も続けられているのだろうか。」という充実した見通しにつながる学習問題を設定することができた。



貳の矢：明確な見通し

【くらしとごみ】では、学習問題に対してゴミマップを使って予想をした。地域のゴミ捨て場にあったごみがその後どのようにして処理されていくのか時系列で予想をすることに繋がった。また、調べたことを同じゴミマップにまとめていくことで子ども同士の交流がしやすくなった。

※元の学習問題
集められたたくさんのごみは、どこに行き、どうなるのだろうか。



参の矢：充実した調べる学習

<1>子どもたちの主体性を核とした

調べる時間の設定

【古くから受けつがれてきた産業のさかんな宇治市】では、「宇治市ではお茶の生産量が少ないのになぜお茶に関するものがたくさんあるのだろうか」という学習問題を問い化すると「どのような歴史があるのだろうか。」「どのような環境でつくっているのだろうか。」「どのような作り方をしているのだろうか。」「どうやってたくさんの人に飲んでもらうようにしているのだろうか。」「とすることが出来た。このうち歴史と環境については一斉学習を進めた。その後、作り方と広め方を個々に調べていくことで、人に焦点を当てながら調べることが出来、単元のまとめで人々の協力関係やまちづくりに気付くことが出来た。

参の矢：調べる学習の充実

<2>調べた事実をもとに

意味を考える場面の設定

【外国の都市とさまざまな国際交流をしている舞鶴市】では、単元全体を振り返り、これまでの学習から、多くの国の方が訪れる京都市で暮らす自分たちは、どのように外国の人たちと交流していけばよいのかを考えることが出来るようにした。多くの都市と交流を続ける理由から、国際交流の意味を考えることが出来た。

壺の環：系統立てて育む力の整理

予想を分類して問い化することや、自分なりの理由をもって調べる順番を決めたり変更したりして学習計画を立てることを時間を掛けながら継続して指導を行ってきた。その結果、時間を掛けずとも出来るようになってきた。

貳の環：持続可能な評価

調べる時間に子どもたちの様子を十分に時間をかけて見取り、指導に生かす評価の充実を図ることで、子どもたちが概ね満足できる状況へと到達することができるようになる。

課題：全国大会へ向けて

調べる時間をまとめて取ることで子どもたちの状況を把握して多くの支援を行い、考えを引き出すことが出来た。しかし、知識・技能面の指導が不十分であるように感じられた。例えば、「自然災害からくらしを守る」では、学習指導要領に「関係機関相互の協力関係などを読み取る技能、調べたことを図表などにまとめる技能などを身に付けるようにすることが大切である。」とあるが、調べたことを図表にまとめている子どももいたが、調べて分かったことを羅列しただけで終わってしまった子どももいた。個人で追究する時間を大切にしながら、付けるべき力は一斉指導を行うなど、知識・技能面についてもしっかりと子どもたちに身に付けられるように単元を構成して情報を収集する場面やまとめる場面でも系統立てて育む力を意識して育てたいと考える。



5年部会 実践記録



社会科学学習指導案

指導者 京都市立西院小学校

松木 貫太

1 日 時 令和7年6月27日(金) 第6校時(14:30～15:15)

2 学 級 第5学年3組(28名)

3 場 所 5年3組教室

4 単元名 「米づくりのさかんな地域」

5 単元の目標

我が国の米の生産について、生産の工程、人々の協力関係、技術の向上、輸送、価格や費用などに着目して、地図や各種の資料などで調べ、まとめることで、米づくりに関わる人々の工夫や努力を捉え、その働きを考え、表現することを通して、我が国の米づくりに関わる人々が、生産性や品質を高めるよう努力したり輸送や販売方法を工夫したりして、良質な米を消費地に届けるなど、食糧生産を支えていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度を養う。

6 単元の評価規準

【知識・技能】

- ①米の生産の工程、人々の協力関係、技術の向上、輸送、価格や費用などについて、地図や各種の資料で調べて、必要な情報を集め、読み取り、米づくりに関わる人々の工夫や努力を理解している。
- ②調べたことをまとめ、米づくりに関わる人々は、生産性や品質を高めるよう努力したり輸送や販売方法を工夫したりして、良質な米を消費地に届けるなど、食糧生産を支えていることを理解する。

.....

【思考・判断・表現】

- ①米の生産の工程、人々の協力関係、技術の向上、輸送、価格や費用などに着目して、問いを見だし、米づくりに関わる人々の工夫や努力について考え表現している。
- ②米づくりの仕事の工夫や努力とその土地の自然条件や需要を関連付けて米づくりに関わる人々の働きを多角的に捉え、適切に表現している。

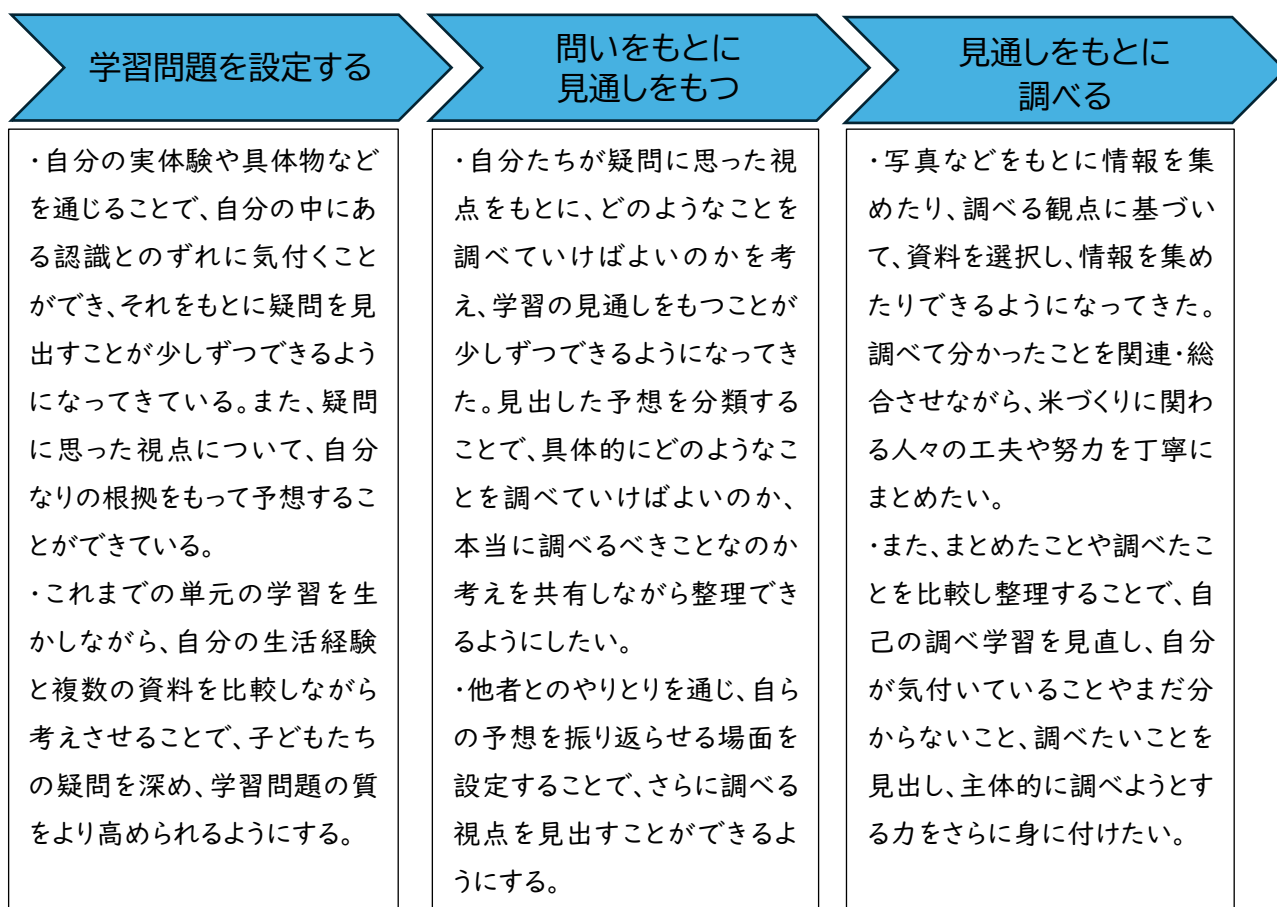
.....

【主体的に学習に取り組む態度】

- ①我が国の米の生産について、予想や学習計画を立て、学習を振り返ったり見直したりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。

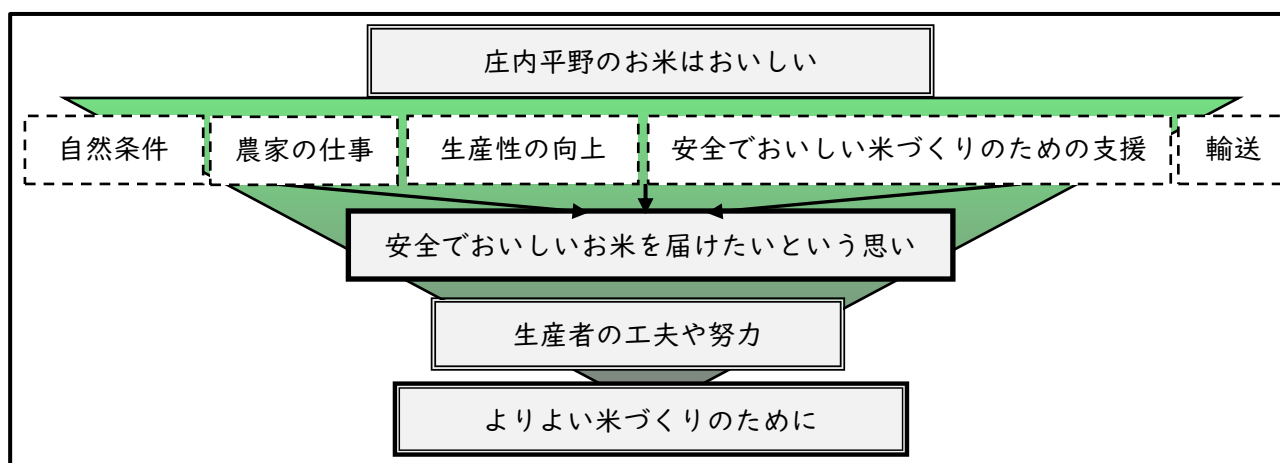
7 児童及び教材について

(1) 児童の実態とめざす姿



(2) 教材について

本教材を整理すると、次のように捉えることができる。

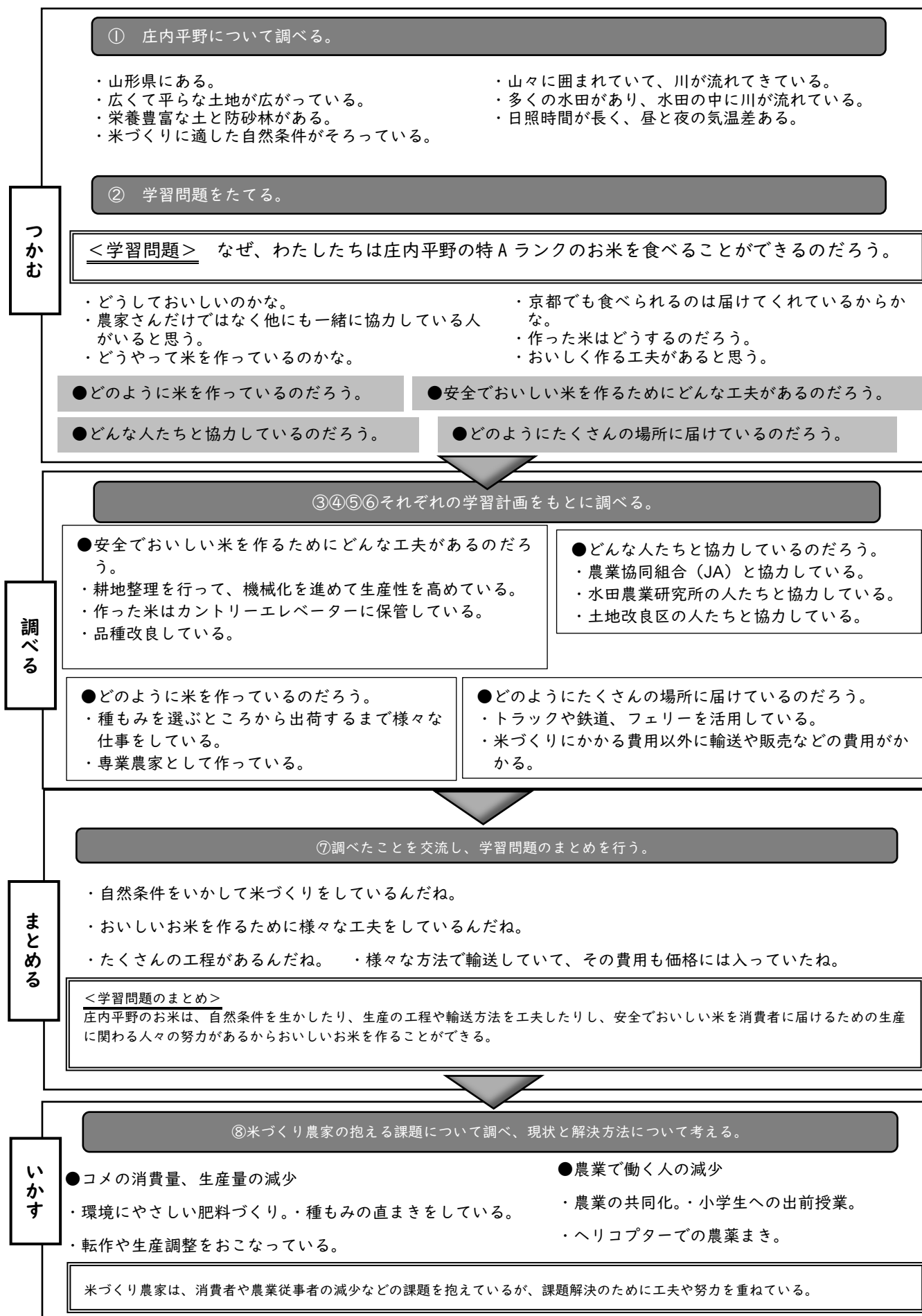


本単元では、米の生産について、生産の工程、人々の協力関係、技術の向上、輸送、価格や費用などに着目することで、米づくりに関わる人々が安全でおいしい米を消費者に届けるために、様々な工夫や努力をしていることについて学ぶ。子どもたちは今までに、食料生産には、気候や地形などの自然条件が重要であることを学習してきている。そこで単元の1時間目には、庄内平野の地形や気候の特色について調べ、庄内平野が米づくりに適した自然条件がそろっていることを理解する。単元の2時間目には、単元の学習問題「なぜわたしたちは庄内平野の特 A ランクのお米を食べることができるのだろう」を設定する。米の生産量では、山形県は1位ではない。ただ、品質のよさを

表す「特A」のお米の生産は1位である。このずれをもとに、子どもたちに疑問をもたせ、学習問題を設定する。また、山形県で作られているお米が、自分たちの住む京都府でも食べられていることにも気付かせることで、輸送や販売方法にも目を向けさせたい。

設定した学習問題について、各種資料で調べることを通して、米づくりに関わる人々が生産性や品質を高めるために努力していることや輸送や販売方法を工夫していることに気付くことができるように学習を進めていく。また、単元の終わりには、「いかす」学習として米づくり農家の課題について考える。農家の抱える課題や、解決のために行っている新しい取り組みについて知ること、これからの日本の米づくりについて、自分たちにできることについて考えさせたい。

8 単元構想図



9 単元計画（8時間）

学習 過程	○主な学習活動 ・ 児童の反応	【評価規準】 (評価方法)
つかむ	① ○庄内平野の地形や気候の特色を確認し、庄内平野では米作りに適した自然条件がそろっていることを知る。 ・ 庄内平野は平らな土地が広がっている。 ・ 庄内平野に多くの水田があって、水田の中に川が流れている。 ・ 近くには高い山もある。 ・ 庄内平野には川がたくさんある。 ・ 酒田市は宮古市と比べ、冬に降水量が多く、夏の平均気温が高い。 ・ 酒田市は春から秋にかけて日照時間が長い。	【思判表①】 庄内平野の地形や気候の特色に着目して、問いを見いだしている。(発言、ノート)
	② ○庄内平野の米の食味ランキングの資料から問いを見出し、学習問題を考え、予想を立てる。 ・ 庄内平野のお米は食味ランキングで特 A をとり続けているね。 ・ なぜ遠い地域でもおいしく食べられるのだろうか。 ・ 自然条件以外にも何かおいしくなる工夫があるのだろうか。 <学習問題> なぜ、わたしたちは庄内平野の特 A ランクのお米を食べることができるのだろうか。 ・ 作り方に工夫があるのではないかな。 ・ 保存の仕方や運び方に工夫があるのではないか。 ・ おいしくするために研究しているのではないか。 ○予想を問い化し、学習計画を立てる。 ● 庄内平野のお米はどのように作られているのだろうか。 ● 庄内平野のお米はどのように消費者に届けているのだろうか。 ● 庄内平野のお米作りにはどのような人々が関わっているのだろうか。	【態①】 我が国の米の生産について、予想や学習計画を立て、学習をふり返ったり見直したりして主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。(発言、ノート)
調べる	③④⑤⑥ ○それぞれの学習計画をもとに調べる。 ● 庄内平野のお米はどのように作られているのだろうか。 ・ 米づくり農家は、種もみを選ぶところから出荷前のもみすりまで、様々な仕事を行っている。 ・ 米づくり農家は、耕地整理や機械化を進め、生産性を高める工夫や努力を進めてきた。 ● 庄内平野のお米はどのように消費者に届けているのだろうか。 ・ 生産された米は、コントリーエレベーターに保管されたあと、様々な方法で輸送され、消費者に届けられている。 ・ 米づくりにはいろいろな費用がかかり、直接消費者に販売する方法をとる農家もいる。 ● 庄内平野のお米作りにはどのような人々が関わっているのだろうか。 ・ 農業協同組合（JA）や水田農業研究所、土地改良区の人たちは、安全でおいしい米づくりのために、農家を支援している。	【知①】 庄内平野での米作りの工程や生産性を高めるための取り組みについて調べている。(ノート) 【知①】 生産された米が消費者に届くまでの保存方法や輸送について調べている。(ノート)

まとめる・生かす	◆各自の計画を見直す ・どのように米づくりを進めているのかについて調べていただけれど、友達と交流して、米の安全性やおいしさを高めるための取り組みについて考えることが大切だと分かったよ。 ・違う視点の友だちと交流して、米を消費者に届けるまでの輸送方法についてもっと調べないといけないことが分かったよ。	<u>【知①】</u> 農家を支える人々との協力関係について調べている。 (ノート)
	<u>⑦ 学習問題のまとめを行う。</u> <u><学習問題のまとめ></u> 庄内平野のお米は、自然条件を生かしたり、生産の工程や輸送方法を工夫したりし、安全でおいしい米を消費者に届けるための生産に関わる人々の努力があるからおいしいお米を作ることができる。	<u>【思①】</u> 調べたことをまとめ、米の生産の工程、人々の協力関係、技術の向上、輸送、価格や費用などに着目して、米づくりに関わる人々の工夫や努力について考え表現している。
	<u>⑧ ○農家の抱える課題を知る。</u> ・米の生産量が減っている。 ・米を食べる量が減ったら、米を作る量も減っていく。 <u>○課題を解決するための取組を知り、その理由を考える。</u> ・農作業の共同化。 ・ヘリコプターで農薬をまく。 <u>○その他の取り組みを提案する。</u> ・AIを使ったトラクターの自動運転。 ・SNS などによる米づくりの魅力発信。	<u>【思②】</u> 農家が抱える課題や、将来も日本の米づくりを続けていくための具体的な取り組みについて考えている。

10 本時の学習（本時2／8）

（1）本時の目標

写真や資料を読み取る活動を通して、庄内平野で米づくりに関わる人々の工夫や努力についての学習問題をつくり、これからの学習の視点について考えることができるようにする。

（2）本時の展開

学習活動 ○主な発問等 ・児童の反応	□支援 ◇留意点 ■資料 【評価】
1 前時の学習内容を振り返る。 ○前の学習ではどんなことをしましたか。 ・庄内平野の地形や気候について調べた。 ・庄内平野は米づくりに適した自然条件が揃っている。 ・山形県は京都府からとても離れた場所にある。 （めあて） 学習問題をつくろう。	□庄内平野は米づくりに適した自然条件が揃っていることを想起させるために、ノートで前時の学習を振り返る。 ◇水田の写真を全員で確認することで、たくさんお米が生産できるよさと作業が大変であることの見通しをもたせる。 ■庄内平野の水田の写真 ■山形県と京都府の距離が分かる地図
2 資料から庄内平野ではおいしい米を作ることができることを読み取る。 ○このお米はどこで買ってきたと思いますか。 ・京都で買ったと思う。 ・すごく遠い山形県のお米が京都で買える。 ・どうやって京都まで運んでいるのかな？ ○このお米は特Aのお米です。 ・どうやって作っているのかな？ ・なんで美味しいのかな？ ・作るのが大変そう。 （学習問題） なぜ、わたしたちは庄内平野の特Aランクのお米を食べることができるのだろう。	◇特Aの意味を確認する。 ◇山形県の他にも、米づくりがさかんな地域があることを知り、その中でも山形県がなぜおいしいお米を作ることができるのか児童が疑問をもつことができるように、問い返す。 ■特Aのお米が多い都道府県ランキング ■山形県のお米の出荷先が分かる地図
4 予想を考える。 ○学習問題の予想を考えましょう。 ・米の作り方に工夫があると思う。 ・農家は、助け合って米づくりをしていると思う。 ・仕事をしやすくするための工夫があると思う。 ・新鮮なお米を届けるための工夫があると思う。 5 予想をもとに調べることを考える。 ○予想をもとに調べることを考えよう。 ・農家の仕事について。 ・おいしい米の作り方について。 ・消費者にお米が届くまでについて。 6 学習をふり返り振り返る。 ○これからどのようなことを調べて、どのように学習を進めていきたいですか。	□生活経験や既習事項をもとに予想を書くように声掛けをする。 □予想を書くことが難しい児童には、導入で活用した水田の写真を見せることで、米づくりについて想像できるようにする。 ◇予想を分類し、分類した予想に題名をつけることで、調べることを決める。 【態①】 我が国の米の生産について、予想や学習計画を立て、学習をふり返ったり見直したりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。 （発言・ノート）

(3) 板書計画

めあて 学習問題をつくろう。 資料 ・山形県はお米づくりに適した場所だった。 ・山形県は京都府から離れたところにある。 資料 ・山形県が一番特 A が多い！ ・おいしいお米がたくさん！ 学習問題 なぜ、わたしたちは庄内平野の特 A ランクのお米を食べることができるのだろう。	(予想) <u>どのように作っているのだろう</u> ・水や土にこだわっている ・自然条件を生かして作っている。 <u>どんな人たちと協力しているのだろう</u> ・農家の人たちが協力している。 ・国が農家を支援している。 <u>安全おいしい米をつくるためにどんな工夫があるのだろう</u> ・機械をたくさん使っている。 ・たくさん作るためのシステムがある。 ・安全に保管をする場所がある <u>どのようにたくさんの場所に届けているのだろう</u> ・トラックや船で運んでいると思う。 ・新鮮なまま届けるために、保存の仕方を工夫している。
---	--

(4) 本時の評価

観点	評価規準
【態①】	我が国の米の生産について、予想や学習計画を立て、学習を振り返ったり見直したりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。
おおむね満足できる子どもの具体的な姿	
・おいしいお米をつくるために、苗や土、肥料にこだわっていると思う。 ・1年を通して、水や稲の成長を丁寧に管理していると思う。 ・おいしいお米をつくるために、たくさんの人が協力をしていると思う。 ・お米は新鮮なまま保存をして、トラックで全国に運ばれていると思う。	

(5) 本時のふり返りの視点

ふり返りの視点	指導者の働きかけ
①今後の見通し・予想についてふり返る。	学習問題を解決するために、これからどのようなことを調べて、どのように学習を進めていきたいですか。

本時では、児童が学習問題を解決するための見通しをもつことができているかをふり返る。米の生産や輸送について、児童の予想や疑問から学習問題を設定し、どのようなことを調べれば解決ができそうか、解決するためにどのように学習を進めていきたいか、本時の学習をもとにふり返らせることで、児童の学習への見通しを見取りたい。

11 本時の学習（本時7／8）

指導者 京都市立鷹峯小学校

坂元 翼

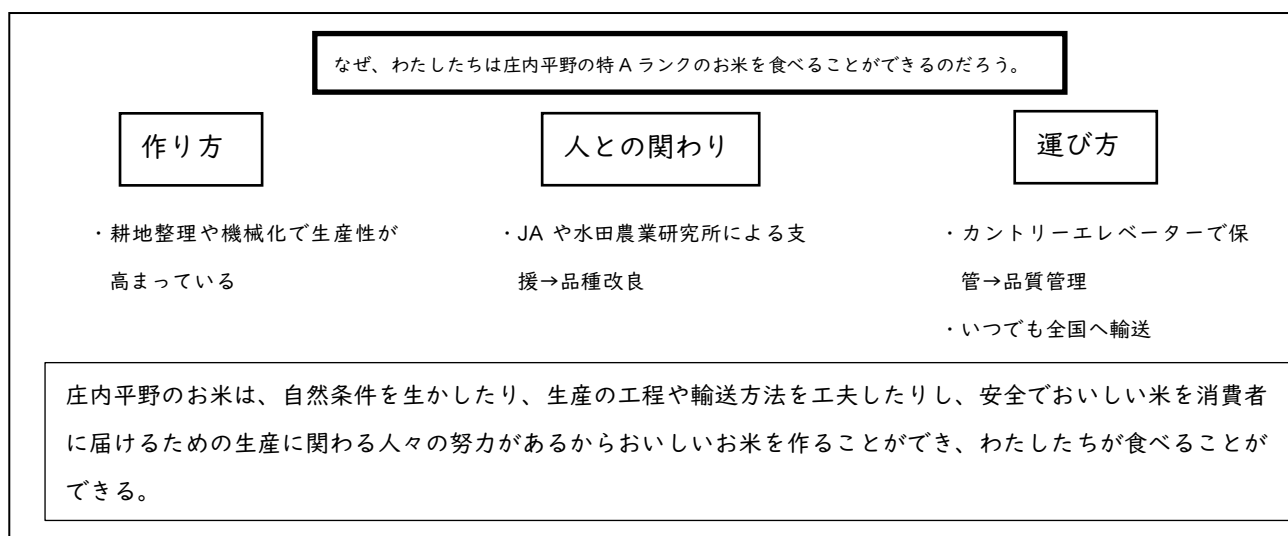
- （1）目標 調べたことをまとめ、米の生産の工程、人々の協力関係、技術の向上、輸送、価格や費用などに着目して、米づくりに関わる人々の工夫や努力について考え表現することができるようにする。

（2）本時の展開

学習活動 ○主な発問等 ・児童の反応	□支援 ◇留意点 ■資料 【評価】
1 前時までの学習内容を振り返り、庄内平野の米づくりについて調べたことをもとに学習問題の答えをまとめる活動を確認する。 ○ それぞれどのような視点で調べを進めてきましたか。 ・庄内平野の米がどのように作られているのかを調べました。 ・庄内平野の米がどのように消費者に届くのかを調べました。 ・庄内平野の米づくりにかかわる人々はたらきについて調べました。 ○ それぞれが調べたことをもとに学習問題の答えについて話し合いました。	□前時までの子どもたちの姿を提示し、根拠となる資料を提示しながら話せるようにする。
なぜ、わたしたちは庄内平野の特Aランクのお米を食べることができるのだろう。	
2 学習問題の答えについて話し合う。 ○ なぜわたしたちは庄内平野の特Aランクのお米を食べることができるのか、その理由について話し合いました。 ・庄内平野の米づくりは、1人で米づくりを進めるのではなく、地域の人と協力し、作業の機械化を進めることで生産性を高めている。肥料をまく時期や水の管理なども話し合っている。このように農家の努力があるから、特Aランクの米を生産することができる、食べることができる。 ・JAの営農指導員によるアドバイスや水田農業研究所の品種改良によって、品質の高い米を生産できる。農家を支える人々のはたらきが大切だと考えたよ。 ・収穫したお米をコンテナエレベーターで保管したり、計画立てて出荷したりすることで品質をそろえることができる。輸送方法もトラック、鉄道、フェリーを活用することで全国に届けることができる。だから庄内平野のお米をわたしたちが食べることができるよ。	■米づくりの様子、庄内平野の農作業ごよみ ■農家の話 ■JAの営農指導や水田農業研究所の様子 ■コンテナエレベーターでの保管や輸送の様子、グラフ □自分の考えと比較して交流相手を選ぶようにロイロノートで答えの根拠となるキーワードを提示する。 ◇ペアで話すことを繰り返し行うことで、学習問題に対する自分の考えを広げたり深めたりするために、議論をさせるようにする。

3 話したことを全体で共有する。 ・農家の人々の努力や工夫があるから品質の高い特 A のお米をわたしたちが食べることができると思っていたが、農家を支えている人々の努力も不可欠だと思った。	
4 学習問題に対するまとめをする。	(まとめ) 庄内平野のお米は、自然条件を生かしたり、生産の工程や輸送方法を工夫したりし、安全でおいしい米を消費者に届けるための生産に関わる人々の努力があるからおいしいお米を作ることができ、わたしたちが食べることができる。
5 本時の学習をふりかえる。	

(3) 板書計画



(4) 本時の評価

観点	評価規準
【思・判・表①】	調べたことをまとめ、米の生産の工程、人々の協力関係、技術の向上、輸送、価格や費用などに着目して、米づくりに関わる人々の工夫や努力について考え表現している。
おおむね満足できる子どもの具体的な姿	
・庄内平野の特 A のお米をわたしたちが食べることができるのは、農家の人々が水の管理や耕地整理など努力をすることで品質の高いお米を生産できるからと考えていた。しかし、それだけではなく JA の営農指導員や水田農業研究所の品種改良など農家を支える人々の努力もあり、特 A のお米が生産できると分かった。	

(5) 本時のふり返りの視点

ふり返りの視点	指導者の働きかけ
⑧単元の学びをふり返る	学習問題は解決できたか。予想は解決できたか。自分の問題解決はどうだったか。

本時では、児童が学習問題を解決できたかをふり返る。調べたことをまとめ、米の生産の工程、人々の協力関係、技術の向上、輸送、価格や費用などに着目して、米づくりに関わる人々の工夫や努力について考えられるようにする。

社会科学学習指導案

指導者 京都市立大塚小学校

山崎 文音

1 日 時 令和7年11月5日(水) 第6校時(14:35～15:20)

2 学 級 第5学年2組(33名)

3 場 所 5年2組教室

4 単元名 「自動車をつくる工業」

5 単元の目標

我が国の自動車生産について、製造の工程、工場相互の協力関係、優れた技術などに着目して、地図帳や地球儀、各種の資料で調べ、まとめることで自動車生産に関わる人々の工夫や努力を捉え、その働きを考え、表現することを通して、自動車生産に関わる人々は、消費者の需要や社会の変化に対応し、優れた製品を生産するよう様々な努力や工夫をして、自動車生産を支えていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究し、解決しようとする態度を養う。

6 単元の評価規準

【知識・技能】

- ① 自動車製造の工程、工場相互の協力の世の中の課題や人々の願い等について、見学・調査したり地図等の資料で調べたりして、必要な情報を集め、読み取り、地域の発展に尽くした先人の具体的事例を理解している。
- ② 調べたことを図表や文などにまとめ、自動車生産に関わる人々は、消費者の需要や社会の変化に対応し、優れた製品を生産するために様々な努力や工夫をして、自動車生産を支えていることを理解している。

.....

【思考・判断・表現】

- ① 自動車の製造の工程、工場相互の協力関係、優れた技術などに着目して、問いを見いだし、自動車生産に関わる人々の工夫や努力について考え、表現している。
- ② 自動車生産の仕事の工夫や努力と消費者の需要や社会の変化を関連付けて、自動車生産に関わる人々の働きを考え、表現している。

.....

【主体的に学習に取り組む態度】

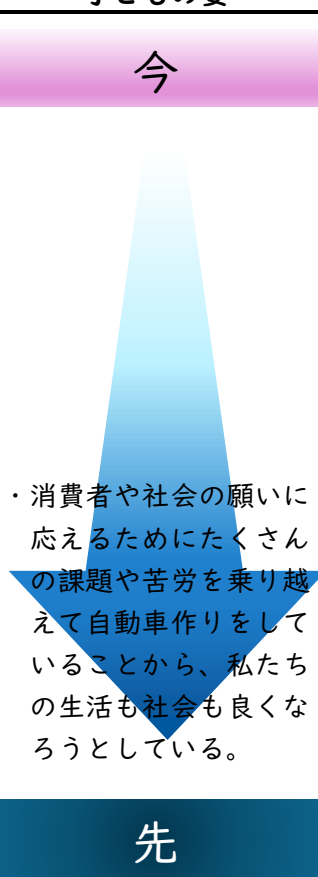
- ① 自動車生産について、予想や学習計画を立てたり、見直したりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。

7 児童及び教材について

(1-1) 児童の実態 (○：成果 ▲：課題)

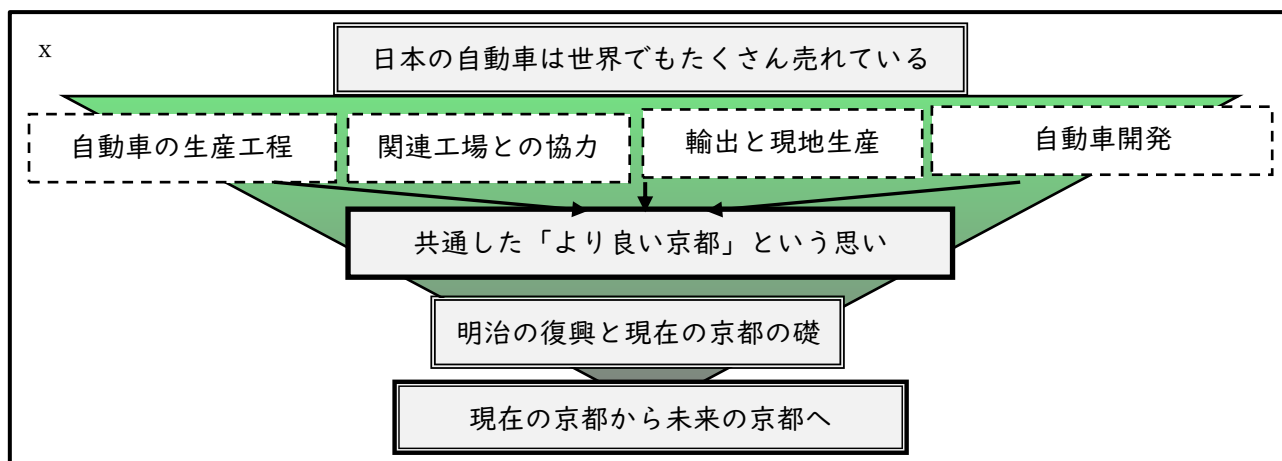
	学習内容や資質・能力に関わる児童の実態	児童の実態に対する具体的な手立てや支援
知識及び技能	○社会的事象について具体物を見聞きするだけでなく、写真等様々な資料を使いながら事実をとらえることができるようになった。 ▲地図帳から様子をとらえることがまだ十分できない子どももいる。	教科書を中心資料として活用し、読み方を確認したり子どもたち同士で話し合ったりする機会を十分設けるようにする。
思考力・判断力・表現力等	○自分の知っていたことと比較したり様々な事象を関連付けたりし、学習問題を設定することができるようになった。 ○調べた事実を基に人々の工夫、おもい等、社会的事象の意味について考えることができるようになってきた。 ▲予想をもとにどのようなことを調べるべきか、よりよく問い化できる子どもが少ない。	予想を立てるときの大事な様相は何かを確認しながら予想を立てるように声掛けする。また、予想をグループ化して整理しながら板書することで、自分たちは何がわかっていないのか、何を調べたらよいのかをとらえることができるようにする。
学びに向かう力・人間性等	○社会的事象と自分たちの生活がつながっていることを理解できるようになってきた。 ▲社会に見られる課題を自分事として捉えにくく、関わりを考えづらい子どももいる。	琵琶湖疏水は京都市にとってかけがえのないものであることを捉えたうえで、琵琶湖疏水船を復活させた意義を踏まえ、自分がどのように関わっていくか考えられるようにする。

(1-2) 今を見て先を見通す子どもの姿

	『今』を見ている 子どもの姿	『先』を見通している 子どもの姿	これから社会へ向かう 子どもの姿
学習問題の設定場面	・車にはいろんな部品があることがわかっている。 ・いろんな種類、色の車があることがわかっている。 ・世界中で日本の車が使われていることがわかっている。	・いろんな部品や種類があり製造するのが大変にもかかわらず、なぜ、世界中でたくさん売れているのかという視点から学習問題を設定している。	 今 ・消費者や社会の願いに応えるためにたくさんの課題や苦勞を乗り越えて自動車作りをしていることから、私たちの生活も社会も良くなるようとしている。 先
見通しの場面	・自動車や各自動車会社のパンフレットから学習問題の予想を立てている。 ・予想を分類し、どのように車を造っているのか、どのように新しい車を考えているのか等の視点で問い化している。	・自動車の製造工程や工場相互の協力関係などについて、何から調べたらよいか、どのくらいの時間をかけて調べたらよいか等、よりよく問題解決できるかを考えながら学習計画を立てている。	
調べる場面	・製造の工程、工場相互の協力関係などについて、計画に従って資料を選択して調べたり、さらに必要な資料を請求したりしている。 ・同じ問いを調べた他者と交流し、情報を広げたり整理したりしている。	・自動車生産にかかわる人々の工夫や努力についてさらに調べようとしている。 ・部品が組み立てられてつくられていることに着目することで、その部品はどのようにしてつくられているのかさらなる問いを見出している。	

(2) 教材について

本教材を整理すると、次のようにとらえることができる。



日本の自動車工業は機械工場の生産額の中で 44%の生産額を占めており、日本の工業生産を大きく支えている工業である。また、1 年間に 900 万台も生産しており、各家庭への普及率からみても、普段の生活に欠かせないものである。そして、そんな日本の自動車工業は世界の販売ランキングでもトヨタ社が 5 年連続 1 位をとるほど、世界中でたくさん売れている。日本の自動車の強みは、生産工程の正確さや速さ、質の高さ、安全性などである。そのような自動車生産にかかわる人々の優れた技術や、関連工場相互の協力関係、そして海外での現地生産の工夫などが関わり世界の中でもたくさん売れているのである。その自動車生産に関わる人々の工夫や努力が、日本の自動車生産を支えている。また、たくさんの課題や苦勞を乗り越え、消費者の需要や社会の変化に対応し、優れた製品を生産し続けている。未来を見据えた新しい自動車の開発もその一つである。本単元では、日本の自動車工業の強みを理解し、未来のことを見据えた新たな自動車開発をすることがこれからのよりよい日本の工業生産にもつながっていくことを考えることができるようにしていく。

8 単元構想図（全7時間）

③ 実際に様々な自動車を見比べて気が付いたことを話し合う。

・車の種類によって、シートの色が違ったり、車の中のつくり自体が違ったりする。・ドアやミラーなど一台の車にはたくさんの部品が使われている。・同じ車の会社でもたくさんの種類の車がある。・欲しい車は人それぞれ違うから、一人一人に合った車がある。・電気で動いたり、キーレスになったりして便利になっている。・安全に運転できるようにモニターがたくさんついている。・誰でも運転しやすいように、シートが動いたり、高さが調整できたりする。・1時間にたくさんの自動車が作られている。

② 世界の自動車販売ランキングの資料から学習問題をつくり、予想を立て学習計画を立てる。

- ・世界中にはたくさんの自動車を作っている会社がある。・海外の車は見た目もかっこいいな。
- ・世界の販売ランキングで、日本のトヨタが1位で一番売れている。

<学習問題>

なぜ日本の自動車は世界中でたくさん売れているのだろう。

・種類が多いから。・性能がいいから。・海外の車より日本車の方が壊れにくいから。・誰でも安全に運転できるような機能があるから。・部品一つ一つがいてねいに作られていて長持ちするから。

・電気自動車など、新しい車をたくさん作っているから。・世界の人が欲しいと思う車を作っているから。・日本で作った車を欲しいと思う人が多いから。

・海外の車に比べて安くて手に入れやすいから。・よりいいものを届けるように工夫しているから。

●どのようにたくさん作っているのだろう

●どのように新しい自動車を開発しているのだろう

●どのように海外に届けているのだろう

③④⑤⑥それぞれの学習計画をもとに調べる。

●どのようにたくさん作っているのだろう

- ・自動車の生産工程
- ・組み立て工場と関連工場とのつながり

●どのように新しい自動車を開発しているのだろう

- ・研究開発

●どのように海外に届けているのだろう。

- ・輸送
- ・現地生産

調べる

- ・自動車を組み立てるのに人と機械を使って効率的に組み立てている。たくさんの部品を組み立てていけど、部品はどうやって作っているのだろう。
- ・重い部品を取り付けるときは、ロボットや機械を使い、人の手が必要なところは人の手で行うなど、役割分担をして正確に早く作っている。
- ・よい品質の部品を時間通りに組み立て工場に送るために組み立て工場と部品工場は近くにある。災害に備えて、同じ部品でも多くの関連工場で作るようにしている。
- ・新しい自動車を開発するために、世の中の求めるものに合わせたり、安全に誰もが運転できるように考えたりしていた。開発費にお金をかけてまでなぜ新しい車を開発し続けるのだろう。
- ・完成した自動車は港から世界に運ばれていた。だから海沿いに工場が多いんだな。現地生産も行われていて、日本の高い技術をその国に教えたり、働ける場所をつくったりしていた。技術を教えてまで現地生産をすると何がよいのかな。
- ・開発費をたくさんかけてでも開発を続けるのは、消費者や社会の願いに応えるため。たくさんの課題や苦勞を乗り越えて新しい自動車を開発している。
- ・なぜ技術を教えてまで世界各国で現地生産を行うのかというと、輸出だけでなく海外の工場でも自動車を生産することで、費用の面でも安くすることができ、その国のニーズに合わせて生産することができる。また、働く場所も増え、その国の産業の発展にもつながる。だから技術を教えてでも現地生産を行っている。

⑦学習問題のまとめを行う。

<学習問題のまとめ>

日本の自動車は関連工場や組み立て工場、輸送に関わる人々が協力し合うことで、早く正確に質の高い自動車をたくさん生産することができる。そして誰もが生活に必要な自動車だからこそ、自動車工場では検査を徹底して行い、安全のことも考えて作られている。そして、消費者や社会のことを考えて新しい自動車を開発し続けているからこそ、日本の自動車は世界中でたくさん売れている。

- ・これから先、社会はどんどん変化していく。自動車の工業はその社会の変化に合わせて新しい自動車を開発したり、その国の産業のことまで考えて現地生産を行ったりしていた。これからは社会の変化に合わせて、消費者や生産者、地球環境のことを考えて工業生産を行っていくことが大切になってくると思う。

まとめる・生かす

9 単元計画（7時間）

学習 過程	○主な学習活動 ・児童の反応 ●調べる問い	□支援◇留意点【評価】
つかむ	① ○実際に様々な自動車を見比べて気が付いたことを話し合う。 ・自動車の種類によって、シートの色が違ったり、自動車のなかのつくり自体が違ったりする。 ・ドアやミラーなど 1 台の自動車にはたくさんの部品が使われている。 ・同じ自動車の会社でもたくさんの種類がある。 ・欲しい自動車は人それぞれ違うから、一人一人に合った自動車がある。 ・電気で動いたり、キーレスになったりしていて便利になっている。 ・安全に運転できるようにモニターがたくさんついている。 ・一つの自動車に部品は約 3 万個使われている。 ・1 分間に約 6 台も自動車は作られている。	□実際に自動車を 3 台ほど見比べることで、一台一台の違いや部品の多さに気付くことができるようにする。 【知①】 自動車にはたくさんの部品が使われており、大量に生産されていることを理解している。（発言・ノート）
	【壹の矢】 ② ○自動車を見比べて気付いたことや、世界中で日本の自動車が売れていることが分かる資料から学習問題をつくる。 ・たくさんの自動車をどうやって早く正確に作っているのかな。 ・日本の自動車をどうやって海外にたくさん届けているのかな。 ・世界には他にもたくさんの種類の自動車があるのに、なぜ 5 年間もずっと日本の自動車が売れ続けているのかな。 ＜学習問題＞ なぜ日本の自動車は世界中で売れているのだろう。	□自動車を見比べた時の写真や動画を見ることで、視覚的に気付いたことを捉え、予想の手掛かりとする。 □様々な種類の自動車のパンフレットを用意することで、日本の自動車がなぜ売れているのか予想できるようにする。
【弐の矢】	□世界中にたくさんの種類の自動車があるのに、なぜ日本の自動車が売れているのかという学習問題について、「どのようにたくさん作っているのだろう」「どのように海外に届けているのだろう」「どのように新しい自動車を開発しているのだろう」と問い化した問いを基に学習の見通しをもてるようにする。 ○学習問題について予想を立て、その予想について議論し問い化し学習計画を立てる。 ・日本の自動車は種類が多いからかな。	□学習問題について予想し、その予想を分類することで、問い化できるようにする。 ◇調べる時間の配分や方法について見通しをもつように声掛けをする。 【思①】 自動車の製造の工程、工場相互の協力関係、優れた技術な

【参の矢】

- ・日本の自動車の方が壊れにくいからかな。
- ・性能がいいからかな。
- ・海外の車に比べて安いからかな。でも届けるのにお金がかかるはずだから、どのように届けているのかな。
- ・電気自動車など新しい車をたくさん開発しているからじゃないかな。
- ・世界の人も欲しがる自動車を作っているからかな。
- どのようにたくさん作っているのだろう。
- どのように海外に届けているのだろう。
- どのように新しい自動車を開発しているのだろう。

国それぞれの問いについて子どもたちが資料を選択して調べるようにする。

国それぞれが調べている内容をロイロノートや黒板も使って交流し、考えを広げられるようにする。

国調べていく中で見出した問い、現地生産や新しい自動車開発の意味・意義等について調べ深めたことを基に全体で考えるようにする。

③④⑤⑥○それぞれの学習計画をもとに調べる。

- どのようにたくさん作っているのだろう。
- ・自動車を組み立てるのに人と機械を使って効率的に組み立てている。たくさんの部品を組み立てていたけど、部品はどうやって作っているのだろう。
- ・重い部品を取り付けるときは、ロボットや機械を使い、人の手が必要なところは人の手で行うなど、役割分担をして正確に早く作っている。
- ・よい品質の部品を時間通りに組み立て工場に送るために組み立て工場と部品工場は近くにある。災害に備えて、同じ部品でも多くの関連工場で作るようにしている。

- どのように海外に届けているのだろう。
- ・完成した自動車は港から世界に運ばれていた。だから海沿いに工場が多いんだな。現地生産も行われていて、日本の高い技術をその国に教えたり、働ける場所をつくったりしていた。技術を教えてまで現地生産をすると何がよいのかな。
- ・なぜ技術を教えてまで世界各国で現地生産を行うのかというと、輸出だけでなく海外の工場でも自動車を生産することで、費用の面でも安くすることができ、その国のニーズに合わせて生産することができる。また、働く場所も増え、その国の産業の発展にもつながる。だから技術を教えてまでも現地生産を行っている。

- どのように新しい自動車を開発しているのだろう。
- ・新しい自動車を開発するために、世の中の求めるものに合わせたり、安全に誰もが運転できるように考えたりしていた。開発費にお金をかけてまでなぜ新しい車を開発し続けるのだろう。
- ・開発費をたくさんかけてでも開発を続けるのは、消費者や社会の願いに応えるため。たくさんの課題や苦勞を乗り越えて新しい自動車を開発している。

どに着目して、問いを見いだし、自動車生産に関わる人々の工夫や努力について考え、表現している。

(発言・ノート)

【態①】

自動車生産について、予想や学習計画を立てたり、見直したりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。

(発言・ノート)

【貳の環】

国調べる中で、学習問題へのつながりや取組の意義について個別に問掛け、進捗状況を確認し、資料や対話の必要性等を助言する。

国調べることに難しさを感じている子どもには、何を調べるのかを確認したり、資料の見方を伝えたりしながらどのようなことがわかるかを確認して調べられるようにする。

【貳の環】

国調べの後に、さらに追究したい問いを交流し、学習計画の調整を適宜促す。

◇調べる中でさらに必要な資料はないか尋ねる。

【知①】

自動車製造の工程、工場相互の協力の世の中の課題や人々の願い等について、見学・調査したり地図等の資料で調べたりして、必要な情報を集め、読み取り、地域の発展に尽くした先人の具体的事例を理解している。(ノート)

【知②】

調べたことを図表や文などにまとめ、自動車生産に関わる人々は、消費者の需要や社会の変化に対応し、優れた製品

		を生産するために様々な努力や工夫をして、自動車生産を支えていることを理解している。(発言・ノート)
まとめる・いかす	③学習問題のまとめを行う。 <学習問題のまとめ> 日本の自動車は関連工場や組み立て工場、輸送に関わる人々が協力し合うことで、早く正確に質の高い自動車をたくさん生産することができる。そして誰もが生活に必要な自動車だからこそ、自動車工場では検査を徹底して行い、安全のことも考えて作られている。そして、消費者や社会のことを考えて新しい自動車を開発し続けているからこそ、日本の自動車は世界中でたくさん売れている。	【思②】 自動車生産の仕事の工夫や努力と消費者の需要や社会の変化を関連付けて、自動車生産に関わる人々の働きを考え、表現している。 (発言・ノート) □これまでの学習で分かったことを整理した記録を振り返ることで、書くことができるようにする。

【吉の環】

- 写真資料や絵図を用いて、情報を適切に取り出すことができる。
- 何にどのくらいの調べる時間が必要か、自分の計画に沿って所要時間を見通すことができる。
- 調べていく中で事実を捉え、そこからさらに疑問を見出し、調べる計画を立てることができる。

10 本時の学習（本時2／7）

（1）本時の目標

実物や写真や資料を読み取る活動を通して、自動車づくりに関わる人々の工夫や努力についての学習問題をつくり、予想を立てることができるようになる。

（2）本時の展開

学習活動 ○主な発問等 ・児童の反応	□支援 ◇留意点 ■資料 【評価】
1 前時の学習内容を振り返り、本時の中心資料を提示し、学習問題をつくる。 ○資料を見て気づいたことはありませんか。 ・世界で日本の車が走っている。 ・トヨタの売り上げが5年間1位。 ・見たことない車があるよ。 （学習問題） なぜ、日本の自動車は世界中でたくさん売れているのだろう。 2 既習事項をもとに予想を立てる。 ○なぜ日本の自動車は世界で売れているのか予想しよう。 ・種類が多いからかな。 ・壊れにくいからなのでは。 ・たくさんの部品があったから上手に組み立てているからかな。 3 立てた予想を交流する。 ○どんな予想を立てたのかペアで話し合おう。 ・安全に乗れるからだと思う。パンフレットに安全装置について書かれていたよ。 ・新しい車をたくさん作っているから世界でも使えるのだと思うよ。 ・車の種類が多いからだと思うよ。パンフレットを見ているとたくさんの種類がのっていたよ。 ・車にはたくさんの部品があったよ。その部品をていねいに組み立てているから売れているのだと思う。 4 予想をもとに調べることを考えよう。 ・どのようにたくさんつくっているのだろう。 ・車を組み立てる時の工夫は何かな。 ・どのように新しい車を開発しているのだろう。 ・どのように海外に届けているのだろう。 5 本時の学習をふりかえる。 ○次の時間何から調べていきたいか順番を決めよう。 ・車の組み立てが気になっているから作り方について	□車に部品があることを把握するために、実際に車を見られるようにする。（前時） ◇日本の自動車が世界で使われていることに気づけるように資料を子どもたちに提示する。 ■海外で走っている日本の車の写真 ■世界の車の種類 ■自動車（日本車・外車）の写真 ■世界の車の売上ランキング ■各自動車会社のパンフレット □前時に学習した、車の部品がたくさんあることや世界中でも使われている視点をふり返ることで予想を立てることができるようになる。 □予想を立てる際に参考にした資料を提示しながら交流することで、根拠を持って自分の考えを伝えられるようにする。 □これまでの学習を想起させて考えることで、その理由を考えられるようにする。 ◇予想を広げたり、深めたりすることができるようペアで意見を交流する。 ◇予想を分類し、分類した予想に題名をつけることで、調べることを決める。 ◇学習問題に対して一番関係していると思うことことから調べが進められるように予想をしたことをふり振り返りながら書くように指示する。

て調べるよ。 ・完成した車がどうなっているのか気になるから、運ばれ方について調べたいな。	【態①】 車づくりについて、予想や学習計画を立て、学習をふり返ったり見直したりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。 (発言・ノート)
---	--

(3) 板書計画

なぜ、日本の自動車は世界中でたくさん売れるのだろう。

作り方	開発	届け方
・種類が多いから。 ・性能がいいから。 ・海外の車より日本車の方が壊れにくいから。 ・誰でも安全に運転できるような機能があるから。 ・部品一つ一つがていねいに作られていて長持ちするから。	・電気自動車など、新しい車をたくさん作っているから。 ・世界の人々が欲しいと思う車をつくっているから。 ・日本で作った車を欲しいと思う人が多いから。	・海外の車に比べて安くて手に入れやすいから。 ・よりいいものを届けられるように工夫しているから。

(4) 本時の評価

観点	評価規準
【態①】	車づくりについて、予想や学習計画を立て、学習をふり返ったり見直したりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。
おおむね満足できる子どもの具体的な姿	
・車の作り方について調べたい。なぜなら、たくさんの部品がていねいに組み立てているのから世界でも売れると思うから。 ・完成した車がどうなるのか調べたい。なぜなら、海外でもたくさんの日本の車が使われているのが気になるから。	

(5) 本時のふり返りの視点

ふり返りの視点	指導者の働きかけ
① 今後の見通し・予想についてふり返る	今日の学習を通じ、どのような順序で調べていきますか。なぜ、そう考えましたか。

本時では前時の学びをいかしながら学習問題の予想し調べの計画を立てる。学習問題の「なぜ、日本の自動車は世界中で売れているのか」について、製造の工程や、工場相互の協力関係、優れた技術などに、着目して調べを進めていけるようにする。本時では予想で考えたことをもとに次回からの調べ学習の計画についてふり返らせ、自動車生産に対する子どもの考えを見取りたい。

Ⅰ 本時の学習（本時 5 / 7）

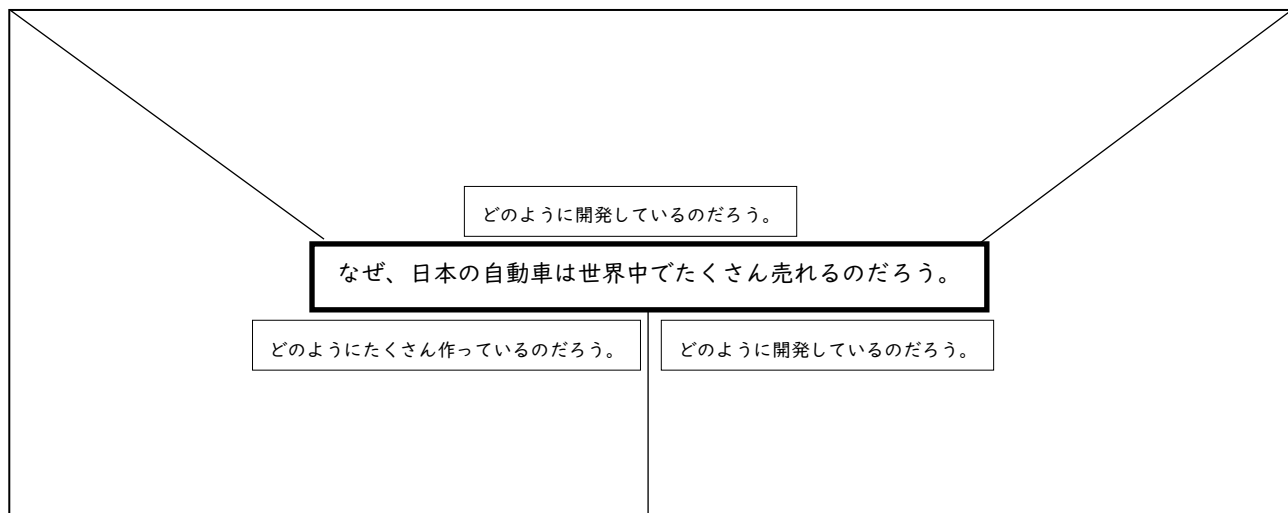
（１）本時の目標

今まで調べてきた自動車づくりに関わる人々の工夫や努力について交流する活動を通して、学習問題に迫り、次時の調べに向けての見通しと計画が立てられるようにする。

（２）本時の展開

学習活動 ○主な発問等 ・児童の反応	□支援 ◇留意点 ■資料 【評価】
１ 学習問題と調べる視点、中間交流の目的を確認する。 ○学習問題と調べる視点は何か。 【学習問題】 ・なぜ、日本の自動車は世界中でたくさん売れているのだろう。 【視点】 ・どのようにたくさん作っているのだろう。 ・どのように開発しているのだろう。 ・どのように海外に届いているのだろう。 ２ 調べたことの中間交流をする。 ○今まで調べてきたことをもとに、学習問題に迫る考えを中心に交流しましょう。 ・組み立て工場では人と機械によって組み立てラインの上で作られている。 ・指示ビラやアンドンがあり、何度も検査することで正確に作れるから買い手が安心して買うことができるのではないか。 ・関連工場で部品が作られていた。 ・完成した自動車はキャリアカーや船などで国内、海外に運んでいるから国内だけではなく海外でもたくさん売れるのではないか。 ３ 本時をふり返り、次時の調べに向けての見通しと計画をたてる。 ○交流を通して次の時間調べたいことについてふり返りましょう。 ・どのようにたくさん作っているのかを次の時間に調べよう。 ・どのように開発しているか調べていたけど、今日の交流でもう少し調べたいと思った。 ・どのように海外に届いているのかを調べられたので、ほかの視点とどのようにつながっているかも調べたい。	◇３ 時間目の調べの時間から調べてわかったことは白、学習問題に迫る自分で考えたキーワードは青のカードにまとめることを伝えておく。 □ロイロノートの提出箱を回答共有することで、一緒に交流したい人を考えられるようにする。 □自分の調べられていないことは付け加えたり、学習問題に迫るキーワードについて説明したりするように声をかける。 ◇交流が上手なグループがあれば紹介し、交流の手本となるようにする。 ■ふり返りシート（ロイロノート） 【知②】 調べたことを図表や文などにまとめ、自動車生産に関わる人々は、消費者の需要や社会の変化に対応し、優れた製品を生産するために様々な努力や工夫をして、自動車生産を支えていることを理解している。（発言・ノート）

(3) 板書計画



(4) 本時の評価

観点	評価規準
【知②】	調べたことを図表や文などにまとめ、自動車生産に関わる人々は、消費者の需要や社会の変化に対応し、優れた製品を生産するために様々な努力や工夫をして、自動車生産を支えていることを理解している。
おおむね満足できる子どもの具体的な姿	
・組み立て工場で人と機械によって組み立てラインの上で作られている。 ・完成した自動車はキャリアカーや船などで国内、海外に運んでいる。 ・指示ビラやアンドンがあり、何度も検査することで正確に作れるから買い手が安心して買える。	

(5) 本時のふり返りの視点

ふり返りの視点	指導者の働きかけ
② 今後の見通し・予想についてふり返る	今日の学習を通じて、前時までで調べられていなかったことを知れましたね。次の時間から調べたいことについて計画を考えましょう。

本時では前時までの調べた知識を交流し、学習問題に迫る調べに向けた計画を立てる。自分が調べてきたことをもとに学習問題の「なぜ、日本の自動車は世界中で売れているのか」について、キーワードや自分の考えを交流することで新たな知識や考えを深められるようにする。本時では交流を通して学習問題に対する子どもの考えを見取りたい。

社会科学学習指導案

指導者 京都市立大宮小学校

上地 侑樹

1 日 時 令和8年2月27日(金) 第5校時(14:15～15:00)

2 学 級 第5学年1組(35名)

3 場 所 5年1組教室

4 単元名 「わたしたちの生活と森林」

5 単元の目標

我が国の国土の自然環境と国民生活との関連について、森林資源の分布や働きなどに着目して、地図帳や各種の資料で調べ、まとめることで国土の環境を捉え、森林資源が果たす役割を考え、表現することを通して、森林は、その育成や保護に従事している人々の様々な工夫と努力により国土の保全など重要な役割を果たしていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決し、学習したことを基に国土の環境保全について自分たちにできることなどを考えようとする態度を養う。

6 単元の評価規準

【知識・技能】

- ①森林資源の分布や働きなどについて、地図帳や各種の資料で調べて、必要な情報を集め、読み取り、国土の環境を理解している。
- ②調べたことを白地図や図表、文などにまとめ、森林は、その育成や保護に従事している人々の様々な工夫と努力により国土の保全など重要な役割を果たしていることを理解している。

.....

【思考・判断・表現】

- ①森林資源の分布や働きなどに着目して、問いを見だし、国土の環境について考え、表現している。
- ②我が国の国土における森林の分布と国民の生活舞台である国土の保全を関連付けて、森林資源が果たす役割を考えたり、学習したことを基に、国土の環境保全について、自分たちにできることなどを考えたり選択・判断したりして、表現している。

.....

【主体的に学習に取り組む態度】

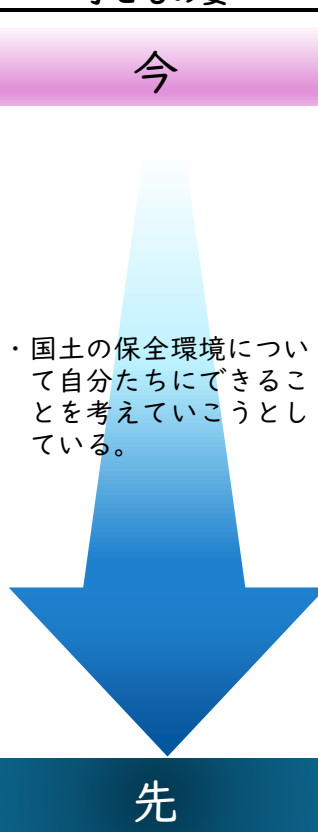
- ①森林資源の働きについて、予想や学習計画を立てたり、見直したりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。
- ②学習したことを基に国土の環境保全について、自分たちにできることなどを考えようとしている。

7 児童及び教材について

(1-1) 児童の実態 (○：成果 ▲：課題)

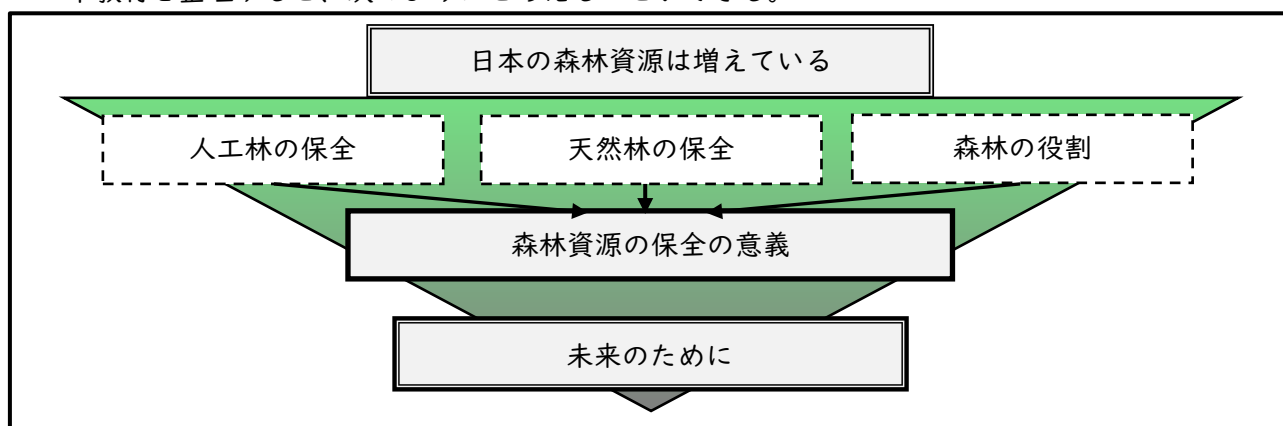
	学習内容や資質・能力に関わる児童の実態	児童の実態に対する具体的な手立てや支援
知識及び技能	○社会的事象について調べていく中で、教科書と参考資料を組み合わせながら、単元の学習問題に迫る調べ学習を進めていけるようになった。 ▲単元の学習問題について文にまとめる際に、資料から調べたことを文に表すことが苦手な児童がいる。	調べの際に、単元の学習問題に関する内容をノートやワークシートにまとめさせる。そして、まとめの際にはその調べた内容を活用しながら、単元の学習問題について文にまとめることができるようにする。
思考力・判断力・表現力等	○社会的事象について、なぜそうなったのかという因果関係について着目し、問いを見いだすことができるようになった。 ▲調べた複数の事実を関連付けながら単元の学習問題について考えられる児童が多くない。	ノートや Y チャートを用いたワークシートを活用することで、調べた内容同士を関連付けられるようにする。また、資料を見て、複数の事実を確かめながらまとめることで、複数の事実のつながりを意識できるようにする。
学びに向かう力・人間性等	○単元の学習問題について、既習事項を生かしながら予想し、自分の予想に合わせながら学習計画を立てることができるようになった。 ▲調べを進める中で、調べた内容や友達との意見交流に応じて、学習計画を見直そうとする子どもが少ない。	単元の学習問題や当初の自分の予想に常に立ち返り、次の問いを調べようとする際には、なぜその問いを選択したのかを考えながら調べ学習を進められるようにする。

(1-2) 今を見て先を見通す子どもの姿

	『今』を見ている 子どもの姿	『先』を見通している 子どもの姿	これから社会へ向かう 子どもの姿
学習問題の設定場面	- 日本の森林は、国土の約3分の2を占めていることが分かっている。 - 自分たちの身の回りには、たくさんの木材を使った製品があることを分かっている。	自分たちの身の回りには、たくさんの木材を使った製品があるにも関わらず、なぜ、森林資源が豊かなのかという視点から学習問題を設定している。	 今 ・国土の保全環境について自分たちにできることを考えていこうとしている。 先
見通しの場面	- 天然林と人工林の写真から、学習問題の予想を立てている。 - 予想を分類し、天然林と人工林は誰がどのようにして守っているのかや森林にはどのような役割があるのかという視点から問い化している。	誰がどのように森林を守っているかや森林にはどのような役割があるのかについて、何を調べたらよいか、どのくらいの時間をかけて調べたらよいか等、よりよく問題解決できるかを考えながら学習計画を立てる。	
調べる場面	- 誰がどのように森林を守っているのかや森林にはどのような役割があるのかという視点から、計画に従って資料を選択して調べたり、さらに必要な資料を請求したりしている。 - 同じ問いを調べた他者と交流し、情報を広げたり整理したりしている。	- 調べる中で、誰がどのように森林を守っているのかや森林にはどのような役割があるのかについてさらに考えを深めようとしている。 - 多くの人や時間をかけて森林を守っていることに着目することで、どうしてそこまでして守る必要があるのかさらなる問いを見出している。	

(2) 教材について

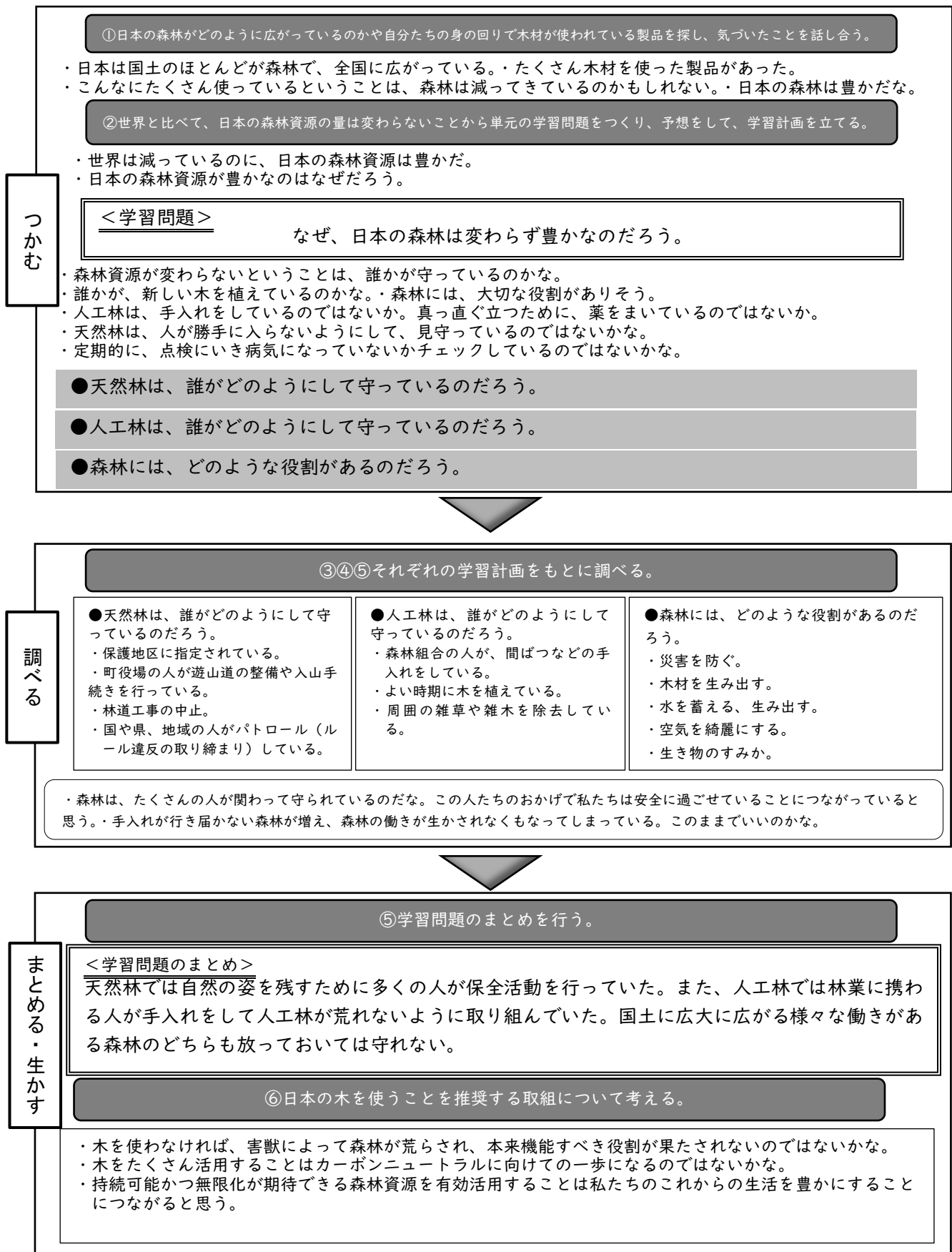
本教材を整理すると、次のようにとらえることができる。



日本の森林は国土の約3分の2を占めており、世界でも森林の割合が多い国であり、その森林の約4割は人が植えて育てた人工林である。私たちの身の回りには様々な木材の製品が存在し、森林の多面的機能に支えられている。例えば、箸、家具など生活になくてはならないものの材料となる。そんな中、森林資源は年々増えており、国や県、地域の人たちの働きにより守られている。その森林保全に関わる人々の工夫や努力により国土の保全など重要な役割を果たしている。森林には、水を蓄えて浄化し、二酸化炭素を吸収して温暖化の抑制や動植物のすみかとなっている。さらに災害から私たちの生活を守ってくれるなどの大切な役割を担っている。しかし、木材の利用は十分に進んでいないのが現状であり、木材を放置することは環境に悪影響を及ぼしてしまっている。

そこで日本は、各地で木を使うことを推奨する取組を進めている。木材を使うことは、「伐って、使って、植えて、育てる」という人工林のサイクルの一部であり、二酸化炭素の吸収や国土を災害から守るといった森林のもつ多くの働きを発揮させるためにも、木材を使って森を育てることは大切なことである。人工林を伐って使うとともに、植えて育てることを進めていくことで、未来につながる森林の持続的なサイクルが保たれることにつながる。

8 単元構想図（全6時間）



9 単元計画（6時間）

学習 過程	○主な学習活動 ・児童の反応 ●調べる問い	□支援◇留意点【評価】
つかむ	①○日本の森林がどのように広がっているのかや、自分たちの身の回りで木材が使われている製品を探し、気づいたことを話し合う。 ・日本は国土のほとんどが森林で、全国に広がっている。 ・たくさん木材を使った製品があった。 ・こんなにたくさん使っているということは、森林は減ってきているのかもしれない。 ・日本の森林は豊かだな。 ・自分たちの生活には、木材が欠かせないな。	□地図の読み取りが難しい子どもには、それぞれの色が何を表しているのか確かめ、森林の広がりについて気付くことができるようにする。 □学習支援ソフトで木材の製品を写真に撮り、身の回りには木材の製品がたくさんあることを、視覚的に実感できるようにする。 【知①】 国土における森林の広がりについて理解している。（発言・ノート） 【思①】 身の回りに、木材の製品がたくさんあることから問いを提出している。（発言・ノート）
	②世界と比べて、日本の森林資源の量は変わらないことから単元の学習問題をつくり、予想をして、学習計画を立てる。 ・世界は減っているのに、日本の森林資源は豊かだ。 ・日本の森林資源が豊かなのはなぜだろう。 □自分たちの身の回りには、たくさんの木材を使った製品があるにも関わらず、なぜ、森林資源の量が変わらないのかという視点から学習問題を設定することができるようにする。	
	<学習問題> なぜ、日本の森林は変わらず豊かなのだろう。 □なぜ、日本の森林は豊かなのだろう。という学習問題について、「天然林は、誰がどのようにして守っているのだろう。」「人工林は、誰がどのようにして守っているのだろう。」「森林には、どのような役割があるのだろう。」と問い化した問いを基に学習の見通しをもてるようにする。 ・森林資源が変わらないということは、誰かが守っているのかな。 ・誰かが、新しい木を植えているのかな。 ・森林には、大切な役割がありそう。 ・人工林は、手入れをしているのではないかな。真っ直ぐ立つために、薬をまいているのではないかな。	□天然林と人工林の写真を提示することで、予想の手立てとすることができるようにする。 【態①】 なぜ、日本の森林は豊かなのかについて予想している。（発言・ノート）

【言の矢】

【式の矢】

	・天然林は、人が勝手に入らないようにして、見守っているのではないかな。 ・定期的に、点検にいき病気になっていないかチェックしているのではないかな。 ●天然林は、誰がどのようにして守っているのだろう。 ●人工林は、誰がどのようにして守っているのだろう。 ●森林には、どのような役割があるのだろう。	
【参の矢】 調べる	目それぞれの問いについて、子どもたちが資料を選択して、調べられるようにする。 目それぞれが調べている内容をロイロノートや黒板を使って交流し、考えを広げられるようにする。 目調べていく中で見出した森林保全の意義について調べ深めたことを基に全体で考えられるようにする。 ③④⑤〇それぞれの学習計画をもとに調べる。 ●天然林は、誰がどのようにして守っているのだろう。 ・保護地区に指定されている。 ・町役場の人が遊山道の整備や入山手続きをしている。 ・林道工事の中止。 ・国や県、地域の人々がパトロール（ルール違反の取り締まり）している。 ●人工林は、誰がどのようにして守っているのだろう。 ・森林組合の人が、間ばつなどの手入れをしている。 ・よい時期に木を植えている。 ・周囲の雑草や雑木を除去している。 ●森林には、どのような役割があるのだろう。 ・災害を防ぐ。 ・木材を生み出す。 ・水を蓄える、生み出す。 ・空気を綺麗にする。 ・生き物のすみか。 〇各自の計画を見直す ●森林は、たくさんの人が関わっているのだな。この人たちのおかげで私たちは安全に過ごせていることにつながっていると思う。けれど、手入れが行き届かない森林が増え、森林の働きが生かされなくなっている。このままでいいのかな。	【貳の環】 目調べる中で、学習問題へのつながりや取組の意義について個別に問いかけ、進捗状況を確認し、資料や対話の必要性などを助言する。 ◇調べたことをノートやワークシートにまとめさせる。 ◇調べたことが、単元の学習問題にどうつながるのかを考えながら、まとめさせる。 □調べることに難しさを感じている子どもには、何を調べているのかを確認したり資料の見方を伝えたりしながら、どのようなことが分かるかを確認して、調べられるようにする。 【貳の環】 目調べの後に、さらに追求したい問いを見出し、学習計画の調整を適宜促す。 ◇調べる中でさらに必要な資料はないか尋ねる。 【知②】 調べたことを言葉や図などにまとめ、誰がどのようにして守っているのかについて理解している。（ノート・ワークシート） 【思②】 森林の働きの重要性や森林資源の利用が、森林を保全する意義にどのようにつながっているのかを考えている。（ノート・ワークシート）

まとめる	⑤学習問題のまとめを行う。 <学習問題のまとめ> 天然林では自然の姿を残すために多くの人が保全活動を行っていた。また、人工林では林業に携わる人が手入れをして人工林が荒れないように取り組んでいた。国土に広大に広がる様々な働きがある森林のどちらも放っておいては守れない。	【知②】 調べたことを文などにまとめ、森林は、その育成や保護に従事している人々の様々な工夫と努力により国土の保全など重要な役割を果たしていることを理解している。(発言・ノート)
いかす	⑥日本の木を使うことを推奨する取組について考える。 ・地球の環境に良い。 ・資源として無限に生み出せる。 ・林業に携わる方への支援につながる。	【思②】 日本の木を使うことを推奨する取組について考えることを通して、木を使うことの意味について自分の考えをまとめている。(発言・ノート) 【態②】 学習したことを基に国土の環境保全について、自分たちができることなどを考えようとしている。

【舌の環】

- 写真資料や絵図を用いて、情報を適切に取り出すことができる。
- 何にどのくらいの調べる時間が必要か、自分の計画に沿って所要時間を見通すことができる。
- 調べていく中で事実を捉え、そこからさらに疑問を見出し、調べる計画を立てることができる。

10 本時の学習（本時2／6）

（1）本時の目標

世界の森林資源が減少していることと日本の森林資源は変わらないことを比べることを通して、問いを見出し、これからの学習の視点について考えることができるようにする。

（2）本時の展開

学習活動 ○主な発問等 ・児童の反応	□支援 ◇留意点 ■資料 【評価】
1 前時の学習内容を振り返り、本時の中心資料を提示し、学習問題をつくる。 ○資料を見て気づいたことはありませんか。 ・日本の森林面積はあまり変化がない。 ・人工林や天然林、どちらもあまり変わらない。 ・世界の森林面積は減っているのに、なぜ日本の森林資源は豊かなままなのだろう。	◇日本の森林面積が変わらないことに気付けるように、資料を子どもたちに提示する。 ■世界の森林面積の推移 ■日本の森林面積の推移 ■人工林、天然林の写真
学習問題 なぜ、日本の森林は変わらず豊かなのだろう。	
2 既習事項をもとに予想を考える。 ○なぜ、日本の森林資源は豊かなのか予想しよう。 ・森林資源が変わらないということは、誰かが守っているのかな。 ・誰かが、新しい木を植えているのかな。 ・森林には、大切な役割がありそう。 ・人工林は、手入れをしているのではないかな。 ・真っ直ぐ立つために、薬をまいているのではないかな。 ・天然林は、人が勝手に入らないようにして、見守っているのではないかな。 ・定期的に、点検にいき病気になるっていないかチェックしているのではないかな。	□前時に学習したことや生活経験をもとに、予想ができるように声かけを行う。 □具体的な予想が難しい児童には、資料を提示し、個別に声をかける。
3 立てた予想を交流する。 ○どんな予想を立てたのかペアで話し合おう。 ・人工林は、手入れをしているのではないかな。 ・真っ直ぐ立つために、薬をまいているのではないかな。 ・天然林は、人が勝手に入らないようにして、見守っているのではないかな。 ・定期的に、点検にいき病気になるっていないかチェックしているのではないかな。 ・森林には、大切な役割がありそう。 ・災害から私たちを守ってくれているのではないかな。	□予想を考える際に、参考にした資料を提示しながら交流することで、根拠をもって自分の考えを伝えられるようにする。 □これまでの学習を想起させて考えることで、その理由を考えられるようにする。 ◇予想を広げたり、深めたりすることができるようペアで意見を交流する。

4 予想を基に問い化する。 ○予想をもとに調べることを考えよう。 ・天然林は、誰がどのようにして守っているのだろう。 ・人工林は、誰がどのようにして守っているのだろう。 ・森林には、どのような役割があるのだろう。 5 本時の学習を振り返る。 ○次の時間は、何から調べるか自分の中で計画を立てておきましょう。	◇予想を分類し、分類した予想に題名をつけることで、調べることを決める。 ◇学習問題に対して一番関係していると思うことから調べが進められるように予想をしたことをふり返りながら書くように声をかける。 【態度①】 世界の森林面積の推移と日本の森林面積の推移の資料を比べることで、問いを見出し、なぜ、日本の森林資源は豊かなのかについて予想を考えている。(発言・ノート)
---	--

(3) 板書計画



世界の森林面積



人工林、天然林別の森林面積の推移

なぜ、日本の森林は変わらず豊かなのだろう。



人工林



天然林

・世界は減っているのに、日本は変わらない。どうして、変わらないの？

・人工林は、手入れをしている？

・真っ直ぐ立つために、薬を巻いている？

・森林には、大切な役割がある？

・災害から私たちを守ってくれている？

●人工林は、誰がどのようにして守っているのだろう。

●森林には、どのような役割があるのだろう。

●天然林は、誰がどのようにして守っているのだろう。

(4) 本時の評価

観点	評価規準
【態度①】	世界の森林面積の推移と日本の森林面積の推移の資料を比べることで、問いを見出し、なぜ、日本の森林資源は豊かなのかについて予想を考えている。
おおむね満足できる子どもの具体的な姿	
・なぜ、日本の森林資源は豊かなのだろう。 ・だれかが森林資源を守ってくれているのではないかな。	

(5) 本時のふり返りの視点

ふり返りの視点	指導者の働きかけ
②今後の見通し、予想について振り返る。	今日の学習を振り返り、予想をもとにどの問いから調べるのか計画を立てましょう。

本時では、前時の学びを生かしながら、学習問題の予想をし、調べの計画を立てる。学習問題の「なぜ、日本の森林は変わらず豊かなのだろう。」について、天然林の保全活動や人工林の保護活動、森林の働きなどに着目して調べを進めていけるようにする。また、予想で考えたことをもとに、次回からの調べ学習の計画についてふり振り返り、見通しをもてるようにしたい。

社会科学習指導案

指導者 京都市立朱雀第八小学校

福本 光莉

1 日 時 令和8年3月10日(火) 第6校時(14:35～15:20)

2 学 級 第5学年1組(25名)

3 場 所 5年1組教室

4 単元名 「わたしたちの生活と森林」

5 単元の目標

我が国の国土の自然環境と国民生活との関連について、森林資源の分布や働きなどに着目して、地図帳や各種の資料で調べ、まとめることで国土の環境を捉え、森林資源が果たす役割を考え、表現することを通して、森林は、その育成や保護に従事している人々の様々な工夫と努力により国土の保全など重要な役割を果たしていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決し、学習したことを基に国土の環境保全について自分たちにできることなどを考えようとする態度を養う。

6 単元の評価規準

【知識・技能】

- ①森林資源の分布や働きなどについて、地図帳や各種の資料で調べて、必要な情報を集め、読み取り、国土の環境を理解している。
- ②調べたことを白地図や図表、文などにまとめ、森林は、その育成や保護に従事している人々の様々な工夫と努力により国土の保全など重要な役割を果たしていることを理解している。

.....

【思考・判断・表現】

- ①森林資源の分布や働きなどに着目して、問いを見だし、国土の環境について考え、表現している。
- ②我が国の国土における森林の分布と国民の生活舞台である国土の保全を関連付けて、森林資源が果たす役割を考えたり、学習したことを基に、国土の環境保全について、自分たちにできることなどを考えたり選択・判断したりして、表現している。

.....

【主体的に学習に取り組む態度】

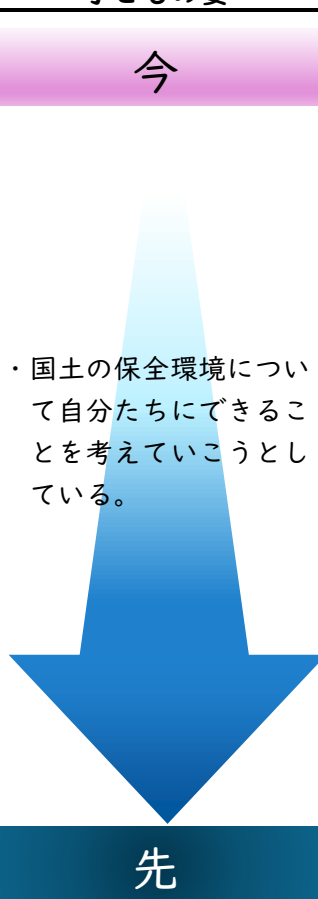
- ①森林資源の働きについて、予想や学習計画を立てたり、見直したりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。
- ②学習したことを基に国土の環境保全について、自分たちにできることなどを考えようとしている。

7 児童及び教材について

(1-1) 児童の実態 (○：成果 ▲：課題)

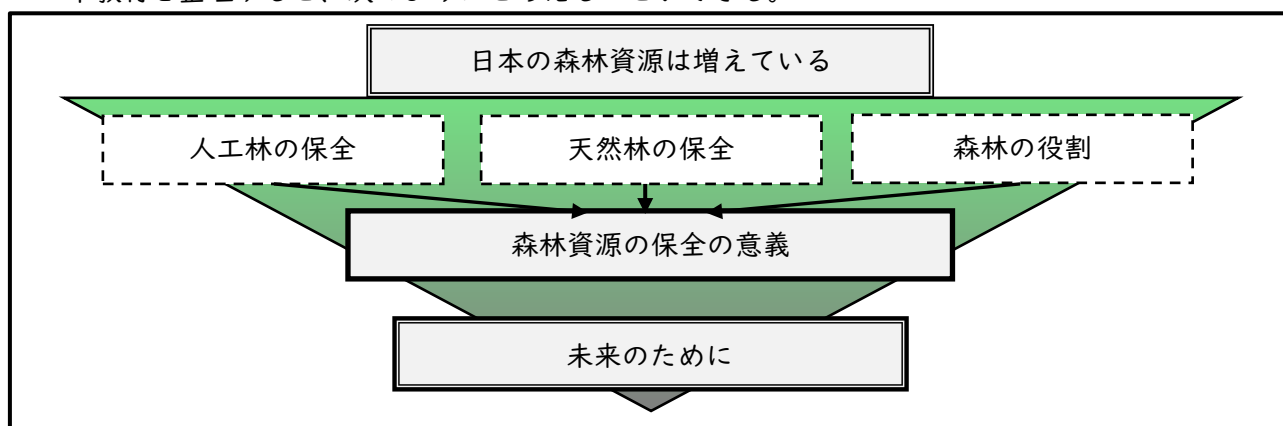
	学習内容や資質・能力に関わる児童の実態	児童の実態に対する具体的な手立てや支援
知識及び技能	○社会的事象について調べていく中で、教科書と参考資料を組み合わせながら、単元の学習問題に迫る調べ学習を進めていけるようになった。 ▲単元の学習問題について文にまとめる際に、資料から調べたことを文に表すことが苦手な児童がいる。	調べの際に、単元の学習問題に関する内容をノートやワークシートにまとめさせる。そして、まとめの際にはその調べた内容を活用しながら、単元の学習問題について文にまとめることができるようにする。
思考力・判断力・表現力等	○社会的事象について、なぜそうなったのかという因果関係について着目し、問いを見いだすことができるようになった。 ▲調べた複数の事実を関連付けながら単元の学習問題について考えられる児童が多くない。	ノートや Y チャートを用いたワークシートを活用することで、調べた内容同士を関連付けられるようにする。また、資料を見て、複数の事実を確かめながらまとめることで、複数の事実のつながりを意識できるようにする。
学びに向かう力・人間性等	○単元の学習問題について、既習事項を生かしながら予想し、自分の予想に合わせながら学習計画を立てることができるようになった。 ▲調べを進める中で、調べた内容や友達との意見交流に応じて、学習計画を見直そうとする子どもが少ない。	単元の学習問題や当初の自分の予想に常に立ち返り、次の問いを調べようとする際には、なぜその問いを選択したのかを考えながら調べ学習を進められるようにする。

(1-2) 今を見て先を見通す子どもの姿

	『今』を見ている 子どもの姿	『先』を見通している 子どもの姿	これから社会へ向かう 子どもの姿
学習問題の設定場面	- 日本の森林は、国土の約3分の2を占めていることが分かっている。 - 自分たちの身の回りには、たくさんの木材を使った製品があることを分かっている。	自分たちの身の回りには、たくさんの木材を使った製品があるにも関わらず、なぜ、森林資源が豊かなのかという視点から学習問題を設定している。	 今 ・国土の保全環境について自分たちにできることを考えていこうとしている。 先
見通しの場面	- 天然林と人工林の写真から、学習問題の予想を立てている。 - 予想を分類し、天然林と人工林は誰がどのようにして守っているのかや森林にはどのような役割があるのかという視点から問い化している。	誰がどのように森林を守っているか森林にはどのような役割があるのかについて、何を調べたらよいか、どのくらいの時間をかけて調べたらよいか等、よりよく問題解決できるかを考えながら学習計画を立てる。	
調べる場面	- 誰がどのように森林を守っているのかや森林にはどのような役割があるのかという視点から、計画に従って資料を選択して調べたり、さらに必要な資料を請求したりしている。 - 同じ問いを調べた他者と交流し、情報を広げたり整理したりしている。	- 調べる中で、誰がどのように森林を守っているのかや森林にはどのような役割があるのかについてさらに考えを深めようとしている。 - 多くの人や時間をかけて森林を守っていることに着目することで、どうしてそこまでして守る必要があるのかさらなる問いを見出している。	

(2) 教材について

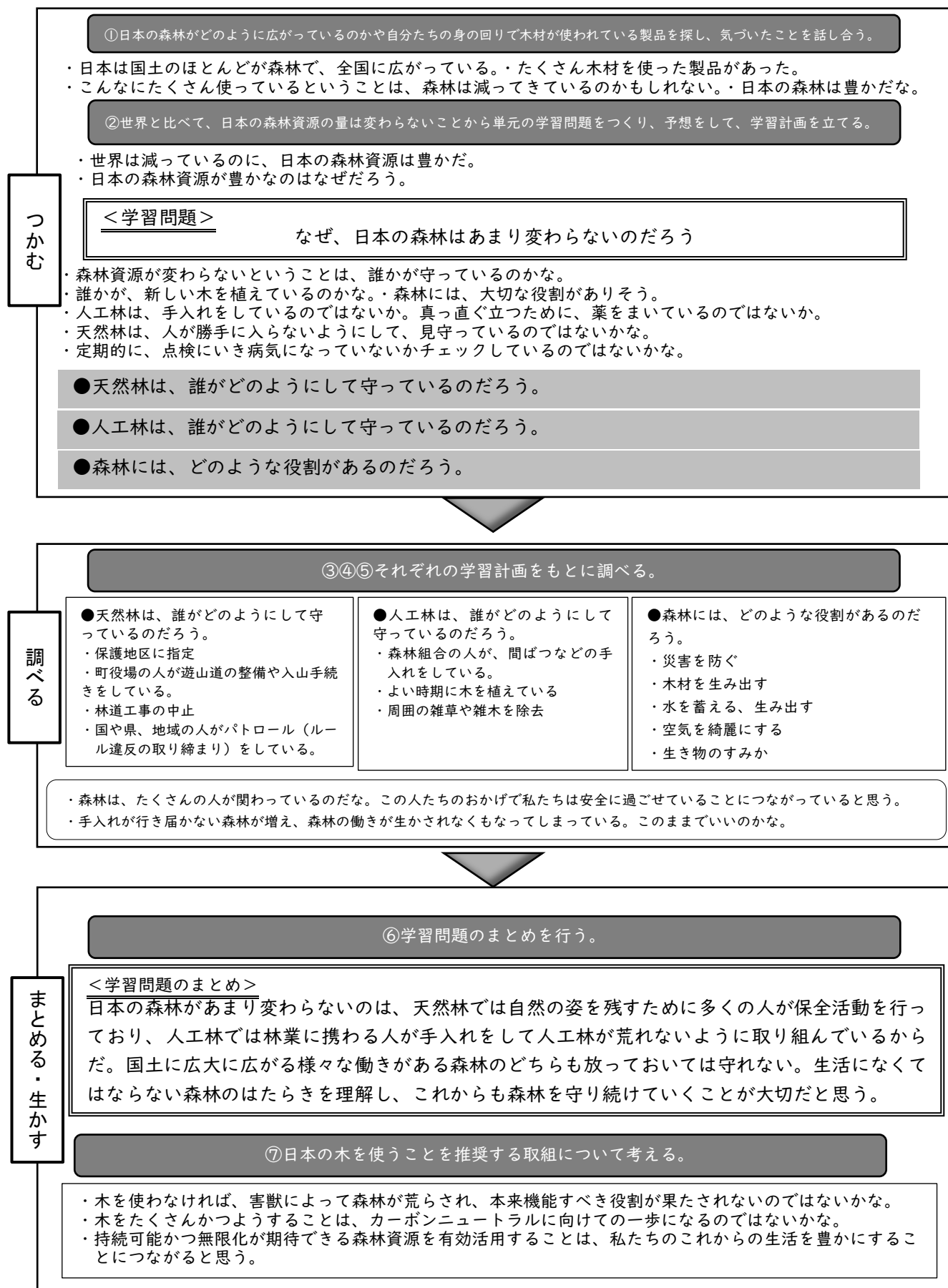
本教材を整理すると、次のようにとらえることができる。



日本の森林は国土の約3分の2を占めており、世界でも森林の割合が多い国であり、その森林の約4割は人が植えて育てた人工林である。私たちの身の回りには様々な木材の製品が存在し、森林の多面的機能に支えられている。例えば、箸、家具など生活になくてはならないものの材料となる。そんな中、森林資源は年々増えており、国や県、地域の人たちの働きにより守られている。その森林保全に関わる人々の工夫や努力により国土の保全など重要な役割を果たしている。森林には、水を蓄えて浄化し、二酸化炭素を吸収して温暖化の抑制や動植物のすみかとなっている。さらに災害から私たちの生活を守ってくれるなどの大切な役割を担っている。しかし、木材の利用は十分に進んでいないのが現状であり、木材を放置することは環境に悪影響を及ぼしてしまっている。

そこで日本は、各地で木を使うことを推奨する取組を進めている。木材を使うことは、「伐って、使って、植えて、育てる」という人工林のサイクルの一部であり、二酸化炭素の吸収や国土を災害から守るといった森林のもつ多くの働きを発揮させるためにも、木材を使って森を育てることは大切なことである。人工林を伐って使うとともに、植えて育てることを進めていくことで、未来につながる森林の持続的なサイクルが保たれることにつながる。

8 単元構想図（全7時間）



9 単元計画（7時間）

学習 過程	○主な学習活動 ・児童の反応 ●調べる問い	□支援◇留意点【評価】
つかむ	①○日本の森林がどのように広がっているのかや自分たちの身の回りで木材が使われている製品を探し、気づいたことを話し合う。 ・日本は国土のほとんどが森林で、全国に広がっている。 ・たくさん木材を使った製品があった。 ・こんなにたくさん使っているということは、森林は減ってきているのかもしれない。 ・日本の森林は豊かだな。 ・自分たちの生活には、木材が欠かせないな。	□地図の読取りが難しい子どもには、それぞれの色が何を表しているのか確かめ、森林の広がりについて気付くことができるようにする。 □学習支援ソフトで木材の製品を写真に撮り、身の回りには木材の製品がたくさんあることを、視覚的に実感できるようにする。 【知①】 国土における森林の広がりについて理解している。（発言・ノート） 【思①】 身の回りに、木材の製品がたくさんあることから問いを提出している。（発言・ノート）
	②世界と比べて、日本の森林資源の量は変わらないことから単元の学習問題をつくり、予想をして、学習計画を立てる。 ・世界は減っているのに、日本の森林資源は豊かだ。 ・日本の森林資源が豊かなのはなぜだろう。 □自分たちの身の回りには、たくさんの木材を使った製品があるにも関わらず、なぜ、森林資源の量が変わらないのかという視点から学習問題を設定することができるようにする。	
	＜学習問題＞ なぜ、日本の森林はあまり変わらないのだろう □なぜ、日本の森林資源は豊かなのだろう。という学習問題について、「天然林は、誰がどのようにして守っているのだろう。」「人工林は、誰がどのようにして守っているのだろう。」「森林には、どのような役割があるのだろう。」と問い化した問いを基に学習の見通しをもてるようにする。 ・森林資源が変わらないということは、誰かが守っているのかな。 ・誰かが、新しい木を植えているのかな。 ・森林には、大切な役割がありそう。 ・人工林は、手入れをしているのではないかな。真っ直ぐ立つために、薬をまいているのではないかな。	□天然林と人工林の写真を提示することで、予想の手立てとすることができるようにする。 【態①】 なぜ、日本の森林資源は豊かなのかについて予想している。（発言・ノート）

【言の矢】

【式の矢】

	・天然林は、人が勝手に入らないようにして、見守っているのではないかな。 ・定期的に、点検にいき病気になるっていないかチェックしているのではないかな。 ●天然林は、誰がどのようにして守っているのだろう。 ●人工林は、誰がどのようにして守っているのだろう。 ●森林には、どのような役割があるのだろう。	
【参の矢】 調べる	目それぞれの問いについて、子どもたちが資料を選択して、調べられるようにする。 目それぞれが調べている内容をロイロノートや黒板を使って交流し、考えを広げられるようにする。 目調べていく中で見出した森林保全の意義について調べ深めたことを基に全体で考えられるようにする。 ③④⑤〇それぞれの学習計画をもとに調べる。 ●天然林は、誰がどのようにして守っているのだろう。 ・保護地区に指定 ・町役場の人が遊山道の整備や入山手続きをしている。 ・林道工事の中止 ・国や県、地域の人々がパトロール（ルール違反の取り締まり）をしている。 ●人工林は、誰がどのようにして守っているのだろう。 ・森林組合の人が、間ばつなどの手入れ ・よい時期に木を植えている ・周囲の雑草や雑木を除去 ●森林には、どのような役割があるのだろう。 ・災害を防ぐ ・木材を生み出す ・水を蓄える、生み出す ・空気を綺麗にする ・生き物のすみか 〇各自の計画を見直す ●森林は、たくさんの人が関わっているのだな。この人たちのおかげで私たちは安全に過ごせていることにつながっていると思う。けれど、手入れが行き届かない森林が増え、森林の働きが生かされなくなっている。このままでいいのかな。	【貳の環】 目調べる中で、学習問題へのつながりや取組の意義について個別に問いかけ、進捗状況を確認し、資料や対話の必要性などを助言する。 ◇調べたことをノートやワークシートにまとめさせる。 ◇調べたことが、単元の学習問題にどうつながるのかを考えながら、まとめさせる。 □調べることに難しさを感じている子どもには、何を調べているのかを確認したり資料の見方を伝えたりしながら、どのようなことが分かるかを確認して、調べられるようにする。 【貳の環】 目調べの後に、さらに追求したい問いを見出し、学習計画の調整を適宜促す。 ◇調べる中でさらに必要な資料はないか尋ねる。 【知②】 調べたことを言葉や図などにまとめ、誰がどのようにして守っているのかについて理解している。（ノート・ワークシート） 【思②】 森林の働きの重要性や森林資源の利用が、森林を保全する意義にどのようにつながっているのかを考えている。（ノート・ワークシート）

まとめる	⑥学習問題のまとめを行う。 <学習問題のまとめ> 日本の森林があまり変わらないのは、天然林では自然の姿を残すために多くの人が保全活動を行っており、人工林では林業に携わる人が手入れをして人工林が荒れないように取り組んでいるからだ。国土に広大に広がる様々な働きがある森林のどちらも放っておいては守れない。生活になくてはならない森林のはたらきを理解し、これからも森林を守り続けていくことが大切だと思う。	【知②】 調べたことを文などにまとめ、森林は、その育成や保護に従事している人々の様々な工夫と努力により国土の保全など重要な役割を果たしていることを理解している。(発言・ノート)
いかす	⑦日本の木を使うことを推奨する取組について考える。 ・地球の環境に良い。 ・資源として無限に生み出せる。 ・林業に携わる方への支援につながる。	【思②】 日本の木を使うことを推奨する取組について考えることを通して、木を使うことの意味について自分の考えをまとめている。(発言・ノート) 【態②】 学習したことを基に国土の環境保全について、自分たちにできることなどを考えようとしている。(発言・ノート)

【忔の環】

- ☐ 写真資料や絵図を用いて、情報を適切に取り出すことができる。
- ☐ 何にどのくらいの調べる時間が必要か、自分の計画に沿って所要時間を見通すことができる。
- ☐ 調べていく中で事実を捉え、そこからさらに疑問を見出し、調べる計画を立てることができる。

10 本時の学習（本時7／7）

（1）本時の目標

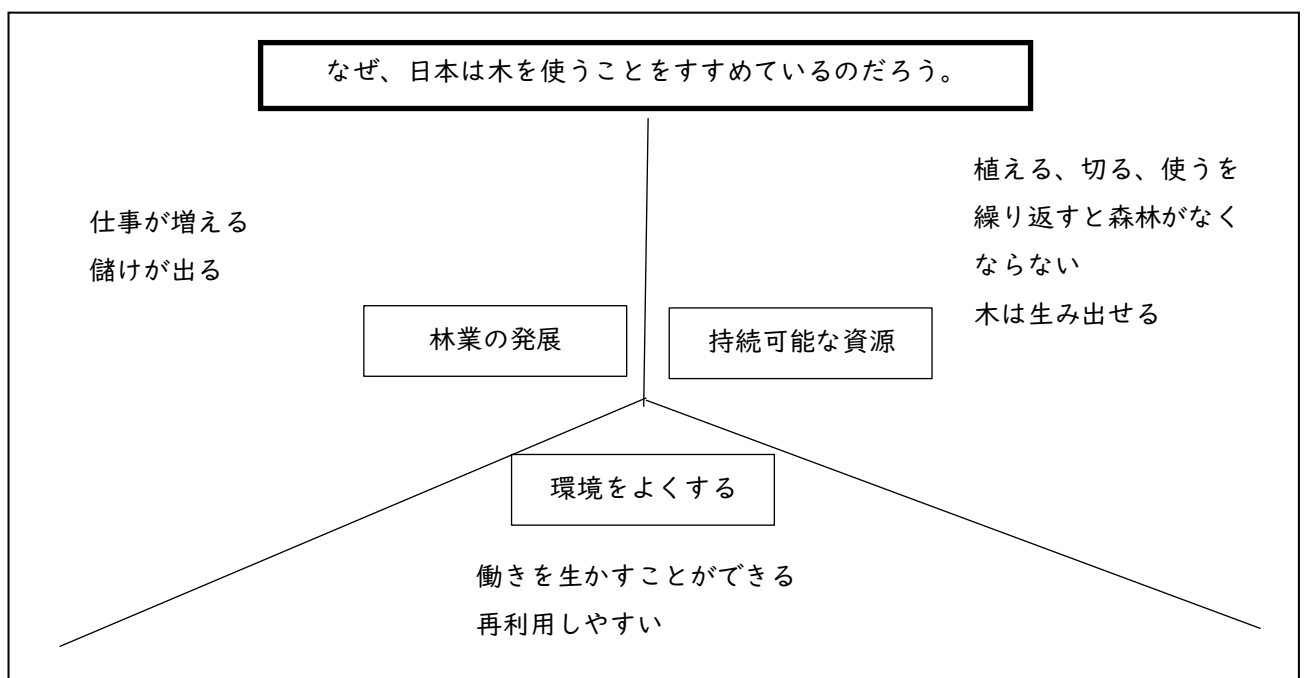
日本の木を使うことを推奨する取組について考えることを通して、木を使うことの意味について自分の考えをまとめている。

（2）本時の展開

学習活動 ○主な発問等 ・ 児童の反応	□支援 ◇留意点 ■資料 【評価】
1 前時の学習内容を振り返る。 ○なぜ、日本の森林は変わらず豊かだったでしょう。 ・人工林は、たくさんの人が森林の手入れをしていた。 ・天然林は、保護地区に指定したり世界遺産に登録したりしていた。 ・人工林と天然林では、違いがあった。 ・森林には、二酸化炭素を蓄えたり災害から守ってくれたりする働きがあった。 2 本時の中心資料を提示し、学習問題をつくる。 ○資料から、どんなことに気づきますか。 ・木を使うことをすすめている。 ・どうして木を使うことを進めているのかな。	◇壁面掲示を活用することで、単元の学習を振り返ることができるようにする。 ■人工林 ■天然林 ■森林の働き ◇木を使うことをすすめていることに気付けるように、資料を子どもたちに提示する。 ■木を使うポスター
本時の学習課題 なぜ、日本は木を使うことをすすめているのだろう。	
2 既習事項や資料をもとに自分の考えをもつ。 ○なぜ、木をたくさん使うことをすすめているのか、自分の考えをもちましよう。 ・木を使うことが環境を守ることにつながるからではないか。 ・木を切って、使って、植えてのサイクルがあると林業の仕事が増えるからではないか。 ・木を切らないと、働きが生かされないからではないか。 ・木は生み出せるから。 3 木を使うことに対する自分の考えをペアで交流する。 ○自分の考えをペアで話し合おう。 ・木は切って、植えてを繰り返すからなくなる資源だと思う。 ・切らずにそのままにしておくと、大切な働きをしないから切らないといけない。 ・木は生み出せる。	□これまで学習したことをもとに、自分の考えがもてるように声かけを行う。 □考えることが難しい児童には、資料を提示したり、課題に目を向かせたりして、個別に声をかける。 □自分の考えをもつ際に、参考にした資料を提示しながら交流することで、根拠をもって自分の考えを伝えられるようにする。 ◇自分の考えを広げたり深めたりすることができるよう、ペアで意見を交流する。

・木を使うことで林業で働く人が増えると思う。 4 本時の学習のまとめをする。 ○産業観光課の方の話を聞いてみよう。 ・やはり、木を使うことは環境に良いことだった。 ・林業の仕事も増えてくるんだね。 ・木は日本にとって持続可能な資源なんだ。 5 単元のふりかえりをする。 ○これまでの学習を通じて、森林保全に対する考えはどのように変わりましたか。また、森林を守っていくために自分にできることを考えてみましょう。 ・木を使うことが環境に良いことだと知ったから、木の製品を買ってみたい。 ・木を守ることは木を傷つけないことだと思っていたけど、切って使うことも守ることにつながることを知って、身近な人に伝えて木を使うことを広めていきたい。	◇資料を提示することで、考えを検証することができるようにする。 ■産業観光課 農林振興室の人の話 ◇これまでの学習で自分が考えていたことがどのように変わったのかという視点で振り返ったり、自分にできることを考えたりできるように指示する。 <u>【思②】</u> 日本の木を使うことを推奨する取組について考えることを通して、木を使うことの意味について自分の考えをまとめている。(発言・ノート) <u>【態②】</u> 学習したことを基に国土の環境保全について、自分たちにできることなどを考えようとしている。(発言・ノート)
---	--

(3) 板書計画



(4) 本時の評価

観点	評価規準
【思・判・表②】	日本の木を使うことを推奨する取組について考えることを通して、木を使うことの意味について自分の考えをまとめている。(発言・ノート)
おおむね満足できる子どもの具体的な姿	
・ 林業で働く人が減っていることから、木を使うことで仕事が増え、林業で働く人が増えていくことがわかった。手入れしたり規制をかけたりして森林を減らさないことが、森林を守ることだと思っていたけれど、木を使うことも森林を守ることになっていた。	
観点	評価規準
【態②】	学習したことを基に国土の森林保全のために、自分たちにできることなどを考えようとしている。(発言・ノート)
おおむね満足できる子どもの具体的な姿	
・ 木を守ることは木を傷つけないことだと思っていたけど、切って使うことも守ることにつながることを知って、身近な人に伝えて木を使うことを広めていきたい。	

(5) 本時のふり返りの視点

ふり返りの視点	指導者の働きかけ
⑥単元の学びを振り返る。	これまでの学習を通じて、森林保全に対する考えはどのように変わりましたか。また、森林を守っていくために自分にできることを考えてみましょう。

本時では、児童の単元の学びを通じた考えの変容について振り返る。森林保全の学習を通じ、森林はたくさんの人の工夫や努力によって保全されており、様々な役割を担っていることを理解している。本時では、日本各地で木を使うことを推奨している取組について考え、これまで学習してきたことと本時で学習してきたことを踏まえ、森林保全に対する自分の考えの変容について振り返らせ、森林保全に対する子どもの考えの変化を見取りたい。また、これから森林を守っていくために、自分は何ができるのか具体的に考えさせたい。

5年部会 成果と課題

壺の矢：質の高い学習問題

【米づくりのさかんな地域】では、まず山形県の庄内平野の場所を地図を用いて確認したあと、庄内平野でとれるお米の実物を提示した。そこで、「どうやって遠い山形県から京都にお米が届けられているのだろう」という疑問を引き出した。次に、食味ランキングを提示することで、庄内平野のお米はただのお米ではなく、特Aランクをとり続けているおいしいお米であるということを捉え、「なぜ、わたしたちは庄内平野の特Aランクのお米を食べることができるのだろう」という充実した見通しにつながる学習問題が設定できた。

【自動車をつくる工業】では、自動車が1分で6台生産されているという事実から、「どのようにたくさんの自動車がつくられているのだろう」という疑問を引き出したあと、世界中には数多くの種類

の自動車があるということ、その中でも日本の自動車が世界で一番売れているという資料を提示し、

「なぜ日本の自動車は世界中でたくさん売れているのだろう」という充実した見通しにつながる学習問題を設定できた。



貳の矢：明確な見通し

見通しの充実を図るために、予想の問い化や調べながらまとめ進める授業づくりを行った。予想を問い化する際には、子どもの予想を分類して板書することで、子どもたち自身がその分類された板書をもとに、問い化できるようにした。

参の矢：充実した調べる学習

調べる学習の充実を図るために、子どもたちが自ら資料を選び、使える環境づくりを行った。また、調べたことを共通のワークシートにまとめたり、共通のボードにまとめることで、子どもたち同士で学習問題の答えに必要な事実を話し合ったり

足りていない情報を伝えあったりすることで自己調整をしながら調べを進めていく姿が見られた。



壺の環：系統立てて育む力の整理

5年部会として、見通しをもつ場面では、これまでの学習で得た知識等を基に予想すること、優先順位をつけながら調べる順番を見通すことについて、調べる場面では、相互関係を整理してまとめること、項目やカテゴリー等に整理してまとめるについて、系統立てて育むことに重点をおいた授業づくりを行った。3、4年生で培われてきた力を、授業づくりに生かすことで、より深い学びに、そして、子どもたちが社会科で調べ進めることができることに繋がったと考える。

貳の環：持続可能な評価

単元を通して、知識・技能の評価をとる場面、思考・判断・表現の評価をとる場面設定に重点を置き、評価の改善を図った。知識・技能の評価をとる場面では、その単元で獲得したい知識を明らかにし、学習問題に対してのまとめを獲得した知識を使って表現することを行った。思考・判断・表現の場面では、学習問題に対する自分なりの考えを、獲得した知識を関連付けたり、総合させたりしながら表現するようにした。また、ふりかえりでは、ふりかえりの10の視点を参考にふりかえりを行った。自ずと子どもたちは自分の予想や見通し、学び方、次に調べなければいけないこと等をふり返ることができるようになり、自己の学習を調整することを持続的に行うことができたと考えている。

課題：全国大会へ向けて

単元によっては、「なぜ」だけではなく、「どうすれば」など、判断を問うような問いの設定も考えたい。単元によっては子どもたちが目の前にある課題についてどうすればよいのか、と考えることができる単元もある。子どもたちが本当に調べたい、考えたいと思えるような問いとは何か、「なぜ」を中核としながらもさらに深く考えたい。

まとめる過程において、調べて得た具体的な知識をもとに、その社会的事象の意味・理由を考えることに取り組んだ。その際、知識の羅列で終わることがないように意識はできていたが、まとめ方については様々な方法があり、どの形が子どもの思考に沿うのか、さらに研究を深めていきたいと考える。



6年部会 実践記録



社会科学学習指導案

指導者 京都市立久世西小学校

山下 将輝

1 日 時 令和7年7月2日(水) 第6校時 (14:40～15:25)

2 学 級 第6学年2組 (28名)

3 場 所 6年2組教室

4 単元名 「天皇中心の国づくり」

5 単元の目標

我が国の歴史上の主な事象について、世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して、遺跡や文化財、地図や年表などの資料で調べ、まとめ、我が国の歴史上の主な事象を捉え、我が国の歴史の展開を考え、表現することを通して、大陸文化の摂取、大化の改新、大仏造営の様子を手掛かりに、天皇を中心とした政治が確立されたことを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究し、解決しようとする態度を養う。

6 単元の評価規準

【知識・技能】

- ①世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などについて、遺跡や文化財、地図や年表などの資料で調べ、大陸文化の摂取、大化の改新、大仏造営の様子を理解している。
- ②調べたことを年表や文などにまとめ、天皇を中心とした政治が確立されたことを理解している。

.....

【思考・判断・表現】

- ①世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して、問いを見だし、大陸文化の摂取、大化の改新、大仏造営などの様子について考え、表現している。
- ②大陸文化の摂取、大化の改新、大仏造営の様子を関連付けたり総合したりして、この頃の世の中の様子を考え、表現している。

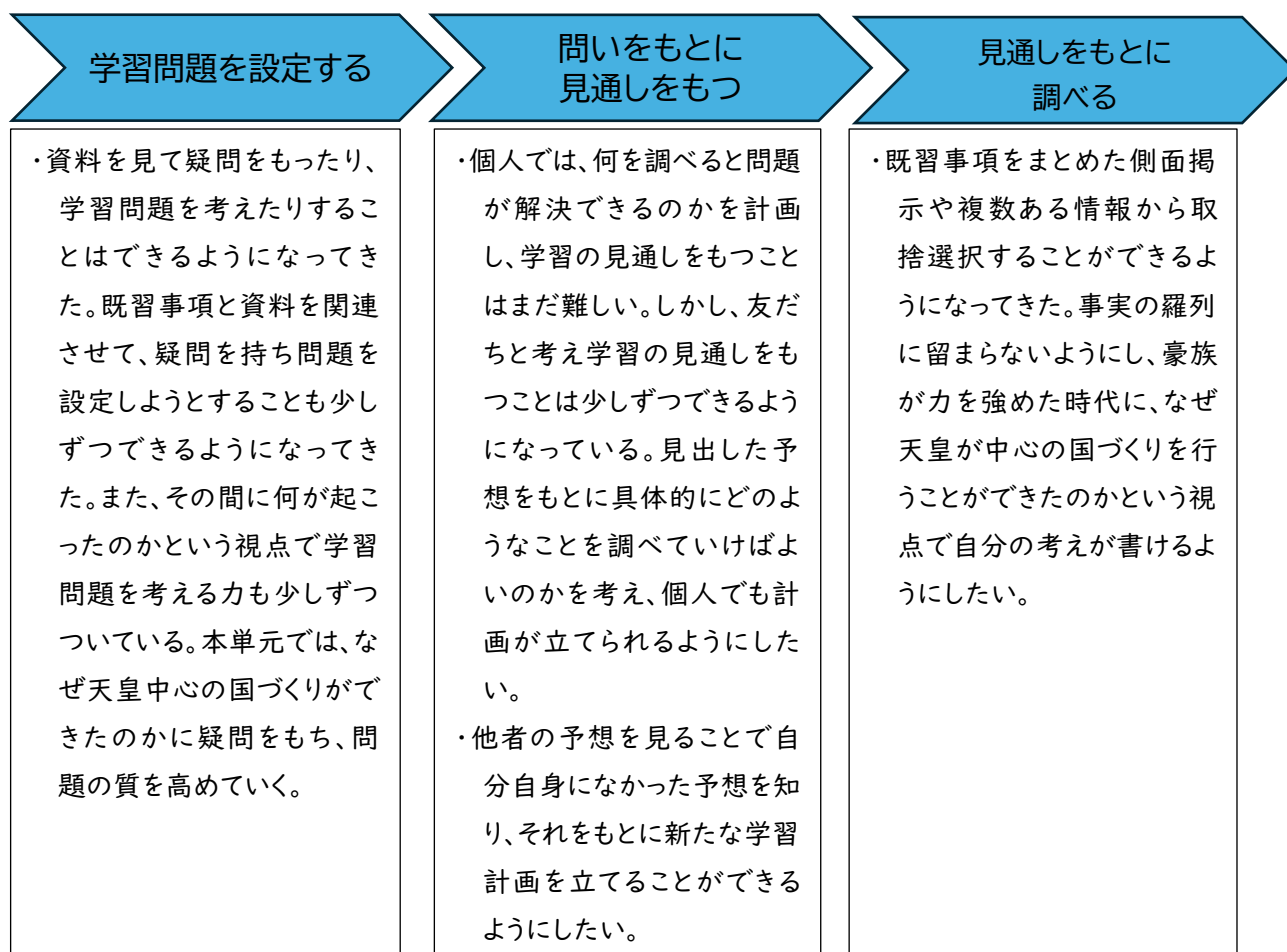
.....

【主体的に学習に取り組む態度】

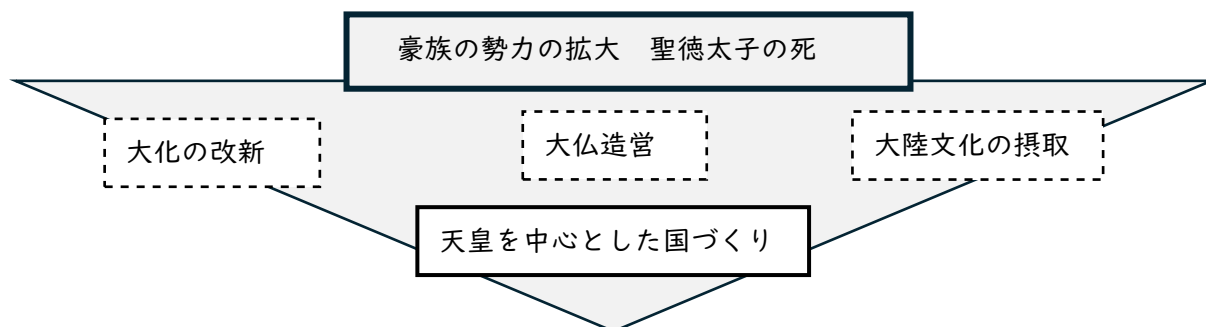
- ①大陸文化の摂取、大化の改新、大仏造営の様子について、予想や計画を立てたり、見直したりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。

7 児童及び教材について

(1) 児童の実態とめざす姿



本教材を整理すると、次のように捉えることができる。



飛鳥時代は豪族の争いが起こり、天皇は豪族に従えるのに苦勞していた。その豪族の中でも蘇我氏が権力を握り世の中の政治を動かしていた。また蘇我氏の血縁関係にあたる推古天皇を天皇にたて、推古天皇の甥にあたる聖徳太子が補佐になった。蘇我氏、推古天皇、聖徳太子の3人の協力体制のもと政治を行った。推古天皇や聖徳太子は豪族たちの縄張り争いとして使われた国の政治を安定させるべく2つの政策を行った。それが「冠位十二階」「十七条の憲法」である。豪族から官僚へという流れを推し進めようとした。外交にも力を入れ、小野妹子らを遣隋使として隋に送り文化を学ばせた。聖徳太子はその他にも仏教をあつく信仰し法隆寺などを建て仏教の教えを人々に広めようとした。しかし、志半ば豪族の力を十分に抑えきれず49歳で亡くなった。

聖徳太子の死後、蘇我氏が天皇をしのぐほどの勢力をもったが、中大兄皇子と中臣鎌足が乙巳の変を起こし、唐から帰国した留学生や留学僧らと共に天皇を中心とする国づくり、いわゆる大化の改新が始まる。大化の改新によって新しい政治の仕組みを全国に広げ、現代に続く年号や日本で最初の本格的な都が飛鳥に作られた。豪族は役人となり地方を治めることになった。

8世紀初めには、律令もできあがり、租、庸、調といった税を納め、都に多くの産物が運ばれ天皇を中心とする国づくりを支えた。

藤原京の後に奈良に平城京が作られたが、都の賑わいを支える人々の生活は重い税に苦しめられ、とても厳しいものがあつた。さらに病気や災害、反乱がおこり社会全体に不安が広がっていった。こうした不安に対し、このころに帝位についた聖武天皇は仏教の力で社会の不安を鎮めようとした。聖武天皇は、全国に国分寺を建てたり、大仏造営を行ったりと世界を仏の光で照らすという願いから詔を出していた。それら大仏づくりを支えたのが行基を中心とする僧や渡来人などの多くの人々であつた。

聖武天皇は唐にさらに使者を送り皇帝中心の政治の仕組みや大陸の文化を学ばせた。仏教を広めるべく中国から優れた僧である鑑真を招き大陸との交流も深めた。こうした歴史的事実を調べながら学習問題を解決できるようにしたい。

8 単元構想図（全6時間）

① 聖徳太子について調べ、東大寺の大仏や詔について知ることによって学習問題を作る。

- ・天皇がいるのに、豪族が中心の国になっているな。この後どうなっていくのかな。
- ・聖徳太子は蘇我氏と一緒に天皇中心の国づくりをしたんだね。
- ・冠位十二階と十七条の憲法を定め、仏教を人々に広めようとして法隆寺を建てた。
- ・でも622年49歳で亡くなった。しかも豪族の力は十分に抑えることはできなかった。
- ・東大寺の大仏が天皇の命で作られているよ。詔を出したんだね。
- ・この時代は天皇が中心の国づくりをしている。
- ・聖徳太子が亡くなったのになぜ天皇中心の国づくりができていくんだろう。

つかむ

<学習問題>

聖徳太子が亡くなったのになぜ、天皇中心の国づくりにすることができたのだろう。

② 学習問題を予想し、学習計画を立てる。

- ・争いを続けて勝ち続けたんじゃないかな。
- ・お金をたくさん使った。そのために税金のルールを新たに作ったんじゃないかな。
- ・大陸の新しい文化をたくさん取り入れて国づくりをしたんじゃない。
- ・仏教の力を使ったんじゃないかな。だから大仏作ってるんじゃないかな。
- ・誰かが聖徳太子が作った憲法や冠位十二階のルールを受け継いだんじゃないかな。

●争いを続けたのだろうか。

●社会の新たなルールを天皇が作ったのだろうか。

●誰かが聖徳太子の目指した国づくりを受け継いだのだろうか。

●大陸の文化を取り入れたからではないだろうか。

●仏教の力を流行らせ、大仏を作り人々に力を示したのではないだろうか。

③④それぞれの学習計画をもとに調べる。

調べる

●争いを続けたのだろうか。

- ・争いは一度だけで、中大兄皇子と中臣鎌足が蘇我氏を倒した。その後天皇を中心とする国づくりが始まった。（大化の改新）

●仏教の力を流行らせ、大仏を作り人々に力を示したのではないだろうか。

- ・都が作られ町はにぎわっていたが、重い税や災害、反乱、病気などで社会全体に不安が広がった。その不安を仏教の力や大仏を作ることで鎮めようと考えた。大仏づくりには多くの人々が関わり、国家の一大事業だった。

●社会の新たなルールを天皇が作ったのだろうか。

- ・国を治めるための法律（律令）を作った。役所や寺を建てた。

●大陸の文化を取り入れたからではないだろうか。

- ・皇帝中心の政治やしきみを大陸の文化から学ぶ。
- ・仏教を広めるために中国から鑑真を招いた。

●誰かが聖徳太子の目指した国づくりを受け継いだのだろうか。

- ・様々な出来事があったが、聖徳太子が目指した国づくりを基に、天皇や天皇に関わる人々が天皇中心の国作りを目指した。

⑤ 学習問題のまとめを行い、なぜ天皇中心の世の中をつくることができたのかを交流する。

<学習問題のまとめ>

冠位十二階、十七条の憲法が制定されたが聖徳太子は亡くなった。その後大化の改新が起こり、中国の政治の制度を手本とし天皇を中心とする国づくりが始まった。さらに、国を治めるための律令を定めた。しかし、反乱や災害が起こり人々の不安が大きくなった。そこで仏教の力で人々の不安を鎮めようと寺の建設や大仏作りを行った。新しい国づくりや仏教の力をさらに広めるために中国風の文化を盛んにしたから天皇中心の国づくりをすることができた。

●聖徳太子が亡くなったのに天皇中心の国づくりにすることができた一番の出来事は何だろう。

- ・中大兄皇子と中臣鎌足が蘇我氏を倒したから天皇中心の国づくりになった
- ・律令という法律が作られたから、天皇中心の国づくりになった。
- ・中国からの政治の制度を学び取り入れたから天皇中心の国づくりになった。
- ・社会の不安を仏教の力で鎮めようとし、また、大きな仏像を作ることで仏の光を照らす世界になってほしいという願いが込められ大仏づくりが行われたから天皇中心の国づくりになった。
- ・様々な出来事があったが、聖徳太子が目指した国づくりを基に、天皇や天皇に関わる人々が天皇中心の国作りを目指したから天皇中心の国づくりになった。

まとめる・生かす

⑥ 大仙古墳と東大寺の大仏を比べ、なぜこの時代に東大寺の大仏が作られたのか意味を考える。

- 大仙古墳と東大寺の大仏を比べ、なぜこの時代に東大寺の大仏が作られたのか意味を考えよう。
- ・大仙古墳は天皇の力を示すために大きく作っていた。
- ・大仏は力の大きさを示したわけではない。
- ・でも、大きな大仏を作れたのは力を持っていたからだ。国民の半分は大仏づくりに参加しているよ。
- ・大仏づくりは古墳時代のように自分の力を示すのではなく、人々の不安を抑えるための大仏づくりだった。
- ・この時代の天皇は国の人々のことを考えた政策をしていたんだね。
- ・もしかしたら大仙古墳も同じような考えだったかもしれない。

9 単元計画（6時間）

学習過程	○主な学習活動 ・ 児童の反応	【評価規準】 (評価方法)
つかむ	<u>①○聖徳太子について調べ、東大寺の大仏や詔について知ること</u>で学習問題を作る。 ・ 豪族の争いが起こっているんだね。 ・ 天皇がいるのに、豪族が中心の国になっているな。この後どうなっていくのかな。 ・ 聖徳太子は蘇我氏と一緒に天皇中心の国づくりをしたんだね。 ・ 冠位十二階と十七条の憲法を定め、仏教を人々に広めようとして法隆寺を建てた。 ・ でも 622 年 49 歳で亡くなった。しかも豪族の力は十分に抑えることはできなかった。 ・ 東大寺の大仏が天皇の命で作られているよ。詔を出したんだね。 ・ この時代は天皇が中心の国づくりをしている。 ・ 聖徳太子が亡くなったのになぜ天皇中心の国づくりができているんだろう。	【思①】 聖徳太子と東大寺の大仏について書かれた資料から問いを見出している。 (ノート)
<学習問題> <u>聖徳太子が亡くなったのになぜ、天皇中心の国づくりにすることができたのだろう。</u>		
	<u>②○学習問題から予想をし、学習計画を立てる。</u> ・ 争いを続けて勝ち続けたんじゃないかな。 ・ お金をたくさん使った。そのために税金のルールを新たに作ったんじゃないかな。 ・ 大陸の新しい文化をたくさん取り入れて国づくりをしたんじゃない。 ・ 仏教の力を使ったんじゃないかな。だから大仏作ってるんじゃないかな。 ・ 誰かが聖徳太子が作った憲法や冠位十二階のルールを受け継いだんじゃないかな。 ●争いを続けたのだろうか。 ●社会の新たなルールを天皇が作ったのだろうか。 ●大陸の文化を取り入れたからではないだろうか。 ●仏教の力を流行らせ、大仏を作り人々に力を示したのではないだろうか。 ●誰かが聖徳太子の目指した国づくりを受け継いだのだろうか。	【態①】 なぜ大仏を作ったのかを予想している。(発言・ノート)
調べる	<u>③④○それぞれの学習計画をもとに調べる。</u> ●争いを続けたのだろうか。 ・ 争いは一度だけで、中大兄皇子と中臣鎌足が蘇我氏を倒した。その後天皇を中心とする国づくりが始まった。(大化の改新) ●社会の新たなルールを天皇が作ったのだろうか。 ・ 国を治めるための法律(律令)を作った。役所や寺を建てた。	

	●大陸の文化を取り入れたからではないだろうか ・皇帝中心の政治やしくみを大陸の文化から学ぶ。 ・仏教を広めるために中国から鑑真を招いた。 ●仏教の力を流行らせ、大仏を作り人々に力を示したのではないだろうか。 ・都が作られ町はにぎわっていたが、重い税や災害、反乱、病気などで社会全体に不安が広がった。その不安を仏教の力や大仏を作ることで鎮めようと考えた。大仏づくりには多くの人々が関わり、国家の一大事業だった。 ●誰かが聖徳太子の目指した国づくりを受け継いだのだろうか。 ・様々な出来事があったが、聖徳太子が目指した国づくりを基に、天皇や天皇に関わる人々が天皇中心の国作りを目指した。	【知①】 調べたことを文や図などにまとめ、天皇を中心とした政治が確立されたことを理解している。(ノート・発言)
まとめ・生かす	<u>⑤〇学習問題のまとめを行い、なぜ天皇中心の世の中をつくることができたのかを交流する。</u> <学習問題のまとめ> 聖徳太子の死後、大化の改新が起こり、中国の政治の制度を手本とし天皇を中心とする国づくりが始まった。その後、国を治めるための律令を定めた。しかし、反乱や災害が起こり人々の不安が大きくなった。そこで仏教の力で人々の不安を鎮めようと寺の建設や大仏作りを行った。新しい国づくりや仏教の力をさらに広めるために中国風の文化を取り入れた。だから天皇中心の世の中にすることができた。 ●<u>聖徳太子が亡くなったのになぜ、天皇中心の国づくりにすることができたのだろう。</u> ・中大兄皇子と中臣鎌足が蘇我氏を倒したから天皇中心の国づくりになった ・律令という法律が作られたから、天皇中心の国づくりになった。 ・中国からの政治の制度を学び取り入れたから天皇中心の国づくりになった。 ・社会の不安を仏教の力で鎮めようとし、また、大きな仏像を作ることで仏の光を照らす世界になってほしいという願いが込められ大仏づくりが行われたから天皇中心の国づくりになった。 ・様々な出来事があったが、聖徳太子が目指した国づくりを基に、天皇や天皇に関わる人々が天皇中心の国作りを目指したから天皇中心の国づくりになった。 <u>⑥〇大仙古墳と東大寺の大仏を比べ、なぜこの時代に東大寺の大仏が作られたのか意味を考える。</u> ●大仙古墳と東大寺の大仏を比べ、この時代に東大寺の大仏が作られた意味を考えよう。 ・大和朝廷が力を持っていた時代に作られていた古墳。 ・大仙古墳は天皇の力を示すために大きく作っていた。 ・この時代は大きな大仏を作っているよ。 ・大仏は力の大きさを示したわけではない。 ・でも、大きな大仏を作れたのは力を持っていたからだ。国民の半分は大仏づくりに参加しているよ。 ・大仏と言えば仏教だね。古墳時代は神様の話をみんな信じていたよ。 ・大仏づくりは古墳時代のように自分の力を示すのではなく、人々の不安を抑えるための大仏づくりだった。 ・自分ではなく、人々のことを考える大仏づくりだった。 ・この時代の天皇は国の人々のことを考えた政策をしていたんだね。 ・もしかしたら大仙古墳も同じような考えだったかもしれない。	【知②】 天皇中心の国づくりができた理由を、大陸文化や大仏づくり、律令制等の視点からまとめている。 (発言・ノート) 【思②】 東大寺の大仏が作られた理由を、これまでの時代背景等を生かして、自分なりに考えている。

10 本時の学習（本時4／6）

（1）本時の目標

学習問題を追究するためにこの時代に起こったことや、天皇が中心となって政治が確立されたことを文や図にまとめることができるようにする。

（2）本時の展開

学習活動 ○主な発問等 ・児童の反応	□支援、◇留意点 ■資料 【評価】
1 前時の学習を振り返り、本時の個々の問いを確認する。 ○前時の学習を振り返り、今日解決する問いを確認しましょう。 ・争いを続けたのだろうか。 ・社会の新たなルールを天皇が作ったのだろうか。 ・大陸の文化を取り入れたからではないだろうか。 ・仏教の力を流行らせ、大仏を作り人々に力を示したのではないだろうか。 ・誰かが聖徳太子の目指した国づくりを受け継いだのだろうか。	□予想を板書や壁面掲示で視覚化しておき、予想とどうだったのか確かめながら調べ学習ができるようにする。
<単元の学習問題> <u>聖徳太子が亡くなったのになぜ、天皇中心の国づくりにすることができたのだろう。</u>	
2 それぞれの調べ学習を進める。 ○グループで調べることを確認し、自分の問いを調べていきましょう。 （本時の問い）争いを続けたのだろうか。 ・争いは一度だけで、中大兄皇子と中臣鎌足が蘇我氏を倒した。 ・その後天皇を中心とする国づくりが始まった。（大化の改新） （本時の問い）社会の新たなルールを天皇が作ったのだろうか。 ・国を治めるための法律（律令）を作った。役所や寺を建てた。	□同じ問いのグループで調べることを確認することで、アドバイスをし合えるようにする。 ■教科書 ■資料集 ■図書 ■GIGA端末 ■グループ内の交流時刻を設定する。 15：05～ ◇出来事の前後にどのようなことが起こったのかを意識して調べられるように声掛けする。 □ロイロノートの資料箱に各グループで参考にできる資料を入れておくことで、資料を選択して調べることができるようにする。

(本時の問い) 大陸の文化を取り入れたからではないだろうか。	□新しい小問題が出てきた際には、大問題が解決できるのかという視点で考えることで、単元の問題解決ができるようにする。
・ 皇帝中心の政治やしくみを大陸の文化から学ぶ。 ・ 仏教を広めるために中国から鑑真を招いた。	
(本時の問い) 仏教の力を流行らせ、大仏を作り人々に力を示したのではないだろうか。	◇本時で調べようと思っていた問いが解決すれば次の解決したい問いを調べてもよいことを伝える。
・ 都が作られ町はにぎわっていたが、重い税や災害、反乱、病気などで社会全体に不安が広がった。その不安を仏教の力や大仏を作ることで鎮めようと考えた。大仏づくりには多くの人々が関わり、国家の一大事業だった。	◇困っている児童がいた場合は、同じ問題を考えている児童と話すように意図的に声をかける。
(本時の問い) 誰かが聖徳太子の目指した国づくりを受け継いだのだろうか。	【知②】
・ 様々な出来事があったが、聖徳太子が目指した国づくりを基に、天皇や天皇に関わる人々が天皇中心の国作りを目指した。	調べたことを文や図などにまとめ、天皇を中心とした政治が確立されたことを理解している。
3 本時のまとめをする。 ○今日分かったことを同じ問いのグループで共有しましょう。	□ホワイトボードに分かったことを書くことで他児童が調べて分かったことも見られるようにする。
・ 天皇が国づくりの中心になっていった。 ・ 聖武天皇が詔を出し、人々に訴えていた。 ・ 新しい大陸文化を取り入れ、国づくりに生かしていた。 ・ 国を仏教の力で救っていた。この時代は仏教がとても浸透している。前は神様を信じていたのに、とても変わった。 ・ 社会のルールを制定していた。特に律令は今の税金と一緒だ。	□調べて気づいたことや新たに疑問に思ったことを書くことで次時の学習につなげられるようにする。 ◇自分が一番話したいと思えるグループに行き、調べて分かったことを交流する。
4 振り返りをする。 ○今日の学習を通じ、何を大切に学習を進めましたか。自分が思う天皇中心の国づくりに一番重要だと思ったことを考えましょう。	□振り返りで、天皇中心の国づくりに一番重要だと思うことを書くことで、次時の交流における自分の考えをもつことができるようにする。

(3) 板書計画

単元の学習問題 <u>聖徳太子が亡くなったのになぜ、天皇中心の国づくりにすることができたのだろう。</u>	交流・・・15:05 まとめ・・・15:15			
争いを続けたのだろうか。	・社会の新たなルールを天皇が作ったのだろうか。	・大陸の文化を取り入れたからではないだろうか。	・仏教の力を流行らせ、大仏を作り人々に力を示したのではないだろうか。	誰かが聖徳太子の目指した国づくりを受け継いだのだろうか。

(4) 本時の評価

観点	評価規準
【知②】	調べたことを文や図などにまとめ、天皇を中心とした政治が確立されたことを理解している。
おおむね満足できる子どもの具体的な姿	
・大化の改新が起き天皇を中心とした国づくりが始まる。 ・中国政治の制度を手本とした政治が行われており、藤原京・平城京ができる。 ・律令が定められたり、日本の全国から都に産物が送られたりした。 ・重い税の負担に耐えかねる人もいた。 ・仏教の力で、社会の不安を鎮めようとする動きがあり、莫大な費用をかけ全国に国分寺を建てた。 ・聖武天皇の詔が出され、世界を仏の光で照らすことを願い、大仏づくりが行われた。 ・大仏づくりには多くの人々が協力をした。 ・天皇は遣唐使を送り、大陸の文化を学び新しい国づくりに役立てた。 ・優れた僧を招き、中国風の文化を栄えさせた。	

(5) 本時のふり返りの視点

ふり返りの視点	指導者の働きかけ
① 学習の進め方をふり返る	今日の学習を通じ、何を大切に学習を進めましたか。今後にどうつなげていきますか。 ・今日の学習方法はどうだったか。 ・学習問題の整理 ・次調べたいこと ・思ったこと、考えたこと

本時では児童の学習の進め方についてふり返る。同じ問いのグループで協働的に調べ学習をして自分の調べ方やグループ内での問題を解決していく様子をふり返らせ、学習問題が解決できそうか、それぞれの視点を調べられたかを見取りたい。そうすることで問題を解決するまでの過程を自己調整し、天皇中心の国づくりの小単元がより充実したものになると考える。また、次時の交流をする時の自分の考えをこの振り返りで考えておく。

社会科学学習指導案

指導者 京都市立洛央小学校

藤田 湧登

1 日 時 令和7年10月21日(火) 第6校時(14:30～15:15)

2 学 級 第6学年1組(31名)

3 場 所 6年1組教室

4 単元名 「戦国の世から天下統一へ」

5 単元の目標

我が国の歴史上の主な事象について、世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して、遺跡や文化財、地図や年表などの資料を調べてまとめ、我が国の歴史の展開を考え、表現することを通して、キリスト教の伝来、織田・豊臣の天下統一を手掛かりに、戦国の世が統一されたことを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究し、解決しようとする態度を養う。

6 単元の評価規準

【知識・技能】

①世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などについて、遺跡や文化財、地図や年表などの資料で調べ、キリスト教の伝来、織田・豊臣の天下統一を理解している。

②調べたことを年表や文などにまとめ、戦国の世が統一されたことを理解している。

.....

【思考・判断・表現】

①世の中の様子、人物の働きや文化遺産などに着目して、問いを見いだし、キリスト教の伝来、織田・豊臣の天下統一について考え、表現している。

②キリスト教の伝来、織田・豊臣の天下統一を関連付けたり総合したりして、戦国の世の統一に果たした織田・豊臣の役割を考え、表現している。

.....

【主体的に学習に取り組む態度】

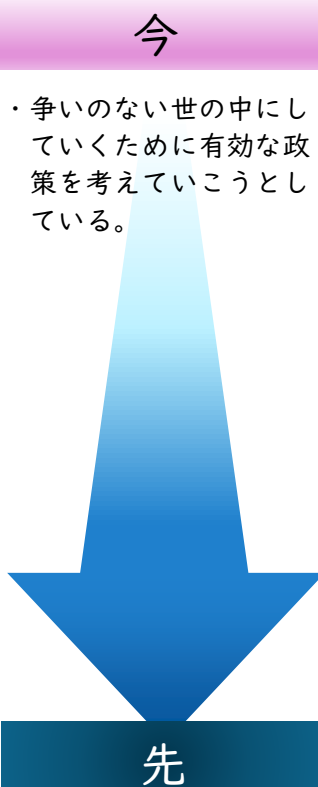
①キリスト教の伝来、織田・豊臣の天下統一について、予想や学習計画を立てたり、見直したりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。

7 児童及び教材について

(1-1) 児童の実態 (○：成果 ▲：課題)

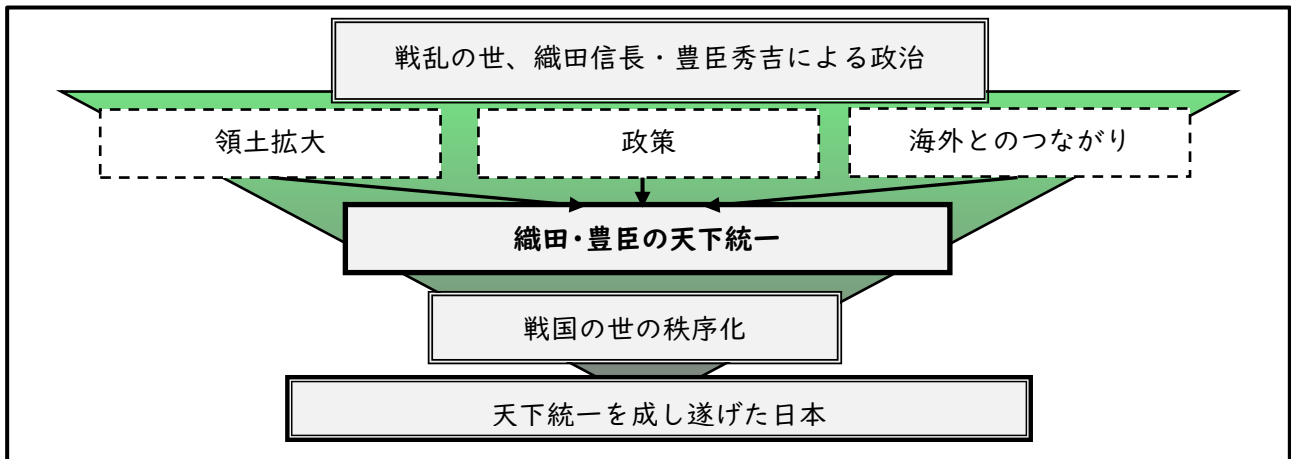
	学習内容や資質・能力に関わる児童の実態	児童の実態に対する具体的な手立てや支援
知識及び技能	○社会的事象について調べていく中で、教科書と参考図書の資料を組み合わせながら調べ学習を進めていける児童が増えてきている。 ▲どの資料に調べたいことが記載されているのかが分からず、活用しきれない児童も一定数いる。	関連する資料を要素ごとに分類し、調べたいことが記載されている資料が選別できるようにする。資料活用についてのふり返りの時間を設け、自分は次の学習でどのような資料が必要なのか理解できるようにする。
思考力・判断力・表現力等	○社会的事象について、なぜそうなったのかという因果関係について着目し、予想を立て、問い化していくことのできる児童が増えてきている。 ▲どのような順で問いを解決していけばよいか、といった学習計画を自己調整していける児童が多くない。	なぜその問いを調べていけばよいのか、どの順で調べていくことが有効なのかについて熟考させ、調べ学習がより質の高いものになっていくようにする。
学びに向かう力・人間性等	○自分のもつ問いの解決に向かって自己調整を行いながら調べ学習を進め、まとめていく力が身につけてきている。 ▲問いの答えが学習問題にどのようにつながっているのか、調べて分かった知識同士がどのように影響し合っているのかにまでつなげられる児童は多くない。	常に学習問題に立ち返り、調べて分かったことの位置づけや関係性に着目できるように板書や掲示物の工夫を行うことで、自分の学びをふり返り、自己調整をしながらこれからの学びにつなげていけるようにする。

(1-2) 今を見て先を見通す子どもの姿

	『今』を見ている 子どもの姿	『先』を見通している 子どもの姿	これから社会へ向かう 子どもの姿
学習問題の設定場面	・ 戦国時代において、各地の戦国大名がそれぞれの形で領地を支配していたことが分かっている。 ・ 織田信長、豊臣秀吉が急速に領土を拡大し、政策を行う中で、次第に秩序化されていったことを理解している。	・ それぞれの戦国大名が各地を支配する時代が長く続いた中で、なぜ信長と秀吉は急速に天下統一を進めることができたのかという視点から学習問題を設定している。	 今 ・ 争いのない世の中にしていこうと有効な政策を考えていこうとしている。 先
見通しの場面	・ 各地の大名が行っていた領土の図や分国法から学習問題の予想を立てている。 ・ 予想を分類し、どのように天下統一を成し遂げたのか、何が決め手となったのかという視点から問い化している。	・ 信長と秀吉の天下統一について、何から調べたらよいか、どのくらいの時間をかけて調べたらよいか等、よりよく問題解決できるかを考えながら学習計画を立てている。	
調べる場面	・ 領土拡大や政策、海外とのつながりという視点から、計画に従って資料を選択して調べたり、さらに必要な資料を請求したりしている。 ・ 同じ問いを調べた他者と交流し、情報を広げたり整理したりしている。	・ 調べてわかったことから信長と秀吉を比べ考えることで、二人のつながりや役割について考えることができていく。 ・ 二人の行ったことを比べる中で、どちらが天下統一をより進めることができたのかなど、さらなる問いを見出している。	

(2) 教材について

本教材を整理すると、次のようにとらえることができる。



室町幕府が衰えると、戦国大名と呼ばれる各地の武将が、自分の支配する土地を守るための城を建設し、各地を治めた。室町時代の守護がそのまま生き残ることは少なく、下克上により身分の低い武士が守護を倒して戦国大名になることもあった。各地の戦国大名は他の大名を攻め滅ぼしながら領地を広げ、領国を治めるために分国法や税制を定め、領土を支配したといわれる。

この頃、フランシスコ・ザビエルをはじめとするヨーロッパの宣教師が、キリスト教布教のため日本に当時のヨーロッパの文化や品物をもたらした。大阪の堺などの港町で行われた南蛮貿易によって、キリスト教の教えや鉄砲が普及し、織田信長をはじめとする戦国大名の戦い方などに大きな変化をもたらし、政治にも影響を与えた。

尾張の小さな大名であった織田信長は、桶狭間の戦いでの勝利を皮切りに、武力による天下統一へ動き出した。堺を支配することで豊富な資金を確保し、大量の鉄砲や軍船の獲得を可能にした。足利氏を倒し、室町幕府を滅ぼした信長は、安土に城を築き、キリスト教には寛容だったが、当時強い力をもっていた仏教勢力を武力で従わせた。城下町では楽市楽座の制度を起し、市税や関所を廃止することで、商業や工業をさかんにした。

身分の低い子として生まれ信長に従っていた豊臣秀吉は、明智光秀に暗殺された信長の後を引き継ぐ形で天下統一を進めた。朝廷からは関白や太政大臣の位を命じられ、大阪に城を築いて政治の拠点とした。大阪を中心として物資の流れを作り、銀鋳山を支配することで莫大な財力を手にした。これまでの検地を改め、統一された物差しを使用した検地（太閤検地）を行い、より正確な土地面積の把握、収入の計算を可能にした。また、刀狩令による武士と百姓・町人身分の区別化により、武士が世の中を支配する仕組みが整えられるようになった。2度にわたる朝鮮出兵の途中で病死した秀吉だったが、信長・秀吉と続く天下統一に向けての政治により、戦乱の世だった戦国時代は、秩序化された武士の世の中になったと言えるだろう。

8 単元構想図（全6時間）

② 織田信長・豊臣秀吉について調べ、天下統一を進めたことについて知ることによって学習問題を作る。

- ・戦国大名がそれぞれの領地を統治している。その中で各々の制度で政治を行っていた。
- ・織田信長が長篠の戦いで勝利した後、急速に領地を拡大していった。
- ・なぜ信長は戦乱の世でこんなにも急速に領地を獲得することができたのだろう。
- ・信長の後、豊臣秀吉は天下を統一することができた。
- ・なぜ、秀吉はこんなにも広い領地を統治することができたのだろう。
- ・今までの戦国大名とは違った政治を行ったのだろうか。

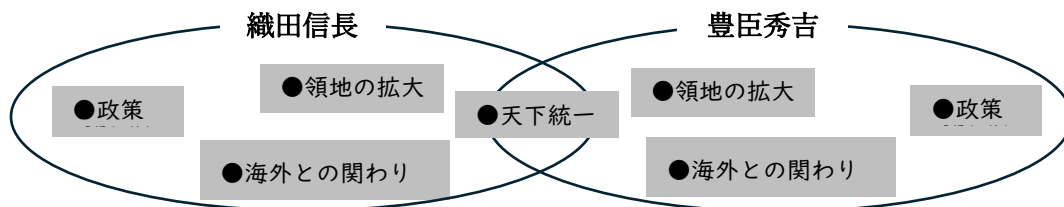
つかむ

<学習問題>

戦乱の世の中でなぜ信長と秀吉は天下統一を進めることができ、どちらがより天下統一の道を進めたと言えるのだろうか。

③ 学習問題を予想し、学習計画を立てる。

- ・信長と秀吉は戦い方が他の戦国大名と違っていたのではないか。
- ・獲得した領地での政策が他の戦国大名とは違っていたのではないか。
- ・二人は海外とはどのように付き合っていたのだろうか。



③④それぞれの学習計画をもとに調べる。

調べる

- 行った政策は何だろう。
- 【織田信長】
- ・安土城の建築
- ・楽市・楽座政策
- 【豊臣秀吉】
- ・太閤検地
- ・刀狩令

- どのように領地を拡大したのか。
- 【織田信長】
- ・堺の支配
- ・鉄砲の使用
- 【豊臣秀吉】
- ・石見銀山の支配
- ・朝鮮出兵

- 海外の文化とどのようにつながったのだろうか。
- 【織田信長】
- ・キリスト教の容認
- 【豊臣秀吉】
- ・キリスト教の禁止

⑤⑥学習問題のまとめを行い、どちらがより天下統一を進めることができたと言えるのかを交流する

<学習問題のまとめ>

信長は、キリスト教を保護し、ヨーロッパからの進んだ文化や品物を取り入れた。そして、鉄砲を使うなど今までとは違う戦い方をして、強い大名を倒していった。強引なやり方だと思うが、新しいことを取り入れていったから天下統一に近づいたと思う。秀吉は、信長にそむいた明智光秀を倒し、検地・刀狩で武士の支配体制を整えていった。信長が多くの武将を従え、それを秀吉が引き継いでさらに武士だけでなく百姓・町人を従えて、戦国の世をおさめたと思う。いろいろな政治の仕組みをつくったことで天下統一を確かなものにした。

まとめる・考える

●二人を比べてより天下統一を進めることができたと言えるのはどちらか。

【織田信長】

- ・鉄砲や物資がより得られる領土を支配したことが天下統一へ大きく近づいた。
- ・楽市・楽座を進め、より自分の利益になる政策を行った。
- ・海外とのつながりを重視し、鉄砲などの戦略に生かすことができた。

【豊臣秀吉】

- ・刀狩を行うことで、身分の違いを明らかにし、武士中心の世を作った。
- ・太閤検地を行うことで、正確で厳格な税の徴収を可能にした。

9 単元計画（6時間）

学習 過程	○主な学習活動 ・ 児童の反応 ●調べる問い	□支援◇留意点 【評価】
つかむ	①○戦乱の世の中で、信長・秀吉が天下を治めたことを知ることで学習問題を作る。 ・戦国大名が各地を支配していたんだね。 ・各戦国大名は独自の制度を布いて各地を治めていたんだね。 ・各地で下克上が起きて、それが長い年月続いているよ。 ・織田信長は急速に領地を拡大しているね。どうしてかな。 ・織田信長が亡くなった後、豊臣秀吉が天下統一を成し遂げたね。 ・なぜ、信長と秀吉は戦いの絶えない世を治められたのかな。 ・より天下統一を進めることのできたのはどちらなんだろう。 □分国法など、当時戦国大名がそれぞれの領土を支配していたことを踏まえ、なぜ信長と秀吉が急速に天下統一を成し遂げることができたのかという考えもとに学習問題を設定することができるようにする。	【思①】 戦国時代の勢力図より信長・秀吉が領地を広げていく資料から問いを見出している。 (ノート)
<学習問題> 戦乱の世の中でなぜ信長と秀吉は天下統一を進めることができたのだろう。		
調べる	②○学習問題から予想をし、学習計画を立てる。 ・他の戦国大名とは違った戦い方をしたのではないかな。 ・自分の領地の治め方を工夫したんじゃないかな。 ・海外とのつながりに目を向けたんじゃないかな。 ●どのように領地を広げていったのだろう。 ●どのような政策を行ったのだろう。 ●海外の文化とどのようにつながったのだろう。 □戦乱の世の中で、なぜ信長と秀吉は天下統一を成し遂げられたのかという学習問題について「どのように領地をひろげたのだろう」「どのような政策を行ったのだろう」と問い化した問いを基に学習の見通しをもてるようにする	□予想が難しい児童には、これまでの学習での予想を思い出させ、予想できないか考えられるようにする。 【態①】 天下統一を進めることができたのかの理由を予想している。(発言・ノート)
調べる	③④それぞれの学習計画をもとに調べる。 ●どのように領地を広げていったのだろう。 ・信長は堺を支配することで、鉄砲の生産や商業の中心地を領地にすることに成功した。 ・秀吉は石見銀山を支配し、より財力のある政治を行うことを可能にした。また朝鮮にも目を向けた。 ●どのような政策を行ったのだろう ・信長は安土城を築き、楽市・楽座の制度を設けることで、より多くの財力の獲得を可能にした。 ・秀吉は太閤検地を行うことで、税制改革を行った。 ・秀吉は刀狩令を發布することで、身分の違いを明確にし、反乱を防ぐようにした。 ●海外の文化とどのようにつながったのだろう。 ・信長はキリスト教の布教を容認し、より多くの海外の文化を取り入れることができた。 ・秀吉は南蛮貿易を容認しつつ、キリスト教を禁止した。	【貳の環】 □調べの後に、さらに追究したい問いを交流し、学習計画の調整を適宜促す。 ◇調べる中でさらに必要な資料はないか尋ねる。

【弐の矢】

国信長と秀吉が行った政策や領土の拡大の方法、海外とのつながりに
ついて子どもたちが資料を選択して調べるようにする。

国それぞれが調べている内容をホワイトボードや黒板も使って交流
し、考えを広げられるようにする。

【知①】

調べたことを文や
図などにまとめ、
信長と秀吉の天下
統一が確立されて
いったことを理解
している。(ノー
ト・発言)

⑤⑥〇学習問題のまとめを行い、まとめを基に、信長と秀吉のどちらが天
下統一を進めたかについて考える。

●戦乱の世の中でなぜ信長と秀吉は天下統一を進めることができた
のだろう。

<学習問題のまとめ>

信長は、キリスト教を保護し、ヨーロッパからの進んだ文化や品物を取り入れた。そし
て、鉄砲を使うなど今までとは違う戦い方をして、強い大名を倒していった。強引なや
り方だと思うが、新しいことを取り入れていったから天下統一に近づいたと思う。秀吉
は、信長にそむいた明智光秀を倒し、検地・刀狩で武士の支配体制を整えていった。
信長が多くの武将を従え、それを秀吉が引き継いでさらに武士だけでなく百姓・町人
を従えて、戦国の世をおさめたと思う。いろいろな政治の仕組みをつくったことで天下
統一を確かなものにした。

●より天下統一を進めることができたのはどちらと言えるだろう。

- ・堺を支配し、より多くの鉄砲を駆使し領土を拡大した信長だと思
う。
- ・楽市楽座を行い。自分の領地に人々を集めることのできた信長だ
と思う。
- ・キリスト教を容認し、海外の文化を取り入れ続けた信長だと思
う。
- ・刀狩によって身分の違いを明確化し、人々を治めた秀吉だと思
う。
- ・太閤検地によって全国の税制度を統一した秀吉だと思う。
- ・キリスト教を禁止し、他の勢力の追隨を許さなかった秀吉だと思
う。

【知②】

信長と秀吉が天下
統一を成し遂げた
理由を、領地拡大
や行った政策、海
外とのつながりの
視点からまとめて
いる。
(発言・ノート)

【思②】

織田・豊臣の天下統
一を関連付けたり総
合したりして、戦国
の世の統一に果た
した織田・豊臣の役
割を考え、表現して
いる。

ま
と
め
る

- 写真資料や年表を用いて、情報を適切に取り出すことができる。
- どの視点を基に問題解決し、どれほどの調べる時間が必要か、自
分の計画に沿って所要時間を見通すことができる。
- 調べていく中で事実を捉え、そこからさらに疑問を見出し、調べ
る計画を立てることができる。

【叁の環】

10 本時の学習（本時6／6）

（1）本時の目標

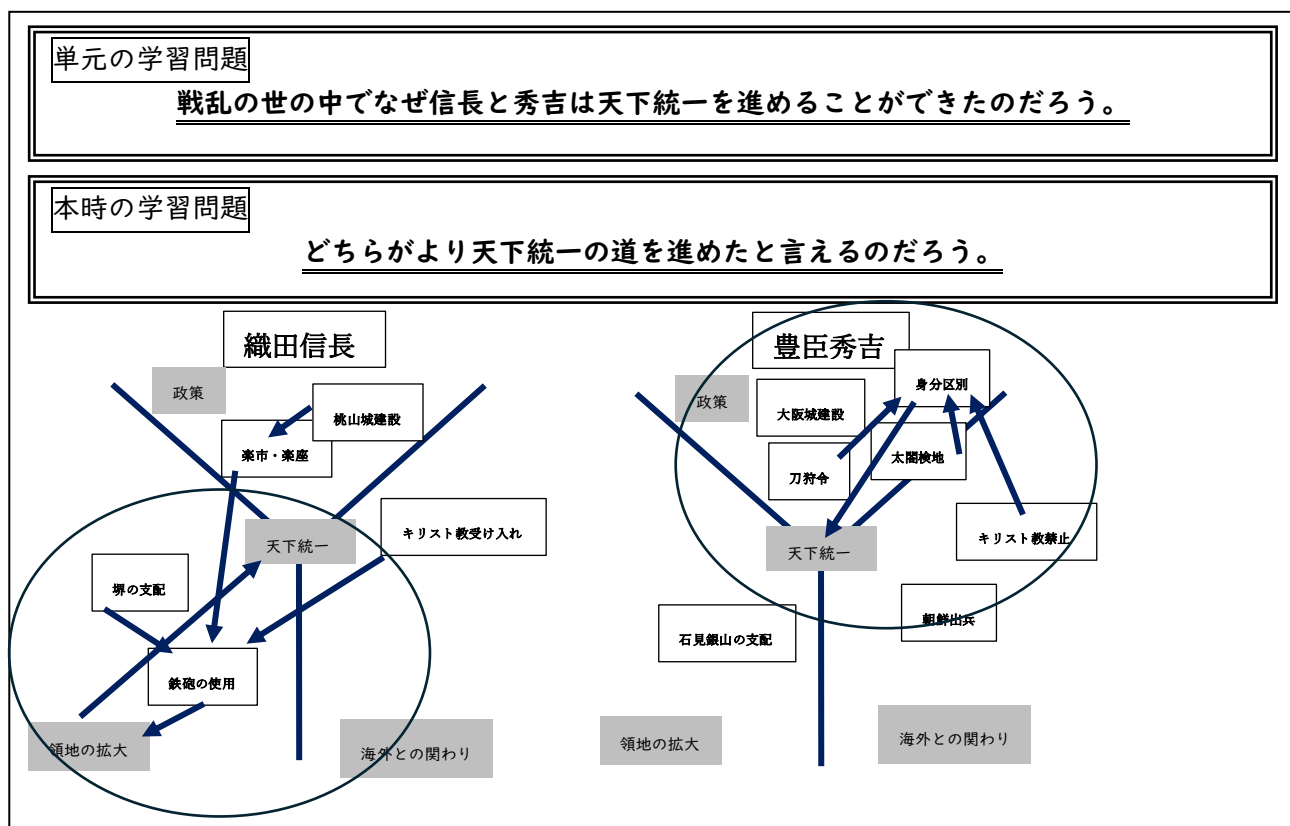
織田信長・豊臣秀吉の業績を比べる活動を通して、天下統一を進めることができた意義を考えられるようにする。

（2）本時の展開

学習活動 ○主な発問等 ・児童の反応	□支援、◇留意点 ■資料 【評価】
1.前時までの調べ学習を振り返り、なぜ織田信長と豊臣秀吉が天下統一を成し遂げられたのかをまとめる。 ○調べてきたことを生かして、織田信長と豊臣秀吉のどちらがより天下統一を進めることができたと言えるのかまとめましょう。	□予想を板書や壁面掲示で視覚化しておき、予想とどうだったのか確かめながらまとめ学習ができるようにする。
<単元の学習問題> <u>戦乱の世の中でなぜ信長と秀吉は天下統一を進めることができたのだろう。</u>	
<本時の学習問題> <u>どちらがより天下統一を進めることができたと言えるのだろう。</u>	
2.どちらがより天下統一を進めることができたかをまとめ、交流する。 ・織田信長の方が天下統一を進めることができたと考え。キリスト教を容認する考え方は鉄砲を使用しての戦い方につながり、多くの領土を支配することができたから。 ・豊臣秀吉の方が天下統一を進めることができたと考え。太閤検地を行うことで、これまで税の回収が不十分だった地方でも、適正な税を徴収でき、結果反乱が起きないようになったから。 ・織田信長の方が天下統一を進めることができたと思う。楽市楽座を行うことで、より多くの人々を安土城付近に住まわせることができ、多くの物資や人手を確保することができたから。 ・豊臣秀吉の方が天下統一を進めることができたと考え。刀狩令によって身分の区別をはっきりさせ、反乱が起きないような仕組みを作ったため。	□まとめが停滞している児童には壁面掲示を見て、二人がどのようなことを行って天下統一を進めることができたのかを確認しながらまとめることができるように支援する。 【思②】 織田・豊臣の天下統一を関連付けたり総合したりして、戦国の世の統一に果たした織田・豊臣の役割を考え、表現している。

・まとめて考えてみると、織田信長は領地を拡大していくことで天下統一を成し遂げているように見える。 ・豊臣秀吉は、信長が広げた領地の中で、反乱が起きないようにルールを厳格化し、天下統一を確かなものにしている感じがする。 3.本時・単元の学習のふり返しを行い、自分の学びについて考える。 ○学習問題に対して自分はどのように解決していくことができたでしょうか。 ・自分は政策から調べていったが、調べるうちに海外との関わりについても分かり、学習問題の解決につながることができた。 ・二人の年表を見比べることで、二人が行ってきた政策がつながることで天下統一につながったと思う。	□交流して気づいたことや新たに疑問に思ったことを表現することで戦国の世の統一に果たした織田・豊臣の役割を考えることができるようにする。 ◇自分はどのように問題解決していったか。どのような資料が活用でき、有効だったか。これまでの社会科での学習とつながるものがあったかという視点でふり返しを書くように指示する。
---	---

(3) 板書計画



(4) 本時の評価

観点	評価規準
【思②】	織田・豊臣の天下統一を関連付けたり総合したりして、戦国の世の統一に果たした織田・豊臣の役割を考え、表現している。
おおむね満足できる子どもの具体的な姿	
・ 織田信長の方が天下統一を進めることができたと考える。キリスト教を容認する考え方は鉄砲を使用しての戦い方につながり、多くの領土を支配することができたから。 ・ 豊臣秀吉の方が天下統一を進めることができたと考える。太閤検地を行うことで、これまで税の回収が不十分だった地方でも、適正な税を徴収でき、結果反乱が起きなくなったから。 ・ 織田信長の方が天下統一を進めることができたと思う。楽市楽座を行うことで、より多くの人々を安土城付近に住まわせることができ、多くの物資や人手を確保することができたから。 ・ 豊臣秀吉の方が天下統一を進めることができたと考える。刀狩令によって身分の区別をはっきりさせ、反乱が起きないような仕組みを作ったため。	

(5) 本時のふり返りの視点

ふり返りの視点	指導者の働きかけ
⑧単元の学びをふり返る。 ⑨単元を超えてふり返る。	学習問題に対して自分はどのように解決していくことができたか。 ・ 自分はどのように問題解決していったか。 ・ どのような資料が活用でき、有効だったか。 ・ これまでの社会科での学習とつながるものがあったか。

本時では単元で自身が学んできた姿についてふり返る。学習問題をどのように捉え、解決していったのか、どのような資料が問題解決に活用できたのか、学習問題を解決する中でこれまでの自身の学びとつながるものがあったかについて考える。そうすることで、次回以降、自身がどのような姿で問題解決を行っていくのかを明確にし、またこれまでの学びとつながる部分を探し、見つけることができる。そして、社会科で学んできたことが点での学びでなく、線でつながり、学び全体を俯瞰して社会を視る目を育成していくねらいがある。

社会科学習指導案

指導者 京都市立下鴨小学校

内藤 和哉

1 日 時 令和7年12月19日(金) 第6校時(14:25～15:10)

2 学 級 第6学年1組(27名)

3 場 所 6年1組教室

4 単元名 「世界に歩みだした日本」

5 単元の目標

我が国の歴史上の主な事象について、世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して、遺跡や文化財、地図や年表などの資料で調べてまとめ、我が国の歴史の展開を考え、表現することを通して、日清・日露の戦争、条約改正、科学の発展などを手掛かりに、我が国の国力が充実し国際的地位が向上したことを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究し、解決しようとする態度を養う。

6 単元の評価規準

【知識・技能】

①世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などについて、遺跡や文化財、地図や年表などの資料で調べ、日清・日露の戦争、条約改正、科学の発展などを理解している。

②調べたことを年表や文などにまとめ、我が国の国力が充実し国際的地位が向上したことを理解している。

.....

【思考・判断・表現】

①世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して、問いを見だし、日清・日露の戦争、条約改正、科学の発展などについて考え表現している。

②日清・日露の戦争、条約改正、科学の発展などを関連付けたり総合したりして、明治政府の意図や世の中の様子の変化を考え、表現している。

.....

【主体的に学習に取り組む態度】

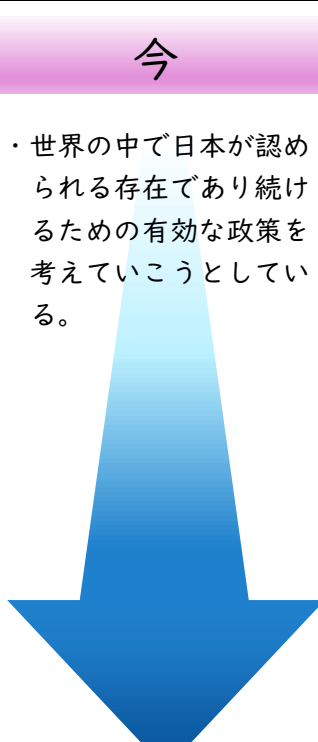
①日清・日露の戦争、条約改正、科学の発展などについて、予想や学習計画を立てたり、見直したりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。

7 児童及び教材について

(1-1) 児童の実態 (○：成果 ▲：課題)

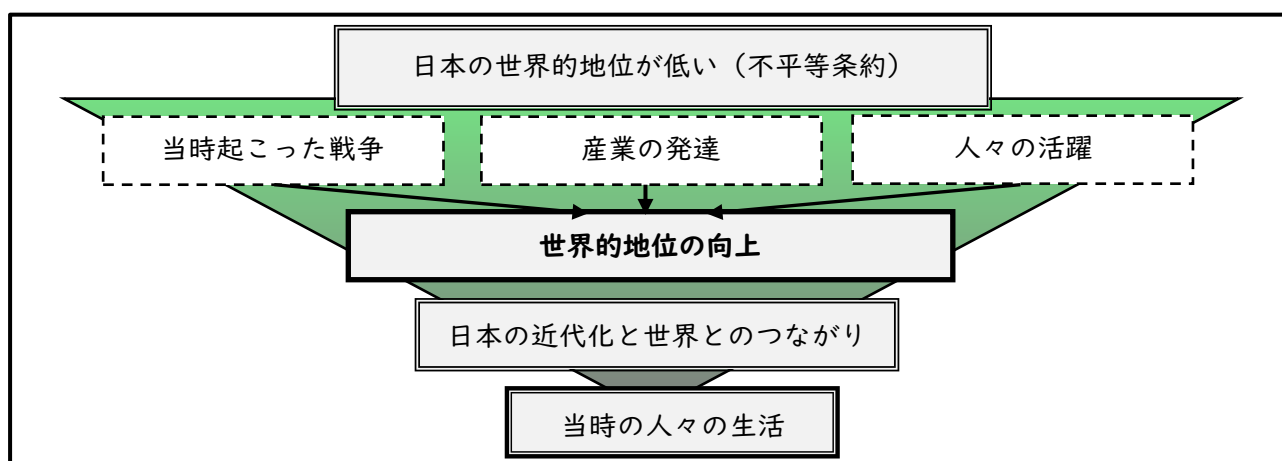
	学習内容や資質・能力に関わる児童の実態	児童の実態に対する具体的な手立てや支援
知識及び技能	○社会的事象について調べていく中で、教科書と参考資料を組み合わせながら、単元の学習問題に迫る調べ学習を進めていけるようになった。 ▲単元の学習問題について文にまとめる際に、資料から調べたことを文に表すことが苦手な児童がいる。	調べの際に、単元の学習問題に関する内容をキーワード化して、ワークシートにまとめさせる。そして、まとめの際にはそのキーワードを活用しながら、単元の学習問題について文にまとめることができるようにする。
思考力・判断力・表現力等	○社会的事象について、なぜそうなったのかという因果関係について着目し、問いを見いだすことができるようになった。 ▲調べた複数の事実を関連付けながら単元の学習問題について考えられる児童が多くない。	Yチャートを用いたワークシートを活用することで、調べた内容同士を関連付けられるようにする。また、年表を見て、それぞれの出来事の時系列を確かめながらまとめることで、出来事のつながりを意識できるようにする。
学びに向かう力・人間性等	○単元の学習問題について、既習事項を生かしながら予想し、自分の予想に合わせながら学習計画を立てることができるようになった。 ▲調べを進める中で、調べた内容や友達との意見交流に応じて、学習計画を見直そうとする子どもが少ない。	単元の学習問題や当初の自分の予想に常に立ち返り、次の問いを調べようとする際には、なぜその問いを選択したのかを考えながら調べ学習を進められるようにする。

(1-2) 今を見て先を見通す子どもの姿

	『今』を見ている 子どもの姿	『先』を見通している 子どもの姿	これから社会へ向かう 子どもの姿
学習問題の 設定場面	・江戸時代に諸外国と結んだ不平等条約のために、日本が大きな被害を受けていたことが分かっている。 ・当時、世界の中では日本の地位が低く、世界から認められていなかったことが分かっている。	・世界に認められていなかったのにも関わらず、なぜ、日本は1919年には国際連盟の常任理事国となり、世界の五大国となったのかという視点から学習問題を設定している。	 今 ・世界の中で日本が認められる存在であり続けるための有効な政策を考えていこうとしている。 先
見通しの 場面	・明治初期の政府の取組や当時の近代化の条件（産業の発達、民主化など）から学習問題の予想を立てている。 ・予想を分類し、どのような争いがあったのか、産業はどのように発達したのか、どのような人々が活躍したのかという視点から問い化している。	・五大国になれた理由について、何から調べたらよいか、どのくらいの時間をかけて調べたらよいか等、よりよく問題解決できるかを考えながら学習計画を立てている。	
調べる 場面	・当時起こった争い、産業の発達、人々の活躍という視点から、計画に従って資料を選択して調べたり、さらに必要な資料を請求したりしている。 ・同じ問いを調べた他者と交流し、情報を広げたり整理したりしている。	・調べる中で、なぜ五大国の1つとなれたのかについてさらに考えを深めようとしている。 ・政府の取組の中で苦しんでいた人々について着目することで、当時の政府の取組について多角的に捉えようとしている。	

(2) 教材について

本教材を整理すると、次のようにとらえることができる。



日本が江戸時代の終わりに欧米諸国と結んだ条約は、日本にとって不平等な条約であった。しかし、ノルマントン号事件をきっかけに、不平等条約を改正しようとする動きが高まり、1911年には条約改正が達成される。さらに、1919年に開かれたパリ講和会議に主要国として参加するほど国際的地位を高めた。国際的な地位を高めた理由として「日清・日露戦争での勝利」「産業の発展」「科学・医学・外交分野での日本人の活躍」が挙げられる。

しかしその輝かしい成長の中では、朝鮮半島や中国の人々に大きな損害を与えている。特に朝鮮半島については、日露戦争後、日本の軍勢力を背景に、韓国併合を行い、植民地化した経緯がある。その後続く朝鮮への植民地政策は太平洋戦争終結まで続き、朝鮮の人々の権利を迫害していったことも記憶にとどめていくべき内容といえる。また、条約改正後の日本の産業の発展は、都市部の人々を中心に生活の近代化が浸透し、豊かさが見られるようになる。これに伴い、人々の民主主義への意識も高まってくる。足尾銅山の鉱毒事件などへの訴え、米の値段高騰に対する米騒動のような民衆運動、普通選挙を求める選挙運動、女性の地位向上、そして、全国水平社による平等の訴えなどは最たる例といえる。このように人々の民主主義への意識が高まり、様々な社会運動が起こる。それらは、政府の取組に対して、人々が自分たちの「権利」や「人権」を守るための運動であった。

8 単元構想図（全6時間）

①日本の世界での地位が向上したことから単元の学習問題をつくり、予想をして、学習計画を立てる。

- ・江戸時代に結んだ外国と不平等な条約のせいで日本は苦しんでいた。
- ・日本は外国から認められていなかった。
- ・外国から認められていなかった日本が世界の五大国となれたのはなぜなのだろう。

つかむ

<学習問題>

日本是世界から認められていなかったのに、なぜ日本は世界の五大国の1つにまでなれたのだろうか。

- ・外国と争い、勝つことで世界から認められたのではないかな。
- ・近代化には産業の発達が必要だから、殖産興業をさらに進めたのかもしれない。
- ・明治の初めのように、たくさんの人々が世界を舞台に活躍したのではないかな。

●世界の五大国になるために、日本はどのような争いをしたのだろうか。

●世界の五大国になるために、日本はどのように産業を発展させたのだろうか。

●世界の五大国になるために、当時の人々はどのような活躍をしたのだろうか。

②③④それぞれの学習計画をもとに調べる。

調べる

●どんな争いをしたのだろうか。

- ・日清戦争
- ・日露戦争
- ・韓国併合
- ・第1次世界大戦

●どのように産業を発展させたのだろうか。

- ・製糸業と紡績業の発展
- ・官営八幡製鉄所
- ・交通の発達
- ・ラジオ放送
- ・洋服の普及

●当時の人々はどのような活躍をしたのだろうか。

- ・陸奥宗光が領事裁判権をなくす
- ・小村寿太郎が関税自主権の回復に成功
- ・医学の発展
- ・新渡戸稲造が国際連盟の事務局次長になる
- ・民主主義

- ・日本は大きく発展して、力をつけているけれど、その中で苦しい思いをしている人がたくさんいるな。
- ・世界の五大国になれたのはよかったけれど、日本に住む人々はつらくなかったのかな。

⑤学習問題のまとめを行う。

まとめる・いかす

<学習問題のまとめ>

日本は日清戦争や日露戦争などの大きな戦いに勝利し、国際的地位を向上させた。また近代化を図るために、製糸業や紡績業を発展させたり、重工業に力を入れたりして、アジアの中でも最も工業のさかんな国になった。こういった動きの中で、陸奥宗光や小村寿太郎が外国と交渉し、不平等条約を改正することができた。また、新渡戸稲造や野口英世など世界で活躍する日本人が増えていったことも、世界に日本の力を示すことにつながった。国内では民主主義への意識が高まって、人々は生活を守るために各地で社会的な権利を主張する運動が起こった。このように、争いで勝ったことや産業を発達させたこと、当時の人々の活躍により日本は世界の五大国の1つになることができた。

- ・世界に認められずにひどい扱いを受けていた日本が30年ほどで世界の五大国になれたのは素晴らしいことだと思う。
- ・日本が世界から認められたのはよかったけれど他の方法はなかったのかな。戦争や多くの社会問題が起きているのにより時代だとはいえないな。

⑥当時の日本の取組を評価する。

- ・江戸幕府のころと比べると、日本は外国にも負けない力をつけている。しかし、戦争によってたくさんの被害を出し、中国や朝鮮の人々にまでつらい思いをさせている。このような過去があったからこそ今の日本では平和主義ができたのだと思う。
- ・当時の人々は苦しかったと思うけれど、外国との戦争がなかったら世界の中での地位は低いままだったと思うし、低いままでは不平等条約が残り、再びノルマントン号のような事件が起こるかもしれない。産業の近代化も起こらなかったのではないかな。

9 単元計画（6時間）

学習 過程	○主な学習活動 ・児童の反応 ●調べる問い	□支援◇留意点【評価】
つかむ	① ○日本の世界での地位が向上したことから単元の学習問題をつくり、予想をして、学習計画を立てる。 - 江戸時代に結んだ日米修好通商条約は不平等な条約で外国にだけ有利なものだったね。 - 世界の国々から下に見られているからノルマントン号のような事件が起ってしまった。 - 日本は近代化しないとこのまま世界から認められないままになる。 - 世界から認められていなかった日本が30年ほどで世界の五大国となれたのはなぜなのだろう。 □ノルマントン号の事件が起こるほど世界に認められていなかったのにも関わらず、なぜ、日本は1919年に世界の五大国の1つになったのか、という認識のずれをもとに学習問題を設定することができるようにする。	□近代化（産業の発達、民主化、植民地支配など）について知り、日本の近代化が遅れていたことも世界から認められていなかった原因であったことを伝えることで予想の手立てにすることができるようにする。
	<学習問題> 世界から認められていなかったのに、なぜ日本は世界の五大国の1つにまでなれたのだろう。	
【参の矢】	□世界から認められていなかったのに、なぜ日本は世界の五大国の1つにまでなれたのだろうという学習問題について「日本はどのような争いをしたのだろう」「日本はどのように産業を発展させたのだろう」「当時の人々はどのような活躍をしたのだろう」と問い化した問いを基に学習の見通しをもてるようにする - 外国と争い、勝つことで世界から認められたのではないかな。 - 近代化には産業の発達が必要だから、殖産興業をさらに進めたのかもしれない。 - 明治の初めのように、たくさんの人々が世界を舞台に活躍したのではないかな。 ●世界の五大国になるために、日本はどのような争いをしたのだろう。 ●世界の五大国になるために、日本はどのように産業を発展させたのだろう。 ●世界の五大国になるために、当時の人々はどのような活躍をしたのだろう。	【思①】 見つけた事実や資料から問いを見出している。 （発言） ◇明治時代初期の政府も外国に追いつこうと様々な取組をしていたことや近代化の条件をもとに予想させる。 【態①】 世界の五大国になれたのかについて理由を予想している。（発言・ノート）
調べる	□国際的地位の向上のために日本がした争いや産業に関する政策、当時の人々の活躍について、子どもたちが資料を選択して調べられるようにする。 □ホワイトボードを使ってそれぞれが何を調べているかを確認できるようにして、考えを交流できるようにする。 □調べていく中で、政府の取組により苦しむ人々の存在に気付かせ、当時の日本政府の取組の意義について考えをもてるようにする。	【参の環】 □調べる中で、政府の取組により苦しむ人々の存在に気付かせ、学習計画の調整を適宜促す。

	②③④のそれぞれの学習計画をもとに調べる。 ●世界の五大国になるために、日本はどのような争いをしたのだろう。 ・日清戦争に勝利し、清から多額の賠償金を得たり、台湾などを植民地にしたりした。 ・東郷平八郎の活躍もあり、日露戦争に勝利した。 ・1910年に抵抗する人々を軍隊でおさえて朝鮮（韓国）を併合した。 ・第1次世界大戦で戦勝国の1つとなり、国際連盟の常任理事国になった。 ●世界の五大国になるために、日本はどのように産業を発展させたのだろう。 ・製糸業と紡績業が成長し、アジアで最も工業がさかんな国になった。 ・官営八幡製鉄所をつくって重工業を発達させた。 ・電車やバスなどの交通が整備された。 ●世界の五大国になるために、当時の人々はどのような活躍をしたのだろう。 ・陸奥宗光がイギリス相手に交渉をして領事裁判権をなくす。 ・小村寿太郎が関税自主権の回復に成功した。 ・北里柴三郎、志賀潔、野口英世が世界の医学の発展に貢献した。 ・新渡戸稲造が国際連盟の事務局次長になった。 ○各自の計画を見直す ●日本は大きな争いに勝ったおかげで世界に認められつつある。けれど戦争でたくさんの人が亡くなっている。他にも、政府の取組の中で苦しい思いをしている人がいるか調べたい。 ●政府の取組の中で、人々はどのように苦しんでいたのだろう。 ・与謝野晶子は日露戦争に反対している。 ・戦争で多くの戦死者がでたり、費用を負担したりしている。 ・朝鮮の人々は独立運動を続けていた。 ・田中正造は足尾銅山鉱毒事件のために立ち上がった。 ・女性差別に対して平塚らいてうや市川房江が立ち上がった。 ・民主主義を取り締まる法律がつくられた。 ・身分制度が改められても差別が残ったので、全国水平社ができて差別をなくす運動を起こした。	◇調べたことをワークシートにまとめさせる。 ◇調べたことが単元の学習問題にどのようにつながるのかを考えながらまとめさせる。 □調べる中で分からないことがあれば、友達と相談したり、指導者に質問したりできるようにする。 □調べる中で、この時代の日本の取組について、疑問や不信感を抱いた子を全体で取り上げることで、政府の取組の中で苦しんでいる人々について調べさせる。 【知①】 調べたことを言葉や図などにまとめ、日本が国際的地位を向上させるまでの流れを理解している。 (ワークシート) 【思②】 日本の取組や人々の活躍が、日本の国際的地位の向上にどのようにつながったのかを考えている。 (ワークシート)
--	---	--

まとめる	⑤〇学習問題のまとめを行う。 <学習問題のまとめ> 日本は日清戦争や日露戦争などの大きな戦いに勝利し、国際的地位を向上させた。また近代化を図るために、製糸業や紡績業を発展させたり、重工業に力を入れたりして、アジアの中でも最も工業のさかんな国になった。こういった動きの中で、陸奥宗光や小村寿太郎が外国と交渉し、不平等条約を改正することができた。また、新渡戸稲造や野口英世など世界で活躍する日本人が増えていったことも、世界に日本の力を示すことにつながった。国内では民主主義への意識が高まって、人々は生活を守るために各地で社会的な権利を主張する運動が起こった。このように、争いで勝ったことや産業を発達させたこと、当時の人々の活躍により日本は世界の五大国の一つになることができた。 ・世界に認められずにひどい扱いを受けていた日本が 30 年ほどで世界の五大国になれたのは素晴らしいことだと思う。 ・日本が世界から認められたのはよかったけれど他の方法はなかったのかな。戦争や多くの社会問題が起こっているのにより時代だとはいえないな。	【知②】 日本が外国との戦争に勝利したり、産業を発展させたり、当時の人々が世界的に活躍したりしたことにより、日本の国際的が向上したことを理解している。(学習支援ソフト) □振り返りをした際の児童の意見を広げることによって次時の学習活動につながられるようにする。
いかす	⑥〇当時の日本の取組を評価する。 ・江戸幕府のころと比べると、日本は外国にも負けない力をつけている。しかし、戦争によってたくさんの被害を出し、中国や朝鮮の人々にまでつらい思いをさせている。このような過去があったからこそ今の日本では平和主義ができたのだと思う。 ・当時の人々は苦しかったと思うけれど、外国との戦争がなかったら世界の中での地位は低いままだったと思うし、低いままだったら不平等条約が残り、再びノルマントン号のような事件が起こるかもしれないし、産業の近代化も起こらなかったのではないかな。	□江戸幕府の取組や現在の政治と、この時代の取組を比較することで、根拠のある評価ができるようにする。 【思②】 当時の日本の取組を評価することを通して、国際的地位の向上に向けた当時の日本の取組に対する自分の考えをまとめている。(発言・学習支援ソフト)

【壺の環】

- 写真資料や年表を用いて、情報を適切に取り出すことができる。
- 何にどのくらいの調べる時間が必要か、自分の計画に沿って所要時間を見通すことができる。
- 調べていく中で事実を捉え、そこからさらに疑問を見出し、調べる計画を立てることができる。

10 本時の学習（本時6／6）

（1）本時の目標

当時の日本の取組を評価することを通して、国際的地位の向上に向けた当時の日本の取組に対する自分の考えをまとめることができるようにする。

（2）本時の展開

学習活動	○主な発問等 ・ 児童の反応	□支援 ◇留意点 ■資料 【評価】
1 前時の学習内容を振り返り、本時の学習課題を立てる。 ○世界の五大国になるまでの日本の歩みを振り返りましょう。 ・ 日清戦争や日露戦争に勝利した。 ・ 第1次世界大戦で戦勝国の1つとなり、国際連盟の常任理事国になった。 ・ 製糸業と紡績業が成長し、アジアで最も工業がさかんな国になった、 ・ 官営八幡製鉄所をつくって重工業を発達させた。 ・ 陸奥宗光と小村寿太郎が不平等な条約の改正に成功した。 ・ 北里柴三郎や新渡戸稲造が世界を舞台に活躍した。 ・ 人々の民主主義の意識が高まった。 ・ けれどうまくいったことばかりでもなかったよ。 ・ 苦しい思いをしている人もいたね。 ・ 世界から認められたのは良いことだけど政府のしてきたことは本当によかったといえるのかな。	（本時の学習課題） 当時の日本の取組を評価しよう。	□前時の復習をすることで本時の学習の手助けとなるようにする。 ■単元の学習をまとめた模造紙 ◇前時に出了た児童の発言から学習課題をたてる。 ◇現在の政治やこれまでの日本の取組と比べながら点数をつけたことを確認しておく。 □学習支援ソフトで点数を共有し、友だちの評価と自分の評価を比べることで、話し合う意欲をもたせる。 ◇ペアやグループで自由に話をさせる。 ◇ペアやグループでの話し合いで評価が変わった際には点数を変更し、学習支援ソフトに再提出させる。
2 評価について交流する。 ○自分の点数と比べて、気になった点数の人と話しましょう。 ・ 江戸幕府のころと比べると、日本は外国にも負けない力をつけている。しかし、戦争によってたくさんの被害を出し、中国や朝鮮の人々にまでつらい思いをさせている。このような過去があったからこそ今の日本では平和主義ができたのだと思う。 ・ 当時の人々は苦しかったと思うけれど、外国との戦争がなかったら世界の中での地位は低いままだったと思うし、低いままでは不平等条約が残り、再びノルマントン号のような事件が起こるかもしれないか。		

3 全体で意見を交流する。 ○当時の日本の取組を評価しましょう。 ・日清戦争や日露戦争で勝ったのはよかったけれど、多くの人が亡くなっている。それに対して与謝野晶子も戦争に反対する気持ちを表している。 ・それに加えて戦争の費用を負担しているのは国民です。戦争では勝ったけれど、多くの費用を使っています。 ・けれど戦争に勝ったことで欧米諸国に日本の力を認めさせることができた。きっとこれが江戸時代から続く不平等条約の改正につながったと思う。 ・日本の産業を発展させたことは評価していいと思う。製糸業、紡績業、重工業を発達させたおかげで日本はアジアで最も工業なさかんになったので、世界から認められている。 ・産業が発達したのはいいことだけれど、工女は朝早くから夜遅くまで働いているし、足尾銅山のような問題も起きている。 ・民主主義が高まってきたとはいえ、治安維持法や治安警察法といった法律を作って人々を取り締まっている。今の憲法とは全然違う。自由がなさすぎる。 ・この時代は今の時代とは違う。今と同じような法律や考え方では、外国に認められていないままだったかもしれない。そうなれば今の日本のような姿ではなかったと思う。 4 学習を通じた自分の考えの変容についてふり返る。 ○今日の学習を通じ、この時代の日本の取組に対する考えはどのように変わりましたか。 ・考えはあまり変わりませんでした。この時代に戦争や民主主義を取り締まる法律は必要だったのかもしれないけれど、実際に人々は苦しい思いをしているし、他の国にも迷惑をかけている。また、このときにうまくいきすぎたせいで、次にまた大きな戦争をしてしまったのかもしれない。この時代の日本の取組はあまり良いものではなかったと思います。 ・最初はこの時代の取組をあまり評価していなかったけれど、外国に認められていないままでは、今の時代にも不平等条約が残っていたかもしれないと考えると、この時代に戦争をしたり産業を発達させたりした日本の取組はよかったのかもしれない。	□話し合いの途中で、現在の日本の姿と比べて考えている意見や当時の情勢を踏まえて考えている意見を取り上げ、適宜近くの人と話をさせることで、話し合いの内容を捉え直したり、自分の考えを再構築したりできるようにする。 【思・判・表―②】 話し合いや既習事項を基にしながら、この時代の日本の取組を評価し、自分の考えをまとめている。(発言・学習支援ソフト) ◇これまでの学習で自分が考えていたことがどのように変わったのかという視点でふり返りを書くように指示する。
---	---

(3) 板書計画

当時の日本の取組を評価しよう。		
○争い ・戦争での勝利 ・不平等条約の改正につながる	・多くの人が亡くなった ・多くの費用がかかった ・与謝野晶子も反対 ⇒平和主義の反対	○この時代にとってはやるべきことだった？ ・やっていなかったら不平等条約が残っていたかもしれない。 ・平和主義ができたのもこういったことがあったからこそ ・ここでうまくいったから次の戦争につながってしまった ・たくさんの人を犠牲にってしまったことは許せない。
○産業 ・製糸業、紡績業の発展 ・重工業の発展 ・アジアで最も工業がさかんな国 ・近代化に成功	・労働環境が悪い ・足尾銅山問題	
○人々の活躍 ・普通選挙 ・民主主義の高まり ・医学の発展	・女性の選挙権がない ・民主主義を取り締まる法律 ⇒今の選挙や基本的人権の尊重とは程遠い	

(4) 本時の評価

観点	評価規準
【思・判・表—②】	話し合いや既習事項を基にしながら、この時代の日本の取組を評価し、自分の考えをまとめている。
おおむね満足できる子どもの具体的な姿	
・江戸幕府のころと比べると、日本は外国にも負けない力をつけている。しかし、戦争によってたくさんの被害を出し、中国や朝鮮の人々にまでつらい思いをさせている。このような過去があったからこそ今の日本では平和主義ができたのだと思う。 ・考えはあまり変わりませんでした。この時代に戦争や民主主義を取り締まる法律は必要だったのかもしれないけれど、実際に人々は苦しい思いをしているし、他の国にも迷惑をかけている。また、このときにうまくいきすぎたせいで、次にまた大きな戦争をしてしまったのかもしれない。この時代の日本の取組はあまり良いものではなかったと思います。 ・最初はこの時代の取組をあまり評価していなかったけれど、外国に認められていないままでは、今の時代にも不平等条約が残っていたかもしれないと考え、この時代に戦争をしたり産業を発達させたりした日本の取組はよかったのかもしれない。	

(5) 本時のふり返りの視点

ふり返りの視点	指導者の働きかけ
⑧単元の学びをふり返る。	今日の学習を通じ、この時代の日本の取組に対する考えはどのように変わりましたか。

本時では、児童の単元の学びを通じた考えの変容についてふり返る。当時の日本の取組の評価について話し合うことを通して、国際的地位の向上に向けた日本の取組の意義について考える。そこで、これまでに学習してきたことを、政府の視点や当時の人々の視点、現在からの視点などから捉え直すことで、当時の日本の取組に対する自分の考えの変容についてふり返らせ、その変化を見取りたい。

社会科学学習指導案

指導者 京都市立葵小学校
松本 雪穂

- 1 日 時 令和8年3月2日(月) 第6校時(14:25～15:10)
- 2 学 級 第6学年3組(30名)
- 3 場 所 6年3組教室
- 4 単元名 「世界の未来と日本の役割」

5 単元の見目標

グローバル化する世界の日本の役割について、地球規模で発生している課題の解決に向けた連携・協力などに着目して、地図帳や地球儀、各種の資料で調べ、まとめることで国際連合の働きや我が国の国際協力の様子を捉え、国際社会において我が国が果たしている役割を考え、表現することを通して、我が国は、平和な世界の実現のために国際連合の一員として重要な役割を果たしたり、諸外国の発展のために援助や協力を行ったりしていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決し、学習したことを基に、今後、我が国が国際社会において果たすべき役割などを多角的に考えようとする態度を養う。

6 単元の評価規準

【知識・技能】

- ①地球規模で発生している課題の解決に向けた連携・協力などについて、地図帳や地球儀、各種の資料で調べて、必要な情報を集め、読み取り、国際連合の働きや我が国の国際協力の様子を理解している。
- ②調べたことを図表や文などにまとめ、我が国は、平和な世界の実現のために国際連合の一員として重要な役割を果たしたり、諸外国の発展のために援助や協力を行ったりしていることを理解している。

.....

【思考・判断・表現】

- ①地球規模で発生している課題の解決に向けた連携・協力などに着目して、問いを見だし、国際連合の働きや我が国の国際協力の様子について考え、表現している。
- ②地球規模で発生している課題の解決策と我が国の国際協力の様子を関連付けて、国際社会において我が国が果たしている役割を考えたり、学習したことを基に今後、我が国が国際社会において果たすべき役割を多角的に考えたり、世界の人々とともに生きていくために大切なことについて、自分たちにできることを考えたり選択・判断したりして、表現している。

.....

【主体的に学習に取り組む態度】

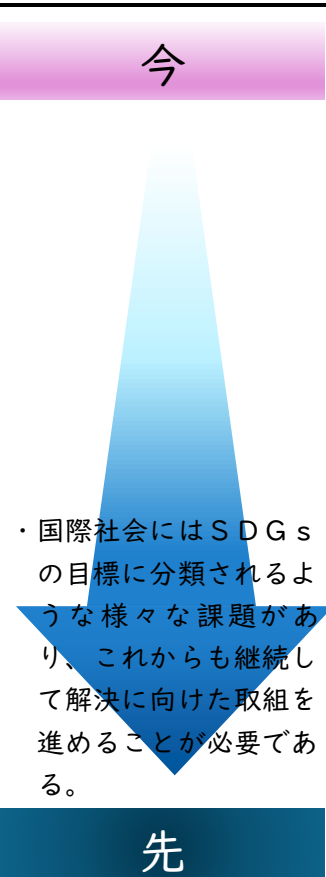
- ①国際社会において我が国が果たしている役割について、予想や学習計画を立てたり、見直したりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。
- ②学習したことを基に、今後、我が国が国際社会において果たすべき役割を多角的に考えようとしたり、世界の人々とともに生きていくために大切なことについて、自分たちにできることを考えようとしたりしている。

7 児童及び教材について

(1-1) 児童の実態 (○：成果 ▲：課題)

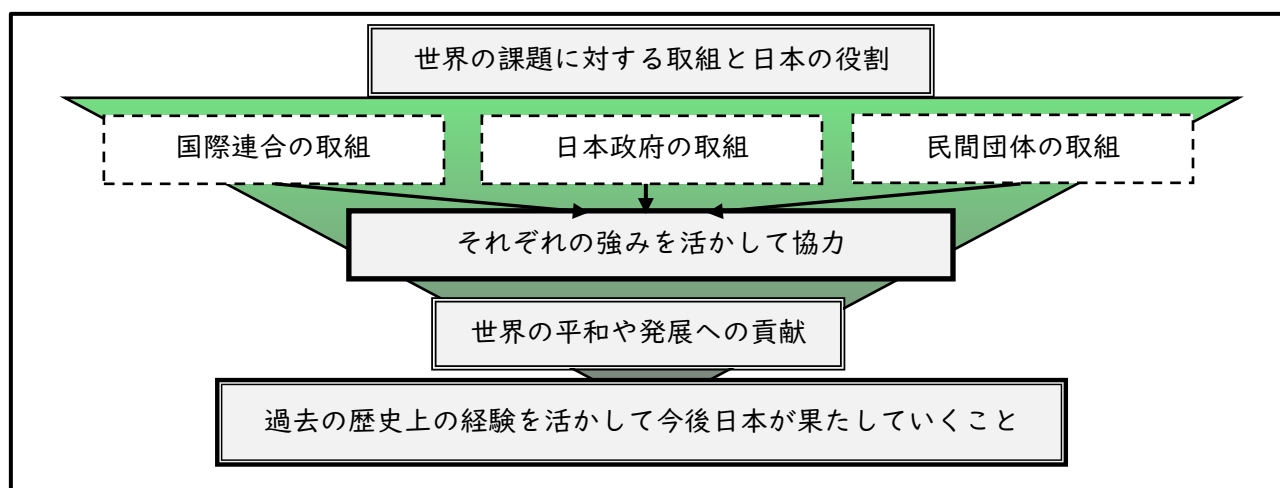
	学習内容や資質・能力に関わる児童の実態	児童の実態に対する具体的な手立てや支援
知識及び技能	○社会的事象について具体物を見聞きするだけでなく、写真等様々な資料を使いながら事実をとらえることができるようになった。 ▲資料から様子をとらえることがまだ十分でない子どももいる。	単元で使う資料を全て用意しておくことで、児童が自分の欲しいタイミングで資料を使うことができるようにしたり、子どもたち同士で話し合ったりする機会を十分設けるようにする。
思考力・判断力・表現力等	○自分の知っていたことと比較したり様々な事象を関連付けたりし、学習問題を設定することができるようになった。 ○調べた事実を基に人々の工夫、おもい等、社会的事象の意味について考えることができるようになってきた。 ▲知識量の偏りがあるため、予想の差がでてしまう。	具体的に調べ、考えられるよう、立場を明確にして世界の課題解決に真剣に取り組んでいる人々の姿を見せることで、日本が世界の中で重要な役割を果たしていることについて実感的、共感的に認識できるようにする。 予想では、SDGsの資料を使うことで、知識の偏りがあっても同じ目線で予想をたてられるようにする。
学びに向かう力・人間性等	○社会的事象と自分たちの生活がつながっていることを理解できるようになってきた。 ▲社会に見られる課題を自分事として捉えにくく、関わりを考えづらい子どももいる。	世界の課題に対する日本の役割を捉えたうえで、持続可能な社会に変えていくには、どうすればよいのかや、自分がどのように関わっていくかを考えられるようにする。

(1-2) 今を見て先を見通す子どもの姿

	『今』を見ている 子どもの姿	『先』を見通している 子どもの姿	これから社会へ向かう 子どもの姿
学習問題の設定場面	・世界には、紛争や貧困、環境などに関する様々な課題があることがわかっている。 ・課題を解決するために日本人々が活動していることがわかっている。	・日本とあまり関わっていないような国の人が日本に感謝しているのはなぜかという視点から学習問題を設定している。	 今 ・国際社会にはSDGsの目標に分類されるような様々な課題があり、これからも継続して解決に向けた取組を進めることが必要である。 先
見通しの場面	・SDGsの提示資料から学習問題の予想を立てている。 ・予想を分類し、国際連合・日本政府・民間団体はどのような取組をしているのかの視点で問い化している。	・国際連合・日本政府・民間団体の取組や、その理由等について、何から調べたらよいかや、どのくらいの時間をかけて調べたらよいか等、よりよく問題解決できるかを考えながら学習計画を立てている。	
調べる場面	・取組、その理由等について、計画に従って資料を選択して調べたり、さらに必要な資料を請求したりしている。 ・同じ問いを調べた他者と交流し、情報を広げたり整理したりしている。	・様々な立場の人が関わっていることについてさらに調べようとしている。 ・世界の課題に対する日本の取組から、日本が果たしている役割やその意義等さらなる問いを見出している。	

(2) 教材について

本教材を整理すると、次のようにとらえることができる。



現代の世界には、紛争、環境破壊、飢餓、貧困、自然災害、人権問題など、国境を越えて広がる課題が数多く存在している。こうした課題を解決するため、国際連合が設立され、加盟国が協力しながら取組を進めてきた。国際連合の活動には、平和を守るための活動、人道支援、教育や文化を広める取組などがあり、ユニセフやユネスコといった機関が子どもの命を守る活動や教育の普及など、私たちの生活にもつながる身近な支援を行っている。

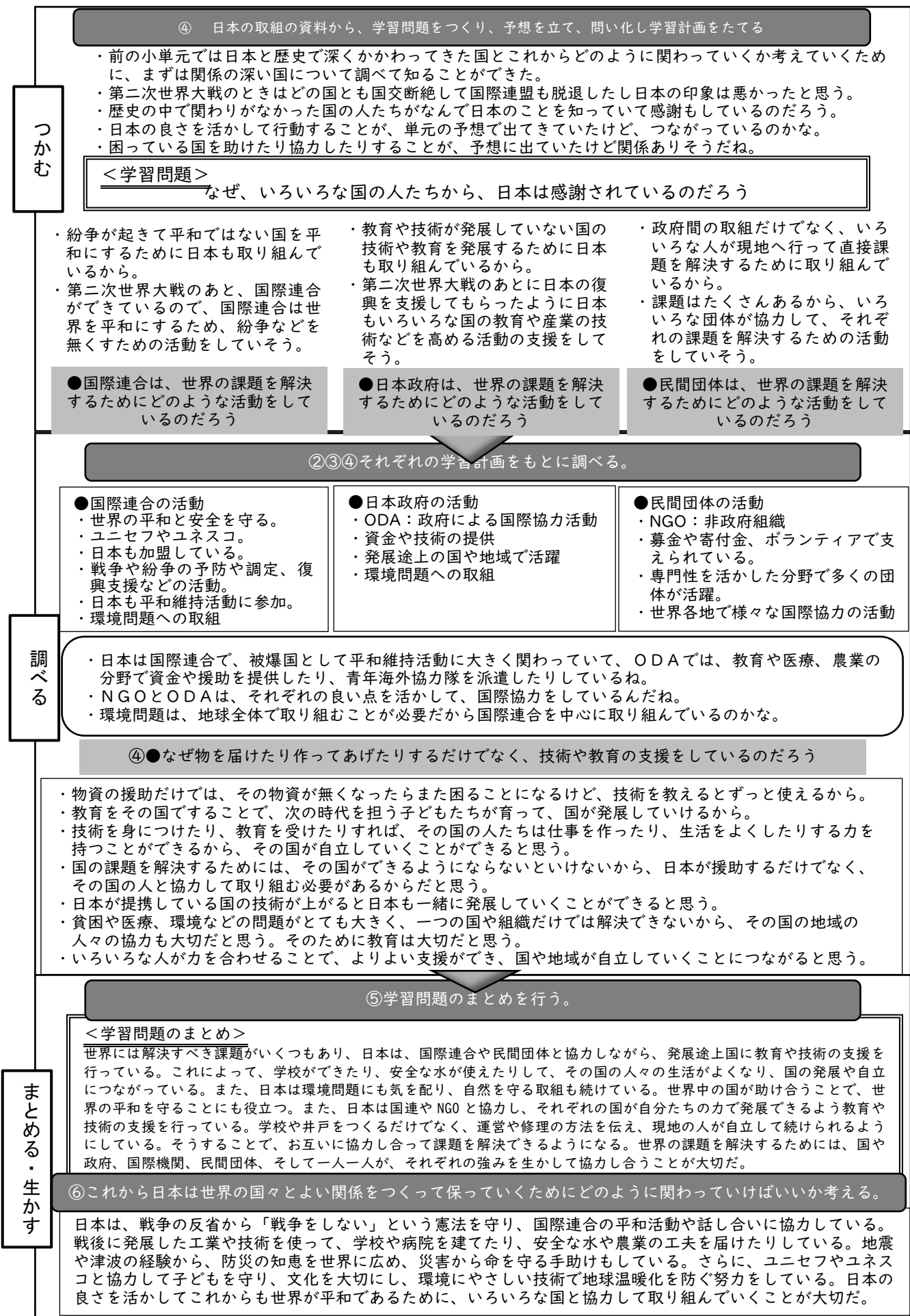
我が国も国際連合の一員として、資金や人材の提供、技術協力、政策提案などを通じて重要な役割を果たしてきた。さらに、日本は ODA（政府開発援助）を通じて、発展途上国の学校や病院、道路などの整備を手伝い、その国が自分たちの力で生活をよくしていけるように支えている。こうした支援は相手の国の自立につながるだけでなく、日本にとっても、外国との信頼関係を深めたり、将来の協力や交流の広がりにつながったりするという良い面がある。また、災害時の緊急援助や医療支援などを通じて、世界の人々の命と暮らしを守るためにも努力している。

こうした取組の背景には、地球規模の課題は一国だけでは解決できないという考えがあり、国や企業、国際機関、NGO、そして私たち一人ひとりが協力し合うことの大切さがある。このような国際連合や我が国の活動があるからこそ、世界はより平和で安全な社会へと近づいてきた。

そして今、SDGs（持続可能な開発目標）の達成に向けて、国際社会はさらに協力を深めている。これからも、国際連合や我が国の取組は、世界の課題解決と未来の豊かな暮らしを支えるかけがえのない力であり、私たちもその一員として何ができるかを考えていく必要がある。

本単元では、国際連合の働きや我が国の国際協力を調べ、地球規模の課題と日本の役割を結び付けて理解し、国際社会の一員として自分にできることを考えられるようにしていく。

8 単元構想図（全6時間）



学習 過程	○主な学習活動 ・ 児童の反応 ●調べる問い	□支援◇留意点【評価】
	①○世界の様々な課題と解決に向けた取組の資料から、学習問題をつくり、予想を立て、問い化し学習計画をたてる。 ・ 前の小単元では日本と歴史で深く関わってきた国とこれからどのように関わっていくか考えていくために、まずは関係の深い国について調べて知ることができた。 ・ 歴史の中で関わりがなかった国の人たちがなんで日本のことを知っているのだろう。 ・ 知っているだけでなく、日本に感謝しているのはなんでだろう。 ・ 日本の良さを活かして行動することが、単元の予想で出てきていたけど、つながっているのかな。 ・ 困っている国を助けたり協力したりすることが、予想に出ていたけど関係ありそうだね。 □日本と歴史上関わりが深い国との関わりについて調べた後に、歴史上関わりの少ない国でも日本が知られていたり、感謝されていたりしているという認識のずれをもとに学習問題を設定することができるようにする。	□世界で発生している課題に日本人が関わっていることに気付けるようにする 【知①】 □★発言や記述から、「世界の課題の解決に向けた日本人の取組」などに着目して問いを見いだしている。 【思①】 見つけた事実や資料から問いを見出している。(ノート) □学習問題について予想し、その予想を分類することで、問い化できるようにする。 ◇調べる時間の配分や方法について見通しをもつように声掛けをする。
つかむ	<学習問題> なぜ、いろいろな国の人たちから、日本は感謝されているのだろう □なぜ歴史上関わりの少ない国でも日本が知られていたり、感謝されていたりしているのかという学習問題について、それらの国と世界の課題の資料をもとに「国際連合は課題解決にどのように取り組んでいるのだろう」「日本政府は課題解決にどのように取り組んでいるのだろう」「民間団体は課題解決にどのように取り組んでいるのだろう」と問い化した問いを基に学習の見通しをもてるようにする。 ・ 感謝している国は、紛争地帯だったり、環境問題があったり、課題を抱えているところが多いね。 ・ アジアやアフリカには食糧不足の国が多く見られるね。 ・ 世界各地でこんなに紛争が起きているんだね。 ・ 食べ物が手に入らなかったり、教育が受けられなかったりする人々が世界にたくさんいるんだね。 ・ 地球温暖化や、海洋プラスチック問題、砂漠化など、地球環境の問題もあるんだね。 ・ 世界の課題を解決するために立てられた目標がSDGsなんだね。 ・ 紛争が起きて平和ではない国を平和にするために日本も取り組んでいるから感謝されているのかな。 ・ 第二次世界大戦のあと、国際連合ができていたので、国際連合は世界を平和にするため、紛争などを無くすため	【態①】 □どのような立場の日本人が、世界で発生している課題の解決に関わっているか気付かせ、それぞれの立場の取組について予想できるようにする。(発言・ノート)

【式の矢】

の活動をしていそう。

- ・教育や技術が発展していない国の技術や教育を発展するために日本も取り組んでいるから感謝されているのかな。
- ・第二次世界大戦のあとに日本の復興を支援してもらったように、日本も技術力などを活かして、いろいろな国の教育や産業の技術などを高める活動の支援をしてそう。
- ・政府間の取組だけでなく、いろいろな人が現地へ行って直接課題を解決するために取り組んでいるから、現地の人たちがあんなに感謝しているのかな。
- ・課題はたくさんあるから、いろいろな団体が協力して、それぞれの課題を解決するための活動をしていそう。
- 国際連合、政府、民間団体と分かれていろいろな団体が解決しようとしているのはなぜだろう。
- なぜいろいろな立場の人が取り組んでいるのだろう。

【参の矢】

目世界の課題や課題解決の取組等について子どもたちが資料を選択して調べるようにする。

目それぞれが調べている内容を、ホワイトボードを使って交流し、考えを広げられるようにする。

目調べていく中で見出した様々な立場の人が世界の課題に取り組んでいる意味・意義等について調べ深めたことを基に全体で考えるようにする。

②③④○それぞれの学習計画をもとに調べる。

- 国際連合は、世界の課題を解決するためにどのような活動をしているのだろう。
 - ・世界の平和と安全を守る。
 - ・ユニセフやユネスコ。
 - ・日本も加盟している。
 - ・戦争や紛争の予防や調定、復興支援などの活動。
 - ・日本も平和維持活動に参加。
 - ・環境問題への取組。

- 日本政府は、世界の課題を解決するためにどのような活動をしているのだろう。
 - ・ODA：政府による国際協力活動
 - ・資金や技術の提供
 - ・発展途上の国や地域で活躍

- 民間団体は、世界の課題を解決するためにどのような活動をしているのだろう。
 - ・NGO：非政府組織
 - ・募金や寄付金、ボランティアで支えられている。
 - ・専門性を活かした分野で多くの団体が活躍。
 - ・世界各地で様々な国際協力の活動

【式の環】

目調べる前半の中で、課題に対する取組・理由について個別に問掛け、進捗状況を確認し、資料や対話の必要性等を助言する。

目調べることに難しさを感じている子どもには、何を調べるのかを確認したり、資料の見方伝えたりしながらどのようなことがわかるかを確認して調べられるようにする。

調べる	○各自の計画を見直す ●それぞれの組織や団体がどのように取り組んでいるのか分かったけれど、なぜ物を届けたり作ってあげたりするだけでなく、技術や教育の支援をしているのか考えてみたい。 ●なぜ物を届けたり作ってあげたりするだけでなく、技術や教育の支援をしているのだろう。 ・物資の援助だけでは、その物資が無くなったらまた困ることになるけど技術を教えるとずっと使えるから。 ・教育をその国ですること、次の時代を担う子どもたちが育って、国が発展していけるから。 ・技術を身につけたり、教育を受けたりすれば、その国の人たちは仕事を作ったり、生活をよくしたりする力をもつことができるから、その国が自立していくことができると思う。 ・国の課題を解決するためには、その国ができるようにならないといけないから、日本が援助するだけでなく、その国の人と協力して取り組む必要があるからだと思う。 ・日本が提携している国の技術が上がると日本も一緒に発展していくことができると思う。 ・貧困や医療、環境などの問題がとても大きく、一つの国や組織だけでは解決できないから、その国の地域の人々の協力も大切だと思う。そのために教育は大切だと思う。 ・いろいろな人が力を合わせることで、よりよい支援ができ、国や地域が自立していくことにつながると思う。 ・その国が自立して産業が発展したら、日本も貿易などができて、お互いに発展していけるかもしれない。	【式の環】 □調べの後に、さらに追究したい問いを交流し、学習計画の調整を適宜促す。 ◇調べる中でさらに必要な資料はないか尋ねる。 【知①】 各団体の取組について調べている。 (ノート) 【知①】 環境問題への取組について調べている。(ノート) 【態①】 見通しを振り返り、学習内容を調整している。(ノート) 【思②】 いろいろな立場の人が課題に取り組む意義について考えている。(ノート) 【知②】 日本が平和な世界の実現のために国際連合の一員として重要な役割を果たしたり、諸外国の発展のために援助や協力を行ったりしていることを理解している。(ノート)
まとめる・いかす	⑤学習問題のまとめを行う。 <学習問題のまとめ> 世界には解決すべき課題がいくつもあり、日本は、国際連合や民間団体と協力しながら、発展途上国に教育や技術の支援を行っている。これによって、学校ができたり、安全な水が使えたりして、その国の人々の生活がよくなり、国の発展や自立につながっている。また、日本は環境問題にも気を配り、自然を守る取組も続けている。世界中の国が助け合うことで、世界の平和を守ることに役立つ。また、日本は国連やNGOと協力し、それぞれの国が自分たちの力で発展できるよう教育や技術の支援を行っている。学校や井戸をつくるだけでなく、運営や修理の方法を伝え、現地の人々が自立して続けられるようにしている。そうすることで、お互いに協力し合っ	□これまでの学習で分かったことを整理した記録を振り返ることで、書くことができるようにする。 【思②】 地球規模で発生している課題の解決策と日本の国際協力の様子を関連付けて、国際社会において我が国が果たしている役割を考えたり、学習したことを基に今後、我が国が国際社会において果たすべき役割を多角的に考えたり、して、表現している。 (発言・ノート)

⑥○これから日本は世界の国々とよい関係をつくって保っていくためにどのように関わっていけばいいか考える。

- ・日本は、戦争の反省から「戦争をしない」という憲法を守り、国際連合の平和活動や話し合いに協力している。戦後に発展した工業や技術を使って、学校や病院を建てたり、安全な水や農業の工夫を届けたりしている。地震や津波の経験から、防災の知恵を世界に広め、災害から命を守る手助けもしている。さらに、ユニセフやユネスコと協力して子どもを守り、文化を大切に、環境にやさしい技術で地球温暖化を防ぐ努力をしている。日本の良さを活かしてこれからも世界が平和であるために、いろいろな国と協力して取り組んでいくことが大切だ。
- ・これからの国際社会では、世界の国々と協力して平和を守ることや、戦争や争いをなくすために、話し合いや支援を続けることが求められている。また、日本は高い技術を持っている国なので、それを生かして、発展途上国の人々が自立できるように助けることも続けていくことが大切だと思う。
- ・教育や環境問題への取組を共有することで、世界全体の発展につながる。日本はこれからも、世界とつながりながら、みんなが安心して暮らせる社会をつくるために大きな役割を果たしていく国だと思う。
- ・国同士が協力していくのも大切だが、民間団体の人たちが行動していたように、一人一人が行動することも大切だと思う。SDGsの課題への取組だけでなく、フェアトレードのものを買うなど、その国への協力になることをやっていきたいと思った。

【主②】

学習したことを基に、今後、我が国が国際社会において果たすべき役割を多角的に考えようとしたり、世界の人々とともに生きていくために大切なことについて、自分たちにできることを考えようとしたりしている。

【貳の環】

☐これからの国際協力の意義について深く考えている児童をみとり、意図的に指名することで他の子どもに考える視点を広げる。

【壱の環】

- ☐写真資料や絵図を用いて、情報を適切に取り出すことができる。
- ☐何にどのくらいの調べる時間が必要か、自分の計画に沿って所要時間を見通すことができる。
- ☐調べていく中で事実を捉え、そこからさらに疑問を見出し、調べる計画を立てることができる。

10 本時の学習（本時5／6）

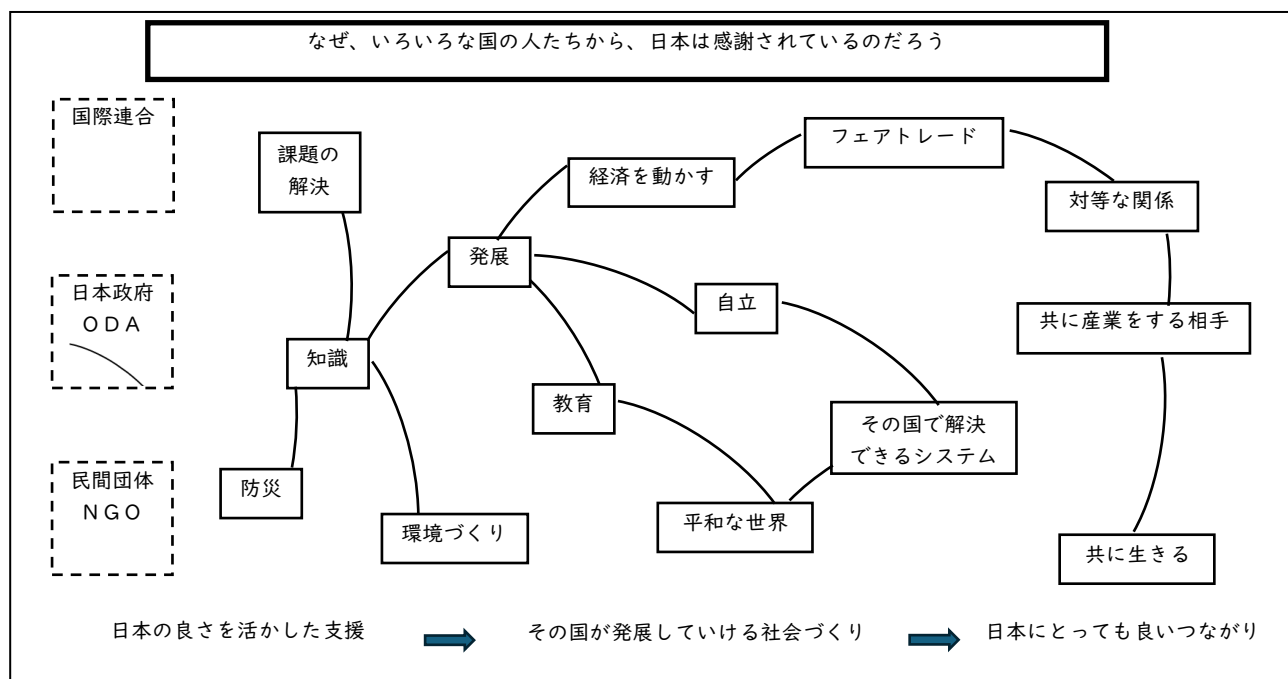
（1）本時の目標

国際社会において日本が果たしている役割を考えることを通して、日本が国際社会において果たすべき役割を多角的に考えたり、これからの国際協力の在り方について考えたりすることができるようになる。

（2）本時の展開

学習活動 ○主な発問等 ・児童の反応	□支援 ◇留意点 ■資料 【評価】
1 今日の交流の目的を各自で確認する。	
（本時の問い） なぜ、いろいろな国の人たちから、日本は感謝されているのだろう	
2 学習問題に対するこたえとなるキーワードを交流する。 ・私は自立だと思います。なぜなら物をあげるだけでなく、農業のしかたや建物の作り方などの技術を教えたり、先生を育てたりする教育の支援もしているので、その国の人が自分たちの力で発展できるようになるから感謝されていると思うからです。 ・私は安心できる生活だと思います。日本は、学校や病院を作る手伝いをしたり、安全な水を使えるように井戸を作ったりしています。そのおかげで、国の人々の生活が安全で安心なものになるからです。 ・私は平和への貢献だと思います。日本は戦争をしない国であり、話し合いや支援を通して世界の平和を守るために努力しています。その姿勢が多くの人から信頼され、感謝される理由になっていると思うからです。	◇大型テレビにキーワードを映すことで、グループをつくる視点とする。 □調べたことをもとに話し合うようにすることで、事実と考えをつなげて話すことができるようにする。 □友達から聞いた意見が、どの資料からきているのか確認し合うように伝えることで、調べ学習のときにその資料が読めていなかった児童も理解できるようにする。 □大単元導入時の資料を掲示しておくことで、次の発問につなげることができるようにする。 □これまでの学習を想起させて考えることで、その理由を考えられるようにする。 ◇自分の考えとつながると思った相手を次の発表に指名することで、話を関連付けてできるようにする。
3 全体で交流する	
4 本時の学習をまとめる。	
世界には解決すべき課題がいくつもあり、日本は、国際連合や民間団体と協力しながら、発展途上国に教育や技術の支援を行っている。これによって、学校ができたり、安全な水が使えたりして、その国の人々の生活がよくなり、国の発展や自立につながっている。また、日本は環境問題にも気を配り、自然を守る取組も続けている。世界中の国が助け合うことで、世界の平和を守ることにも役立つ。また、日本は国連や NGO と協力し、それぞれの国が自分たちの力で発展できるよう教育や技術の支援を行っている。学校や井戸をつくるだけでなく、運営や修理の方法を伝え、現地の人が自立して続けられるようにしている。そうすることで、お互いに協力し合って課題を解決できるようになる。世界の課題を解決するためには、国や政府、国際機関、民間団体、そして一人一人が、それぞれの強みを生かして協力し合うことが大切だ。	【思・判・表—②】 地球規模で発生している課題の解決策と日本の国際協力の様子を関連付けて、国際社会において我が国が果たしている役割を考えたり、学習したことを基に今後、我が国が国際社会において果たすべき役割を多角的に考えたりして、表現している。 （発言・ノート） ◇これまでの学習で自分が考えていたことがどのように変わったのかという視点で振り返りを書くように指示する。
5 複数の単元をふまえてどんなことが大切だと考えるかふりかえる。	
○今日の学習を通じ、これからの国際社会と関わっていくためにどんなことが大切だと思いますか。	

(3) 板書計画



(4) 本時の評価

観点	評価規準
【思・判・表—②】	地球規模で発生している課題の解決策と日本の国際協力の様子を関連付けて、国際社会において我が国が果たしている役割を考えたり、学習したことを基に今後、我が国が国際社会において果たすべき役割を多角的に考えたりして、表現している。
おおむね満足できる子どもの具体的な姿	
世界には解決すべき課題がいくつもあり、日本は、国際連合や民間団体と協力しながら、発展途上国に教育や技術の支援を行っている。これによって、学校ができたり、安全な水が使えたりして、その国の人々の生活がよくなり、国の発展や自立につながっている。また、日本は環境問題にも気を配り、自然を守る取り組みも続けている。世界中の国が助け合うことで、世界の平和を守ることにも役立つ。世界の課題を解決するためには、国や政府、国際機関、民間団体、そして一人一人が、それぞれの強みを生かして協力し合うことが大切だ。	

(5) 本時のふり返りの視点

ふり返りの視点	指導者の働きかけ
⑨単元をこえてふり返る	今日の学習を通じ、これからの国際社会と関わっていくためにどんなことが大切だと思いますか。

本時では⑨について考え、これまでの学習をもとに、これからの国際社会と関わっていくためにどんなことが大切だと思うか考える。その考えたことを次時の学習に活かせるようにしたい。

◆◆◆ 6年部会 成果と課題 ◆◆◆

壺の矢：質の高い学習問題

ここ数年6年部会が歴史単元において討議を重ねてきた「なぜ」を問う問いの設定を今年度は積極的に心がけた。まず、久世西小学校山下実践では「天皇中心の国づくり」において、第1時で聖徳太子について調べるとともに、太子でも天皇中心とまでは至らなかった事実に触れる。しかし、約100年後には、大仏を作るほど天皇の力が強まったことを知り、「聖徳太子がなくなったのになぜ、天皇中心の国づくりにすることができたのだろう。」として、「なぜ」で単元を貫く問いを設定することができた。

また、洛央小学校藤田実践でも「戦国の世から天下統一へ」の第1時で戦国大名が分国法等で各地を支配して長く戦乱の世が続いていたことをおさえた。しかし、信長・秀吉の登場で急速に天下統一が進んだことを知り、「戦乱の世の中でなぜ信長と秀吉は天下統一を進めることができたのだろう。」と

いう学習問題を導き出し、子どもたちは自発的に学習に向かうことができた。



貳の矢：明確な見通し

下鴨小学校内藤実践では、「世界に歩み出した日本」の第1時で「世界から認められていなかったのに、なぜ日本は世界の五大国の一つになれたのだろう。」という学習問題を設定した。そこから、「他国との争い」「産業の発展」「人々の活躍」という条件を予想し、調べ学習に各々で進むことができた。

参の矢：充実した調べる学習

どの実践でも学習問題を設定したのち、まとまった調べる時間を2～3時間は担保し、子どもたちそれぞれが個人で調べたり、友達と疑問を出し合って解決したりする姿が見られた。例えば、山下実践では、子どもたちそれぞれが、図を使って説明したり、個別に指導者が用意した資料を読み込んだりして、熱心に調べることができていた。

また、3実践とも模造紙を使って調べたことや考えたことを全体で共有したり、中心概念をキーワード化してプリントで整理したりした。こうして、子どもたちが1時間ごとの学びを記録として残しつつ、自分の考えをまとめ続けることができるようにした。

壺の環：系統立てて育む力の整理

6年は3年生からの育ててきた力の集大成ともいえる学年である。従って、問いを立てたり、情報を収集・整理したり、自分の考えをまとめて交流したりすることを継続的に活かしていくことが求められる。それらの活動を大事にしつつ、6年生という学年内でも前単元までに学んだ内容・活用した力を利用できるように意図した。例えば、内藤実践では、「江戸幕府と政治の安定」の単元末にて、幕府の政策を評価するという活動を行った。その流れ・つながりを活かし、「世界に歩み出した日本」の単元でも当時の日本の取組を評価するという学習活動を計画した。子どもたちからも評価活動をやりたという意見が出て、実際の学習活動につなげることができた。



貳の環：持続可能な評価

どの3実践でもまとまった調べる時間を確保し、指導者は個別に進捗状況を見取り、適宜助言・支援を行うことができた。例として、藤田実践では「政策」「領地」「海外とのつながり」という3つの条件を整理した作業プリントを用意し、子どもたちの調べている状況を確認しながら、適宜個別の声かけをしたり、コメントを加えたりして指導に活かしていくことができた。



課題：全国大会へ向けて

まず、単元終末の学習のまとめ方や学習活動にはさらなる探究が必要と感じている。とすれば、単元終末は、これまでの時間で得た知識の発表・羅列で収束しがちである。自分の考えを友達と交流する中で、いかに整理していくことができるか。また単元の学習問題とは別に考えが深まる問いを設定できるか。議論の余地はあると考えている。

また、子どもたち自身がどこまで価値判断に踏み込めるかという点も挙げられる。京都社研研究部発信の研究主題にも込められた、自ら社会に参画したり、「先」を見通した行動への意識を培ったりするという点について、特に「歴史」単元では結果が分かっているからこそ踏み込みにくさを感じた。今後もよりよい実践を積み重ねていきたい。

社会科好きの一教員として

京都市立御所東小学校

研究部長 加藤 俊介

研究部長という大役を拝命し、3年が過ぎます。この間、令和8年度の全国大会に向けて、研究会員の皆様を始め、会場校の先生方におかれましては、これから目指すべき社会科の在り方について議論を重ね、授業実践に取り組んでいただきましたこと、心より感謝申し上げます。

さて、今年度たくさんの実践を積んできた中で、私自身も1年間社会科の授業実践に取り組みました。一人の社会科好きの教員の拙い実践を、以下のように整理します。

単元	学習問題	授業実践をふり返って
京都府の様子	京都府はどのような様子なのだろう。	問いを解決する、見通しをもつなどの意識は子どもには見られない。「どのような」で問いを立て、その問いについて考える意識をもつことから。
くらしと水	なぜわたしたちはいつでもどこでも大量の飲料水を使えるのだろう。	時間をかけて問題意識を醸成し、「なぜ」の学習問題を設定。また、見通しをもつことや、個別・ペア・グループ・一斉などの調べる過程での学び方を学んだ。社会科の学習過程の全体像を理解。
くらしとごみ	たくさんのごみが出ているのに、なぜわたしたちはごみに囲まれずに生活できるのだろう。	当たり前の状況が当たり前ではない視点から「なぜ」の学習問題を設定。設定までの時間が短縮。問いの視点をもち始める。
自然災害からくらしを守る	全国初の特別警報が出たにもかかわらず、なぜ京都市は被害を抑えることができたのだろう。	問いの視点をもち、子どもたちで問いを設定することができるよう。また、それぞれの見通しをふり返りながら自己調整し、計画を見直せるように。
用水のけんせつ ～琵琶湖疏水～	北垣知事は130年も前、京都が大変な時期だったにもかかわらず、なぜ琵琶湖疏水を建設することができたのだろう。	見学等で得た資料を基に子どもが協働しながら学習問題の解決に向けて学びを深める姿が。また、調べたことをもとに2段階の問いを見出し、新たな問いとして設定し、さらに追究することができた。
昔から続く京都府の祭り ～祇園祭～	700年もの間、なぜ山鉾巡行を同じように続けることができたのだろう。	文章・写真・映像等、多様な資料から自分が必要な資料を選択し、事実を見出すことができた。一方、様々なまとめ方を示すも、自分で妥当なまとめ方を見出すのはまだ難しい子も。
外国の都市とさまざまな国際交流をしている舞鶴市	なぜ舞鶴市は様々な都市と国際交流をさかんに行っているのだろう。	すべての子がどのようにまとめたらいいか、自分でツールを選択し、調べながらまとめることができた。
豊かな自然を生かす宮津市	40年前、浜が細くなったり松枯れがあったりしたのに、なぜ天橋立は美しさを取り戻せたのだろう。	学習問題に対する予想を議論することを通じ、問うべき視点がすべて明らかになり、短時間で調べることができた。特に示さずとも自分でまとめ方まで考えながら調べる姿が見られた。

初めから研究提案の実践全てはできませんでした。しかし、1単元、1時間を積み重ねるごとに子どもたちは学びを深めるとともに、主体的に調べまとめる学習の充実を図ることができました。1年間の実践で子どもたちの姿、私自身の授業観は大きく変わりました。そして子どもも私自身も、ますます社会科が好きになったと実感した1年でした。この1年を通じ、学びを系統的に積み重ねることで、我々が目指す子どもの姿を実現することができると確信しました。そして、実践を積み重ねるからこそ、子どもたちにより深く考えさせるためにはどのような手立てを講じればよいのか、見通しをより具現化するためにはどのような問いかけ・声掛けをしたらいいか、個々の学びを共有できるふり返りの在り方はどうしたらよいかなど、新たな課題、さらに追究すべき視点を多岐に見出せました。全国大会に向け、しっかりと子どもの「今」を見て、目指す姿である「先」を見通す、そんな授業実践の充実を図り、研究にさらに深みと磨きをかけ、全国大会へ臨みたいと思います。